

Nikon

デジタルカメラ

Z 7

Z 6

活用ガイド

※ この説明書は、カメラのファームウェアがVer.3.00以上であることを前提に操作の説明を行っています。最新のファームウェアはニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

このカメラにはファームアップで追加された機能があります。詳しくは「ファームウェアバージョンアップによる変更内容」(490ページ)をご覧ください。

- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」(xviiページ)も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに保管してください。

このカメラには、3種類の説明書が用意されています。

☑ 詳しい使い方を知りたいときは

活用ガイド（本書）

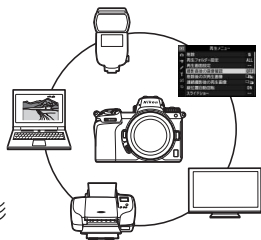
使用説明書（カメラ付属品）の内容に加え、メニューの説明や他の機器との接続などが詳しく記載されています。



※ 無線ネットワーク関連については「ネットワークガイド」をご覧ください。

■ 活用ガイドの主な内容

- 撮影と再生の基本操作
- 応用撮影
- カメラのメニューガイド
- パソコン、プリンター、HDMI機器との接続
- 別売スピードライトを使用した撮影など



■ 活用ガイドの内容は、オンライン（HTML）でも閲覧できます。

ニコン オンラインマニュアル Z 7 Z 6

https://onlinemanual.nikonimglib.com/z7_z6/ja/



Z 7 Model Name: N1710

Z 6 Model Name: N1711

✓ 基本的な撮影や再生が知りたいときは

使用説明書 (カメラ付属品)

基本操作や特徴的な機能について説明しています。

- 目次
- 各部の名称と機能
- 準備をする
- 撮影と再生の基本操作
- カメラの基本機能と設定
- ボタンなどを使った応用撮影
- **i**メニューを使う
- メニュー一覧
- 困ったときは





✓ PC やスマホと無線接続したいときは

ネットワークガイド (PDF)

カメラをパソコンやスマートフォンと無線で接続する方法や、ワイヤレストランスミッター WT-7 を使用してできることなどを説明しています。



■ ネットワークガイドは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

ニコン ダウンロードセンター Z7  Z6 

Z7 : https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/492/Z_7.html

Z6 : https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/493/Z_6.html

カメラと付属品を確認する

万一、付属品がそろっていない場合は、ご購入店にご連絡ください。



□ ボディーキャップBF-N1



□ 接眼目当てDK-29
(カメラに装着済み)
(☐434)

□ カメラ本体

□ Li-ionリチャージャブルバッテリー
EN-EL15b (端子カバー付)

□ バッテリーチャージャー MH-25a
(電源プラグ (直付け型) 付)

□ HDMI/USBケーブルクリップ (☐436)

□ ストラップ (☐26)

□ 保証書

□ 使用説明書

□ USBケーブルUC-E24
(☐351)

□ アクセサリーシュー
カバー BS-1 (☐437)

- メモリーカードは別売です。
- レンズキットの場合はレンズも付属しています。別紙でレンズの使用説明書が入っている場合もあります。
- マウントアダプターキットの場合はマウントアダプターも付属しています。別紙でマウントアダプターの使用説明書が入っている場合もあります。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

ニコンダウンロードセンターについて

デジタルカメラやニッコールレンズ、スピードライトなどの説明書、ファームウェアおよびNX Studioなどのソフトウェアをダウンロードできます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

本書について

■ 文中のマークについて

本書では、次の記号を使用しています。必要な情報を探るときにご活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことなどを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



本書で関連情報が記載されているページです。

■ 表記について

- Z7とZ6の操作説明は共通です。本書では、カメラのイラストや画面表示などはZ7を使用して説明しています。
- このカメラではXQDメモリーカードおよびCFexpressメモリーカード(Type B)が使用できます。
- この使用説明書では、XQDメモリーカードおよびCFexpressメモリーカードを「メモリーカード」と表記しています。ただし、XQDメモリーカードとCFexpressメモリーカードを区別して説明する必要がある場合は、それぞれ「XQDカード」と「CFexpressカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- 撮影時の画像モニターとファインダーの表示を「撮影画面」と表記しています。イラストは主に画像モニターの表示を使用しています。
- 本書では、スマートフォンおよびタブレットを「スマートフォン」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。本書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

⚠ 安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□xvii~xxをご覧ください。

目次

カメラと付属品を確認する.....	ii
安全上のご注意.....	xvii
ご確認ください.....	xxi

各部の名称と機能 **1**

各部の名称.....	1
カメラ本体.....	1
表示パネル.....	5
画像モニター / ファインダー.....	6
各部の機能と基本的な操作.....	8
ファインダー.....	8
モニターモード切り換えボタン.....	8
タッチパネル.....	10
DISP ボタン.....	15
サブセレクター.....	16
AF-ON ボタン.....	16
メインコマンドダイヤル / サブコマンドダイヤル.....	17
MENU ボタン.....	17
i ボタン (i メニュー).....	21
Fn1/Fn2 ボタン.....	24

準備をする **26**

ストラップを取り付ける.....	26
バッテリーを充電する.....	27
チャージャーを使用して充電する.....	27
本体充電 AC アダプターを使用して充電する.....	28
バッテリーとメモリーカードを入れる.....	30
レンズを取り付ける.....	34
日付と時刻を設定する.....	36

撮影と再生の基本操作

39

静止画を撮影する (AUTO オート)	39
動画を撮影する (AUTO オート)	43
動画モード中の静止画撮影	45
撮影した画像を確認する	47
動画の再生	47
画像の削除	49

カメラの基本機能と設定

50

ピント合わせの設定	50
フォーカスモード	50
AF エリアモード	52
タッチシャッター	60
マニュアルフォーカスでのピントの合わせ方	61
ホワイトバランス	63
ホワイトバランスの設定方法	63
サイレント撮影	67
撮影した画像のレーティング設定	69
撮影した画像のプロテクト	70

ボタンなどを使った応用撮影

71

撮影モードダイヤル	71
撮影モードの設定方法	71
P (プログラムオート)	72
S (シャッター優先オート)	72
A (絞り優先オート)	73
M (マニュアル)	74
U1、U2、U3 (ユーザーセッティングモード)	76
長時間露出で撮影する (撮影モード M のみ)	79
ISO ボタン	81
ISO 感度の設定方法	81
感度自動制御機能	83

☒ (露出補正) ボタン	84
露出補正の設定方法	84
☑ (☺) (リリースモード、セルフタイマー) ボタン	86
リリースモードの設定方法	86
セルフタイマー撮影	90
サブセレクター	91
フォーカスポイントの移動	91
AE ロック	91
フォーカスロック	91
AE ロック / フォーカスロックの方法	92

i メニューを使う

94

i メニューについて	94
静止画モード	95
ピクチャーコントロール	95
ホワイトバランス	99
画質モード	105
画像サイズ	106
フラッシュモード	107
測光モード	108
Wi-Fi 通信機能	109
アクティブ D- ライティング	110
リリースモード	111
手ブレ補正	112
AF エリアモード	113
フォーカスモード	113

動画モード	114
ピクチャーコントロール	115
ホワイトバランス	115
画像サイズ / フレームレート / 画質	115
マイク感度	118
撮像範囲設定	119
測光モード	120
Wi-Fi 通信機能	120
アクティブ D-ライティング	120
電子手ブレ補正	121
手ブレ補正	121
AF エリアモード	121
フォーカスモード	122

撮影した画像を見る


123

画像を再生する	123
1 コマ表示モード	123
サムネイル表示モード	123
画像情報を表示する	125
i ボタン (再生時)	133
画像を拡大表示する	140
画像を削除する	142


メニューガイド

145

初期設定一覧	145
▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	156
削除	157
再生フォルダー設定	157
再生画面設定	157
撮影直後の画像確認	158
削除後の次再生画像	158
連続撮影後の再生画像	159

縦位置自動回転	159
スライドショー	160
レーティング	162
 静止画撮影メニュー：	
静止画撮影で使える便利な機能	163
静止画撮影メニューのリセット	164
記録フォルダー設定	165
ファイル名設定	168
撮像範囲設定	169
画質モード	169
画像サイズ	170
RAW 記録	172
ISO 感度設定	173
ホワイトバランス	174
ピクチャーコントロール	179
カスタムピクチャーコントロール	181
色空間	184
アクティブ D- ライティング	184
長秒時ノイズ低減	185
高感度ノイズ低減	186
ヴィネットコントロール	186
回折補正	187
自動ゆがみ補正	187
フリッカー低減撮影	188
測光モード	189
フラッシュ発光	190
フラッシュモード	192
フラッシュ調光補正	192
フォーカスモード	193
AF エリアモード	193
手ブレ補正	193
オートブラケティング	194
多重露出	205

HDR (ハイダイナミックレンジ)	212
インターバルタイマー撮影	217
タイムラプス動画	226
フォーカスシフト撮影	234
サイレント撮影	241
▼ 動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能	242
動画撮影メニューのリセット	243
ファイル名設定	243
撮像範囲設定	243
画像サイズ/フレームレート	243
動画の画質	243
動画記録ファイル形式	244
ISO 感度設定	244
ホワイトバランス	245
ピクチャーコントロール	245
カスタムピクチャーコントロール	245
アクティブ D- ライティング	245
高感度ノイズ低減	246
ヴィネットコントロール	246
回折補正	246
自動ゆがみ補正	246
フリッカー低減	247
測光モード	247
フォーカスモード	247
AF エリアモード	248
手ブレ補正	248
電子手ブレ補正	248
マイク感度	249
アッテネーター	249
録音帯域	250
風切り音低減	250
ヘッドホン音量	250
タイムコード	251

 カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定	252
カスタムメニューのリセット	254
a：オートフォーカス	255
a1：AF-C モード時の優先	255
a2：AF-S モード時の優先	255
a3：AF ロックオン	256
a4：オートエリア AF 時の顔と瞳認識	256
a5：AF 点数	257
a6：縦 / 横位置フォーカスポイント切換	257
a7：半押し AF レンズ駆動	258
a8：AF エリアモードの限定	259
a9：フォーカスポイント循環選択	259
a10：フォーカスポイント表示の設定	260
a11：ローライト AF	260
a12：内蔵 AF 補助光の照射設定	261
a13：AF 設定時のフォーカスリング操作	261
b：露出・測光	262
b1：露出設定ステップ幅	262
b2：露出補正簡易設定	262
b3：中央部重点測光範囲	262
b4：基準露出レベルの調節	263
c：AE ロック・タイマー	264
c1：シャッターボタン AE ロック	264
c2：セルフタイマー	264
c3：パワーオフ時間	265
d：撮影・記録・表示	266
d1：低速連続撮影速度	266
d2：連続撮影コマ数	266
d3：連動レリーズモード設定	266
d4：露出ディレーモード	267
d5：シャッター方式	267
d6：撮像範囲設定の限定	267
d7：連番モード	268

d8: Lv に撮影設定を反映	269
d9: 格子線表示	269
d10: ピーキング表示	270
d11: 連続撮影中の表示	270
e: フラッシュ・BKT 撮影	271
e1: フラッシュ撮影同調速度	271
e2: フラッシュ時シャッタースピード制限	272
e3: フラッシュ使用時の露出補正	272
e4: ⚡ 使用時の感度自動制御	273
e5: モデリング発光	273
e6: BKT 変化要素 (M モード)	274
e7: BKT の順序	275
f: 操作	276
f1: ⓘ メニューのカスタマイズ	276
f2: カスタムボタンの機能	278
f3: OK ボタンの機能	286
f4: シャッタースピードと絞り値のロック	287
f5: コマンドダイヤルの設定	288
f6: ボタンのホールド設定	291
f7: インジケーターの+ / -方向	291
g: 動画	292
g1: ⓘ メニューのカスタマイズ	292
g2: カスタムボタンの機能	293
g3: OK ボタンの機能	298
g4: AF 速度	299
g5: AF 追従感度	299
g6: ハイライト表示	300
🔧 セットアップメニュー:	
カメラを使いやすくする基本設定	301
カードの初期化 (フォーマット)	302
ユーザーセッティングの登録	302
ユーザーセッティングのリセット	302
言語 (Language)	302

地域と日時.....	303
モニターの明るさ.....	303
モニターのカラーカスタマイズ.....	304
ファインダーの明るさ.....	305
ファインダーのカラーカスタマイズ.....	305
表示パネルの明るさ.....	305
モニターモードの限定.....	306
インフォ画面の表示設定.....	306
AF 微調節.....	307
レンズ情報手動設定.....	308
イメージセンサークリーニング.....	309
イメージダストオフデータ取得.....	310
画像コメント.....	312
著作権情報.....	313
電子音.....	314
タッチ操作.....	315
HDMI.....	315
位置情報.....	316
リモコン (WR) 設定.....	316
リモコン (WR) の Fn ボタンの機能.....	318
機内モード.....	318
スマートフォンと接続.....	319
PC と接続.....	319
ワイヤレストランスミッター (WT-7).....	319
認証マークの表示.....	319
電池チェック.....	320
カードなし時リリース.....	321
カメラ設定の保存と読み込み.....	321
カメラの初期化.....	325
ファームウェアバージョン.....	325

☑ 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能.....	326
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像 を JPEG 画像に変換する）.....	329
トリミング.....	332
リサイズ.....	333
D-ライティング.....	335
赤目補正.....	336
傾き補正.....	336
ゆがみ補正.....	337
アオリ効果.....	338
画像合成.....	339
動画編集（始点 / 終点設定）.....	342
編集前後の画像表示.....	342
⇨ マイメニュー / ☑ 最近設定した項目.....	344
⇨ マイメニュー：よく使うメニューを登録する.....	344
☑ 最近設定した項目：最近設定したメニュー をたどる.....	349

他の機器と接続する

350

スマートフォンと接続する.....	350
パソコンと接続する.....	351
USB ケーブルで接続する.....	351
無線 LAN (Wi-Fi) で接続する.....	355
プリンターと接続する.....	356
1 コマだけプリントする.....	357
複数の画像をプリントする.....	359
HDMI 対応機器と接続する.....	360
テレビと接続する.....	360
外部レコーダーと接続する.....	361

スピードライトをカメラに装着して撮影する 364

フラッシュ撮影の方法.....	364
一灯撮影.....	364
増灯撮影.....	364
別売スピードライトをカメラに装着して撮影する (一灯撮影).....	365
カメラに装着したスピードライトの発光モードを 設定する.....	367
フラッシュモードを設定する.....	369
調光補正してフラッシュの発光量を変更する.....	371
FV ロックして調光量を固定する.....	372
カメラに装着したスピードライトの設定を確認する.....	374
各発光モードの表示について.....	374

複数のスピードライトをワイヤレスで 制御する

377

増灯撮影の方法について.....	377
電波でリモートフラッシュを制御する.....	379
電波制御の準備をする.....	379
増灯発光モードを設定して撮影する.....	383
電波制御したリモートフラッシュとカメラに 装着したスピードライトを同時に発光させる.....	389
光でリモートフラッシュを制御する.....	390
SB-5000 または SB-500 を使用して撮影する.....	391
電波制御のリモートフラッシュと、 光制御のリモートフラッシュを同時に使用する.....	399
フラッシュインフォ画面で増灯撮影時の スピードライトの設定を確認する.....	400
各発光モードの表示について.....	400

故障かな?と思ったら	404
警告メッセージ	411

全画面表示	417
画像モニター	417
ファインダー	422
表示パネル	425
使用できるスピードライト	426
ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について	426
使用できるアクセサリ	432
カメラとパワーコネクター、ACアダプター の接続方法	438
カメラのお手入れについて	440
保管について	440
クリーニングについて	440
撮像素子のお手入れについて	441
撮像素子前面をブローで掃除する	443
カメラとバッテリーの使用上のご注意	445
主な仕様	451
NIKKOR Z 24-70mm f/4 S 使用説明書	465
マウントアダプター FTZ 使用説明書	472
使用できるメモリーカード	479
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数	480
撮影可能コマ数（電池寿命）について	482
索引	484

ファームウェアバージョンアップによる変更




内容

490



ファームウェアバージョンについて	490
ファームウェア (C: 3.30) による変更点について	490
フォーカス (ピント) 位置を記憶する機能の追加 ...	490
音声メモ機能の追加 (Z 6 のみ)	491
音声メモの削除方法	494
音声メモの設定	495

安全上のご注意






あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
この説明書をお読みになった後は、いつでも参照できるように保管してください。


- | | | |
|---|-----------|---------------------------------|
|  | 危険 | 「死亡または重傷を負うおそれ大きい内容」です。 |
|  | 警告 | 「死亡または重傷を負うおそれがある内容」です。 |
|  | 注意 | 「軽傷を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容」です。 |


お守りいただく内容を、以下の図記号で区分しています。


- | | |
|---|--------------------|
|  | は、してはいけない内容です。 |
|  | は、実行しなければならない内容です。 |


警告


- | | | |
|---|------------------|---|
|  | 禁止 | 歩きながらや運転・操縦しながらの操作はしない
事故やけがの原因になります。 |
|  | 分解
禁止 | 分解、修理または改造をしない
落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に触らない
感電やけがの原因になります。 |
|  | 実行 | 熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、直ちに電池や電源を取り外す
放置すると、発火、やけどの原因になります。 |
|  | 禁止 | 水でぬらさない
ぬれた手で触らない
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電や発火の原因になります。 |
|  | 禁止 | 電源を入れたまま長時間直接触らない
低温やけどの原因になります。 |

 **禁止** 引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、爆発や火災の原因になります。


 **禁止** レンズで直接太陽や強い光を見ない
失明や視力障害の原因になります。

 **禁止** フラッシュやAF補助光を運転者にむけて発光しない
事故の誘発につながります。

 **禁止** 幼児の手の届くところに置かない
故障やけがの原因になります。
小さな付属品を誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。


 **禁止** ストラップ類を首に巻きつけない
事故の原因になります。


指定外の電池、充電器、ACアダプターは使わない
指定の電池、充電器、ACアダプターを使う際は、以下の点に注意する

 **禁止**


- コードやケーブルを傷つけたり、加工したりしない
- 重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、無理に曲げたりしない
- 海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わない

発火、感電の原因になります。

 **禁止** 充電時やACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触らない
感電の原因になります。

 **接触禁止** 高温環境や低温環境では、直接触らない
やけどや低温やけど、凍傷の原因になることがあります。

注意

 **禁止** レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない
集光して、内部部品の破損や発火の原因になることがあります。
逆光撮影では、太陽を画角から十分にすらしてください。
画角から太陽をわずかに外しても、発火の原因になります。

**実行**

使用が禁止されている場所では、電源をOFFにする
無線通信が禁止されている場所では、無線通信機能が作動しない
ようにする
医療機関や航空機内では、本機器が出す電磁波が、周囲の機器に
悪影響を与えるおそれがあります。

**実行**

長時間使わないときは、電池やACアダプターを取り外す
故障や発火の原因になります。

**接触
禁止**

フラッシュを人体やものに密着させて発光させない
やけどや発火の原因になります。

**禁止**

夏場の車内や直射日光の当たる所など高温環境に放置しない
故障や発火の原因になります。

**禁止**

AF補助光を直接見ない
視覚に悪影響を及ぼすことがあります。

**禁止**

三脚などにカメラやレンズを取り付けたまま移動しない
故障やけがの原因になります。

**危険**（電池について）

電池は誤った使いかたをしない
注意事項を無視してお使いになると、液もれ、発熱、破裂、発火
の原因になります。

**禁止**

- 充電電池は、専用の充電電池以外を使わない
- 電池を火の中に入れてたり、加熱したりしない
- 電池を分解しない
- 電池をネックレスやヘアピンなどの金属類に接触させて
ショート（短絡）しない
- 電池、または電池の入った製品に強い衝撃を与えたり、投げた
りしない
- 電池に釘を刺したり、電池をハンマーで叩いたり、踏みつけたり
しない

**実行**

指定の方法で充電する
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

**実行**

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い
流し、医師の診察を受ける
放置すると、目に傷害を与える原因になります。

**実行**

航空機内に持ち込むときは、航空会社の指示に従う
超高度の気圧が低いところに放置すると、液もれ、発熱、破裂、
発火の原因になります。

**警告** (電池について)**禁止**

電池を乳幼児の手の届く所に置かない
飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。

**禁止**

電池をベットなどが触れる場所に置かない
噛みつきなどにより、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

**禁止**

水につけたり、雨にぬらしたりしない
発火や故障の原因になります。
ぬれてしまったら、乾いたタオルなどで十分にふき取ってください。

**禁止**

変色・変形、そのほか異状に気づいたら使わない
リチャージャブルバッテリー EN-EL15bは、所定の時間を超えて
も充電が完了しなければ、充電を中止する
放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

**実行**

使用済みの電池は、ビニールテープなどで接点部を絶縁する
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因になります。

**実行**

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたら、すぐにきれいな水で
洗い流す
放置すると、皮膚のかぶれなどの原因になります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないこととなります。お受け取りにならなかった場合は、直ちに購入店にご請求ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<https://www.nikon-image.com/support/>

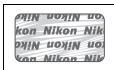
●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15bには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの十分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



●説明書について

- 使用説明書、本書およびオンラインマニュアルの一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 「使用説明書」が破損などで判読できなくなったときは、PDF ファイルをニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。
ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

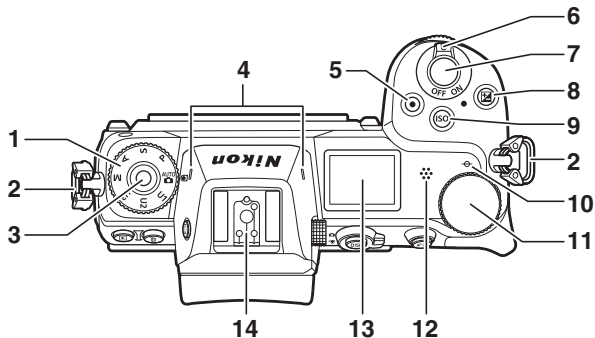
●著作権について

カメラで著作物を撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、個人として楽しむなどの目的であっても、実演や興行、展示物などは、撮影や録音が制限されている場合がありますのでご注意ください。

各部の名称と機能

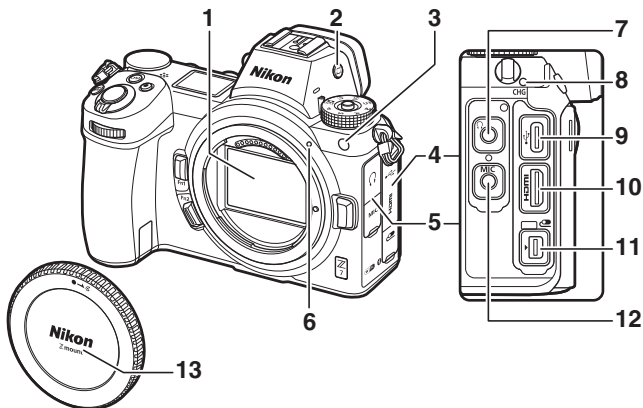
各部の名称

カメラ本体



1	撮影モードダイヤル.....	71	8	☑ボタン	84
2	ストラップ取り付け部 (吊り金具)	26	9	ISOボタン	81
3	撮影モードダイヤル ロックボタン	71	10	⊖ 距離基準マーク	62
4	マイク (ステレオ)	44	11	メインコマンドダイヤル	17
5	動画撮影ボタン	44	12	スピーカー	48
6	電源スイッチ	36、39	13	表示パネル	5、425
7	シャッターボタン	41	14	フラッシュ取り付け部 (アクセサリシュー) ...	365、426

カメラ本体（続き）

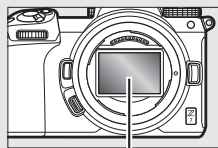


1	イメージセンサー (撮像素子)	441
2	モニターモード切り換えボタン	8、306
3	AF補助光ランプ	41、261
	赤目軽減ランプ	107、369
	セルフタイマーランプ.....	90
4	USB/HDMI/アクセサリ ターミナル端子カバー	

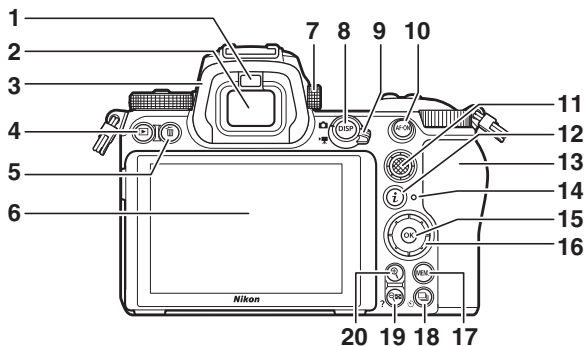
5	ヘッドホン/マイク端子カバー	
6	レンズ着脱指標.....	34
7	ヘッドホン出力端子	250
8	チャージLED.....	29
9	USB端子	351、356
10	HDMI端子	360
11	アクセサリターミナル	
12	外部マイク入力端子.....	434
13	ボディキャップ	34

✓ 撮像素子に触れない

撮像素子を押さえたり、突いたり、プロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や破損などの原因となります。撮像素子のお手入れについては□441をご覧ください。



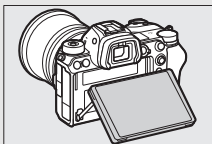
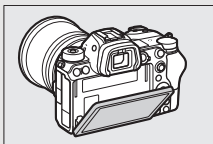
撮像素子



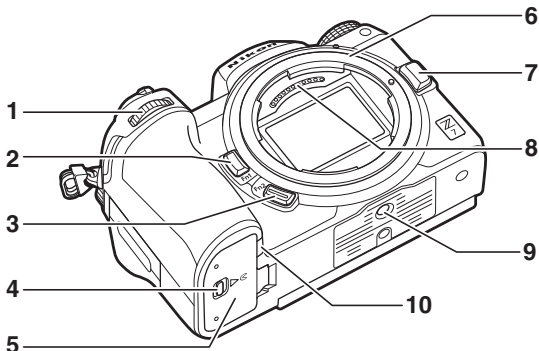
1	アイセンサー	8	12	i ボタン	21、94
2	ファインダー	8	13	メモリーカードカバー	30
3	接眼目当て	434	14	メモリーカード アクセスランプ	42、88
4	▶ ボタン	47、123	15	OK ボタン	18
5	⏪ ボタン	49、142	16	マルチセレクター	18
6	画像モニター	10、60	17	MENU ボタン	17、145
7	視度調節ノブ	8	18	☺ (☺) ボタン	86、90
8	DISP ボタン	15	19	ⓧ (?) ボタン	20、123
9	静止画/動画切り換えレバー	39、43	20	Q ボタン	48、61、123、140
10	AF-ON ボタン	16			
11	サブセレクター	16、91			

✓ 画像モニターについて

このカメラの画像モニターは、角度を変えて使用できます。



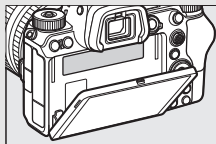
カメラ本体（続き）



1	サブコマンドダイヤル..... 17	6	レンズマウント..... 34、 62
2	Fn1 ボタン..... 24、 63	7	レンズ取り外しボタン..... 35
3	Fn2 ボタン..... 24、 50	8	レンズ信号接点
4	バッテリー室開閉ノブ	9	三脚ネジ穴
5	バッテリー室カバー	10	パワーコネクタカバー 438

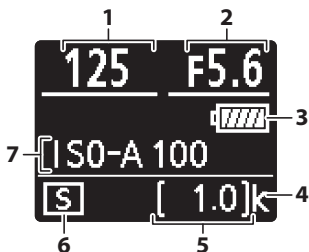
✓ 製品番号について

このカメラの製品番号は、画像モニターを開いて確認できます。



表示パネル

カメラの電源をONにすると、表示パネルが点灯します。ここでは初期設定で表示される内容のみ記載しています。表示パネルの全点灯画面については、□425をご覧ください。

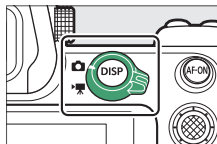


1	シャッタースピード..... 72、74	5	記録可能コマ数..... 32、480
2	絞り値..... 73、74	6	レリーズモード..... 86、111
3	バッテリー残量表示..... 32	7	ISO感度..... 81
4	1000コマ以上補助表示..... 32		

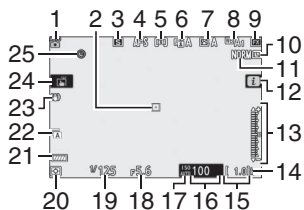
画像モニター / ファインダー

■ 静止画モードの場合

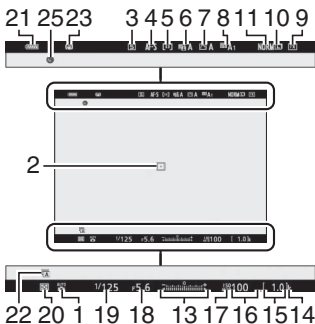
ここでは初期設定で表示される内容のみ記載しています。撮影画面の全点灯画面については、[Q417](#)、[Q422](#)をご覧ください。



画像モニター

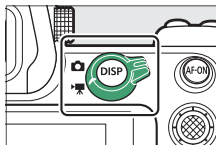


ファインダー

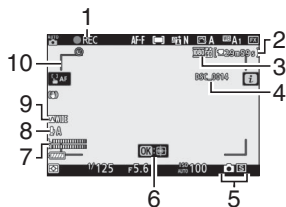


1	撮影モード	71	14	1000コマ以上補助表示	32
2	フォーカスポイント	40、52	15	記録可能コマ数	32、480
3	リリースモード	86	16	ISO感度	81
4	フォーカスモード	50	17	ISO感度マーク	81
5	AFエリアモード	52		ISO-AUTOマーク	83
6	アクティブD-ライティング	110	18	絞り値	73、74
7	ピクチャーコントロール	95、179	19	シャッタースピード	72、74
8	ホワイトバランス	63、99、174	20	測光モード	108
9	撮像範囲	169	21	バッテリー残量表示	32
10	画像サイズ	106	22	シャッター方式	267
11	画質モード	105	23	手ブレ補正	112
12	iメニュー	94	24	タッチ撮影機能	10、60
13	インジケーター		25	⊕マーク	38
	露出	75			
	露出補正	84			

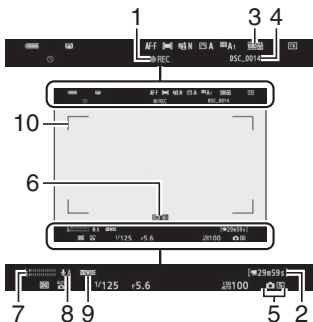
■■ 動画モードの場合



画像モニター



ファインダー



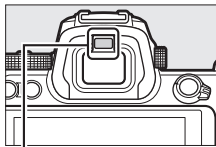
1	動画撮影中マーク	44
	動画撮影禁止マーク	45
2	動画撮影残り時間	44
3	画像サイズ/フレームレート/ 画質	115
4	ファイル名	168

5	静止画撮影のリリースモード	89
6	ターゲット追尾AF	59
7	音声レベルインジケータ	118
8	マイク感度	118
9	録音帯域	250
10	AFエリアフレーム	53

各部の機能と基本的な操作

ファインダー

- ファインダーに顔を近づけると、アイセンサーが反応して、画像モニターの表示が消えてファインダー表示に切り替わります。指などを近づけてもアイセンサーが反応します。
- ファインダー表示時は、メニューや再生画面もファインダーで見ることができます。



アイセンサー

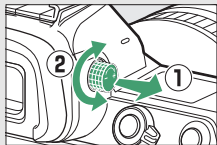
モニターモード切り換えボタン

ファインダーと画像モニターの表示設定を切り換えることができます。



✓ 視度調節ノブについて

- 視度調節ノブを引き出して回すと、ファインダー内がはっきり見えるように調節できます。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- 調節が終わった後は、視度調節ノブを押し込んで戻してください。




ヒント：長時間ファインダー撮影をする場合


カスタムメニュー d8 [Lv]に撮影設定を反映]を [しない] に設定すると、撮影画面が見やすい色味や明るさで表示されます。


ヒント：使用するモニターモードを限定する


セットアップメニュー [モニターモードの限定] で表示設定を限定できます。

ボタンを押すたびに、次のようにモニターモードが切り替わります。

自動表示切り換え	アイセンサーにより、ファインダーの表示と画像モニターの表示が自動的に切り替わります。	
-----------------	--	---

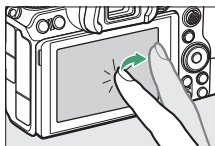
ファインダーのみ	画像モニターには何も表示されなくなります。メニューの設定や撮影した画像の確認などもすべてファインダーで行ってください。	
-----------------	---	---

モニターのみ	画像モニターのみを使用して撮影や設定をする場合に選びます。ファインダーに顔を近づけてもファインダーには何も表示されません。	
---------------	---	---



ファインダー優先	これまでのデジタル一眼レフカメラと似た動作になります。 <ul style="list-style-type: none">• 静止画モードの場合、ファインダーに顔を近づけるとファインダーに撮影画面が表示されますが、顔を離しても画像モニターには撮影画面は表示されません。• メニュー画面や再生画面、動画モードの撮影画面は、アイセンサーにより自動的に切り替わります。	
-----------------	---	---

タッチパネル

このカメラの画像モニターはタッチパネルになっており、指で画面に触れて操作できます。ファインダーを見ながら撮影する場合はタッチ操作は無効になり、ピント合わせなどは行えません。





■ ピントを合わせる/シャッターをきる

- 画像モニターをタッチすると、その場所にピントを合わせます（タッチAF）。
- 静止画モードの場合はピント合わせ後に指を放すとシャッターがきれます（タッチシャッター）。
-  をタッチすると、タッチ AF やタッチシャッターの設定を変更できます（60）。



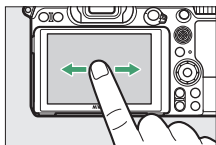
■ 設定を変更する

- 枠が表示されたアイコンにタッチすると、設定を変更できます。
- アイコンやスライダーにタッチして項目や数値を選びます。
-  をタッチするか  ボタンを押すと設定を決定して前の画面に戻ります。

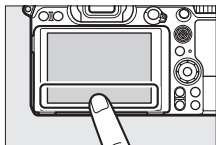


再生画面を切り換える

- 1コマ表示時に左右にフリックすると、前後の画像を表示します。

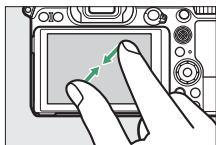
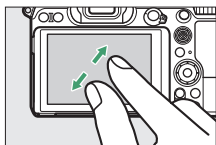


- 1コマ表示時に画面下部をタッチすると、フレームアドバンスバーが表示されます。フレームアドバンスバーに触れたまま指を左右にスライドすると、前後の画像を高速で切り換えられます。



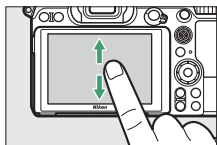
フレームアドバンスバー

- 1コマ表示中に広げる操作をするか、画像モニターを素早く2回タッチすると、拡大表示します。
- さらに広げる操作をすると拡大率が上がり、つまむ操作をすると拡大率が下がります。
- 画像モニターでスライド操作をすると、見たい部分に移動できます。
- 画像モニターを素早く2回タッチすると、拡大表示を解除します。
- 1コマ表示中につまむ操作をすると、サムネイル表示します。
- 広げる/つまむ操作をすると、表示コマ数(4コマ/9コマ/72コマ)が切り替わります。

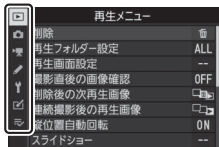


■ メニューを設定する

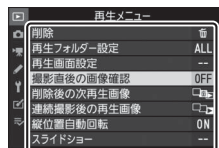
- 上下にスライドすると、メニュー画面がスクロールします。



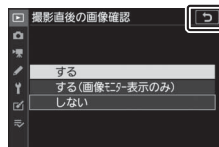
- 画面左端のアイコンにタッチすると、選んだアイコンのメニュー画面が表示されます。



- メニュー項目にタッチすると、設定項目の内容を変更できます。アイコンやスライドバーにタッチして項目や数値を選びます。



- **右矢印**にタッチすると、設定を変更しないで前の画面に戻ります。



✔ **タッチパネルについてのご注意**

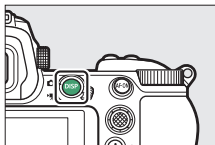
- このカメラのタッチパネルは静電式です。爪でタッチしたり、手袋などをはめたままタッチしたりすると反応しないことがあります。
- 先のとがった硬い物で押さないでください。
- タッチパネルを必要以上に強く押したり、こすったりしないでください。
- 市販の保護フィルムを貼ると反応しないことがあります。
- タッチパネルに指が触れたまま、別の指でタッチすると、適切に動作しないことがあります。

ヒント：タッチ操作の有効/無効について

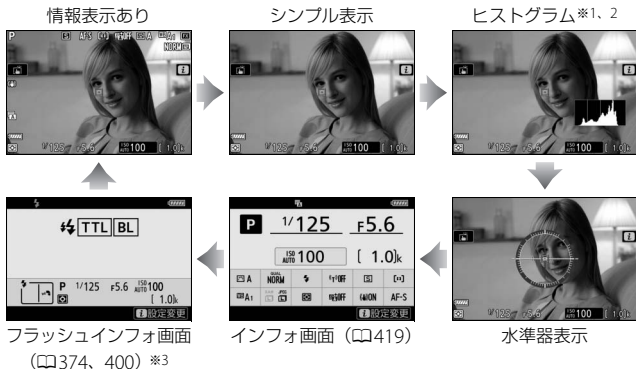
セットアップメニュー [タッチ操作] で、タッチ操作の有効/無効を切り換えられます。

DISPボタン

DISP ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。



■ 静止画モードの場合



- ※1 カスタムメニューd8 [Lv]に撮影設定を反映が[する]の場合に表示されます。
- ※2 多重露出撮影中で、[確認撮影]を[する]に設定している場合は表示されません。
- ※3 別売のスピードライト SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300 をアクセサリシューに取り付けた場合、またはワイヤレスリモートコントローラーWR-R10 を使用してスピードライトを電波制御している場合に表示されます。

ヒント：ファインダーの表示について

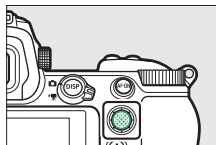
ファインダー使用時も、DISP ボタンを押すと表示される情報が切り替わります。ただし、インフォ画面およびフラッシュインフォ画面は表示されません。

■ 動画モードの場合



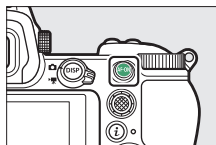
サブセレクター

サブセレクターを上下左右に倒すと、フォーカスポイントを選べます。また、サブセレクターの中央を押している間、AE ロックとフォーカスロックを同時に行います (☞91)。



AF-ONボタン

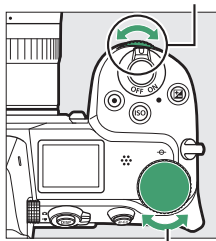
オートフォーカス時に**AF-ON** ボタンを押すとピント合わせを行います。



メインコマンドダイヤル/サブコマンドダイヤル

コマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードや絞り値、カメラのボタンに割り当てられた機能の設定を変更できます。

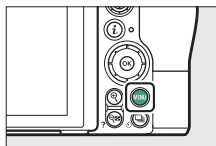
サブコマンドダイヤル



メインコマンドダイヤル

MENUボタン

MENU ボタンを押すと、画像モニターにメニュー画面を表示します。

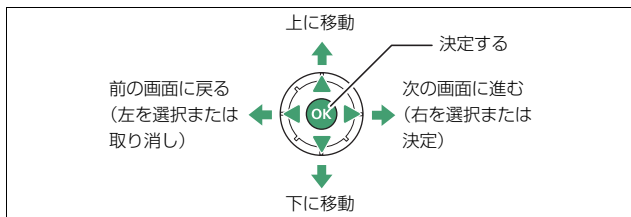


1	再生メニュー	156
2	静止画撮影メニュー	163
3	動画撮影メニュー	242
4	カスタムメニュー	252
5	セットアップメニュー	301
6	画像編集メニュー	326
7	マイメニュー / 最近設定した項目*	344
8	ヘルプあり表示	20
9	各項目の現在の設定	

※ どちらかに設定できます。初期設定は [マイメニュー] です。

■メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターとOKボタンを使います。



1 メニューのタブを選ぶ

⊙を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



2 メニューを切り換える

⊙⇄を押して、メニューのタブを切り換えます。



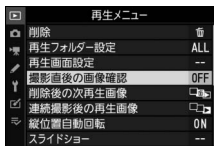
3 選んだメニューに入る

⊙⇄を押して、選んだメニューに入ります。



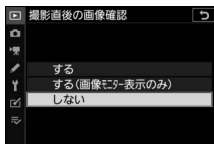
4 メニュー項目を選ぶ

◀▶で項目を選びます。



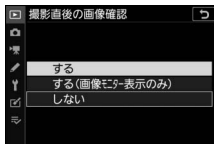
5 設定内容を表示する

▶を押して設定内容を表示します。



6 設定内容を選ぶ

◀▶で設定内容を選びます。



7 決定する




- OKボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル (中止) するには、MENUボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

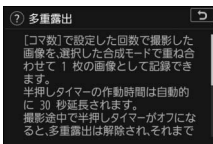
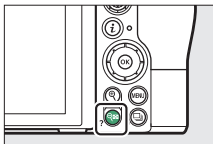


✓ メニューについて

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

ヒント：②（ヘルプあり表示）

- ヘルプがある場合に  (?) ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します。
- 説明が2ページ以上ある場合は、マルチセレクトターの  を押して、次のページを表示してください。
- もう一度  (?) ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

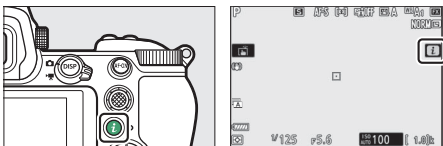


ヒント：タッチパネルでの設定について

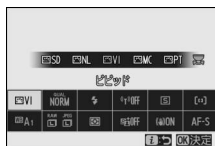
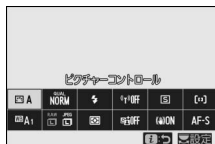
メニューはタッチパネルで設定することもできます (□10)。

iボタン (iメニュー)

iボタンを押すか画像モニターの*i*をタッチすると、iメニューが表示されます。使用頻度の高い項目の設定を素早く変更できます。

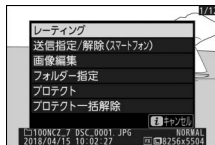


- 静止画モードの場合 (□95) と動画モードの場合 (□114) で表示される内容が異なります。
- 項目を選んで **OK** ボタンを押すかタッチすると、設定を変更できます。
- iメニューの項目にカーソルを置いてコマンドダイヤルを回しても設定を変更できます。項目によってはメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルで設定する場合があります。



ヒント：再生時のiメニューについて

再生画面や動画再生時などにiボタンを押すと、状況に応じたiメニューが表示されます。

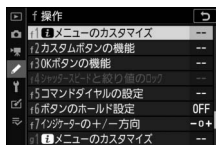


■ iメニュー項目のカスタマイズ

撮影時のiメニューで表示される項目は、カスタムメニュー f1 [iメニューのカスタマイズ] で変更できます。

1 カスタムメニュー f1 [iメニューのカスタマイズ] を選んでOKボタンを押す

メニューの選び方は□17をご覧ください。



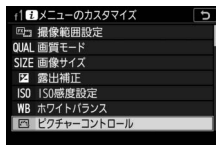
2 機能を割り当てたい場所を選んでOKボタンを押す

割り当てられる機能の一覧が表示されます。



3 割り当てたい機能を選んでOKボタンを押す

- 新しい機能が割り当てられ、手順2の画面に戻ります。
- 他の場所にも機能を割り当てたい場合は手順2、3を繰り返します。



4 MENUボタンを押す

機能の割り当てが決定してメニュー画面に戻ります。

ヒント：iメニューに割り当てられる機能について

静止画モードの場合にiメニューに割り当てられる機能は次の通りです。

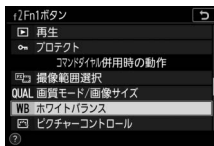
- 撮像範囲設定
- 画質モード
- 画像サイズ
- 露出補正
- ISO感度設定
- ホワイトバランス
- ピクチャーコントロール
- 色空間
- アクティブD-ライティング
- 長秒時ノイズ低減
- 高感度ノイズ低減
- 測光モード
- フラッシュモード
- フラッシュ調光補正
- フォーカスモード
- AFエリアモード
- 手ブレ補正
- オートブラケティング
- 多重露出
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- サイレント撮影
- レリーズモード
- カスタムボタンの機能
- 露出デレターモード
- シャッター方式
- Lvに撮影設定を反映
- 2点拡大
- ピーキング表示
- モニター/ファインダーの明るさ
- Bluetooth通信機能
- Wi-Fi通信機能

ヒント：動画モードの場合のiメニューについて

カスタムメニューg1 [fメニューのカスタマイズ] で設定できます。割り当てられる機能は静止画モードの場合と異なります。

3 割り当てたい機能を選んでOKボタンを押す

- 新しい機能が割り当てられ、手順2の画面に戻ります。
- 他のボタンにも機能を割り当てたい場合は手順2、3を繰り返します。



4 MENUボタンを押す

機能の割り当てが決定してメニュー画面に戻ります。

ヒント：Fn1/Fn2ボタンに割り当てられる機能について

静止画モードの場合にFn1/Fn2ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。

- | | | |
|--------------------|---------------------|---------------------|
| • AF-ON | • 連動リリース切り換え | • フラッシュモード/調光補正 |
| • AF-L | • プラスRAW記録 | • フォーカスモード/AFエリアモード |
| • AE-L (ホールド) | • ターゲット追尾 | • オートブラケティング |
| • AE-L (リリースでリセット) | • 格子線表示 | • 多重露出 |
| • AE-L | • 拡大画面との切り換え | • HDR (ハイダイナミックレンジ) |
| • AE-L/AF-L | • マイメニュー | • 露出ディレイモード |
| • FV-L | • マイメニューのトップ項目へジャンプ | • シャッタースピードと絞り値のロック |
| • 発光禁止/許可切換 | • 再生 | • ピーキング表示 |
| • プレビュー | • プロテクト | • レーティング |
| • マルチパターン測光簡易設定 | • 撮像範囲選択 | • 手動設定済みレンズの選択 |
| • 中央部重点測光簡易設定 | • 画質モード/画像サイズ | • 設定しない |
| • スポット測光簡易設定 | • ホワイトバランス | |
| • ハイライト重点測光簡易設定 | • ピクチャーコントロール | |
| • BKT自動連写 | • アクティブD-ライティング設定 | |
| | • 測光モード | |

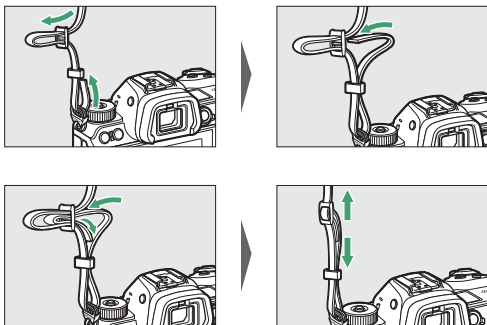
ヒント：動画モードの場合のFn1/Fn2ボタンの割り当てについて

カスタムメニュー g2 [カスタムボタンの機能] で設定できます。割り当てられる機能は静止画モードの場合と異なります。

準備をする

ストラップを取り付ける

付属または別売ストラップの取り付け手順は次の通りです。



バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15bは、お使いになる前にフル充電してください。

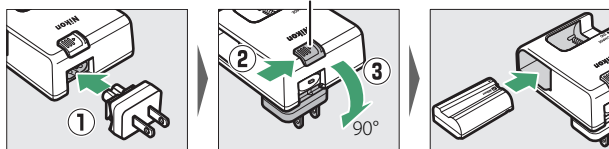
✓ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□ xvii)、「カメラとバッテリーの使用上のご注意」(□ 445)をお読みになり、記載事項をお守りください。

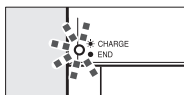
チャージャーを使用して充電する

- 電源プラグ（直付け型）を取り付けた後（①）、電源プラグ回転ロックを矢印の方向にスライドさせながら（②）、電源プラグを90°回転させ、しっかりと固定させます（③）。

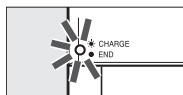
電源プラグ回転ロック



- フル充電するには約2時間35分かかります（残量の少ないバッテリーの場合）。



充電中
(点滅)



充電完了
(点灯)

✓ チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合の原因と対処方法

- **バッテリーのセットミス**：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- **指定温度外での使用**：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。

上記の処置をしても不具合が続く場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

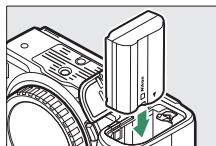
✓ 付属の電源プラグ（直付け型）についてのご注意

付属の電源プラグは、バッテリーチャージャー MH-25a以外の機器に接続しないでください。この電源プラグは、日本国内専用（AC100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）<https://shop.nikon-image.com/>でもお求めいただけます。

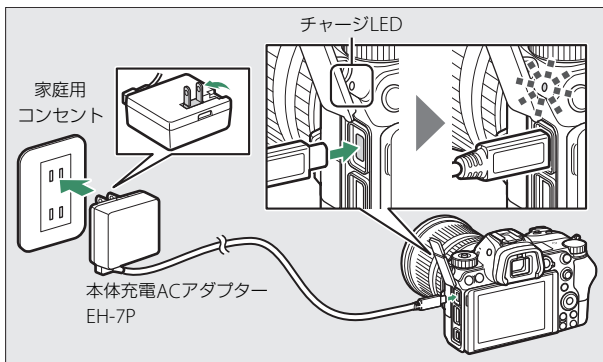
本体充電ACアダプターを使用して充電する

- 別売の本体充電 AC アダプター EH-7P を使用すると、カメラに Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c/EN-EL15b を入れた状態で充電できます。
- EN-EL15a または EN-EL15 を使用している場合は、本体充電 AC アダプターでの充電はできません。バッテリーチャージャー MH-25a をご使用ください。
- フル充電するには約2時間35分かかります（残量の少ないバッテリーの場合）。

1 EN-EL15c/EN-EL15b をカメラに入れる (30)



2 本体充電ACアダプターをカメラに接続し、カメラの電源がOFFの状態では家庭用コンセントにつなぐ



- プラグはまっすぐに抜き差ししてください。
- 充電中はチャージLEDがオレンジ色で点灯します。充電が終わると、チャージLEDが消灯します。
- カメラの電源がONのときは充電しません。
- ケーブルを接続したままでも電源をONにして操作できますが、本体充電ACアダプターからカメラへの電源の供給はできません。

3 充電が終わったら本体充電ACアダプターをコンセントから外す

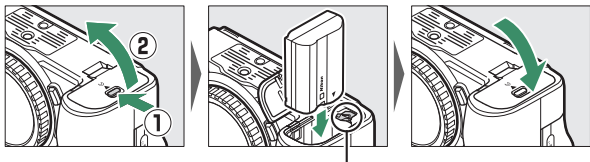
カメラからケーブルを外してください。

✓ 本体充電ACアダプターを使用した充電時のご注意

本体充電ACアダプターでの充電に対応していないバッテリーを使用している場合や、カメラが高温になった場合など、バッテリーを充電できない場合はチャージLEDが30秒間素早く点滅してから消灯します。チャージLEDが消灯していても、十分に充電されているかどうかを確認してください。

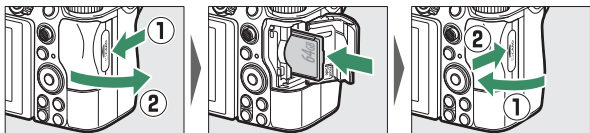
バッテリーとメモリーカードを入れる

- バッテリーやメモリーカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認してください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



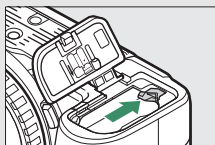
バッテリーロックレバー

- メモリーカードは正しい向きでカチッと音がするまで、まっすぐ挿入してください。



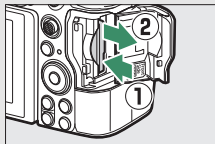
✔ **バッテリーを取り出すには**

電源をOFFにしてからバッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押し、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。



✔ **メモリーカードを取り出すには**

メモリーカードアクセスランプの消灯を確認し、電源をOFFにしてからメモリーカードカバーを開けてください。メモリーカードを奥に押し込んで放すと ①、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください ②。



✓ メモリーカード取り扱い上のご注意

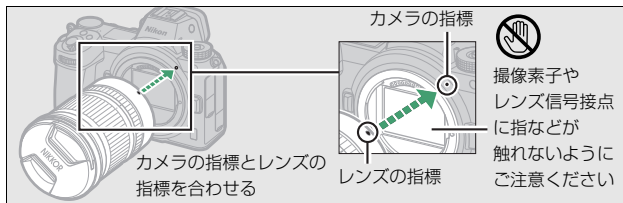
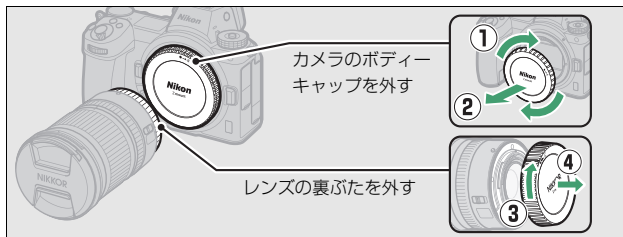
- カメラの使用後はメモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やカメラやメモリーカードの故障の原因となります。
 - メモリーカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

✓ メモリーカードが入っていないときの表示について

撮影画面または表示パネルの記録可能コマ数表示部に **[-E-]** マークが、撮影画面にカードなし警告が表示されます。

レンズを取り付ける

- このカメラにはZマウントのレンズが使用できます。本書では、主にNIKKOR Z 24-70mm f/4 Sのレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。
- レンズをカメラに取り付けるときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認してください。
- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

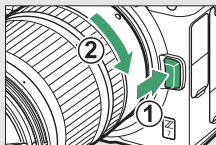


✓ Fマウントレンズをご使用の場合

- Fマウントのレンズをご使用になる場合は、必ず付属または別売のマウントアダプターFTZ (□472) を装着してから取り付けてください。
- Fマウントレンズをカメラに直接取り付けようとすると、撮像素子やレンズが破損する恐れがありますので、絶対にしないでください。

✓ レンズを取り外すには

- カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら (①)、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し (②)、引き抜いてください。
- レンズを取り外した後は、カメラのボディキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



日付と時刻を設定する

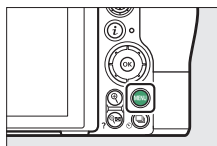
カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、お使いになる前に次の手順で場所と日時を設定してください。

1 カメラの電源をONにする




2 セットアップメニュー [地域と日時] を選んでマルチセレクターの を押す

- 購入後、初めて電源をONにしてMENU ボタンを押したときは、セットアップメニュー画面で [地域と日時] が選ばれています。
- メニューの操作方法については、「メニュー項目の設定」をご覧ください (□18)。



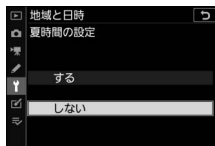
3 現在地を設定する

- [地域と日時] 画面で [現在地の設定] を選びます。
- [現在地の設定] 画面で現在地のタイムゾーンを選んで  ボタンを押してください。
- 世界地図の上を選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC (協定世界時) との時差が表示されます。



4 夏時間を設定する

- [地域と日時] 画面で [夏時間の設定] を選びます。
- 現在地で夏時間（サマータイム）制を実施しているときは、[する] に、実施していないときは [しない] にして、**OK** ボタンを押してください。
- [する] にすると、[しない] のときよりも時刻が1時間進みます。



5 日付と時刻を合わせる

- [地域と日時] 画面で [日時の設定] を選びます。
- [日時の設定] 画面でマルチセレクターを操作して現在地の日時に合わせてから、**OK** ボタンを押してください。



6 日付の表示順を選ぶ

- [地域と日時] 画面で [日付の表示順] を選びます。
- 再生画面に表示する日付の年、月、日の表示順を選んで **OK** ボタンを押します。



7 メニュー操作を終了する

- シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、メニュー操作を終了して、撮影できる状態になります。



✔ ⊕マークについて


撮影画面で⊕が点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー **【地域と日時】** (□303) の **【日時の設定】** で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約1カ月の間時計を動かすことができます。

ヒント：スマートフォンと日時を同期する

SnapBridgeアプリを使用すると、カメラと接続したスマートフォンと日時を同期することができます。詳しくはSnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。

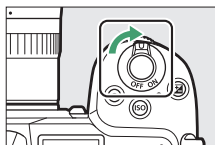
撮影と再生の基本操作

静止画を撮影する (AUTO オート)


撮影モード  (オート) を使うと、カメラまかせの簡単な操作で静止画撮影を楽しむことができます。

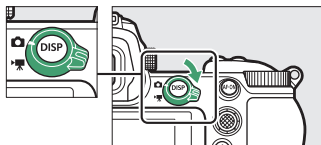
1 カメラの電源をONにする

画像モニターと表示パネルが点灯します。



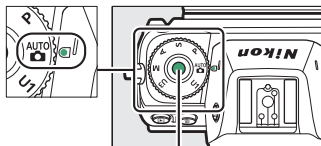
2 静止画/動画切り換え

レバーを  に合わせて
静止画モードにする



3 カメラ上面の撮影モード ダイヤルロックボタンを 押しながら、撮影モード ダイヤルを回して に合 わせる

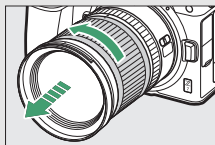
撮影モードダイヤル



撮影モードダイヤルロックボタン

沈胴式のレンズをお使いの場合

沈胴機構を採用しているレンズをご使用の場合、撮影するにはレンズを繰り出す必要があります。ズームリングを矢印の方向にカチッと音がするまで回すと、レンズが繰り出します。



4 カメラを構える

脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。

- ファインダーの撮影画面を見ながら撮影する場合：



横位置



縦位置

- 画像モニターの撮影画面を見ながら撮影する場合：



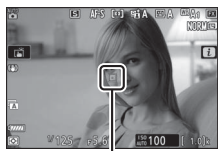
横位置



縦位置

5 構図を決める

サブセレクターまたはマルチセレクターでフォーカスポイントを動かして、ピントを合わせたい被写体に重ねます。



フォーカスポイント

6 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる

- フォーカスモードが**AF-S**の場合、ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。ピントが合わないと、フォーカスポイントは赤色で点滅します。
- 暗い場所などでは、AF補助光が光ることがあります。
- **AF-ON**ボタンを押してもピント合わせができます。



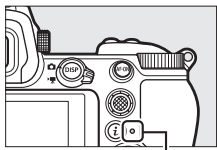
✓ AF補助光について

AF補助光が照射される場合、手などでAF補助光を遮らないようご注意ください。



7 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

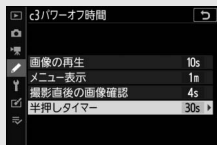
- 画像モニターをタッチしても撮影できません。タッチした位置でピント合わせを行い、指を放すとシャッターがきれます。
- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。メモリーカードやバッテリーを取り出さないでください。




メモリーカード
アクセスランプ

✓ 半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消費を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。何も操作が行われないまま約30秒経過すると半押しタイマーがオフになり、画像モニター、ファインダー、表示パネルの全ての表示が消灯します。消灯する数秒前には画像モニターとファインダーの表示が暗くなります。シャッターボタンを半押しすると、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニューc3 [パワーオフ時間] の [半押しタイマー] で変更できます。



動画を撮影する (AUTO オート)


撮影モード  (オート) を使うと、カメラまかせの簡単な操作で動画撮影を楽しむことができます。

1 カメラの電源をONにする

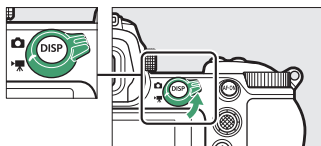
画像モニターと表示パネルが点灯します。



2 静止画/動画切り換え

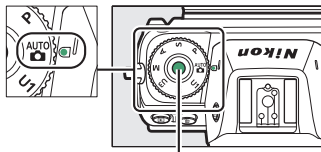
レバーを  に合わせて
動画モードにする

動画モード時は別売スピード
ライトは発光しません。



3 カメラ上面の撮影モード ダイヤルロックボタンを 押しながら、撮影モード ダイヤルを回して に合 わせる

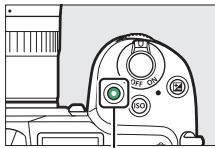
撮影モードダイヤル



撮影モードダイヤルロックボタン

4 動画撮影ボタンを押して、動画の撮影を始める

- 動画撮影中は、録画中マークが撮影画面に表示されます。メモリーカードに撮影できる残り時間の目安も確認できます。
- 動画撮影中も、**AF-ON**ボタンを押すと被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵マイクで音声を記録します。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- 動画撮影中に画像モニターをタッチすると、タッチした位置にフォーカスポイントが移動してピントを合わせることができます。



動画撮影ボタン

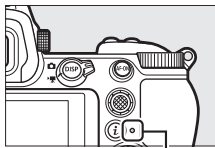
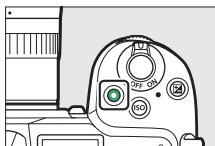
録画中マーク



残り時間

5 もう一度動画撮影ボタンを押して、動画の撮影を終了する

メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。メモリーカードやバッテリーを取り出さないでください。



メモリーカード
アクセスランプ

動画モード中の静止画撮影

- 動画モードでも、シャッターボタンを全押しすると静止画を撮影できます。静止画を撮影すると、撮影画面の📷アイコンが点滅します。
- 動画撮影中でも撮影できます。動画の撮影は途切れることなく続きます。



✓ 動画撮影について

🚫（動画撮影禁止）マークが表示されているときは、動画の撮影ができません。

✓ 動画撮影時のご注意

- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達したとき
 - メモリーカードの残量がなくなったとき
 - 撮影モードを切り換えたとき
 - 静止画/動画切り換えレバーを切り換えたとき
 - レンズを取り外したとき
- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - 手ブレ補正機能作動中
 - パワー絞りを作動中

✓ 動画モード中の静止画撮影について

- 1回の動画撮影中に撮影できる静止画は、最大50コマです。
- ピントが合っていないなくても撮影されます。
- 撮影される静止画の画像サイズは動画の画像サイズと同じです。
- 画質モードは **[FINE★]** に固定されます。
- レリーズモードが連続撮影になっている場合、連続撮影速度は設定している **[画像サイズ/フレームレート]** により異なります。
- 動画を撮影している間は、レリーズモードを連続撮影にしても1コマ撮影になります。

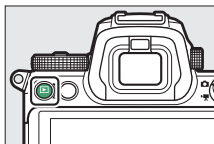
✓ カメラで静止画および動画を撮影するときのご注意

- 撮影画面の表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した静止画および動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
 - 動きのある被写体が歪む
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
 - 動画撮影時のパワー絞りを作動中、画面にちらつきが発生する
- 撮影画面を **Q** ボタンで拡大表示した場合、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）、色の変化が発生しやすくなります。
- 撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

撮影した画像を確認する

1 再生ボタンを押す

撮影した画像をカメラ背面の画像モニターまたはファインダーに表示します。



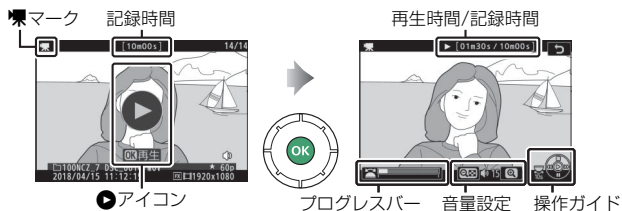
2 他の画像を確認するにはマルチセレクターの左右ボタンを押す

- 画像モニターに表示した場合は画像モニターをタッチ操作で左右にフリックしても画像を切り換えられます。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。





















動画の再生

動画には再生マークが表示されています。再生ボタンを押すか、または画面上の再生アイコンをタッチして動画を再生します（プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます）。



■■ 動画再生中の操作方法

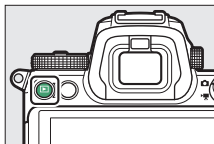
一時停止する	マルチセレクターの  を押すと一時停止します。
再生を再開する	一時停止中または早戻し/早送り中に  ボタンを押すと動画再生を再開します。
早戻しする/早送りする	<ul style="list-style-type: none"> • 動画の再生中にを押すと早戻し、を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、早戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 • を押し続けると、先頭フレームに移動し、を押し続けると、最終フレームに移動します。 • 先頭フレームにはアイコンが、最終フレームにはアイコンが、画面右上に表示されます。
スロー再生する	一時停止中に  を押すとスロー再生します。
コマ戻しする/ コマ送りする	<ul style="list-style-type: none"> • 一時停止中に を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 •  を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/10秒戻す	メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
先頭フレームに移動する/ 最終フレームに移動する	サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
音量を調節する	 ボタンを押すと音量が大きくなり、  (?) ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集する	一時停止中に  ボタンを押すと、[動画編集] 画面を表示します。
再生終了	 または  ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

画像の削除

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのご注意ください。

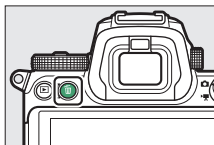
1 削除したい画像を表示する

▶ボタンを押して画像モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀▶で削除したい画像を選びます。



2 画像を削除する

- 冂ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度冂ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。



ヒント：再生メニュー【削除】

再生メニューの【削除】では、次の操作ができます。

- 複数の画像を選んで削除
- 同じ日付の画像をまとめて削除
- 再生フォルダー内の全画像を一括して削除

AF-C コンティニューアスAF	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けている間はフォーカスロックはされず、被写体の動きに合わせてピントを追いつけます。 • 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです。
AF-F フルタイムAF	<ul style="list-style-type: none"> • カメラは常に被写体の動きや構図の変化に合わせてピントを合わせ続けます。 • シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行って、ピントが合った時点でフォーカスポイントが赤色から緑色に変わって点灯し、フォーカスがロックされます。 • 動画モードの場合のみ選べます。
MF マニュアルフォーカス	ピントを自分で合わせたいときに選びます。ピントの状態に関係なく、シャッターがきれます (□61)。

✔ オートフォーカスについてのご注意

- 次の被写体はオートフォーカスでピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- ピントが合わなくてもフォーカスポイントが緑色で点灯する場合があります。

✔ 電源OFF時のご注意

ピント合わせを行った後に、カメラの電源をOFFにして再びONにするとピント位置が変わることがあります。

ヒント：暗い場所でのピント合わせについて

フォーカスモードが**AF-S**のときにカスタムメニューa11 [ローライトAF] を [する] に設定すると、暗い場所でもピントが合いやすくなります。

AFエリアモード

オートフォーカス使用時に、フォーカスポイントをどのように選択するか設定できます。

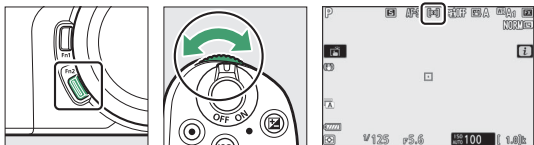
- フォーカスポイントはサブセレクター（□91）またはマルチセレクターを使用して移動できます。
- 初期設定は [シングルポイントAF] です。

■ AFエリアモードの設定方法






- **i**メニューまたは静止画撮影メニュー、動画撮影メニューの [AFエリアモード] で変更できます（□113、193、248）。



- 初期設定では、**Fn2** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すとAFエリアモードを設定できます（□24）。



[PIN] ピンポイントAF	<ul style="list-style-type: none">• シングルポイントAFよりも小さいフォーカスポイントを使って、より狭い範囲にピンポイントでピントを合わせることができます。• シングルポイントAFよりもピント合わせに時間がかかることがあります。• 建築物などの静止している被写体の撮影や、スタジオでの商品撮影や接写に適しています。• 静止画モードで、フォーカスモードが [シングルAF] の場合のみ選べます。
[i] シングルポイントAF	<ul style="list-style-type: none">• 撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。• 静止している被写体の撮影に適しています。

 ダイナミック AF	<ul style="list-style-type: none"> • 撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。 • スポーツの撮影など、シングルポイントAFでは被写体をとらえにくい動きのある被写体の撮影に適しています。 • 静止画モードで、フォーカスマードが[コンティニユアスAF]の場合のみ選べます。
 ワイドエリア AF (S)	<ul style="list-style-type: none"> • シングルポイントAFよりも広い範囲(エリア)で被写体をとらえてピント合わせを行います。 • スナップ撮影や、動きのある被写体、シングルポイントAFではとらえにくい被写体の撮影などに適しています。 • 動画撮影で、動きのある被写体を撮影する場合やパン・チルトを行う場合にも、滑らかで安定したピント合わせが行えます。
 ワイドエリア AF (L)	<ul style="list-style-type: none"> • フォーカスポイント内に複数の被写体がある場合、手前の被写体を優先してピントを合わせます。 • [ワイドエリアAF (L)] は [ワイドエリアAF (S)] よりも広い範囲で被写体をとらえます。
 オートエリア AF	<ul style="list-style-type: none"> • カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してAFエリアフレーム内でピントを合わせます。 • シャッターチャンス優先した撮影、人物撮影、スナップ撮影などに適しています。 • カメラが人物の顔を認識した場合、顔に黄色の枠(フォーカスポイント)が表示されます。瞳を認識できるときは、瞳に黄色のフォーカスポイントが表示されます(瞳AF/顔認識AF)。動きのあるポートレート撮影も構図や表情に集中して撮影できます(□55)。 • カスタムメニュー a4 [オートエリア AF時の顔と瞳認識] で [動物認識する] に設定すると、カメラが犬や猫の顔を認識した場合、顔に黄色のフォーカスポイントが表示されます。瞳を認識できるときは、瞳に黄色のフォーカスポイントが表示されます(動物瞳AF/顔認識AF、□57)。 •  ボタンを押すと、ターゲット追尾AFを使用できます(□59)。カスタムメニュー f2またはg2 [カスタムボタンの機能] で、ターゲット追尾AFの開始を Fn1 ボタン、Fn2 ボタン、レンズの Fn ボタン、レンズの Fn2 ボタンに割り当てることもできます(□278、293)。

ヒント：フォーカスポイントが□のように表示されている場合

[オートエリアAF] 設定時を除き、フォーカスポイント中央に点が表示されているときは、フォーカスポイントが画面の中央にあることを示しています。

ヒント：フォーカスポイントを素早く選ぶには

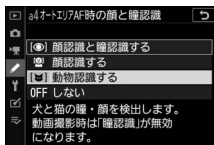
- カスタムメニュー a5 [AF 点数] を [スキップ] に設定すると、サブセクターやマルチセクターで選べるフォーカスポイントの数が約1/4になります。フォーカスポイントを素早く移動させることができます。AFエリアモードが [ピンポイントAF] または [ワイドエリアAF (L)] の場合は [スキップ] に設定しても選べるフォーカスポイントの数は変化しません。
- フォーカスポイントの移動を主にサブセクターで行っている場合、カスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] の [サブセクター中央] で [フォーカスポイント中央リセット] に設定しておく、フォーカスポイントを素早く画面中央に戻すことができます。

✓ 瞳AFと顔認識AFについてのご注意

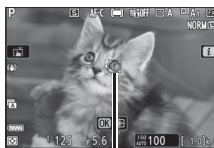
- 動画モード時は瞳認識を行いません。
- 次のような場合は、瞳AFおよび顔認識AFが正常に行われないことがありますので、ご注意ください。
 - 顔が画面に対して大きい/小さい場合
 - 顔が明るすぎる/暗すぎる場合
 - メガネやサングラスをかけている場合
 - 髪の毛で目や顔が隠れている場合
 - 人物の動きが大きすぎる場合
- 次のような場合は、瞳および顔の検出性能が低下することがあります。
 - セットアップメニュー [HDMI] の [詳細設定] で [出力ビット数] を [10ビット] に設定して外部機器にHDMI出力している場合
 - セットアップメニュー [HDMI] の [詳細設定] で [N-Log設定] を [する(カード記録不可)] に設定した場合

■■ 動物瞳AF/顔認識AF

カスタムメニュー a4 [オートエリアAF時の顔と瞳認識] で [動物認識する] に設定すると、カメラが犬や猫の顔と瞳を認識します(動物瞳AF/顔認識AF)。



- カメラが犬や猫の顔を認識した場合、顔に黄色の枠（フォーカスポイント）が表示されます。瞳を認識できるときは、左右どちらかの瞳に黄色のフォーカスポイントが表示されます。
- フォーカスモードが**AF-C**の場合、顔または瞳を認識している間、フォーカスポイントは黄色で点灯します。
- フォーカスモードが**AF-S**の場合、ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。
- 複数の顔や瞳を認識した場合は、フォーカスポイントに ◀および▶ が表示されます。マルチセレクターの ◀▶ を押してピントを合わせたい顔や瞳を選ぶことができます。
- 再生画面で ⓧ ボタンを押すと、ピントを合わせた顔や瞳を中心に画像が拡大されます。



フォーカスポイント

✔ 動物瞳AF/顔認識AFについてのご注意

- 動画モード時は瞳認識を行いません。
- 次のような場合は、動物瞳AF/顔認識AFが正常に行われなことがあるので、ご注意ください。
 - 顔が画面に対して大きい/小さい場合
 - 顔が明るすぎる/暗すぎる場合
 - 体毛などで目や顔が隠れている場合
 - 瞳と周辺部位の色が近い場合
 - 犬や猫の動きが大きすぎる場合
- 次のような場合は、瞳および顔の検出性能が低下することがあります。
 - セットアップメニュー [HDMI] の [詳細設定] で [出力ビット数] を [10ビット] に設定して外部機器にHDMI出力している場合
 - セットアップメニュー [HDMI] の [詳細設定] で [N-Log設定] を [する(カード記録不可)] に設定した場合
- [動物認識する] に設定しても、犬や猫の種類によっては顔や瞳を認識できない場合があります。
- AF補助光が犬や猫の瞳に悪影響をおよぼす可能性があるため、カスタムメニュー a12 [内蔵AF補助光の照射設定] を [しない] に設定することをおすすめします。

■ ターゲット追尾AF

[オートエリアAF] に設定している場合、フォーカスポイントを指定した被写体に追尾させることができます。

- **OK** ボタンを押すと、フォーカスポイントの形が変わってターゲット選択画面になります。



- 追尾させたい被写体にフォーカスポイントを合わせ、**OK** ボタンを押すか **AF-ON** ボタンを押すと被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度 **OK** ボタンを押すと追尾を終了し、フォーカスポイントが画面中央に戻ります。ただし、静止画モードでフォーカスモードを **AF-C** に設定しているときに、シャッターボタンを半押し、または **AF-ON** ボタンを押して追尾を開始した場合は、ボタンを押している間のみ追尾を行い、ボタンから指を放すと追尾を終了してフォーカスポイントが追尾を開始する前の位置に戻ります。
- **Q** (?) ボタンを押すと、ターゲット追尾AFを終了します。

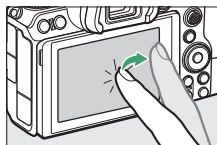
✔ ターゲット追尾AFについてのご注意

次のような場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

タッチシャッター

タッチした位置にフォーカスポイントを移動してピント合わせを行います。指を放すとシャッターがきれます。



アイコンにタッチすると、画像モニターをタッチしたときの機能を切り換えられます。



	<ul style="list-style-type: none">• タッチした位置にフォーカスポイントを移動してピント合わせを行い、指を放すとシャッターがきれます。カスタムメニュー a4 [オートエリアAF時の顔と瞳認識] を [しない] 以外に設定して人物または犬や猫の顔や瞳を認識している場合は、タッチした位置に近い顔または瞳※にピント合わせを行います。• 静止画モードの場合のみ選べます。
	<ul style="list-style-type: none">• タッチした位置にフォーカスポイントを移動して、ピント合わせのみを行います。指を放してもシャッターはきれません。• AFエリアモードをオートエリアAFに設定している場合、タッチした位置にある被写体の追尾を開始します。追尾中に画像モニターをタッチすると、追尾する被写体を変更します。カスタムメニュー a4 [オートエリアAF時の顔と瞳認識] を [しない] 以外に設定して人物または犬や猫の顔や瞳を認識している場合は、タッチした位置に近い顔または瞳※にピント合わせを行って追尾します。
	タッチ操作は無効になります。

※ 瞳をタッチしても意図した側の瞳にピントが合わないことがあります。その場合はマルチセレクターで選んでください。

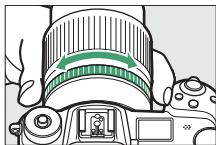
✓ タッチ操作で撮影するときのご注意

- マニュアルフォーカス撮影時はタッチしてもピント合わせを行いません。
- に設定していても、シャッターボタンを押して撮影できます。
- タッチシャッターでは動画モード中に静止画の撮影はできません。
- レリーズモードを連続撮影に設定していても、1コマしか撮影されません。連続撮影するには、シャッターボタンを押して撮影してください。
- セルフタイマー設定時は、画面の被写体をタッチするとピントが固定され、指を放してから約10秒後にシャッターがきれます。また、セルフタイマーの撮影コマ数を1コマ以外に設定した場合、連続で撮影します。

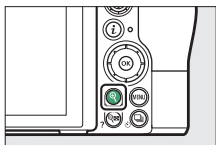
マニュアルフォーカスでのピントの合わせ方

フォーカスモードをマニュアルフォーカスに設定すると、ピントを自分で合わせられます。オートフォーカスの苦手な被写体を撮影する場合などに使用します。

- ピントを合わせたい場所にフォーカスポイントを合わせ、レンズのフォーカスリングまたはコントロールリングを回します。

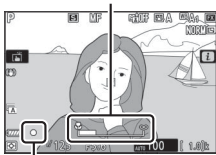


- ピントの状態を細部まで確認したい場合は、**Q** ボタンを押して被写体を拡大表示してください。



フォーカス距離指標

- 撮影画面のピント表示 (●) でピントが合っているか確認できます。また、ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。



ピント表示


ピント表示	意味
● (点灯)	被写体にピントが合っています。
▶ (点灯)	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀ (点灯)	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀ (点滅)	ピント合わせができません。

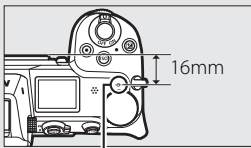
- オートフォーカスの苦手な被写体をマニュアルフォーカスでピント合わせした場合、ピントが合っていないくてもピント表示 (●) が点灯することがあります。撮影画面を拡大表示して、被写体にピントが合っていることを確認してください。また、ピント合わせがしづらい場合は、三脚のご使用をおすすめします。


✓ マニュアルフォーカスの切り換えについて

フォーカスモードが切り換えられるレンズを装着している場合、レンズでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り換えることができます。

✓ 距離基準マークについて

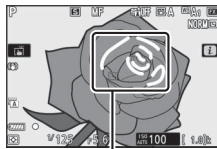
距離基準マーク  は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は16mmです。



距離基準マーク 

ヒント：ピーキング表示（フォーカスピーキング）

- マニュアルフォーカス時にカスタムメニュー d10 [ピーキング表示] を [しない] 以外に設定すると、ピントが合っている部分（ピーキング）の輪郭に色を付けて表示できます。
- 被写体の輪郭を検出できない場合、ピントが合ってもピーキング表示ができないことがあります。撮影画面でピントが合っていることを確認してください。



ピントが合っている部分

ホワイトバランス

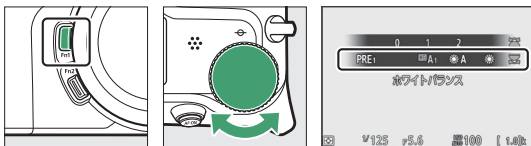
光源に合わせて、白いものを白く撮影するための機能です。初期設定のオート（WB A1）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランスの設定方法

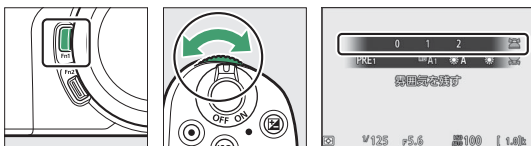
- iメニューまたは静止画撮影メニュー、動画撮影メニューの「ホワイトバランス」で設定できます（□99、174、245）。



- 初期設定では、Fn1 ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとホワイトバランスを設定できます（□24）。



- ホワイトバランスがWB A（オート）および ☼ （蛍光灯）のときに、Fn1 ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、WB A（オート）および ☼ （蛍光灯）の種類を設定できます。



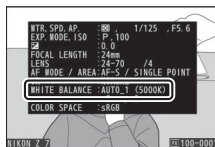
項目 (設定される色温度※)	内容
WB A オート	カメラが自動的にホワイトバランスを調節し、ほとんどの光源に対応できます。別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
WB A₀ 白を優先する (約3500~8000K)	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残さずに白く補正します。
WB A₁ 雰囲気を残す (約3500~8000K)	電球下の環境で撮影する場合、やや電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
WB A₂ 電球色を残す (約3500~8000K)	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
☀ A 自然光オート (約4500~8000K)	自然光下での撮影に適したホワイトバランスに調整され、自然光下では WB A (オート) より見た目に近い色味で撮影できます。
☀ 晴天 (約5200K)	晴天の屋外での撮影に適しています。
☁ 曇天 (約6000K)	曇り空の屋外での撮影に適しています。
🏠 晴天日陰 (約8000K)	晴天の日陰での撮影に適しています。
💡 電球 (約3000K)	白熱電球下での撮影に適しています。
💡 蛍光灯	それぞれの光源下での撮影に適しています。
ナトリウム灯混合光 (約2700K)	
電球色蛍光灯(約3000K)	
温白色蛍光灯(約3700K)	
白色蛍光灯 (約4200K)	
昼白色蛍光灯(約5000K)	
昼光色蛍光灯(約6500K)	
高色温度の水銀灯 (約7200K)	
WB ⚡ フラッシュ (約5400K)	スタジオ用大型ストロボなどを使って撮影する場合に適しています。

項目（設定される色温度※）	内容
K 色温度設定 （約2500～10000K）	<ul style="list-style-type: none"> 色温度を直接指定できます。 Fn1 ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度を設定できます。
PRE プリセットマニュアル	<ul style="list-style-type: none"> 撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます。 Fn1 ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、プリセットマニュアルデータの保存場所を選べます。 Fn1 ボタンを長押しすると、プリセットマニュアル取得モードになります（□102）。

※ 微調整が0の場合の値です。

ヒント：WB A撮影時の色温度について

- ホワイトバランスを **WB A**（オート）に設定して撮影した場合、カメラが判断した色温度の値を再生画面の撮影情報で確認できます。ホワイトバランスの [色温度設定] で色温度を調整する場合に参考にできます。
- 撮影情報を表示するには、再生メニュー [再生画面設定] で [撮影情報] のチェックボックスをオン にしてください。



✔ **☀A (自然光オート)** について

人工光下で撮影するときに**☀A (自然光オート)** を選択していると、適正なホワイトバランスが得られないことがあります。**WB A (オート)** または光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。

✔ **ホワイトバランスの微調整**について

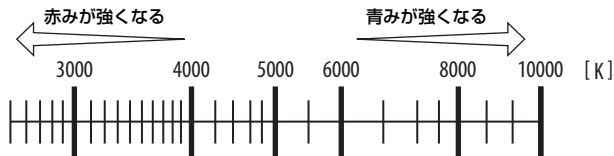
設定したホワイトバランスは微調整が可能です（[色温度設定]以外）。微調整は **i**メニューまたは静止画撮影メニュー、動画撮影メニューの[ホワイトバランス]で行えます（□100、174）。

✔ **スタジオ用大型ストロボを使用する場合**

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、**WB A (オート)** に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、**WB ⚡ (フラッシュ)** モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

ヒント：色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



ヒント：色温度の設定について

一般的に、画像に赤みを感じた場合（撮影した画像に青みを帯びさせたい場合）は低い数値を設定し、画像に青みを感じた場合（撮影した画像に赤みを帯びさせたい場合）は高い数値を選びます。

サイレント撮影


静止画撮影メニュー [サイレント撮影] を [する] に設定すると、電子シャッターを使用し、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。



- サイレント撮影中は画面にアイコンが表示されます。
- カスタムメニュー d5 [シャッター方式] の設定にかかわらず、電子シャッターを使用します。
- リリースモードが [高速連続撮影 (拡張)] 以外の場合、シャッターがきれると、撮影画面が一瞬暗くなります。撮影できているかどうかの目印になります。
- セットアップメニュー [電子音] の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音とセルフタイマー作動時の電子音は鳴りません。
- 次の機能など、サイレント撮影中は使用できなくなる機能があります。
 - フラッシュ撮影
 - 長秒時ノイズ低減
 - フリッカー低減撮影



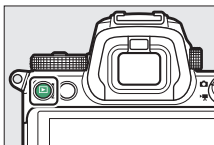
✔ サイレント撮影について

- [サイレント撮影] を [する] に設定していても、完全に無音にはなりません。撮影時に絞りやオートフォーカスなどカメラの動作音がすることがあります。
- 撮影画面の表示に次のような現象が発生することがあり、これらの現象は静止画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
 - 動きのある被写体が歪む
 - 被写体に動きがある場合、被写体が歪む
 - カメラ本体の動きによっては、画像が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- レリーズモードが連続撮影の場合、[サイレント撮影] を [する] に設定すると連続撮影速度が変更されます (□87)。
- 静止画撮影メニュー [手ブレ補正] を [しない] 以外に設定すると、MENU ボタンや  ボタンを押したときに動作音がします。
- サイレント撮影中はシャッター音を消して撮影できますが、被写体の肖像権やプライバシーなどに充分ご配慮の上、お客様の責任においてお使いください。

撮影した画像のレーティング設定

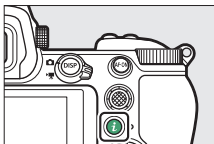
選んだ画像にレーティングを設定します。画像に設定したレーティングは、NX Studioにも反映されます。プロテクトした画像にはレーティングを設定できません。

1 再生ボタンを押して再生画面を表示する

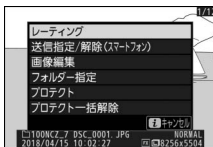


2 レーティングを設定したい画像を選んで*i*ボタンを押す

再生時の*i*メニューが表示されます。



3 [レーティング] を選んでOKを押す



4 レーティングを設定する

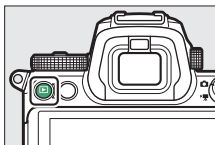
- メインコマンドダイヤルを回して、**★★★★★**~**★**、なし、**☒** (削除候補) から選びます。
- **OK** ボタンを押して決定します。



撮影した画像のプロテクト

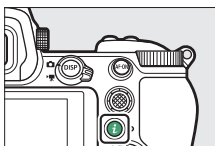
大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 再生ボタンを押して再生画面を表示する



2 プロテクトしたい画像を選んで*i*ボタンを押す

再生時の*i*メニューが表示されます。



3 [プロテクト] を選んで \odot ボタンを押す

- \odot アイコンが表示されます。
- プロテクトを解除するには、解除する画像を選んで再度 [プロテクト] を選びます。



ヒント：プロテクトの一括解除について

*i*メニューで [プロテクト一括解除] を選ぶと、再生メニュー [再生フォルダー設定] で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

ボタンなどを使った応用撮影

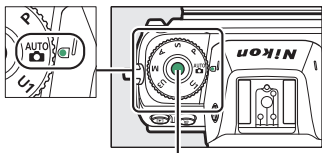
撮影モードダイヤル

撮影モードを変更すると、シャッタースピードと絞りのそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。

撮影モードの設定方法

カメラ上面の撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影モードダイヤルを回すと撮影モードを変更できます。

撮影モードダイヤル



撮影モードダイヤルロックボタン

AUTO オート	露出や色味など、すべてカメラまかせの簡単な操作で撮影を楽しめます (□39、43)。
P プログラム オート	シャッターチャンス逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先 オート	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出 (バルブ、タイム) 撮影も、このモードで行います。
U1 U2 U3 ユーザー セッティング モード	よく使う機能 (ユーザーセッティング) を登録できます。撮影モードダイヤルを切り換えるだけで、登録した内容で撮影できます。

P (プログラムオート)

- 被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられる「プログラムシフト」が行えます。
 - プログラムシフト中は、プログラムシフトマーク（*）が表示されます。
 - プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマークが消えるまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

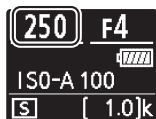


S (シャッター優先オート)

- シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。
- シャッタースピードはメインコマンドダイヤルを回して設定します。
- シャッタースピードは 1/8000 ~ 30 秒、x200に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできます（□287）。



画像モニター



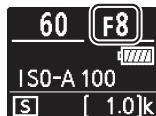
表示パネル

A（絞り優先オート）

- 絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。
- 絞り値はサブコマンドダイヤルを回して設定します。
- 設定できる最小絞り値、開放絞り値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます (□287)。



画像モニター



表示パネル

ヒント：動画撮影時の絞り値やシャッタースピードなどについて
動画撮影時に絞り値、シャッタースピード、ISO感度を設定できるかどうかは、撮影モードによって異なります。

	絞り値	シャッタースピード	ISO感度※2
P、S※1	—	—	—※3
A	○	—	—※3
M	○	○	○※4

※1 撮影モードが**S**の場合は、**P**に設定したときと同じ露出制御になります。

※2 動画撮影メニューの【電子手ブレ補正】が【する】のときにISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 2）になった場合は、ISO 25600（Z 6はISO 51200）に制限されます。

※3 動画撮影メニュー【ISO感度設定】の【制御上限感度】でISO感度の上限を設定できます。

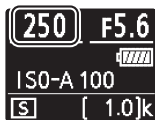
※4 動画撮影メニュー【ISO感度設定】の【Mモード時の感度自動制御】を【する】に設定した場合、【制御上限感度】でISO感度の上限を設定できます。

M (マニュアル)

- シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、□79）で撮影する場合にも使用します。
- 露出インジケータを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは1/8000～30秒、**Bulb**（バルブ）、**Time**（タイム）、x200に設定できます。



画像モニター

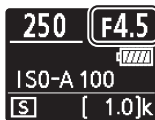


表示パネル

- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。



画像モニター



表示パネル

- 設定できる最小絞り値、開放絞り値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます（□287）。

✓ 露出インジケータについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、画像モニターとファインダーに表示されます。この「露出インジケータ」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b1 「露出設定ステップ幅」の設定によって変化します）。

【露出設定ステップ幅】が【1/3段】のとき			
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
画像モニター			
ファインダー			

✓ 露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合は、露出インジケータが点滅して警告します。

ヒント：撮影モードM時の感度自動制御機能について

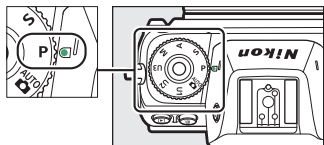
感度自動制御機能（□83）を使用すると、設定したシャッタースピードと絞り値で適正露出になるようにISO感度が自動的に制御されます。

U1、U2、U3（ユーザーセッティングモード）

よく使う機能（ユーザーセッティング）を、あらかじめ撮影モードダイヤルU1～U3に登録すると、撮影モードダイヤルを切り換えるだけで、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

■ ユーザーセッティングの登録

1 登録したい撮影モードを選ぶ



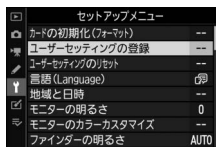
2 登録したい撮影機能を設定する

次の撮影機能を登録できます。

- 静止画撮影メニュー項目
- 動画撮影メニュー項目
- カスタムメニュー項目
- 撮影モード、シャッタースピード（撮影モードS、M）、絞り値（撮影モードA、M）、プログラムシフト（撮影モードP）、露出補正、調光補正など

3 セットアップメニュー [ユーザーセッティングの登録] を選ぶ

セットアップメニュー [ユーザーセッティングの登録] を選んでマルチセレクトターの \odot を押します。



4 設定を登録したいユーザーセッティングモードを選ぶ

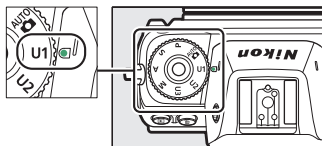
[U1に登録]、[U2に登録] または [U3に登録] のいずれかを選んで、 \odot を押します。

5 ユーザーセッティングを登録する

☺☻で [はい] を選んでOK ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに現在の設定内容が登録されます。

6 登録したユーザーセッティングで撮影する

撮影モードダイヤルをU1～U3に合わせると、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。




✓ U1、U2、U3に登録できない撮影メニュー項目


リリースモードの設定は登録できません。また、次のメニュー項目は登録できません。




- 静止画撮影メニュー
 - [記録フォルダー設定]
 - [撮像範囲設定]
 - [カスタムピクチャーコントロール]
 - [多重露出]
 - [インターバルタイマー撮影]
 - [タイムラプス動画]
 - [フォーカスシフト撮影]
- 動画撮影メニュー
 - [撮像範囲設定]
 - [カスタムピクチャーコントロール]

■ 登録したユーザーセッティングのリセット

- 1 セットアップメニュー [ユーザーセッティングのリセット] を選ぶ
セットアップメニュー [ユーザーセッティングのリセット] を選んでマルチセレクターの  を押します。



- 2 リセットしたいユーザーセッティングモードを選ぶ
[U1をリセット]、[U2をリセット] または [U3をリセット] のいずれかを選んで、 を押します。

- 3 ユーザーセッティングをリセットする
  で [はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに登録された設定内容が、初期設定（撮影モード P）に戻ります。

長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



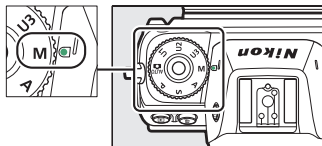
シャッタースピードをBulbに設定し、絞り値をF25にして35秒間の長時間露出撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

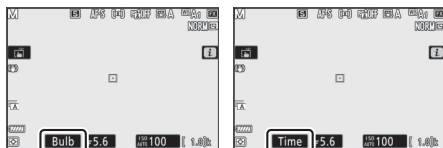
■ 長時間撮影の手順

1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 撮影モードダイヤルをMに合わせる



3 メインコマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを Bulb (バルブ) またはTime (タイム) にする



バルブ撮影

タイム撮影

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

- **バルブ撮影**：シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。
- **タイム撮影**：シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、長時間露出撮影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

- **バルブ撮影**：シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。
- **タイム撮影**：もう一度シャッターボタンを全押しします。

✓ 長時間露出について

- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。
- 静止画撮影メニュー「**長秒時ノイズ低減**」を「**する**」に設定すると、画像に発生するむらや輝点が低減されます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いいただくことをおすすめします。
- 手ブレを抑えるために三脚、別売のリモートコードやワイヤレスリモートコントローラーなどの使用をおすすめします。

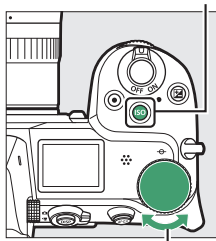
ISOボタン

撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。

ISO感度の設定方法

- **ISO** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。
- ISO感度はISO 64～25600（Z 6はISO 100～51200）の間で設定できます。また、ISO 64（Z 6はISO 100）から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 25600（Z 6はISO 51200）から約0.3段～約2段の範囲での増感ができます。
- 撮影モードが☼の場合、ISO-A（AUTO）も選べます。
- 設定した ISO 感度は撮影画面と表示パネルに表示されます。

ISOボタン



メインコマンドダイヤル



✓ ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

✓ 増感域の高感度（Hi 0.3～Hi 2）に設定した場合

ISO感度を【Hi 0.3】に設定すると、Z 7はISO 25600、Z 6はISO 51200に対して約0.3段分増感し（Z 7はISO 32000相当、Z 6はISO 64000相当）、【Hi 2】では約2段分の増感になります（Z 7はISO 102400相当、Z 6はISO 204800相当）。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

✓ 減感域の低感度（Lo 0.3～Lo 1）に設定した場合

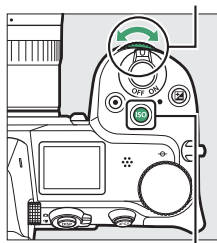
ISO感度を【Lo 0.3】に設定すると、Z 7はISO 64、Z 6はISO 100に対して約0.3段分減感します（Z 7はISO 50相当、Z 6はISO 80相当）。【Lo 1】では約1段分の減感になります（Z 7はISO 32相当、Z 6はISO 50相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合や、スローシャッターを使用したい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、ハイライト側に階調とびが発生することがあります。通常の撮影ではZ 7は【64】、Z 6は【100】以上をお使いください。

感度自動制御機能

撮影モードP、S、A、Mで設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。撮影時にISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（Z 7は100～Hi 2、Z 6は200～Hi 2）を設定することもできます。

- **ISO** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと**ISO AUTO**（感度自動制御する）と**ISO**（感度自動制御しない）に切り換えられます。

サブコマンドダイヤル

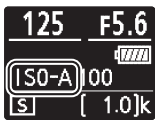


ISOボタン

- 感度自動制御する場合、撮影画面には**ISO AUTO**、表示パネルには**ISO-A**が表示されます。感度が自動制御されると、制御されたISO感度が表示されます。



画像モニター



表示パネル

- 制御上限感度は静止画撮影メニュー **[ISO感度設定]** で設定できます。

✓ 感度自動制御についてのご注意

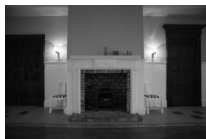
- **[制御上限感度]** で設定したISO感度よりも **[ISO感度設定]** で設定したISO感度が高い場合、**[ISO感度設定]** で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニュー e1 **[フラッシュ撮影同調速度]** と e2 **[フラッシュ時シャッタースピード制限]** で設定した範囲内に制限されます。

☒ (露出補正) ボタン

カメラが制御する適正露出値を意図的にずらせます。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。



-1段補正




露出補正なし

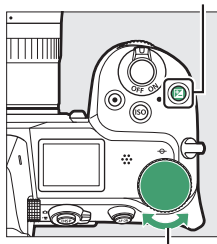


+1段補正

露出補正の設定方法

- ☒ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回します。
- 露出補正は、1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。動画の場合は±3段の範囲で設定できます。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正してください。
- 撮影モードが  の場合、露出補正はできません。
- 露出補正を設定すると、表示パネルに設定した補正量が表示されます。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。




☒ ボタン

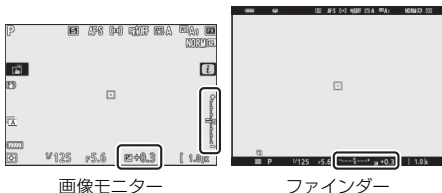


メインコマンドダイヤル



表示パネル


- 静止画撮影時には  アイコンとインジケーターが、動画撮影時には  アイコンが撮影画面に表示されます。  ボタンを押すと補正量を数字で確認できます。



画像モニター

ファインダー

撮影モードMでの露出補正について

- 撮影モードがMのときは、露出のインジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。
-  ボタンを押すと補正量を数字とインジケーターで確認できます。
- 感度自動制御機能 (□83) を使用している場合、補正量に応じて ISO 感度が自動的に制御されます。

別売スピードライト使用時の露出補正

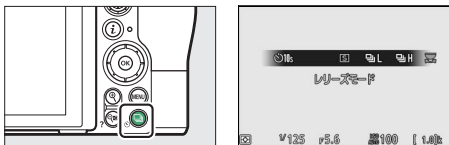
別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われ、画像全体の明るさが変わります。背景の明るさだけを補正することもできます (カスタムメニュー e3 [フラッシュ使用時の露出補正])。

📷 (👁) (リリースモード、セルフタイマー) ボタン

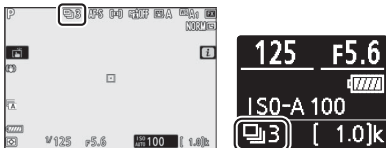
シャッターをきる（リリースする）ときの動作を設定できます。

リリースモードの設定方法

- 📷 (👁) ボタンを押してからメインコマンドダイヤルを回してリリースモードを設定し、OK ボタンを押して決定します。



- 設定したリリースモードは撮影画面と表示パネルに表示されます。





画像モニター

表示パネル

■ 静止画モードの場合

📷 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
📷 L 低速連続撮影	<ul style="list-style-type: none">シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します。リリースモード設定画面で低速連続撮影が選ばれている状態でサブコマンドダイヤルを回すと、連続撮影速度を設定できます。連続撮影速度は1コマ/秒～5コマ/秒の間で設定できます。
📷 H 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、最大約5.5コマ/秒で連続撮影します。

 高速連続撮影 (拡張)	<ul style="list-style-type: none"> シャッターボタンを全押ししている間、最大約9コマ/秒（Z 6は約12コマ/秒）で連続撮影します。 別売のスピードライトは発光しません。 フリッカー低減撮影の効果は無効になります。
 セルフタイマー	セルフタイマー撮影ができます（□90）。

✓ 連続撮影時の撮影画面について

低速連続撮影および高速連続撮影の場合、連続撮影中でも被写体の動きがリアルタイムに表示されます。

✓ 連続撮影速度について

連続撮影時の最大撮影速度は、カメラの設定により異なります。

リリースモード	画質モード	記録ビットモード	サイレント撮影	
			しない	する
低速連続撮影	JPEG/TIFF	—	設定したコマ/秒	設定したコマ/秒※1
	RAWを含む画質モード	12ビット 14ビット		設定したコマ/秒※2
高速連続撮影	JPEG/TIFF	—	約5.5コマ/秒	Z 7：約4コマ/秒 Z 6：約4.5コマ/秒
	RAWを含む画質モード	12ビット 14ビット		Z 7：約5コマ/秒 Z 6：約5.5コマ/秒
高速連続撮影 (拡張)	JPEG/TIFF	—	Z 7：約9コマ/秒 Z 6：約12コマ/秒	Z 7：約8コマ/秒 Z 6：約12コマ/秒
	RAWを含む画質モード	12ビット 14ビット		Z 7：約8コマ/秒 Z 6：約9コマ/秒

※1 5コマ/秒に設定している場合は約4コマ/秒（Z 6は約4.5コマ/秒）になります。

※2 Z 7で4コマ/秒以上に設定している場合は約3.5コマ/秒になります。Z 6で5コマ/秒に設定している場合は約4コマ/秒になります。

✓ 連続撮影についてのご注意

- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度メモリーカードアクセスランプが点灯します。メモリーカードアクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。

✓ 高速連続撮影（拡張）撮影時のご注意

カメラの設定によっては、連続撮影中に露出が安定しないことがあります。露出の変化が気になる場合は、AEロック（□92）を行って連写中の露出を固定してください。

✓ 連続撮影可能コマ数について



- シャッターボタンを半押しすると、記録可能コマ数表示部に連続撮影可能コマ数が表示されます。



- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。カメラの設定や撮影条件によって増減することがあります。


■■ 動画モードの場合

動画モード中の静止画撮影 (□45) のリリースモードを設定できません。

 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。1回の動画撮影中に撮影できる静止画は、最大50コマです。
 連続撮影	<ul style="list-style-type: none">• シャッターボタンを全押ししている間、最大3秒間 (Z6は最大2秒間) 連続撮影します。• 連続撮影速度は動画撮影メニュー「画像サイズ/フレームレート」で設定しているフレームレートにより異なります。• 動画を撮影している間は1コマ撮影になります。

セルフタイマー撮影

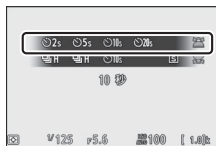
シャッターボタンを全押しした後、設定した時間が過ぎると、自動的にシャッターがきれます。

- 1  (M) ボタンを押し、メインコマンドダイヤルを回して (S) (セルフタイマー) に合わせる



- 2 サブコマンドダイヤルを回してシャッターがきれまでの時間を設定する

OK ボタンを押して決定します。



- 3 構図を決め、ピントを合わせる

フォーカスモードが [AF-S] でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



- 4 セルフタイマー撮影を開始する

- セルフタイマー設定時は撮影画面に (S) アイコンが表示されます。
- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になると点滅から点灯に変わります。

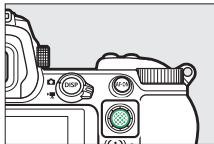


セルフタイマーの撮影間隔と撮影コマ数について

カスタムメニュー c2 [セルフタイマー] で撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

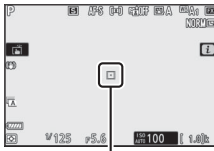
サブセレクター

サブセレクターを倒すと、フォーカスポイントを選ぶことができます。また、サブセレクターの中央を押すとAEロックとフォーカスロックを同時に行います。



フォーカスポイントの移動

AFエリアモード (□52) がオートエリアAF以外の場合、撮影画面でサブセレクターを倒した方向にフォーカスポイントを移動できます。



フォーカスポイント

AEロック

- 被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影できます。
- AEロックする場合、測光モードは中央部重点測光またはスポット測光に設定することをおすすめします。

フォーカスロック

- フォーカスモードが **AF-C** の場合にフォーカスを固定したいときに使用します。
- フォーカスロックする場合、AFエリアモードをオートエリアAF以外に設定してください。

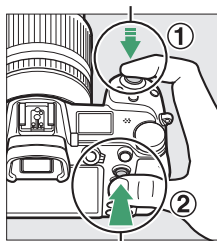
AEロック/フォーカスロックの方法

1 露出とピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

2 サブセレクターの中央を押す

- サブセレクターの中央を押している間は、露出とピントが固定（ロック）されます。構図を変えても露出は変わりません。
- 画像モニターなどに**AE-L**マークが点灯します。

シャッターボタン

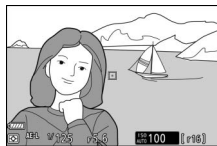


サブセレクター



3 サブセレクターの中央を押したまま、構図を決めて撮影する

被写体との距離は変えないでください。AEロック/フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



✓ **フォーカスモードがAF-Sの場合のフォーカスロックについて**
シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押してピントを固定することもできます。

✓ **シャッターボタンの半押しで露出を固定するには**
カスタムメニューc1 [シャッターボタンAEロック] を [する (半押し)] に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます。

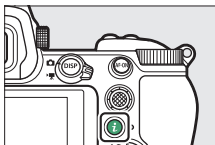
✓ **ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは**

- サブセレクターの中央を押してフォーカスロックを行った場合は、サブセレクターの中央を押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきいた後にシャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

iメニューを使う

iメニューについて

使用頻度の高い機能の設定を素早く変更できます。**i**ボタンを押すと、**i**メニューが表示されます。



- 設定したい項目をマルチセレクターで選んで**OK**ボタンを押すと、選択項目が表示されます。選択項目を選んで**OK**ボタンを押すと、設定が変更されて**i**メニュー画面に戻ります。



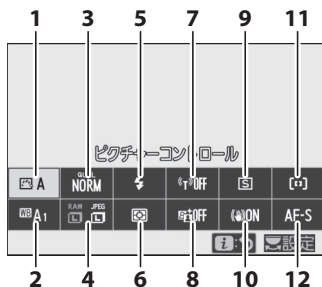
- 設定を変更せずに1つ前の画面に戻るには、**i**ボタンを押してください。

ヒント：コマンドダイヤルで設定する

- i**メニュー画面でメインコマンドダイヤルを回すと、選んでいる項目の設定を変更できます。設定した項目にさらに選択肢がある場合、サブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。
- 項目によってはメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルのどちらでも設定できるものがあります。
- OK**ボタンを押すと決定します。マルチセレクターで他の項目を選んだり、シャッターボタンを半押ししても設定が決定されます。



静止画モード











1	ピクチャーコントロール.....	95	7	Wi-Fi通信機能.....	109
2	ホワイトバランス.....	99	8	アクティブD-ライティング... ..	110
3	画質モード.....	105	9	リリースモード.....	111
4	画像サイズ.....	106	10	手ブレ補正.....	112
5	フラッシュモード.....	107	11	AFエリアモード.....	113
6	測光モード.....	108	12	フォーカスモード.....	113

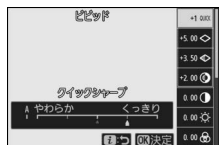
ピクチャーコントロール

記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。

A オート	<ul style="list-style-type: none">• [スタンダード] をもとに、色合いや階調をカメラが自動的に調整します。• 人物を撮影するシーンでは、[スタンダード] に比べて人物の肌を柔らかく表現した画像になります。• 屋外のシーンでは、[スタンダード] に比べて青空や草木などの色が鮮やかな画像になります。
SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。

 ビビッド	<p>メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。</p>
 モノクローム	<p>白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。</p>
 ポートレート	<p>人物の肌が滑らかで自然な画像になります。</p>
 風景	<p>自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。</p>
 フラット	<p>シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。</p>
<p>Creative Picture Control  01 ~  20 (クリエイティブピクチャーコントロール)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 色合いや階調、彩度などを細やかに作りこんだ多彩な効果により、さまざまな雰囲気表現が可能です。 [ドリーム]、[モーニング]、[ポップ]、[サンデー]、[ソンバー]、[ドラマ]、[サイレンス]、[ブリーチ]、[メランコリック]、[ピュア]、[デニム]、[トイ]、[セピア]、[ブルー]、[レッド]、[ピンク]、[チョコレート]、[グラフィット]、[バイナリー]、[カーボン] の20種類があります。

- ピクチャーコントロール選択画面で  を押すと、好みに合わせて調整できます。撮影画面を見ながら色味などを調整できます (□97)。

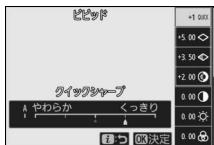


- 設定したピクチャーコントロールは、撮影画面に表示されます。



■■ ピクチャーコントロールの微調整

iメニューで [ピクチャーコントロール] を選んで **OK** ボタンを押すと、ピクチャーコントロールの選択項目が表示されます。調整したいピクチャーコントロールを選んで **△** を押すと撮影画面を見ながら調整できます。



- **△** / **▽** で調整する項目を選びます。**△** / **▽** を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を調整します。
- 調整できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- **ESC** ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。
- **OK** ボタンを押すと調整値を決定して **i**メニュー画面に戻ります。
- ピクチャーコントロールを微調整すると、ピクチャーコントロールのアイコンにアスタリスク（*）が表示されます。



✓ ピクチャーコントロール調整時の△マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、前回調整した値を示しています。



✓ 調整項目の [A]（オート）について

- [A]（オート）がある項目では、[A] を選ぶと自動で調整されます。
- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが具合は変化します。

ヒント： [Aオート] を選んでいる場合

オートの調整レベルを [A-2] ~ [A+2] から選べます。



■■ ピクチャーコントロールの調整項目

適用度	Creative Picture Controlの効果をどれだけ適用するかを調整します。
クイックシャープ	[クイックシャープ] を調整すると、画像のシャープさを調整する[輪郭強調]、[ミドルレンジシャープ]、[明瞭度]の各項目をバランスよく調整します。各項目を個別に調整することも可能です。
輪郭強調	<ul style="list-style-type: none"> • [輪郭強調]：画像の精緻な部分や、被写体の輪郭部分のシャープさを調整します。
ミドルレンジシャープ	<ul style="list-style-type: none"> • [ミドルレンジシャープ]：[輪郭強調] と [明瞭度] の中間の細かさの模様や線に対してシャープさを調整します。
明瞭度	<ul style="list-style-type: none"> • [明瞭度]：画像の階調や明るさを維持しながら、画像全体や太めの線のシャープさを調整します。
コントラスト	画像のコントラストを調整できます。
明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
色の濃さ(彩度)	画像の彩度(色の鮮やかさ)を調整できます。
色合い(色相)	画像の色合いを調整できます。
フィルター効果	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。
調色	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色の項目([B&W]以外)を選んで☑を押すと、さらに色の濃淡を選べます。
色の濃淡	適用するCreative Picture Controlの色の濃さを調整できます。

☑ [フィルター効果] について

[フィルター効果] には、次のような効果があります。

Y (黄*)	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。[Y] → [O] → [R] の順にコントラストが強くなります。
O (オレンジ*)	
R (赤*)	
G (緑*)	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

* 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更できます。ホワイトバランスの詳しい説明については「カメラの基本機能と設定」の「ホワイトバランス」(P63) もご覧ください。

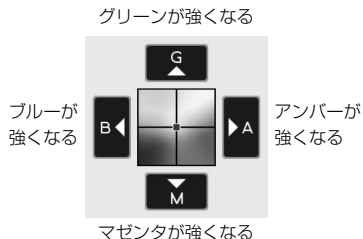
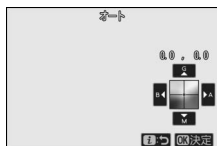
項目	項目
WB A オート	☀ 蛍光灯
WB A0 白を優先する	ナトリウム灯混合光
WB A1 雰囲気を残す	電球色蛍光灯
WB A2 電球色を残す	温白色蛍光灯
☀ A 自然光オート	白色蛍光灯
☀ 晴天	昼白色蛍光灯
☁ 曇天	昼光色蛍光灯
☀ 晴天日陰	高色温度の水銀灯
💡 電球	WB ⚡ フラッシュ
	K 色温度設定
	PRE プリセットマニュアル

- [オート] または [蛍光灯] が選ばれている状態で **☑** を押すと、それぞれの種類が選べます。
- 設定したホワイトバランスは、撮影画面に表示されます。



■ ホワイトバランスの微調整

iメニューで「ホワイトバランス」を選んで **OK** ボタンを押すと、ホワイトバランスの選択項目が表示されます。設定したいホワイトバランスを選び（「色温度設定」以外）、調整画面が出るまで **OK** を押すと、ホワイトバランスを調整できます。画像モニターを見ながら色味を調整できます。

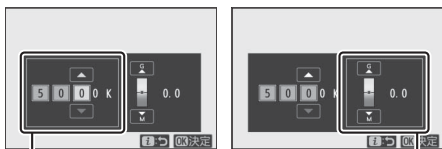


- 画面上の矢印をタッチするか、マルチセレクターを押すと値を変更できます。
- **OK** ボタンを押すと調整値を決定して **i**メニュー画面に戻ります。
- ホワイトバランスを微調整すると、ホワイトバランスのアイコンにアスタリスク（*）が表示されます。



■ 色温度の設定

iメニューで [ホワイトバランス] を選んで **OK** ボタンを押すと、ホワイトバランスの選択項目が表示されます。[色温度設定] を選んで **OK** を押すと、色温度を設定できます。



A (アンバー) および
B (ブルー) 方向


G (グリーン) および
M (マゼンタ) 方向


- **▲** **▼** を押して A (アンバー) および B (ブルー) 方向の色温度の桁を選びます。また、G (グリーン) および M (マゼンタ) 方向の色温度にカーソルを移動できます。
- **▲** **▼** を押して数値を設定します。
- **OK** ボタンを押すと色温度を決定して **i**メニュー画面に戻ります。
- G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の色温度を0以外に設定すると、ホワイトバランスのアイコンにアスタリスク (＊) が表示されます。

✔ 色温度設定についてのご注意


- 光源が蛍光灯のときは、色温度設定を使わず、**☼** (蛍光灯) に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

■ 基準となる白を取得して設定 (プリセットマニュアル)



カクテル照明や特殊照明下で撮影する場合、WB A (オート) や  (電球)、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られないことがあります。その場合、撮影する照明下で白またはグレーの被写体を撮影してプリセットマニュアルデータを取得し、それを基準にしてホワイトバランスを設定します。プリセットマニュアルデータは最大6つまでカメラに保存できます。

- 1 iメニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選んでマルチセクターの  を押す



- 2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ
 - 保存場所は [d-1] ~ [d-6] から選べます。
 -  ボタンを押して決定すると、iメニュー画面に戻ります。

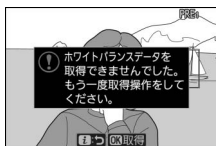


- 3 iメニューの【ホワイトバランス】を選んだ状態で  ボタンを長押しし、プリセットマニュアル取得モードにする
 - プリセットマニュアル取得モードになると、撮影画面と表示パネルに **PRE** が点滅します。
 - フォーカスポイントが  に変更されます。



4 □を被写体の白またはグレーの部分に重ね、プリセットマニュアルデータを取得する

- □はマルチセクターで移動できます。
- シャッターボタンを全押しするかOKボタンを押すとプリセットマニュアルデータを取得できます。
- 画像モニターをタッチすると、その場所に□が移動してプリセットマニュアルデータを取得できます。
- 別売のスピードライトを装着している場合は、□を移動できません。カメラを動かして画面の中央部分に被写体の白またはグレーの部分を重ねてください。
- データが取得できなかった場合は、撮影画面にメッセージが表示されてプリセットマニュアル取得モードの状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。



5 *i*ボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

✔ プリセットマニュアルについて

静止画撮影メニュー [ホワイトバランス] で [プリセットマニュアル] を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータを管理できます。撮影済み画像のホワイトバランスのデータをプリセットマニュアルとして使用することや、コメントの記入およびプロテクト設定ができます。

✔ ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（プリセットマニュアルのアイコンの横に **On** アイコンが表示されます）。

✔ プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータ d-1～d-6 は、晴天モードと同じ色温度 5200K に設定されています。
- 静止画撮影メニュー [ホワイトバランス] の [プリセットマニュアル] を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが表示されます。マルチセクターでプリセットマニュアルデータを選んで **OK** ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。



✔ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニュー c3 [パワーオフ時間] の [半押しタイマー] で設定した時間になります。

✔ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時
- 多重露出撮影時

画質モード

記録する画像の画質モードを選びます。

RAW+FINE★	
RAW+FINE	• RAWとJPEGの2種類の画像を同時に記録します。
RAW+NORMAL★	• カメラではJPEG画像のみを再生します。JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
RAW+NORMAL	• RAW 画像と同時記録された JPEG 画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
RAW+BASIC★	
RAW+BASIC	
RAW	RAW画像を記録します。
FINE★	
FINE	• JPEG画像を記録します。画質はFINE、NORMAL、BASICの順に高くなります。
NORMAL★	• ★がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。
NORMAL	
BASIC★	• ★がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
BASIC	
TIFF (RGB)	8ビット非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。

設定した画質モードは、撮影画面に表示されます。



ヒント：RAW画像について

- ファイルの拡張子はNEFになります。
- RAW 画像から JPEG 画像などの汎用性の高い画像ファイルフォーマットに変換することをRAW現像と呼びます。RAW現像の際に、露出補正やホワイトバランス、ピクチャーコントロールなどの設定を調整できます。
- RAW現像では、RAW画像そのものは加工されないため、いろいろな設定で繰り返しRAW現像を行っても、RAW画像そのものの品質は維持されます。
- RAW現像は、カメラの画像編集メニュー **[RAW現像]** で行うか、パソコンでニコンソフトウェアNX Studioを使用すると行えます。NX Studioはニコンダウンロードセンターから無料でダウンロードできます。

画像サイズ

画像を記録するときの画像サイズを選びます。

RAW	RAW L	RAW画像のサイズを設定できます。[画質モード]でRAWを含む画質モードを選んでいる場合のみ設定できます。
	RAW M	
	RAW S	
JPEG/TIFF	L	JPEG/TIFF画像のサイズを設定できます。
	M	
	S	

設定した画像サイズは、撮影画面に表示されます。



■ 画像サイズのピクセル数

画像のピクセル数は、静止画撮影メニュー [撮像範囲設定] の設定によって異なります。

Z7:







撮像範囲	画像サイズ		
	L	M	S
FX (36×24)	8256×5504	6192×4128	4128×2752
DX (24×16)	5408×3600	4048×2696	2704×1800
5:4 (30×24)	6880×5504	5152×4120	3440×2752
1:1 (24×24)	5504×5504	4128×4128	2752×2752
16:9 (36×20)	8256×4640	6192×3480	4128×2320

Z6:

撮像範囲	画像サイズ		
	L	M	S
FX (36×24)	6048×4024	4528×3016	3024×2016
DX (24×16)	3936×2624	2944×1968	1968×1312
1:1 (24×24)	4016×4016	3008×3008	2000×2000
16:9 (36×20)	6048×3400	4528×2544	3024×1696

フラッシュモード

別売スピードライトをカメラに装着した場合のフラッシュモードを設定できます。設定できる項目は、撮影モードによって異なります。

項目	設定できる撮影モード
 通常発光	AUTO、P、S、A、M
 赤目軽減発光	AUTO、P、S、A、M
 SLOW 赤目軽減+スローシャッター	P、A
 SLOW 通常発光+スローシャッター	P、A
 REAR 後幕発光	P、S、A、M
 発光禁止	AUTO、P、S、A、M

設定したフラッシュモードは、撮影画面に表示されます。



測光モード

画面内のどの部分の明るさを、どのように測定するかを決めるための測光モードを選びます。

☉ マルチパターン測光	画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
☉ 中央部重点測光	<ul style="list-style-type: none">• 画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。• 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。• 測光範囲はカスタムメニューb3 [中央部重点測光範囲] で変更できます。
□ スポット測光	<ul style="list-style-type: none">• フォーカスポイントに重なる $\phi 4$ mm相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。• 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AFエリアモード (□52) がオートエリアAFのときは中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。
□* ハイライト重点測光	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

設定した測光モードは、撮影画面に表示されます。



Wi-Fi通信機能

Wi-Fi通信機能のオン/オフを切り替えられます。

- Wi-Fi通信機能をオンにすると、パソコンやSnapBridgeアプリをインストールしたスマートフォンと無線接続することができます。
- Wi-Fi通信機能がオンになっていると、Wi-Fiアイコンが撮影画面に表示されます。



- Wi-Fi通信機能がオンの場合に **i**メニュー画面で **[Wi-Fi通信機能]** を選び、**OK** ボタンを押すと **[Wi-Fi接続を停止]** が表示されます。**OK** ボタンを押すと、無線通信を終了します。

ヒント：ネットワーク接続について

- カメラをパソコンやスマートフォンと無線で接続する方法については、「ネットワークガイド」をご覧ください。ネットワークガイドは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

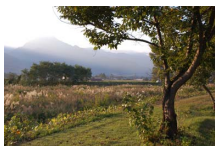
Z 7 : https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/492/Z_7.html

Z 6 : https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/493/Z_6.html

- SnapBridge アプリの詳しい使用方法などは SnapBridge アプリのヘルプをご覧ください。

アクティブD-ライティング

白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします。



【しない】



【暗Aオート】

暗A オート	撮影シーンに応じて自動的にアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。
暗H ⁺ より強め	
暗H 強め	効果の度合いは、強い順に【より強め】、【強め】、【標準】、【弱め】になります。
暗N 標準	
暗L 弱め	
暗OFF しない	アクティブD-ライティングを設定しません。


設定したアクティブD-ライティングの設定は、撮影画面に表示されます。









✓ アクティブD-ライティングについてのご注意

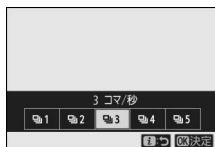
- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- 撮影モードがMのときは、【暗Aオート】に設定していても【暗N標準】相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- ISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 2）および感度自動制御でISO感度が高感度に制御された場合は機能しません。


リリースモード

シャッターをきる（リリースする）ときの動作を設定できます。リリースモードの詳細については「 (☺) (リリースモード、セルフタイマー) ボタン」(□86) も合わせてご覧ください。

項目	項目
 1コマ撮影	 高速連続撮影 (拡張)
 低速連続撮影	 セルフタイマー
 高速連続撮影	

- [低速連続撮影] が選ばれている状態で  を押すと、連続撮影速度を設定できます。



- [セルフタイマー] が選ばれている状態で  を押すと、シャッターボタンを全押ししてからシャッターがきるまでの時間と、撮影するコマ数を設定できます。






- 設定したリリースモードは、撮影画面、表示パネルに表示されます。



手ブレ補正

手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。表示される項目は、カメラに装着しているレンズによって異なります。

 ON	する ノーマル	手ブレ補正効果が高く、静止している被写体を撮影する場合に適しています。
 SPT	スポーツ	スポーツなどの動きの変化が激しい被写体を撮影する場合に適しています。
 OFF	しない	手ブレ補正を行いません。

【しない】以外に設定すると、アイコンが撮影画面に表示されます。









✓ 手ブレ補正使用時のご注意

- 装着しているレンズによっては設定を変更できない場合があります。
- 撮影画面の表示が安定してから撮影することをおすすめします。
- 装着しているレンズによっては、手ブレ補正の原理上、シャッターリリース後に撮影画面の表示がわずかに動くことがあります。異常ではありません。
- 流し撮りする場合は【スポーツ】または【する】に設定することをおすすめします。【ノーマル】、【スポーツ】または【する】に設定して流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。
- 三脚を使用するときは、誤作動を防ぐため【しない】を選んでください。ただし、手ブレ補正機能を備えたレンズでは設定が異なる場合がありますので、レンズの使用説明書をご覧ください。なお、三脚を使っても雲台を固定しないときや、一脚を使用するときには、【ノーマル】、【スポーツ】または【する】に設定することをおすすめします。

AFエリアモード

フォーカスポイントをどのように選択するか設定できます。各項目の詳しい説明については「カメラの基本機能と設定」にある「ピント合わせの設定」の「AFエリアモード」(□52) も合わせてご覧ください。

項目	項目
 ピンポイントAF	 ワイドエリアAF (S)
 シングルポイントAF	 ワイドエリアAF (L)
 ダイナミックAF	 オートエリアAF

設定したAFエリアモードは、撮影画面に表示されます。



フォーカスモード

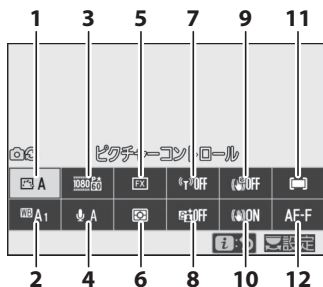
ピントの合わせ方を選べます。各項目の詳しい説明については「カメラの基本機能と設定」にある「ピント合わせの設定」の「フォーカスモード」(□50) も合わせてご覧ください。

項目
AF-S シングルAF
AF-C コンティニュースAF
MF マニュアルフォーカス

設定したフォーカスモードは、撮影画面に表示されます。




動画モード



1	ピクチャーコントロール	115	7	Wi-Fi通信機能	120
2	ホワイトバランス	115	8	アクティブD-ライティング	120
3	画像サイズ/フレームレート/ 画質	115	9	電子手ブレ補正	121
4	マイク感度	118	10	手ブレ補正	121
5	撮像範囲設定	119	11	AFエリアモード	121
6	測光モード	120	12	フォーカスモード	122

ヒント：[静止画の設定と同じ]

動画撮影メニュー [ピクチャーコントロール]、[ホワイトバランス]、[アクティブD-ライティング] または [手ブレ補正] で [静止画の設定と同じ] を選んでいる場合、**i**メニューの左上に  アイコンが表示されます。**i**メニューから設定する場合、静止画モードのときにピクチャーコントロールやホワイトバランスを変更すると動画モードでも、動画モードで設定を変更すると静止画モードでも同じ設定になります。



ピクチャーコントロール

ピクチャーコントロールを選べます。ピクチャーコントロールの詳しい内容や設定方法などは「静止画モード」(□95)も合わせてご覧ください。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを選べます。ホワイトバランスの詳しい内容や設定方法などは「静止画モード」(□99)も合わせてご覧ください。

画像サイズ/フレームレート/画質

動画を記録するときの画像サイズ(ピクセル)とフレームレート、動画の画質を設定します。

■■ 動画の画質

[高画質]と[標準]があります。[高画質]を選ぶと[画像サイズ/フレームレート]のアイコンに★が表示されます。選んだ画像サイズ/フレームレートによっては[高画質]に固定される場合があります。

■■ 画像サイズ/フレームレート

[画像サイズ/フレームレート] の設定と、それぞれの最大ビットレートおよび最長記録時間は次の通りです。ビットレートは画質の設定により異なります。

項目※1	最大ビットレート		最長記録時間
	高画質	標準	
 3840×2160 (4K UHD) 30p	144Mbps	—※2	29分 59秒※4
 3840×2160 (4K UHD) 25p			
 3840×2160 (4K UHD) 24p			
 1920×1080 120p※3			
 1920×1080 100p※3			
 1920×1080 60p	56Mbps	28Mbps	3分
 1920×1080 50p	28Mbps	14Mbps	
 1920×1080 30p			
 1920×1080 25p			
 1920×1080 24p			
 1920×1080 30p 4倍スロー※3	36Mbps	—※2	
 1920×1080 25p 4倍スロー※3			
 1920×1080 24p 5倍スロー※3			

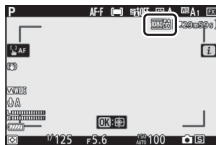
※1 120p：119.88コマ/秒 (fps)、100p：100コマ/秒、60p：59.94コマ/秒、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2 画質は [高画質] に固定されます。

※3 撮像範囲は [DX] (Z6は [FX]) に固定されます。また、AFエリアモードがオートエリアAFの場合に顔認識を行いません。

※4 動画は最大 8 個のファイルに分割されて記録されることがあります。その場合、各ファイルのファイルサイズは最大で4GBです。1回の撮影で作成されるファイルの数と1ファイルあたりの記録時間は [画像サイズ/フレームレート] および [動画の画質] の設定によって異なります。ただしこのカメラで初期化した32GBを超えるカードを使用した場合は、1回の動画撮影でファイルサイズが4GBを超えた場合でもファイルは分割されず1つのファイルに記録されます。

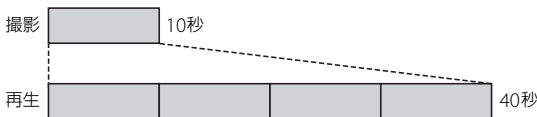
設定した [画像サイズ/フレームレート/画質]
は、撮影画面に表示されます。



■ スローモーション動画について

[画像サイズ/フレームレート] で [1920×1080 30p 4倍スロー]、
[1920×1080 25p 4倍スロー]、または [1920×1080 24p 5倍スロー]
を選ぶとスローモーション動画を撮影できます。音声は記録され
ません。

- 例えば [1920×1080 30p 4倍スロー] の場合、120pのフレームレ
ードで読み出した画像を30pの動画として記録します。約10秒間撮影し
た動画は、約40秒かけて再生されます。スポーツでのボールのインパ
クトの瞬間など、一瞬の出来事をゆっくりと見ることができます。



- 画像を読み出すときのフレームレートと、動画を記録および再生する
ときのフレームレートは次の通りです。

画像サイズ/フレームレート	画像を読み出すときの フレームレート※	動画を記録・再生する ときのフレームレート※
1920×1080 30p 4倍スロー	120p	30p
1920×1080 25p 4倍スロー	100p	25p
1920×1080 24p 5倍スロー	120p	24p

※ 120p : 119.88コマ/秒 (fps)、100p : 100コマ/秒、30p : 29.97コマ/秒、
25p : 25コマ/秒、24p : 23.976コマ/秒




✓ スローモーション動画撮影時のご注意


次の機能など、スローモーション動画撮影中は使用できなくなる機能があります。

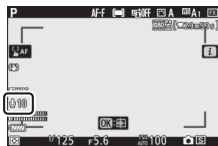
- フリッカー低減
- 電子手ブレ補正
- タイムコード出力

マイク感度

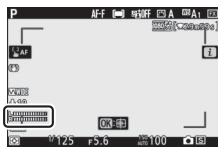
内蔵マイクまたは外部マイクの感度の程度を設定します。

 A	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
録音しない	音声は記録しません。
 1 ~  20	マイク感度を手動調整します。[1] ~ [20] の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。


- A以外に設定した場合、撮影画面にマイク感度が表示されます。



- 音声レベルインジケータの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。



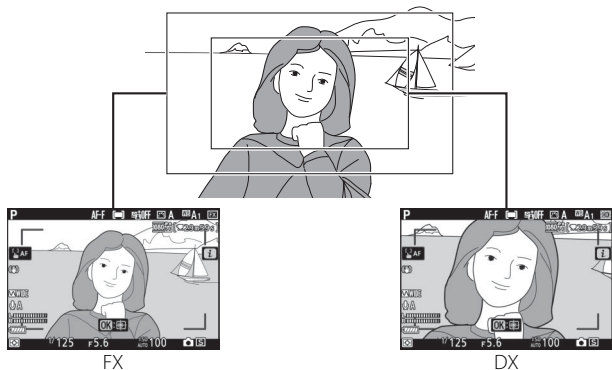
✓ 音声記録されていない動画の表示について

マイク感度を [録音しない] にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に  (音声なしマーク) が表示されます。



撮像範囲設定

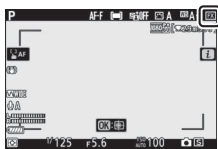
動画を記録するときの撮像範囲を設定します。撮像範囲には [FX] と [DX] があります。[FX] に設定した場合はFXベースの（動画）フォーマットに、[DX] に設定した場合はDXベースの（動画）フォーマットになります。動画モード時の撮像範囲は次の図のようになります。



- 撮像範囲のサイズは、FXベースの（動画）フォーマットとDXベースの（動画）フォーマットでは異なります。それぞれの撮像範囲のサイズは次の通りです。

フォーマット	画像サイズ	サイズ
FXベースの（動画） フォーマット	3840×2160	約35.9×20.2 mm
	1920×1080	Z 7：約35.8×20.1 mm Z 6：約35.9×20.1 mm
DXベースの（動画） フォーマット	3840×2160	Z 7：約23.5×13.2 mm Z 6：約23.4×13.2 mm
	1920×1080	Z 7：約23.5×13.2 mm Z 6：約23.4×13.1 mm

- 設定した撮像範囲は、撮影画面に表示されます。



測光モード

測光モードを選べます。測光モードの詳細い内容や設定方法などは「静止画モード」(□108) も合わせてご覧ください。

測光モードのご注意

動画モードの場合、[スポット測光] は選べません。

Wi-Fi通信機能

Wi-Fi通信機能のオン/オフを切り替えられます。Wi-Fi通信機能の詳細い内容や設定方法などは「静止画モード」(□109) も合わせてご覧ください。

アクティブD-ライティング

動画のアクティブD-ライティングの設定を選べます。アクティブD-ライティングの詳細い内容や設定方法などは「静止画モード」(□110) も合わせてご覧ください。

[静止画の設定と同じ]

静止画撮影メニューのアクティブD-ライティングが [オート] のときに、動画撮影メニューで [静止画の設定と同じ] を選んだ場合は、[標準] と同じ設定になります。

電子手ブレ補正

動画撮影時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。

する	<ul style="list-style-type: none">• 動画撮影時に電子手ブレ補正を行います。• 動画の画像サイズを 1920×1080 120p、1920×1080 100pまたは 1920×1080 スローに設定している場合、電子手ブレ補正は機能しません。• [する]に設定すると、画角が小さくなり表示が少し拡大されます。• 動画のISO感度の上限はZ 7では25600、Z 6では51200に制限されます。
しない	電子手ブレ補正を行いません。

[する] に設定すると、撮影画面にアイコンが表示されます。



手ブレ補正

動画撮影時に手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。手ブレ補正の詳しい内容や設定方法などは「静止画モード」(□112) も合わせてご覧ください。

AFエリアモード

フォーカスポイントをどのように選択するか設定できます。AFエリアモードの詳しい説明については「カメラの基本機能と設定」にある「ピント合わせの設定」の「AFエリアモード」(□52) も合わせてご覧ください。

項目	項目
[□] シングルポイントAF	wide-L ワイドエリアAF (L)
wide-S ワイドエリアAF (S)	[■] オートエリアAF

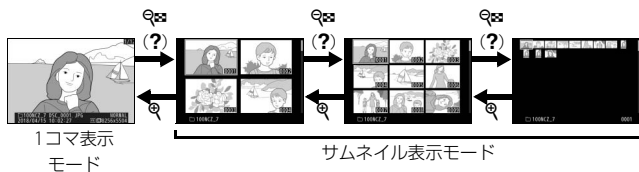
フォーカスモード

ピントの合わせ方を選べます。フォーカスモードの詳しい説明については「カメラの基本機能と設定」にある「ピント合わせの設定」の「フォーカスモード」(P50) も合わせてご覧ください。

項目	項目
AF-S シングルAF	AF-F フルタイムAF
AF-C コンティニュアスAF	MF マニュアルフォーカス

撮影した画像を見る

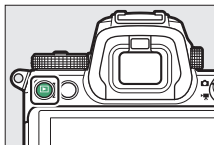
画像を再生する



1コマ表示モード

▶ ボタンを押すと、最後に撮影した画像が画像モニターまたはファインダーに表示されます。

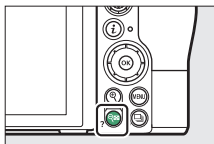
- マルチセレクターの を押すと前の画像が、 を押すと次の画像が表示されます。
- または **DISP** ボタンを押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます (□125)。



サムネイル表示モード

1コマ表示モードのときに (?) ボタンを押すと、複数の縮小画像 (サムネイル画像) を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

- 表示される画像の数は、 (?) ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、 ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセレクターの を押して画像を選びます。



✔ タッチパネルでの操作について

画像モニターで再生している場合、タッチ操作で再生画面を切り換えることができます (□10)。

✔ 縦位置で撮影した画像の場合

再生メニュー [縦位置自動回転] を [する] に設定している場合、縦位置で撮影された画像を縦位置で再生します。





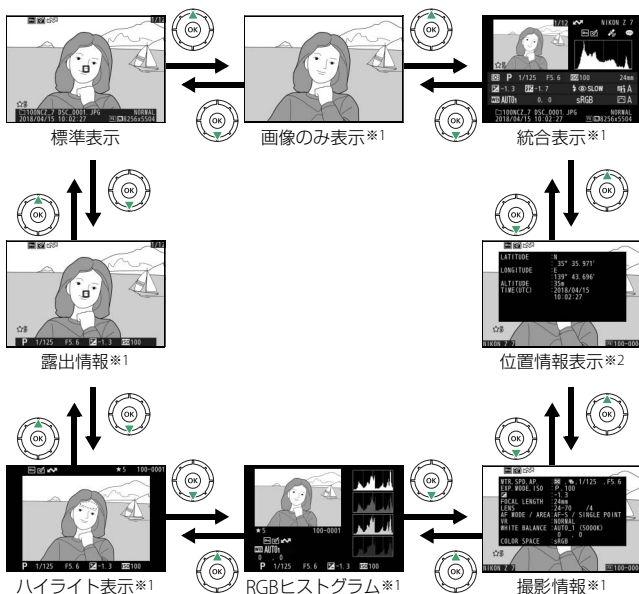
✔ 撮影直後の画像確認について

再生メニュー [撮影直後の画像確認] を [する] に設定している場合、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターまたはファインダーに表示します。

- [する (画像モニター表示のみ)] に設定している場合、ファインダーには撮影画像は表示されません。
- 連続撮影時は、撮影終了後に最初のコマから順次画像を表示します。
- 再生メニュー [縦位置自動回転] を [する] に設定していても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

画像情報を表示する

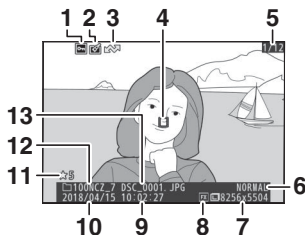
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセクターの   または **DISP** ボタンを押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニュー [再生画面設定] で設定している場合のみ表示します。

※2 位置情報 (□316) が記録された画像の場合のみ表示します。

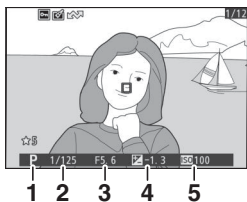
標準表示



1	プロテクト設定の有無	70	7	画像サイズ	106
2	画像編集の有無	326	8	撮像範囲	169
3	送信指定の有無	135	9	撮影時刻	303
4	フォーカスポイント*	39	10	撮影日付	303
5	コマ番号/ フォルダー内全画像数		11	レーティング	69
6	画質モード	105	12	フォルダー名	165
			13	ファイル名	168

※ 再生メニュー [再生画面設定] で [フォーカスポイント] を設定した場合のみ表示します。

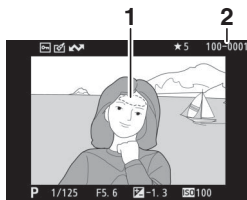
露出情報



1	撮影モード	71	4	露出補正值	84
2	シャッタースピード	72、74	5	ISO感度*	81
3	絞り値	73、74			

※ 撮影モードP、S、A、Mで感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

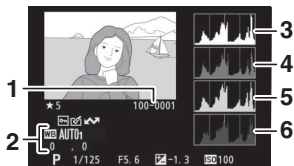
ハイライト表示



1 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します。

2 フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字165

RGBヒストグラム



1 フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字165

2 ホワイトバランス ...63、99、174
ホワイトバランス色温度101
ホワイトバランス微調整100
プリセットマニュアル102

3 RGBのヒストグラム

4 赤色 (R) のヒストグラム

5 緑色 (G) のヒストグラム

6 青色 (B) のヒストグラム

✔ 拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で \mathcal{Q} ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 \mathcal{Q} (?)ボタンを押すと画像を縮小表示します。



✔ ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



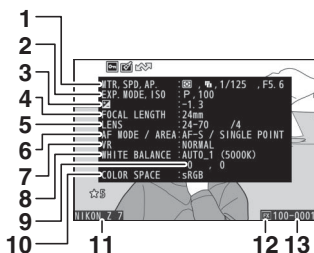
露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて画像モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

✔ ヒストグラム表示について

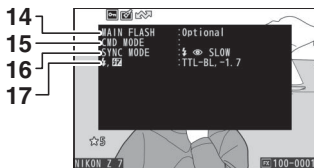
- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

撮影情報

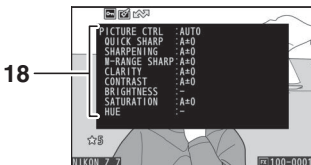
撮影時の設定の詳細を表示します。



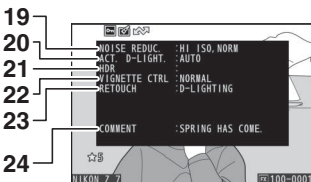
1	測光モード	108	6	フォーカスモード	50
	シャッター方式	267	7	手ブレ補正機能	112
	シャッタースピード	72, 74	8	ホワイトバランス ^{※3}	63, 99, 174
	絞り値	73, 74	9	ホワイトバランス微調整	100
2	撮影モード	71	10	色空間	184
	ISO感度 ^{※1}	81	11	カメラ名	
3	露出補正值	84	12	撮像範囲	169
	基準露出レベルの調節値 ^{※2}	263	13	フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字	
4	焦点距離				
5	レンズ情報				



14	フラッシュの種類 ^{※4}	367	17	フラッシュ発光モード ^{※4}	371
15	リモートフラッシュの制御方法 ^{※4}			調光補正値 ^{※4}	
16	フラッシュモード ^{※4}	369			



- 18** ピクチャーコントロール※5
 95、179



- 19** 高感度ノイズ低減 186
 長秒時ノイズ低減 185
20 アクティブD-ライティング 110
21 HDRの露出差 212
 HDRのスムージング 212
22 ヴィネットコントロール 186

- 23** 画像編集メニュー (□326) で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
24 画像コメント 312



25 撮影者名※6 313 **26** 著作権者名※6 313

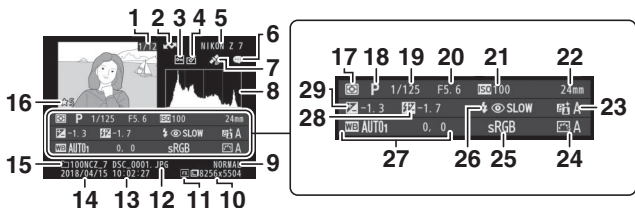
- ※1 撮影モード **P**、**S**、**A**、**M** で感度自動制御した画像の場合、ISO 感度を赤く表示します。
- ※2 カスタムメニュー b4 [基準露出レベルの調節] を 0 以外に設定している場合のみ表示します。
- ※3 **A** (オート) で撮影した場合は、撮影時の色温度が表示されます。
- ※4 別売のスピードライト使用時にのみ表示します (□364、377)。
- ※5 表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。
- ※6 セットアップメニュー [著作権情報] を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

位置情報表示

緯度、経度など、スマートフォンまたは別売のGPS機器で取得した位置情報 (□316) を表示します。

- 表示される項目は、スマートフォンまたは対応するGPS機器によって異なります。
- 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

統合表示



1	コマ番号/フォルダー内全画像数	18	撮影モード	71	
2	送信指定の有無	135	19	シャッタースピード	72、74
3	プロテクト設定の有無	70	20	絞り値	73、74
4	画像編集の有無	326	21	ISO感度*1	81
5	カメラ名		22	焦点距離	
6	画像コメントの有無	312	23	アクティブD-ライティング	110
7	位置情報の有無	316	24	ピクチャーコントロール	
8	画像のヒストグラムを表示します	128			95、179
9	画質モード	105	25	色空間	184
10	画像サイズ	106	26	フラッシュモード*2	369
11	撮像範囲	169	27	ホワイトバランス	63、99、174
12	ファイル名	168		ホワイトバランス色温度	101
13	撮影時刻	303		ホワイトバランス微調整	100
14	撮影日付	303		プリセットマニュアル	102
15	フォルダー名	165	28	調光補正值*2	371
16	レーティング	69		コマンダーモードの有無*2	
17	測光モード	108	29	露出補正值	84

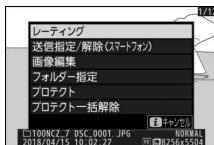
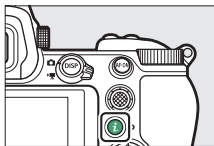
※1 撮影モードP、S、A、Mで感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※2 別売のスピードライト使用時にのみ表示します (□364、377)。

iボタン（再生時）

1コマ表示モード、サムネイル表示モードまたは拡大表示時に*i*ボタンを押すと、*i*メニューが表示されます。項目を選んでOKボタンまたはマルチセレクターの \odot を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

再生画面に戻るには、もう一度*i*ボタンを押してください。



静止画選択時

簡易トリミング※1	画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます。RGBヒストグラム表示 (□127) の場合は選べません。
レーティング	選んだ画像にレーティングを設定します (□69)。
送信指定/解除 (スマートフォン)	画像の送信指定を行えます (□135)。表示される項目は、現在カメラと接続している無線機器により異なります。
送信指定/解除 (PC)	
送信指定/解除 (WT)	
画像編集	選んだ静止画を編集できます (□326)。
フォルダー指定	フォルダーを切り換えられます。フォルダーを選んでOKボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
プロテクト	現在選ばれている画像を、削除ないようにプロテクト (保護) します (□70)。
プロテクト一括解除※2	再生メニュー [再生フォルダー設定] で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。



※1 拡大表示している場合のみ表示されます。

※2 拡大表示している場合は表示されません。

動画選択時

レーティング	選んだ動画にレーティングを設定します (□□69)。
送信指定/解除 (PC)	動画の送信指定を行えます (□□135)。表示される項目は、
送信指定/解除 (WT)	現在カメラと接続している無線機器により異なります。
音量調節	動画再生時の音量を調節できます。
動画編集 (始点/終点設定)	選んだ動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、 選択した範囲だけを残すことができます (□□136)。
フォルダー指定	フォルダーを切り換えられます。フォルダーを選んでⓧ ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
プロテクト	現在選ばれている画像を、削除しないようにプロテクト (保護) します (□□70)。
プロテクト一括解除	再生メニュー [再生フォルダー設定] で設定されている フォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除で きます。

動画再生一時停止時

 始点/終点の設定	動画の必要な部分だけを残します (□□136)。
 表示中のフレームを 保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保 存します (□□139)。

■ 送信指定/解除

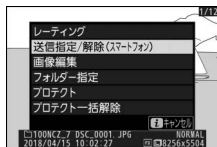
スマートフォンやパソコン、FTPサーバーに取り込みたい画像をカメラで選んで送信指定することができます。

- **i**メニューに表示される項目は、現在カメラと接続している機器によって異なります。
 - カメラのBluetooth通信機能を使用して、セットアップメニュー [スマートフォンと接続] でスマートフォンと接続 (□319) している場合: [送信指定/解除 (スマートフォン)]
 - カメラのWi-Fi通信機能を使用して、セットアップメニュー [PCと接続] でパソコンと接続 (□319) している場合: [送信指定/解除 (PC)]
 - 別売のワイヤレストランスミッターWT-7を使用して、セットアップメニュー [ワイヤレストランスミッター (WT-7)] でパソコンまたはFTPサーバーに接続 (□319) している場合: [送信指定/解除 (WT)]
- Bluetooth でスマートフォンと接続している場合、動画は送信指定できません。
- ファイル容量が4GBを超える動画は送信指定できません。

1 送信指定する画像を選んで*i*ボタンを押す

2 [送信指定/解除] を選んでOKボタンを押す

-  アイコンが表示されます。



✓ 送信指定を解除するには

解除したい画像を選んで、手順1と2を行います。

■ 始点/終点の設定

動画の必要な部分を残せます。



1 1コマ表示モードで編集したい動画を表示する

2 残したい範囲の冒頭部分（始点）で動画を一時停止する

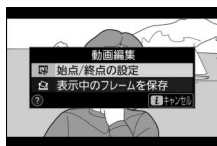
- **OK** ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの **STOP** を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- **←** **→**、メインコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。



プログレスバー

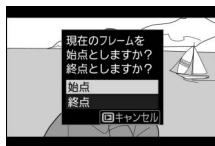
3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで **OK** ボタンを押します。



4 始点を選ぶ

- [始点] を選んで **OK** ボタンを押すと、そこから後ろの部分が残ります。



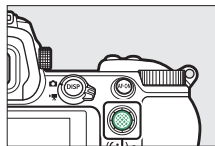
5 手順4で選んだ位置を調整する

- **Left Arrow** / **Right Arrow** を押して、残したい部分の最初の位置を調整します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。



6 残したい範囲の末尾の部分（終点）を選ぶ

- サブセレクターの中央を押して **End** (終点) に切り換え、手順5と同じ手順で **End** (終点) の位置を調整します。



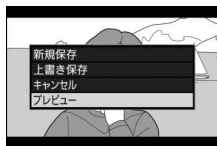
サブセレクター



7 **Enter** を押して決定する

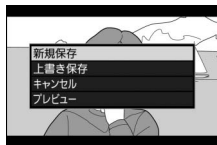
8 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んでⓧボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには⏏を押します）。
- [キャンセル] を選んでⓧボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



9 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。
- [上書き保存] を選ぶと、編集前の動画が上書きされます。



10 動画ファイルを保存する

- ⓧボタンを押して決定します。

✓ 動画編集時のご注意

- メモリーカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

✓ 動画の前半または後半だけを残すには

- 動画の前半だけを残したい場合は、手順4で [終点] を選んでⓧボタンを押してから、手順6ではサブセクターの中央を押さずに手順7に進みます。
- 動画の後半だけを残したい場合は、手順6でサブセクターの中央を押さずに手順7に進みます。

✓ 画像編集メニュー [動画編集 (始点/終点設定)]

動画の切り出しおよび保存は、画像編集メニューの [動画編集 (始点/終点設定)] でも行えます。

■ 表示中のフレームを保存

動画の1フレームをJPEG画像として保存します。

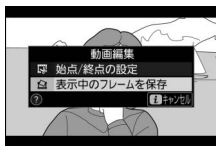
1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセレクターの \blacktriangledown を押すと、一時停止します。
- \blacktriangleleft \blacktriangleright を押すと、再生中の位置を調整できます。



2 [表示中のフレームを保存] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[表示中のフレームを保存] を選んで **OK** ボタンを押すと JPEG の画像として保存します。

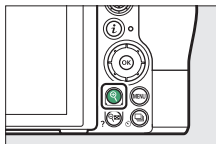


✓ [表示中のフレームを保存] で作成した画像について


- 動画撮影メニュー [画像サイズ/フレームレート] で設定した画像サイズで記録されます。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報で表示されない項目があります。

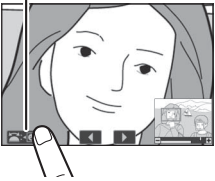
画像を拡大表示する

1コマ表示モードのときに \mathcal{Q} ボタンまたは \mathcal{Q} ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約32倍（Z6は24倍）、**M**では約24倍（Z6は18倍）、**S**では約16倍（Z6は12倍）です（撮像範囲が[FX(36×24)]の場合）。



拡大表示中の操作方法

<p>拡大率を上げる/ 拡大率を下げる</p>	<ul style="list-style-type: none">• \mathcal{Q} ボタンを押すか、画面で広げる操作をするごとに拡大率が上がります。• \mathcal{Q} (?) ボタンを押すか、画面でつまむ操作をするごとに拡大率が下がります。	 <p>拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。</p>
<p>画面をスクロール (移動) させる</p>	<p>マルチセレクターを押すか、画像モニターでスライド操作すると見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。</p>	

<p>人物の顔へ移動させる</p>	<p>拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すか、操作ガイドをタッチすると、認識した顔に順次移動します。</p>	<p>操作ガイド</p> 
<p>前後の画像を見る</p>	<p>メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。画面下部に表示される ◀ ▶ をタッチしても画像を切り換えられます。</p>	
<p>撮影に戻る</p>	<p>シャッターボタンを半押しするか、▶ ボタンを押すと、画像モニターが消灯し、すぐに撮影できます。</p>	
<p>メニューに移る</p>	<p>MENU ボタンを押すと、メニューが表示されます。</p>	


画像を削除する

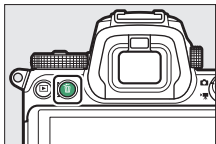
メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのをご注意ください。ただし、プロテクトされている画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

⏏ ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

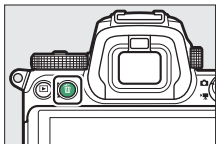
1 マルチセレクターで削除する画像を選んで⏏ ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。
-  ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。





2 もう一度⏏ ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。







複数の画像をまとめて削除する

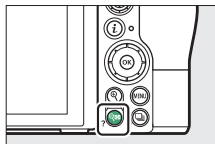
再生メニューの「削除」では、複数の画像を一括して削除できます。たくさん画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

 選択画像削除	選んだ画像を削除します。
 日付選択	選んだ日付に撮影した画像を一括で削除します (□144)。
ALL 全画像削除	[再生フォルダー設定] で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。



■ 選択画像削除

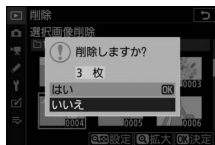
1 削除する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、 (?) ボタンを押すと、 が表示されて削除設定されます。もう一度  (?) ボタンを押すと解除されます。
- 削除する画像全てに設定してください。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



2 画像を削除する

-  ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で「はい」を選んで  ボタンを押すと、選んだ画像が全て削除されます。



日付選択

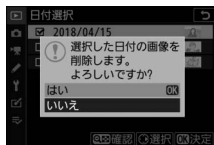
1 日付を選ぶ

- マルチセレクトで日付を選んで \blacktriangleleft を押すと、日付の横にチェック \square が入ります。もう一度 \blacktriangleleft を押すと解除されます。
- 削除する日付全てにチェックを入れてください。



2 画像を削除する

- \otimes ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で [はい] を選んで \otimes ボタンを押すと、選んだ日付の画像が全て削除されます。



メニューガイド

初期設定一覧


再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。

再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
[再生フォルダー設定]	全てのフォルダー
[撮影直後の画像確認]	しない
[削除後の次再生画像]	後ろのコマ
[連続撮影後の再生画像]	最後の画像
[縦位置自動回転]	する
[スライドショー]	
[再生画像の種類]	静止画と動画
[インターバル設定]	2秒

静止画撮影メニューの初期設定

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[記録フォルダー設定]	
[フォルダーグループ名変更]	Z7 : NCZ_7、 Z6 : NCZ_6
[フォルダー番号指定]	100
[ファイル名設定]	DSC
[撮像範囲設定]	FX (36×24)
[画質モード]	NORMAL
[画像サイズ]	
[JPEG/TIFF]	サイズL
[RAW]	サイズL

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[RAW記録]	
[圧縮方式]	ロスレス圧縮RAW
[記録ビットモード]	14ビット記録
[ISO感度設定]	
[ISO感度]	
 AUTO	ISO-A
P、S、A、M	100
[感度自動制御]	する
[制御上限感度]	Z7 : 25600、 Z6 : 51200
[⚡使用時の制御上限感度]	フラッシュなしの設定と同じ
[低速限界設定]	オート
[ホワイトバランス]	オート : 雰囲気を残す
[微調整値]	A-B: 0、G-M: 0
[色温度設定]	5000K
[プリセットマニュアル]	d-1
[ピクチャーコントロール]	オート
[色空間]	sRGB
[アクティブD-ライティング]	しない
[長秒時ノイズ低減]	しない
[高感度ノイズ低減]	標準
[ヴィネットコントロール]	標準
[回折補正]	する
[自動ゆがみ補正]	する
[フリッカー低減撮影]	しない
[測光モード]	マルチパターン測光
[フラッシュ発光]	
[発光モード]	TTL調光
[ワイヤレス設定]	しない
[増灯発光モード]	グループ発光
[フラッシュモード]	通常発光
[フラッシュ調光補正]	0.0
[フォーカスモード]	シングルAF

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[AFエリアモード]	シングルポイントAF
[手ブレ補正]	(装着するレンズにより 異なります)
[オートブラケティング]	
[オートブラケティングのセット]	AE・フラッシュブラケティング
[コマ数]	0
[補正ステップ]	1.0
[多重露出] ※	
[多重露出モード]	しない
[コマ数]	2
[合成モード]	加算平均
[全画像の保存]	する
[確認撮影]	する
[HDR (ハイダイナミックレンジ)]	
[HDRモード]	しない
[露出差]	オート
[スムージング]	標準
[合成前の画像を保存 (RAW)]	しない
[インターバルタイマー撮影]	
[開始日時の設定]	即時
[撮影間隔]	1分
[撮影回数×1回のコマ数]	0001×1
[露出平滑化]	しない
[サイレント撮影]	しない
[撮影間隔優先]	しない
[撮影開始時の記録フォルダー]	
[新規フォルダー作成]	<input type="checkbox"/>
[ファイル番号リセット]	<input type="checkbox"/>

※ 多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終えるまで静止画撮影メニューはリセットできません。

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[タイムラプス動画]	
[撮影間隔]	5秒
[撮影時間]	25分
[露出平滑化]	する
[サイレント撮影]	しない
[撮像範囲設定]	FX
[画像サイズ/フレームレート]	1920×1080 60p
[撮影間隔優先]	しない
[フォーカスシフト撮影]	
[撮影回数]	100
[フォーカスステップ幅]	5
[待機時間]	0
[露出固定]	する
[ピーキングスタック画像]	記録しない
[サイレント撮影]	しない
[撮影開始時の記録フォルダー]	
[新規フォルダー作成]	<input type="checkbox"/>
[ファイル番号リセット]	<input type="checkbox"/>
[サイレント撮影]	しない

動画撮影メニューの初期設定


動画撮影メニュー項目	初期設定
[ファイル名設定]	DSC
[撮像範囲設定]	FX
[画像サイズ/フレームレート]	1920×1080 60p
[動画の画質]	高画質
[動画記録ファイル形式]	MOV
[ISO感度設定]	
[制御上限感度]	Z 7 : 25600、 Z 6 : 51200
[Mモード時の感度自動制御]	する
[Mモード時のISO感度]	100

動画撮影メニュー項目	初期設定
[ホワイトバランス]	静止画の設定と同じ
[微調整値]	A-B: 0、G-M: 0
[色温度設定]	5000K
[プリセットマニュアル]	d-1
[ピクチャーコントロール]	静止画の設定と同じ
[アクティブD-ライティング]	しない
[高感度ノイズ低減]	標準
[ヴィネットコントロール]	標準
[回折補正]	する
[自動ゆがみ補正]	する
[フリッカー低減]	オート
[測光モード]	マルチパターン測光
[フォーカスモード]	フルタイムAF
[AFエリアモード]	オートエリアAF
[手ブレ補正]	静止画の設定と同じ
[電子手ブレ補正]	しない
[マイク感度]	オート
[アッテネーター]	無効
[録音帯域]	広帯域
[風切り音低減]	しない
[ヘッドホン音量]	15
[タイムコード]	
[タイムコード記録]	しない
[カウントアップ方式]	レックラン
[ドロップフレーム]	する



カスタムメニューの初期設定

	カスタムメニュー項目	初期設定
a1	[AF-Cモード時の優先]	リリース
a2	[AF-Sモード時の優先]	フォーカス
a3	[AFロックオン]	3
a4	[オートエリアAF時の顔と瞳認識]	顔認識と瞳認識する

カスタムメニュー項目		初期設定
a5	[AF点数]	全点
a6	[縦/横位置フォーカスポイント切換]	しない
a7	[半押しAFレンズ駆動]	する
a8	[AFエリアモードの限定]	
	[ピンポイントAF]	<input checked="" type="checkbox"/>
	[シングルポイントAF]	<input checked="" type="checkbox"/> (固定)
	[ダイナミックAF]	<input checked="" type="checkbox"/>
	[ワイドエリアAF (S)]	<input checked="" type="checkbox"/>
	[ワイドエリアAF (L)]	<input checked="" type="checkbox"/>
	[オートエリアAF]	<input checked="" type="checkbox"/>
a9	[フォーカスポイント循環選択]	しない
a10	[フォーカスポイント表示の設定]	
	[マニュアルフォーカス時の表示]	する
	[ダイナミックAF時のアシスト表示]	する
a11	[ローライトAF]	しない
a12	[内蔵AF補助光の照射設定]	する
a13	[AF設定時のフォーカスリング操作]	有効
b1	[露出設定ステップ幅]	1/3段
b2	[露出補正簡易設定]	しない
b3	[中央部重点測光範囲]	φ 12 mm
b4	[基準露出レベルの調節]	
	[マルチパターン測光]	0
	[中央部重点測光]	0
	[スポット測光]	0
	[ハイライト重点測光]	0
c1	[シャッターボタンAEロック]	しない
c2	[セルフタイマー]	
	[時間]	10秒
	[撮影コマ数]	1コマ
	[連続撮影間隔]	0.5秒

カスタムメニュー項目		初期設定
c3	[パワーオフ時間]	
	[画像の再生]	10秒
	[メニュー表示]	1分
	[撮影直後の画像確認]	4秒
	[半押しタイマー]	30秒
d1	[低速連続撮影速度]	3コマ/秒
d2	[連続撮影コマ数]	200
d3	[連動レリーズモード設定]	連動する
d4	[露出ディレーモード]	しない
d5	[シャッター方式]	オート
d6	[撮像範囲設定の限定]	
	[FX (36×24)]	<input checked="" type="checkbox"/> (固定)
	[DX (24×16)]	<input checked="" type="checkbox"/>
	[5:4 (30×24)] (Z7のみ)	<input checked="" type="checkbox"/>
	[1:1 (24×24)]	<input checked="" type="checkbox"/>
	[16:9 (36×20)]	<input checked="" type="checkbox"/>
d7	[連番モード]	する
d8	[Lvに撮影設定を反映]	する
d9	[格子線表示]	しない
d10	[ピーキング表示]	
	[ピーキングの検出]	しない
	[ピーキング表示色]	赤
d11	[連続撮影中の表示]	する
e1	[フラッシュ撮影同調速度]	1/200秒
e2	[フラッシュ時シャッタースピード制限]	1/60秒
e3	[フラッシュ使用時の露出補正]	全体を補正
e4	[ 使用時の感度自動制御]	被写体と背景
e5	[モデリング発光]	する
e6	[BKT変化要素 (Mモード)]	フラッシュ・シャッタースピード
e7	[BKTの順序]	[0] → [-] → [+]

カスタムメニュー項目		初期設定
f1	[Fnメニューのカスタマイズ]	ピクチャーコントロール ホワイトバランス 画質モード 画像サイズ フラッシュモード 測光モード Wi-Fi通信機能 アクティブD-ライティング リリースモード 手ブレ補正 AFエリアモード フォーカスモード
f2	[カスタムボタンの機能]	
	[Fn1ボタン]	ホワイトバランス
	[Fn2ボタン]	フォーカスモード/ AFエリアモード
	[AF-ONボタン]	AF-ON
	[サブセレクター]	フォーカスポイント選択
	[サブセレクター中央]	AE-L/AF-L
	[動画撮影ボタン]	設定しない
	[レンズのFnボタン]	AE-L/AF-L
	[レンズのFn2ボタン]	AF-ON
	[レンズのコントロールリング]	(装着するレンズにより 異なります)
f3	[OKボタンの機能]	
	[撮影モード]	フォーカスポイント 中央リセット
	[再生モード]	拡大画面との切り換え
	[拡大画面との切り換え]	等倍 (100%)
f4	[シャッタースピードと絞り値のロック]	
	[シャッタースピードのロック]	しない
	[絞り値のロック]	しない

	カスタムメニュー項目	初期設定
f5	[コマンドダイヤルの設定]	
	[回転方向の変更]	露出補正の設定時： <input type="checkbox"/> シャッタースピード/絞り値の 設定時： <input type="checkbox"/>
	[メインとサブの入れ換え]	露出設定：しない、 AF設定：しない
	[再生/メニュー画面で使用]	しない
	[サブコマンドダイヤルで画像送り]	10コマ
f6	[ボタンのホールド設定]	しない
f7	[インジケータの+/-方向]	
g1	[ メニューのカスタマイズ]	ピクチャーコントロール ホワイトバランス 画像サイズ/フレームレート/画質 マイク感度 撮像範囲設定 測光モード Wi-Fi通信機能 アクティブD-ライティング 電子手ブレ補正 手ブレ補正 AFエリアモード フォーカスモード
g2	[カスタムボタンの機能]	
	[Fn1ボタン]	ホワイトバランス
	[Fn2ボタン]	フォーカスモード/ AFエリアモード
	[AF-ONボタン]	AF-ON
	[サブセレクター中央]	AE-L/AF-L
	[シャッターボタン]	静止画撮影
	[レンズのコントロールリング]	(装着するレンズにより 異なります)
g3	[OKボタンの機能]	フォーカスポイント 中央リセット

カスタムメニュー項目		初期設定
g4	[AF速度]	0
	[作動条件]	常時有効
g5	[AF追従感度]	4
g6	[ハイライト表示]	
	[表示パターン]	しない
	[ハイライト表示のしきい値]	248

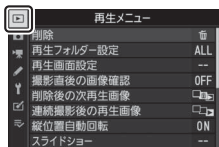
セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目	初期設定
[地域と日時]	
[夏時間の設定]	しない
[モニターの明るさ]	0
[モニターのカラーカスタマイズ]	A-B: 0、G-M: 0
[ファインダーの明るさ]	オート
[ファインダーのカラーカスタマイズ]	A-B: 0、G-M: 0
[表示パネルの明るさ]	オート
[モニターモードの限定]	
[自動表示切り換え]	<input checked="" type="checkbox"/>
[ファインダーのみ]	<input checked="" type="checkbox"/>
[モニターのみ]	<input checked="" type="checkbox"/>
[ファインダー優先]	<input checked="" type="checkbox"/>
[インフォ画面の表示設定]	黒文字
[AF微調節]	
[AF微調節 (する/しない)]	しない
[イメージセンサークリーニング]	
[電源スイッチに連動]	電源OFFで実行
[電子音]	
[電子音設定]	無効
[音量]	2
[音の高さ]	低音

セットアップメニュー項目	初期設定
[タッチ操作]	
[タッチ操作の設定]	有効
[1コマ送り時のフリック操作]	左→右
[HDMI]	
[出力解像度]	オート
[詳細設定]	
[出力レンジ]	オート
[外部記録制御]	しない
[出力ビット数]	8ビット
[N-Log設定]	しない
[ビューアシスト]	しない
[位置情報]	
[半押しタイマー]	有効
[衛星による日時合わせ]	する
[リモコン (WR) 設定]	
[LEDランプの点灯]	する
[リンクモード]	ペアリング
[リモコン (WR) のFnボタンの機能]	設定しない
[機内モード]	無効
[カードなし時リリース]	リリース許可

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

メニュー画面で▶タブを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目		メニュー項目	
削除	157	連続撮影後の再生画像	159
再生フォルダー設定	157	縦位置自動回転	159
再生画面設定	157	スライドショー	160
撮影直後の画像確認	158	レーティング	162
削除後の次再生画像	158		

✓ 関連ページ

「再生メニューの初期設定」(□145)

削除

MENUボタン → 再生メニュー

複数の画像を一括して削除できます。

選択画像削除	選んだ画像を削除します。
日付選択	選択した日付に撮影した画像を一括で削除します。
ALL 全画像削除	[再生フォルダー設定] で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。

再生フォルダー設定

MENUボタン → 再生メニュー

画像の再生時に表示するフォルダーを設定します。

(フォルダーグループ名)	表示されているフォルダーグループ名のフォルダー内の画像を再生します。フォルダーグループ名は静止画撮影メニュー [記録フォルダー設定] の [フォルダーグループ名変更] (165) で変更できます。
全てのフォルダー	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

再生画面設定

MENUボタン → 再生メニュー


撮影時に使用したフォーカスポイントを再生画面の1コマ表示モードで表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示の種類を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセクターの を押すとオン とオフ を切り換えられます。
- ボタンを押すと、設定を完了します。

撮影直後の画像確認

MENUボタン → 再生メニュー




撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。

する	画像モニターを見ながら撮影している場合は画像モニターに、ファインダーを見ながら撮影している場合はファインダーに撮影画像を表示します。
する（画像モニター表示のみ）	画像モニターを見ながら撮影している場合にのみ画像モニターに撮影画像を表示します。モニターモードが【ファインダーのみ】の場合、ファインダーには撮影画像を表示しません。
しない	撮影画像を表示確認するには、  ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENUボタン → 再生メニュー

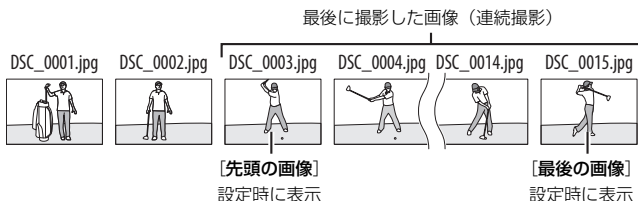
画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

 後ろのコマ	<ul style="list-style-type: none">削除した画像の次に撮影した画像を表示します。最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
 前のコマ	<ul style="list-style-type: none">削除した画像の前に撮影した画像を表示します。最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
 直前コマ送り方向に従う	<ul style="list-style-type: none">直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、【後ろのコマ】と同じ動作になります。直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、【前のコマ】と同じ動作になります。

連続撮影後の再生画像

MENUボタン → 再生メニュー

最後に撮影した画像が連続撮影の場合、画像を再生したときに連続撮影した最初のコマまたは最後のコマのどちらを表示するかを設定できます。再生メニュー「撮影直後の画像確認」(158)が「しない」に設定されている場合のみ有効です。



縦位置自動回転

MENUボタン → 再生メニュー

「する」に設定すると、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示します。


✔ 縦位置自動回転についてのご注意

「縦位置自動回転」を「する」に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

スライドショー

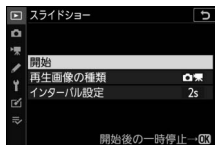
MENUボタン → 再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。[再生フォルダー設定] (□157) で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。

開始	スライドショーを開始します。
再生画像の種類	<ul style="list-style-type: none">スライドショーで再生する画像の種類を選べます。[レーティングの選択] を選ぶと、特定のレーティングの画像のみを再生します。再生したいレーティングを選んでマルチセクターの  を押すと、オン <input checked="" type="checkbox"/> とオフ <input type="checkbox"/> を切り換えられます。
インターバル設定	1コマの静止画を表示する時間を設定します。

スライドショーを再生する

[開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。



1コマ進む/戻る	マルチセレクターの ◀ を押すと前の画像が、 ▶ を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える	⏏ を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます。画像情報を「画像のみ」に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する	⏏ ボタンを押すと、スライドショーが一時停止します。 [再開] を選んで OK ボタンを押すと、スライドショーが再開します。
動画再生中に音量を調節する	🔊 ボタンを押すと音量が大きくなり、 🔇 (?) ボタンを押すと小さくなります。
再生メニューに戻る	MENU ボタンを押すと、スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶ ボタンを押すと、スライドショーを中止して、1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードに戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、メニューが表示されます。**[再開]** を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが再開します。**[終了]** を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが終了します。



レーティング

MENUボタン → 再生メニュー

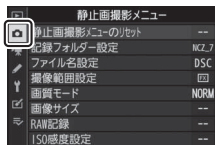
画像にレーティングを設定できます。

- マルチセクターの \leftarrow \rightarrow でレーティングを設定したい画像を選びます。
- \leftarrow \rightarrow を押して★5～★1、なし、 \times （削除候補）から選びます。
- \leftarrow ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- \odot ボタンを押して決定します。



📷 静止画撮影メニュー： 静止画撮影で使える便利な機能

メニュー画面で📷タブを選ぶと、静止画撮影メニューが表示されます。



静止画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目		メニュー項目	
静止画撮影メニューのリセット	164	自動ゆがみ補正	187
記録フォルダー設定	165	フリッカー低減撮影	188
ファイル名設定	168	測光モード	189
撮像範囲設定	169	フラッシュ発光	190
画質モード	169	フラッシュモード	192
画像サイズ	170	フラッシュ調光補正	192
RAW記録	172	フォーカスモード	193
ISO感度設定	173	AFエリアモード	193
ホワイトバランス	174	手ブレ補正	193
ピクチャーコントロール	179	オートブラケットिंग	194
カスタムピクチャーコントロール	181	多重露出	205
色空間	184	HDR (ハイダイナミックレンジ)	212
アクティブD-ライティング	184	インターバルタイマー撮影	217
長秒時ノイズ低減	185	タイムラプス動画	226
高感度ノイズ低減	186	フォーカスシフト撮影	234
ヴィネットコントロール	186	サイレント撮影	241
回折補正	187		

📌 関連ページ

「静止画撮影メニューの初期設定」(📖145)

静止画撮影メニューのリセット

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

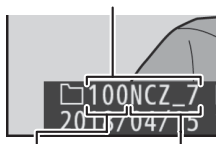
静止画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。

記録フォルダー設定

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

撮影した画像を保存するフォルダーについての設定を行います。

フォルダー名




フォルダー
番号

フォルダー
グループ名




フォルダーグループ名変更

このカメラのフォルダーには、末尾に「NCZ_7」（Z 6は「NCZ_6」）というフォルダーグループ名が付きます。[フォルダーグループ名変更]では、新規フォルダーを作成する場合の「NCZ_7」または「NCZ_6」の5文字を任意に変更できます。

- 既存のフォルダー名は変更できません。
- 文字入力画面で  ボタンを長押しすると、フォルダーグループ名を初期設定に戻せます。

✓ 入力画面の操作方法について

ファイル名設定や画像コメントなど、文字を入力するときに表示される画面での操作方は次の通りです。

- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、キーボードエリアで文字をタッチしてください。マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、 ボタンを押しても入力できます。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、入力エリアをタッチするかメインコマンドダイヤルを回します。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除するには、削除する文字の上にカーソルを移動させ、 ボタンを押します。
- 内容を確認し、文字入力を終了する場合は、 ボタンを押します。
- 文字の入力をキャンセルするには、MENUボタンを押します。

入力エリア




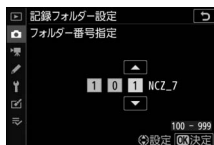
キーボードエリア

フォルダー番号指定





画像を保存するフォルダーを、フォルダー番号を指定して変更します。指定したフォルダーが存在しない場合、新規フォルダーを作成します。

1 [フォルダー番号指定] を選ぶ






[フォルダー番号指定] を選んでマルチセクターの  を押すと、[フォルダー番号指定] 画面が表示されます。






2 フォルダー番号の桁を選び、番号を変更する

-   を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。
-   を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

3 フォルダー番号を設定する


- 既存のフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク (□、、) が表示されます。□または  が表示されたフォルダーを選んで  ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定してメニューに戻ります。
- 既存のフォルダー番号以外の数値を入力して  ボタンを押すと、入力したフォルダー番号で新規フォルダーを作成します。
- 次に撮影する画像は、指定したフォルダーまたは作成した新規フォルダーに保存されます。
- キャンセルしたい場合は、**MENU** ボタンを押してください。

フォルダーマークについて

[フォルダー番号指定] 画面では、画像の入っていないフォルダーのときは □、フォルダー内のファイル数が5000個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは 、その他のフォルダーのときは  のフォルダーマークが表示されます。  が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。



既存フォルダーから選択

既存のフォルダーの一覧から選びます。


- 1 **「既存フォルダーから選択」を選ぶ**
「既存フォルダーから選択」を選んでマルチセクターの  を押すと、「既存フォルダーから選択」画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

  を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

-  ボタンを押すと、設定が有効になりメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存されます。

✓ フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

- フォルダー番号が 999 になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
 - フォルダー内のファイル数が5000個に達したとき（動画モード時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が5000個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
 - ファイル番号が 9999 に達したとき（動画モード時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が9999を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
- ただし次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影が続けられます。
 - フォルダー番号が999未満のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合
 - 動画モード時、動画撮影メニュー「画像サイズ/フレームレート」および「動画の画質」の設定を変更した場合

- ✓ 多数のフォルダーや画像が記録されたメモリーカードを使用する場合
メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。[ファイル名設定]では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(P165)をご覧ください。






✓ ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：RAWの場合
 - TIF：TIFF（RGB）の場合
 - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：MOV形式の動画の場合
 - MP4：MP4形式の動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 静止画撮影メニュー [色空間] で [Adobe RGB] を選んだ場合は _DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

撮像範囲設定


MENUボタン →  静止画撮影メニュー

このカメラで設定できる撮像範囲は次の通りです。

 FX (36×24)	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマットで画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
 DX (24×16)	DXフォーマットで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。
 5:4 (30×24)	アスペクト比（縦横比）が5：4の画像を記録します。Z7のみ選べます。
 1:1 (24×24)	アスペクト比（縦横比）が1：1の画像を記録します。
 16:9 (36×20)	アスペクト比（縦横比）が16：9の画像を記録します。

画質モード

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画質モードを設定できます。画質モードの詳細い説明については、「メニューを使う」の「画質モード」(☑105)をご覧ください。

画像サイズ

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画像サイズ（大きさ）を設定できます。[JPEG/TIFF] ではJPEGまたはTIFFの画像サイズ、[RAW] ではRAWの画像サイズを設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります。

Z7:

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合)※
FX (36×24)	L (8256×5504ピクセル)	約69.9×46.6 cm
	M (6192×4128ピクセル)	約52.4×35.0 cm
	S (4128×2752ピクセル)	約35.0×23.3 cm
DX (24×16)	L (5408×3600ピクセル)	約45.8×30.5 cm
	M (4048×2696ピクセル)	約34.3×22.8 cm
	S (2704×1800ピクセル)	約22.9×15.2 cm
5:4 (30×24)	L (6880×5504ピクセル)	約58.3×46.6 cm
	M (5152×4120ピクセル)	約43.6×34.9 cm
	S (3440×2752ピクセル)	約29.1×23.3 cm
1:1 (24×24)	L (5504×5504ピクセル)	約46.6×46.6 cm
	M (4128×4128ピクセル)	約35.0×35.0 cm
	S (2752×2752ピクセル)	約23.3×23.3 cm
16:9 (36×20)	L (8256×4640ピクセル)	約69.9×39.3 cm
	M (6192×3480ピクセル)	約52.4×29.5 cm
	S (4128×2320ピクセル)	約35.0×19.6 cm

※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

Z6:

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
FX (36×24)	L (6048×4024ピクセル)	約51.2×34.1cm
	M (4528×3016ピクセル)	約38.3×25.5cm
	S (3024×2016ピクセル)	約25.6×17.1cm
DX (24×16)	L (3936×2624ピクセル)	約33.3×22.2cm
	M (2944×1968ピクセル)	約24.9×16.7cm
	S (1968×1312ピクセル)	約16.7×11.1cm
1:1 (24×24)	L (4016×4016ピクセル)	約34.0×34.0cm
	M (3008×3008ピクセル)	約25.5×25.5cm
	S (2000×2000ピクセル)	約16.9×16.9cm
16:9 (36×20)	L (6048×3400ピクセル)	約51.2×28.8cm
	M (4528×2544ピクセル)	約38.3×21.5cm
	S (3024×1696ピクセル)	約25.6×14.4cm



※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

RAW記録

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

RAW画像を記録するときの圧縮方式および記録ビットモードを設定できます。

圧縮方式

ON  ロスレス 圧縮RAW	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。[非圧縮RAW]に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は[非圧縮RAW]と同等の画質になります。
ON  圧縮RAW	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。[非圧縮RAW]に対してファイルサイズが約45～65%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は[非圧縮RAW]とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮しないため、[ロスレス圧縮RAW]や[圧縮RAW]に比べ、ファイルサイズが大きくなります。





記録ビットモード

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録]の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは[12ビット記録]よりも大きくなります。

ISO感度設定

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

静止画撮影時のISO感度に関する設定ができます。

ISO感度	ISO 64～25600 (Z 6はISO 100～51200) から設定できます。また、ISO 64 (Z 6はISO 100) から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 25600 (Z 6はISO 51200) から約0.3段～約2段の範囲での増感ができます。撮影モードが  の場合、ISO-A (AUTO) も選べます。
感度自動制御	<p>[する] を選んで  ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。[しない] を選ぶと、[ISO感度] で設定したISO感度に固定されます。[する] を選んだ場合、次の項目をそれぞれ設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• [制御上限感度] : ISO感度が高くなりすぎないように制御上限感度を設定します。•  使用時の制御上限感度 : 別売スピードライトを使用した場合の上限感度を設定します。• [低速限界設定] : 撮影モードPまたはAのときの感度自動制御が働き始めるシャッタースピード (1/4000～30秒) を設定できます。また、[オート] に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します。例えば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。<ul style="list-style-type: none">- [オート] を選んで  を押すと、補正值の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するとき、より高速側または低速側になるように調整できます。高速で移動する被写体を撮影する場合は、補正值を高速側に設定するとブレを軽減できます。- ISO感度を [制御上限感度] まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

ホワイトバランス

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します。ホワイトバランスの詳しい説明については、「カメラの基本機能と設定」の「ホワイトバランス」(□63) および「iメニューを使う」の「ホワイトバランス」(□99) をご覧ください。



メニューからホワイトバランスを微調整する

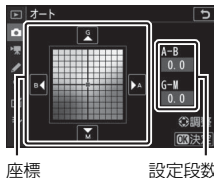
1 静止画撮影メニュー [ホワイトバランス] で、設定したいホワイトバランスを選び、微調整画面が表示されるまで を押す

- [プリセットマニュアル] での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」(□178) をご覧ください。



2 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、A (アンバー)、B (ブルー)、G (グリーン)、M (マゼンタ) の4方向で、設定段数を各方向6段階まで微調整できます。
- A (アンバー)、B (ブルー) 方向は、色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向は、色補正用 (CC) フィルターと同じような微調整を0.25段単位で行えます。1段は濃度約0.05に相当します。



3 微調整値を決定する

- OKボタンを押して微調整値を決定すると、メニューに戻ります。
- ホワイトバランスを微調整すると、アイコンにアスタリスク（*）が表示されます。



✓ ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを☀（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

✓ ミレッド（MIREDD）について

色温度の逆数を百万（ 10^6 ）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例) 色温度の差 (K : ケルビン) : ミレッドの差 (M : ミレッド)

4000K - 3000K = 1000K : 83 M





7000K - 6000K = 1000K : 24 M

メニューの色温度設定で色温度を指定する

A (アンバー) およびB (ブルー) 方向とG (グリーン) およびM (マゼンタ) 方向の両方の色温度を設定できます。

1 静止画撮影メニュー [ホワイトバランス] で、[色温度設定] を選んでマルチセレクターの を押す

2 色温度を設定する

-   を押してA (アンバー) およびB (ブルー) 方向の色温度の桁を選びます。また、G (グリーン) およびM (マゼンタ) 方向の色温度にカーソルを移動できます。
-   を押して数値を設定します。




A (アンバー) および
B (ブルー) 方向の色温度




G (グリーン) および
M (マゼンタ) 方向の色温度

3 色温度を決定する

-  ボタンを押して色温度を決定すると、メニューに戻ります。
- G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の色温度を0以外に設定すると、アイコンにアスタリスク (*) が表示されます。




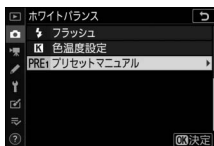
✓ 色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯のときは、色温度設定を使わず、 (蛍光灯) に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。


撮影済み画像のホワイトバランスデータを プリセットマニュアルデータとしてコピーする

撮影済みの画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとして使用できます。プリセットマニュアルデータを新規に取得する方法については「基準となる白を取得して設定（プリセットマニュアル）」（□102）をご覧ください。

- 1 静止画撮影メニュー【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選んでマルチセクターの  を押す




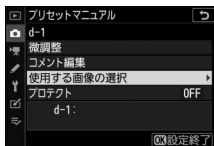
- 2 コピー先を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動して d-1～d-6の中からコピー先を選びます。
-  ボタンを押すと設定画面が表示されます。




- 3 【使用する画像の選択】を選ぶ

- 【使用する画像の選択】を選んで  を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。



- 4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、 ボタンを押している間、拡大して確認できます。



5 ホワイトバランスデータをコピーする

- **OK** ボタンを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメントがある場合、画像コメントもコピーされます。

✔ プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で **【微調整】** を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます (□174)。



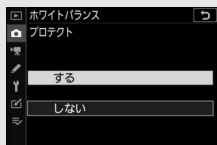
✔ プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で **【コメント編集】** を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント (最大36文字) を入力できます。



✔ プリセットマニュアルデータを保護する (プロテクト)

設定画面で **【プロテクト】** を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト (保護) を設定できます。プロテクトの設定画面で **【する】** を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータは微調整やコメント編集ができなくなります。



ピクチャーコントロール

MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。ピクチャーコントロールの詳しい説明については、「iメニューを使う」の「ピクチャーコントロール」（□95）を合わせてご覧ください。

メニューからピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールの設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

ピクチャーコントロールの一覧画面で、マルチセレクターの👉を押します。



2 ピクチャーコントロールを調整する

- で調整する項目（□98）を選びます。●●を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- 設定できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- [クイックシャープ] を選んで●●を押すと、[輪郭強調]、[ミドルレンジシャープ]、[明瞭度] のレベルをバランスよく調整します。
- 👉ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

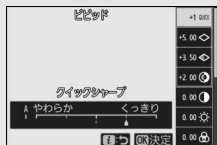


3 設定する

- ボタンを押して設定します。

✓ iメニューから調整する

- iメニューで [ピクチャーコントロール] を選んで [OK] ボタンを押すとピクチャーコントロールを選べます。
- [左] [右] でピクチャーコントロールを選び、[上] を押すと調整画面が表示されます。色味を確認しながら調整できます。



✓ [カスタムピクチャーコントロール] について

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで [カスタムピクチャーコントロール] を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり、メモリーカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用することができます。

カスタムピクチャーコントロール


MENUボタン → 静止画撮影メニュー

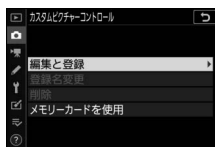
「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

編集と登録	カスタムピクチャーコントロールを登録または編集します。
登録名変更	登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更します。
削除	登録したカスタムピクチャーコントロールを削除します。
メモリーカードを使用	登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードに保存したり、メモリーカードに保存したカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。



カスタムピクチャーコントロールの登録方法

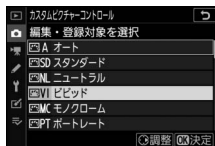
1 [編集と登録] を選ぶ

- [編集と登録] を選んで  を押すと、[編集・登録対象を選択] 画面が表示されます。



2 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで  を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は  ボタンを押します。[登録先の選択] 画面が表示されます (手順4へ)。



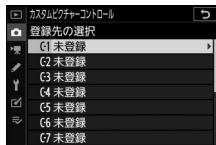
3 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は [ピクチャーコントロール] と同じです。
- **OK** ボタンを押すと [登録先の選択] 画面が表示されます。
- **戻る** ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



4 登録先を選ぶ

- C-1～9 (カスタム1～9) の中から登録先を選びます。



5 登録名を編集する

- 登録先を選んで **OK** を押すと、[登録名変更] 画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名) -XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 文字種変更アイコンをタッチすると、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。
- 文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(□165) をご覧ください。

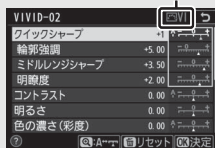


キーボード 文字種変更
エリア

✔ 元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ピクチャーコントロール

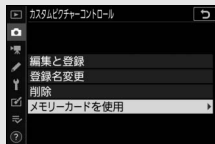


✔ カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

✔ カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールについて

[カスタムピクチャーコントロール]の[メモリーカードを使用]を使うと、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。また、メモリーカード内のカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録したり、削除したりできます。



- **[カメラに登録]**：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録（インポート）できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。
- **[メモリーカードから削除]**：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。
- **[メモリーカードにコピー]**：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピー（エクスポート）できます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んでⓧボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。

色空間

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB] 色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB] 色空間は [sRGB] 色空間に比べて色域が広いいため、商業印刷などの業務用途に適しています。

色空間についてのご注意


他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、このカメラで設定した色空間と異なる設定の色空間に置き換えられることがあります。NX Studioをお使いになると、このカメラで設定した色空間で画像を開くことができます。

Adobe RGB色空間について

適切な色再現には、カラーマネジメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

アクティブD-ライティング

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。アクティブD-ライティングの詳細な説明については、「 メニューを使う」の「アクティブD-ライティング」(□110) をご覧ください。

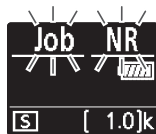
長秒時ノイズ低減

MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルに**Job NR**が点滅し、撮影画面に「ノイズ低減処理中」と表示されます。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



✔ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

高感度ノイズ低減

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

静止画撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。ノイズ低減の効果は、強い順に [強め]、[標準]、[弱め] になります。
標準	
弱め	
しない	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は [弱め] に設定したときよりもさらに弱くなります。

ヴィネットコントロール

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。

<input type="checkbox"/> H 強め	
<input type="checkbox"/> N 標準	効果が強い順に、[強め]、[標準]、[弱め] になります。
<input type="checkbox"/> L 弱め	
しない	周辺光量の低下を補正しません。

ヴィネットコントロールについてのご注意

TIFFおよびJPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選ぶことをおすすめします。

回折補正

MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

[する] にすると、レンズの絞りを絞り込んだときに画像の解像感が低下する、回折現象を補正します。

自動ゆがみ補正

MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

[する] にすると、カメラが必要だと判断した場合に、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。装着しているレンズによっては設定が [する] に固定され、メニューはグレーで表示されて選べません。

フリッカー低減撮影

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

[する] にすると、蛍光灯や水銀灯などの光源下で発生する、照明の明滅による明るさのちらつき（フリッカー現象）の影響を低減できます。

- フリッカー現象が発生している場合、撮影した画像の一部に露出ムラが生じたり、連続撮影時に露出や色みにばらつきが生じることがあります。
- [する] に設定した場合、連続撮影時に撮影速度が遅くなったり、撮影間隔が一定ではなくなることがあります。

✓ 静止画撮影メニュー [フリッカー低減撮影] について

- フリッカー低減機能を使うと、光源によってシャッターのきれるタイミングが少し遅れることがあります。
- 電源周波数が50Hzの場合は100Hzの点滅周期を、また電源周波数が60Hzの場合は120Hzの点滅周期を検出します。連続撮影中に光源の点滅周期が変化した場合、フリッカーの影響は低減できません。
- 背景が暗い場合や輝度が高い光源が含まれる場合など光源や撮影条件によっては、フリッカーが検出できなかったり、フリッカー低減の効果が得られないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカー低減機能の効果が得られないことがあります。


✓ 静止画撮影メニュー [フリッカー低減撮影] の制限について

次の場合など、静止画撮影メニュー [フリッカー低減撮影] が無効になります。

- レリーズモードが [高速連続撮影 (拡張)] の場合
- 静止画撮影メニュー [サイレント撮影] が [する] の場合
- HDR (ハイダイナミックレンジ) 撮影時
- 露出ディレーモードが有効の場合
- シャッタースピードが1/100秒より低速の場合や、**Bulb** (バルブ) または**Time** (タイム) の場合

測光モード

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

カメラが被写体の明るさを測るための測光モードを選べます。測光モードの詳しい説明については、「 メニューを使う」の「測光モード」(□108) をご覧ください。

フラッシュ発光

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

別売のスピードライトを取り付けた場合の発光モードを設定したり、ワイヤレス増灯撮影時の設定を行います。

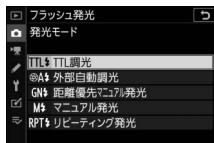
- 別売スピードライトをカメラに取り付けた場合の撮影については「スピードライトをカメラに装着して撮影する」(□364)を合わせてご覧ください。
- 別売スピードライトをワイヤレスで制御した場合の撮影については「複数のスピードライトをワイヤレスで制御する」(□377)を合わせてご覧ください。



発光モード

SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合のスピードライトの発光モードや補正量などを設定できます。

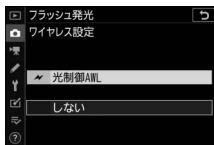
- 選んだ項目によって [発光モード] の下に表示されるメニュー項目が変更されます。
- SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。
- SB-5000はスピードライト本体でも設定できます。






TTL調光	スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
外部自動調光	スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。
距離優先 マニュアル発光	スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。
マニュアル発光	指定した発光量でスピードライトが発光します。
リピーティング 発光	1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

ワイヤレス設定

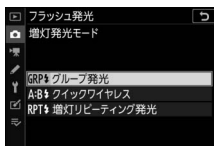
複数のスピードライトを同時に発光させて撮影（ワイヤレス増灯撮影）する場合には、制御方法を選びます。カメラにSB-5000、SB-500、またはWR-R10を装着したときのみ表示されます。



 光制御AWL	マスターフラッシュの微小発光で、リモートフラッシュを制御します (□390)。
 光制御/ 電波制御AWL	光で制御するリモートフラッシュと、電波で制御するリモートフラッシュを併用してフラッシュ撮影を行います (□399)。
 電波制御AWL	カメラに装着したWR-R10を使用して、電波によってリモートフラッシュを制御します (□379)。
しない	リモートフラッシュの制御を行いません。

増灯発光モード

フラッシュの増灯発光モードを設定できます。選んだ項目によって [増灯発光モード] の下に表示されるメニュー項目が変更され、それぞれの増灯発光モードでの設定が変更できます。



グループ発光	グループごとに発光モードを設定できます (□383、391)。
クイックワイヤレス	リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します (□385、394)。
増灯リピーティング発光	1回の露光中に、増灯したスピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます (□387、396)。

電波リモートフラッシュ情報

電波制御で接続されているスピードライトの情報を表示します。



フラッシュモード

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

別売スピードライトを、カメラに装着またはワイヤレスで制御する場合のフラッシュモードを設定できます。フラッシュモードの詳しい説明については、「スピードライトをカメラに装着して撮影する」の「フラッシュモードを設定する」(□369)をご覧ください。

フラッシュ調光補正

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

別売スピードライトの発光量を意図的に変えて、背景に対する被写体の明るさを調整できます。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにできます(□371)。

フォーカスモード

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

ピントの合わせ方を選べます。フォーカスモードの詳しい説明については、「カメラの基本機能と設定」にある「ピント合わせの設定」の「フォーカスモード」(□50)をご覧ください。


AFエリアモード

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

オートフォーカス使用時に、フォーカスポイントをどのように選択するか設定できます。AFエリアモードの詳しい説明については、「カメラの基本機能と設定」にある「ピント合わせの設定」の「AFエリアモード」(□52)をご覧ください。

手ブレ補正

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。手ブレ補正の詳しい説明については、「メニューを使う」の「手ブレ補正」(□112)をご覧ください。

オートブラケティング

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

オートブラケティングのセット	オートブラケティングの種類を設定できます。 <ul style="list-style-type: none">• AE・フラッシュブラケティング：露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。• AEブラケティング：露出値（AE）を変えながら撮影します。• フラッシュブラケティング：フラッシュの発光量を変えながら撮影します。• WBブラケティング：ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。• ADLブラケティング：アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。
コマ数	オートブラケティングで撮影するコマ数を設定できます。
補正ステップ	[オートブラケティングのセット] が [ADLブラケティング] 以外の場合、ブラケティングの変化の度合いを設定できます。
効果の度合い	[オートブラケティングのセット] が [ADLブラケティング] の場合、アクティブD-ライティングの効果の度合いを設定できます。

AEブラケットिंग、フラッシュブラケットिंगの撮影方法



補正なし



-1段補正





+1段補正

1 [オートブラケットिंगのセット] で [AE・フラッシュブラケットिंग]、[AEブラケットिंग] または [フラッシュブラケットिंग] を選ぶ

設定項目として [コマ数] と [補正ステップ] が表示されます。

2 撮影コマ数を設定する



- [コマ数] を選んでマルチセレクターの   を押すと、撮影コマ数を設定できます。



- [0F] 以外に設定すると、撮影画面にアイコンが表示されます。



3 補正ステップを設定する

- [補正ステップ] を選んで   を押すと、補正ステップを設定できます。
- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3 (1/3段)、0.7 (2/3段)、1.0 (1段)、2.0 (2段)、3.0 (3段) から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順2で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。



[コマ数]	オートブラケットングインジケータ	撮影コマ数	撮影順序
0F	-.....0.....+	0	0
+3F	-.....0:.....+	3	0/+0.3/+0.7
-3F	-.....:0.....+	3	0/-0.7/-0.3
+2F	-.....0:.....+	2	0/+0.3
-2F	-.....:0.....+	2	0/-0.3
3F	-.....0:.....+	3	0/-0.3/+0.3
5F	-.....:0.....+	5	0/-0.7/-0.3/+0.3/+0.7
7F	-.....:0:.....+	7	0/-1.0/-0.7/-0.3/+0.3/+0.7/+1.0
9F	-.....:0:.....+	9	0/-1.3/-1.0/-0.7/-0.3/+0.3/+0.7/+1.0/+1.3

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 撮影画面に、オートブラケティングのアイコンと残りの撮影コマ数、オートブラケティングインジケータが表示されます。撮影するたびに残りのコマ数表示が減少し、オートブラケティングインジケータ上からもコマ数を示す表示が消えます。



撮影コマ数 : 3

補正ステップ : 0.7



1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

■■ AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

[コマ数] を [0F] に設定してください。

✓ AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

[AE・フラッシュブラケティング] では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは [AEブラケティング] を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは [フラッシュブラケティング] を選びます。フラッシュブラケティングはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光 (⊗A) 時 (別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ) に使用できます (□366、426)。

✓ AE・フラッシュブレイクティング、AEブレイクティング、フラッシュブレイクティング撮影について

- レリーズモードを連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

✓ AEブレイクティング

AEブレイクティングでは、撮影モードによって補正される内容(シャッタースピード、絞り値)が異なります。

撮影モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2、3

※1 静止画撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] が [する] のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると自動的にISO感度が変化します。

※2 静止画撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] が [する] のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブレイクティングでシャッタースピードを変化させます。



※3 カスタムメニュー e6 [BKT変化要素 (Mモード)] により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみに変更できます。

WBブラケットिंगの撮影方法

1 [オートブラケットिंगのセット] で [WBブラケットिंग] を選ぶ



設定項目として [コマ数] と [補正ステップ] が表示されます。

2 撮影コマ数を設定する

- [コマ数] を選んでマルチセレクターの   を押すと、撮影コマ数を設定できます。
- [0F] 以外に設定すると、撮影画面にアイコンが表示されます。



3 補正ステップを設定する

- [補正ステップ] を選んで   を押すと、補正ステップを設定できます。
- 補正ステップは、1 (1段)、2 (2段)、3 (3段) から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。



[コマ数]	WB ブラケティング インジケータ	撮影 コマ数	補正 ステップ	撮影順序
0F	+.....0.....+	0	1段	0
B3F	+.....0.....+	3	B方向1段	0/B1/B2
A3F	+.....0.....+	3	A方向1段	0/A2/A1
B2F	+.....0.....+	2	B方向1段	0/B1
A2F	+.....0.....+	2	A方向1段	0/A1
3F	+.....0.....+	3	各方向1段	0/A1/B1
5F	+.....0.....+	5	各方向1段	0/A2/A1/B1/B2
7F	+.....0.....+	7	各方向1段	0/A3/A2/A1/ B1/B2/B3
9F	+.....0.....+	9	各方向1段	0/A4/A3/A2/A1/ B1/B2/B3/B4

4 撮影する



- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケティングの補正ステップが加算されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、シャッターがきれません。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。

■ WBブラケティング撮影をやめるには

[コマ数] を [0F] に設定してください。

✓ WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

✓ WBブラケティング撮影について

- WBブラケティングでは、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc2 [セルフタイマー] の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□199の手順2で設定した撮影コマ数が全て記録されます。

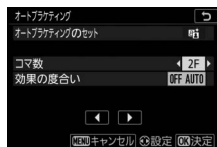
ADLブラケットिंगの撮影方法

1 [オートブラケットिंगのセット] で [ADLブラケットिंग] を選ぶ

設定項目として [コマ数] と [効果の度合い] が表示されます。

2 撮影コマ数を設定する

- [コマ数] を選んでマルチセクターの◀▶を押すと、撮影コマ数を設定できます。



- [OF] 以外に設定すると、撮影画面にアイコンが表示されます。



- 設定した撮影コマ数により、ブラケットिंगの内容が次のように異なります。

撮影コマ数	ブラケットिंगの内容
2コマ	[しない] → (手順3で設定するアクティブD-ライティングの度合い)
3コマ	[しない] → [弱め] → [標準]
4コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め]
5コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] → [より強め]

- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順4に進んでください。

3 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- [効果の度合い] を選んで \odot を押し、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。
- アクティブD-ライティングの度合いは、次のようになります。

[効果の度合い]	ブラケットिंगの内容
OFF L	[しない] → [弱め]
OFF N	[しない] → [標準]
OFF H	[しない] → [強め]
OFF H+	[しない] → [より強め]
OFF AUTO	[しない] → [オート]

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 撮影画面に、ADLブラケットिंगのアイコンと残りの撮影コマ数が表示されます。撮影するたびに残りのコマ数表示が減少します。



■■ ADLブラケットिंग撮影をやめるには

[コマ数] を [0F] に設定してください。


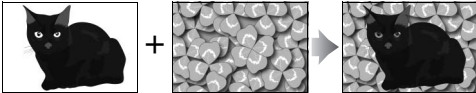
✓ ADLブラケット撮影について

- リリースモードを連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

多重露出

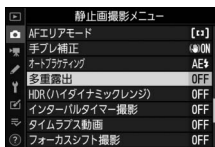
MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

2~10コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。




多重露出モード	<ul style="list-style-type: none">• する (連続) : 解除するまで連続して多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度 [多重露出モード] を選んで [しない] に設定してください。• する (1回) : 多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。• しない : 多重露出撮影を解除します。
コマ数	コマ数 (露光回数) を設定します。
合成モード	<ul style="list-style-type: none">• 加算 : 全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。• 加算平均 : 重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン (出力) を補正します。各コマのゲインは、「1 ÷ 露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。• 比較明合成 : 撮影した各画像を比較し、最も明るい部分を選択して合成します。 • 比較暗合成 : 撮影した各画像を比較し、最も暗い部分を選択して合成します。 
全画像の保存	<ul style="list-style-type: none">• する : 多重露出で撮影した全てのコマを静止画として保存します。• しない : 合成した画像のみ保存します。
確認撮影	[する] に設定すると、これまでに撮影したコマを合成して撮影画面に半透明で表示します。
1コマ目の画像 (RAW) の指定	メモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選ぶことができます。

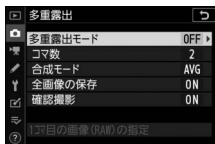
多重露出の撮影方法

- ## 1 静止画撮影メニュー [多重露出] を選んでマルチセクターの を押す






- ## 2 [多重露出モード] を設定する

- [多重露出モード] を選んで、 を押します。
-  を押して多重露出モードを設定し、 ボタンを押します。
- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、撮影画面にアイコンが表示されます。






- ## 3 [コマ数] (露光回数) を設定する

- [コマ数] を選んで、 を押します。
-  を押して露光回数を設定し、 ボタンを押します。







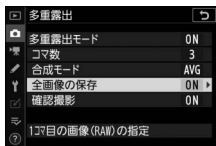
- ## 4 [合成モード] を設定する

- [合成モード] を選んで、 を押します。
-  を押して項目を選び、 ボタンを押します。







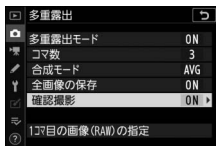
5 [全画像の保存] を設定する

- [全画像の保存] を選んで、を押します。
-  を押して項目を選び、 ボタンを押します。
- [する] を選ぶと、多重露出で撮影した各コマの画像と合成後の画像を保存します。[しない] を選ぶと、合成後の画像のみを保存します。






6 [確認撮影] を設定する

- [確認撮影] を選んで、を押します。
-  を押して項目を選び、 ボタンを押します。
- [する] を選ぶと、これまでに撮影したコマを合成して撮影画面に半透明で表示します。前のコマと構図を合わせやすくなります。



7 [1コマ目の画像 (RAW) の指定] を設定する

- 撮影済みの画像に重ねて写し込みたい場合は、[1コマ目の画像 (RAW) の指定] を選んでを押し、メモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選びます。
- 静止画撮影メニュー [画像サイズ] の [RAW] を [サイズL] に設定して撮影したRAW画像のみ使用できます。
- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、 ボタンを押している間、拡大して確認できます。
- 画像を選択したら、 ボタンを押します。



8 撮影を開始する

- 設定したコマ数を撮影してください。
手順7の **[1コマ目の画像 (RAW) の指定]** でメモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選んだ場合は、2コマ目以降を撮影します。
- 設定したコマ数を撮影すると、合成画像を作成して保存します。
- **[する (連続)]** の場合、**[多重露出モード]** で **[しない]** を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。
- 多重露出モードが **[する (1回)]** の場合、手順3で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除されます。

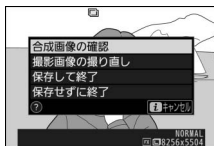
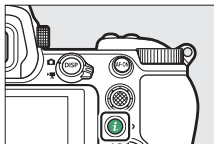


✓ 保存された合成画像について

画質モードをRAWに設定して撮影した場合、画質モード **[FINE★]** のJPEG画像が保存されます。

iメニューを使う

多重露出撮影中に▶ボタンを押してから*i*ボタンを押すと、次のメニューが表示されます。項目を選んでOKボタンを押すと、選んだ項目が実行されます。



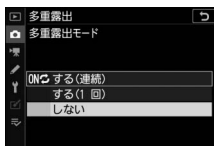
合成画像の確認	それまでに撮影したコマで合成画像を作成してプレビューします。
撮影画像の撮り直し	最後に撮影したコマを撮影し直せます。
保存して終了	それまでに撮影したコマで合成画像を作成し、保存して多重露出撮影を終了します。
保存せずに終了	合成画像を保存しないで多重露出撮影を終了します。[全画像の保存]が[する]の場合は、撮影した画像を合成せずに1コマずつ保存します。

✔ 多重露出撮影時のご注意

- 多重露出の撮影途中で画像を再生したりメニューを表示して、操作をしないまま40秒程度（メニュー表示時は90秒程度）経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニューc3 [パワーオフ時間] の [画像の再生] または [メニュー表示] を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出で撮影する場合、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。
- レリーズモードを連続撮影に設定した場合、多重露出モードが [する (1回)] のときは、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。[する (連続)] のときは、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返し行えます。
- セルフタイマー撮影時には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc2 [セルフタイマー] の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c2の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出撮影中にカメラの設定を変更すると、多重露出撮影が終了する場合があります。
- 多重露出の撮影設定および撮影データは1コマ目の内容になります。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- 多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

■ 多重露出撮影を終了するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を終了するには、多重露出モードを[しない]に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（[合成モード]を[加算平均]に設定していた場合は、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。



このほか、次の場合も、多重露出は終了されます。

- 1コマ目撮影後に半押しタイマーがオフになったとき
- 多重露出撮影中に▶ボタンを押してからiボタンを押し、[保存して終了] または [保存せずに終了] を選んだとき

HDR (ハイダイナミックレンジ)

MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。



露出暗めで撮影
した画像

+



露出明るめで撮影
した画像

➡



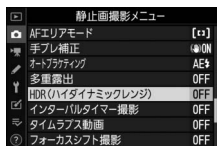
HDRモードで合成
された画像

HDRモード	<ul style="list-style-type: none">• する (連続) : 解除するまで連続して HDR 撮影します。HDR モードを解除するには、もう一度 [HDRモード] を選んで [しない] に設定してください。• する (1回) : 1回撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。• しない : HDRモードを解除します。
露出差	合成する2コマの露出差を設定できます。露出差が大きいくほど、階調の幅が広がります。 [オート] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に露出差を設定します。
スムージング	合成する2コマの境界のなめらかさを設定できます。
合成前の画像を保存 (RAW)	[する] に設定すると、合成する2コマの画像をそれぞれRAW形式で保存します。RAW画像は静止画撮影メニュー [画像サイズ] の [RAW] の設定にかかわらず、 [サイズL] で保存されます。


HDRの撮影方法

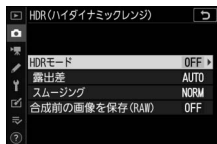
HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします。




1 静止画撮影メニュー [HDR (ハイダイナミックレンジ)] を選んでマルチセレクターの を押す

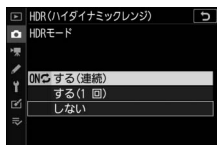



2 [HDRモード] を設定する

- [HDRモード] を選んで  を押します。



-   を押してHDRモードを設定し、 ボタンを押します。




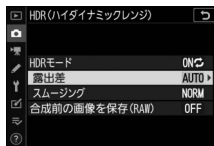
ON  する (連続)	解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度 [HDRモード] を選んで [しない] を選んでください。
する (1回)	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。




- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、撮影画面にアイコンが表示されます。

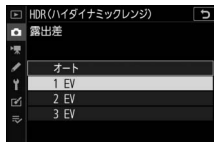


3 [露出差] を設定する


- [露出差] を選んで  を押します。

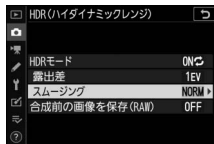





-   を押して露出差を設定し、 ボタンを押します。
- 露出差を大きく設定するほど、輝度範囲のより広い被写体に対応できます。
- 被写体の輝度範囲に適した露出差以上に設定すると、不自然な画像になる場合があります。被写体の輝度範囲に合わせて選んでください。
- [オート] に設定すると、シーンに適した露出差が選ばれます。



4 [スムージング] を設定する





- [スムージング] を選んで  を押します。

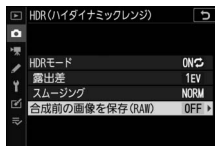


-   を押してスムージング（2枚の画像の境界のなめらかさ）の強さを設定し、 ボタンを押します。
- スムージングを強めに設定するほど、画像がよりのめらかに合成されます。



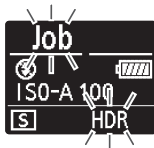
5 [合成前の画像を保存 (RAW)] を設定する

- [合成前の画像を保存 (RAW)] を選んで、を押します。
-  を押して項目を選び、 ボタンを押します。
- [する] を選ぶと、合成する2コマの画像をそれぞれRAW形式で保存します。



6 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれれます。
- 合成処理中は、表示パネルに**Job**と**HDR**が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- [する (連続)] の場合、[HDRモード] で [しない] を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが [する (1回)] の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除されます。



✓ RAWを含む画質モードについて

RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。

✓ HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が多い場合は、正しく合成されない場合があります。撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。[スムージング]の設定で調整できます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央部重点測光またはスポット測光のときに[露出差]を[オート]に設定すると、露出差は[2 EV]相当の度合いに固定されます。
- 別売のスピードライトは発光しません。
- リリースモードを連続撮影に設定した場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**Bulb** (バルブ) または **Time** (タイム) に設定できません。

✓ HDRモードの制限について

次の場合など、HDRモードとは同時に使用できない機能や設定があります。

- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影


インターバルタイマー撮影

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます。インターバルタイマー撮影をするときは、レリーズモードを☺以外に設定してください。

撮影開始	インターバルタイマー撮影を開始します。[開始日時の設定]で[即時]を選んでいる場合は約3秒後に撮影を開始し、[日時指定]を選んでいる場合は設定した日時に撮影を開始します。撮影は、設定した撮影間隔とコマ数で繰り返されます。
開始日時の設定	インターバルタイマー撮影の開始方法を設定します。インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は[即時]を、開始日時を設定する場合は[日時指定]を選びます。
撮影間隔	撮影間隔（時、分、秒）を設定します。
撮影回数×1回のコマ数	撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定します。
露出平滑化	[する]を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。 <ul style="list-style-type: none">• 輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。• 撮影モードMで静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。
サイレント撮影	[する] を選ぶと、シャッター音を出さずに撮影できます。
撮影間隔優先	<ul style="list-style-type: none">• する：撮影モードがPまたはAのときに、露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影します。<ul style="list-style-type: none">- フォーカスモードがAF-Sの場合はカスタムメニューa2 [AF-Sモード時の優先] を、AF-Cの場合はカスタムメニューa1 [AF-Cモード時の優先] を [レリーズ] に設定してください。- 静止画撮影メニュー [ISO感度設定] で [感度自動制御] の [低速限界設定] を、撮影間隔よりも短くなるように設定してください。• しない：撮影間隔よりも露光時間を優先して撮影します。


撮影開始時の記録フォルダー

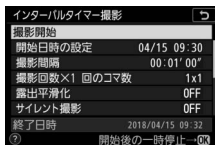
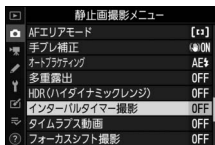
項目を選んでマルチセクターの  を押すと、オン とオフ を切り換えられます。

- **新規フォルダー作成**：インターバルタイマー撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。
- **ファイル番号リセット**：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

インターバルタイマー撮影の撮影方法

1 静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] を選ぶ

- マルチセクターの  を押すと、インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。

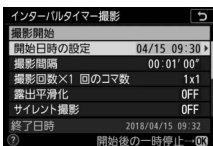


インターバルタイマー撮影を開始する前に

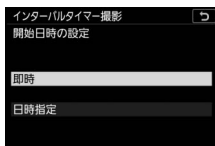
- 試し撮りをするをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニュー [地域と日時] で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。

2 インターバルタイマー撮影の設定をする

• 開始方法を選ぶ



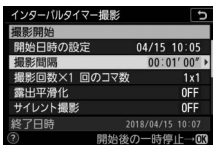
「開始日時の設定」を選んで
▶を押す



開始方法を選んでⓀボタン
を押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、[即時] を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、[日時指定] を選びます。表示される画面で開始日時を設定してⓀボタンを押します。

• 撮影間隔（インターバル）を設定する

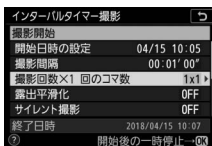


「撮影間隔」を選んで
▶を押す

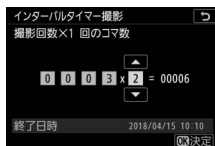


撮影間隔（時、分、秒）を
設定してⓀボタンを押す

• 撮影回数と1回のコマ数を設定する



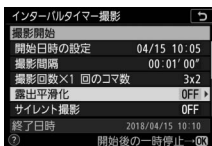
[撮影回数×1回のコマ数]
を選んで▶を押す



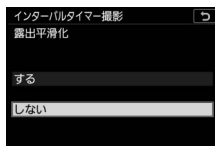
撮影回数と1回で撮影する
コマ数を設定して、Ⓚ
ボタンを押す

- リリースモードが1コマ撮影の場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、カスタムメニューd1 [低速連続撮影速度] で設定された速度で撮影します。
- [サイレント撮影] を [する] に設定した場合、1回のコマ数は1コマに固定されます。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ

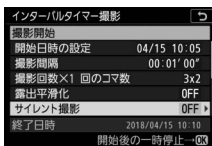


[露出平滑化] を選んで▶
を押す

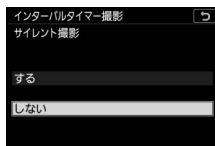


露出平滑化をするかどうか
を選んでⓀボタンを押す

• サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ

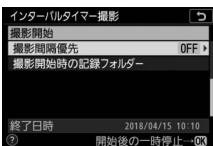


[サイレント撮影] を選んで
▶を押す

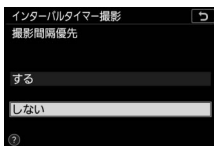


サイレント撮影をするか
どうかを選んでⓀボタンを
押す

- 露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選ぶ

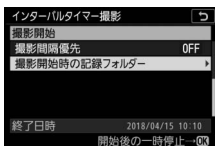


「撮影間隔優先」を選んで
 ⏏️を押す

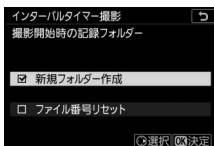


撮影間隔を優先して撮影する
 かどうかを選んで ⏏️ボタン
 を押す

- 撮影開始時の記録フォルダーの設定をする



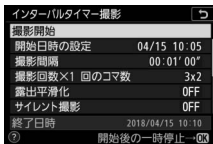
「撮影開始時の記録フォル
 ダー」を選んで ⏏️を押す



各項目の設定をして ⏏️ボタ
 ンを押す

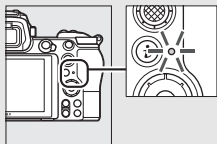
3 「撮影開始」を選んで ⏏️ボタンを押す

- 手順2の「開始日時の設定」で「即時」を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の「開始日時の設定」で「日時指定」を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 撮影中は撮影画面は消灯します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

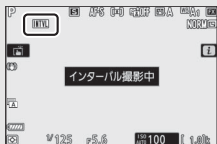


✓ インターバルタイマー撮影の待機状態について

- インターバルタイマー撮影の待機状態では、メモリーカードアクセスランプが点滅します。



- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、撮影画面に [インターバル撮影中] と表示され、**INTVL** アイコンが点滅します。



■■ インターバルタイマー撮影を一時停止するには

インターバルタイマー撮影を一時停止するには、次の操作を行います。

- [開始日時の設定] で [即時] を選んだ場合：撮影待機中に **OK** ボタンを押す
- [開始日時の設定] で [日時指定] を選んだ場合：撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [一時停止] を選び、**OK** ボタンを押す

■■ インターバルタイマー撮影を再開するには

インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

すぐに再開する場合



[再開] を選んで **OK** ボタンを押す

再開する日時を設定する場合



[開始日時の設定] 画面で [日時指定] を選び **OK** を押す



開始日時を設定して **OK** ボタンを押す




[再開] を選んで **OK** ボタンを押す

■■ インターバルタイマー撮影を途中で終了するには

インターバルタイマー撮影を途中で終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [終了] を選び、**OK** ボタンを押します。

✓ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回の撮影コマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した **[撮影回数×1回のコマ数]** で撮影できないことがあります。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や **[撮影間隔]** が **[00:00'00"]** の場合、シャッタースピードが **Bulb** (バルブ) または **Time** (タイム) の場合など、インターバルタイマー撮影を開始または設定できないときには警告メッセージを表示します。
- **[サイレント撮影]** と **[撮影間隔優先]** の両方が **[する]** に設定され、**[撮影間隔]** が **[00:00'0.5"]** の場合、インターバルタイマー撮影を開始できません。
- メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください (□223)。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
 - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき (電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します)
 - レリーズモードを  に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。
- フォーカスモードが **AF-S** の場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。
- オートフォーカスで被写体にピントが合わないとき、**[撮影間隔優先]** が **[しない]** の場合はその回の撮影をキャンセルして次の回から撮影を再開します (撮影ごとにピントを合わせます)。

✓ 撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

✓ インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、撮影時刻の数秒前に画面の表示を消灯して、撮影に入ります。

✔ オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時にAE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。
- **[撮影間隔優先]** で **[する]** を選んだ場合、インターバルタイマー撮影時にオートブラケティングは行えません。

✔ インターバルタイマー撮影の制限について

次の場合など、インターバルタイマー撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- 多重露出撮影
- フォーカスシフト撮影
- タイムラプス動画撮影

✔ [サイレント撮影] を [する] にした場合の制限について

次の場合など、[サイレント撮影] を [する] に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影
- 長秒時ノイズ低減
- フリッカー低減

✔ インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、レリーズモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

タイムラプス動画


MENUボタン →  静止画撮影メニュー

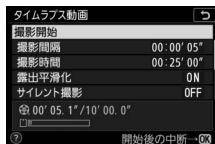
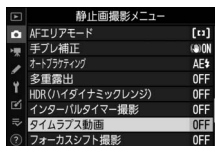
設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。

撮影開始	タイムラプス動画撮影を開始します。約3秒後に撮影を開始し、設定した【撮影時間】内に設定した【撮影間隔】で撮影を繰り返します。
撮影間隔	撮影間隔（分、秒）を設定します。
撮影時間	撮影時間（時、分）を設定します。
露出平滑化	<p>[する] を選ぶと、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。</p> <ul style="list-style-type: none">輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。撮影モードMで静止画撮影メニュー【ISO感度設定】の【感度自動制御】が【しない】の場合、露出の平滑化は行いません。
サイレント撮影	[する] を選ぶと、シャッター音を出さずに撮影できます。
撮像範囲設定	タイムラプス動画撮影時の撮像範囲を【FX】または【DX】に設定できます。
画像サイズ/ フレームレート	記録されるタイムラプス動画の画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定できます。
撮影間隔優先	<ul style="list-style-type: none">する：撮影モードがPまたはAのときに、露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影します。<ul style="list-style-type: none">- フォーカスモードがAF-Sの場合はカスタムメニューa2【AF-Sモード時の優先】を、AF-Cの場合はカスタムメニューa1【AF-Cモード時の優先】を【リリース】に設定してください。- 静止画撮影メニュー【ISO感度設定】で【感度自動制御】の【低速限界設定】を、撮影間隔よりも短くなるように設定してください。しない：撮影間隔よりも露光時間を優先して撮影します。



タイムラプス動画の撮影方法

1 静止画撮影メニュー [タイムラプス動画] を選ぶ

- マルチセクターの  を押すと、[タイムラプス動画] 画面が表示されます。

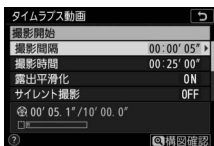


✓ タイムラプス動画撮影を開始する前に

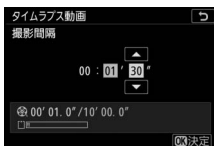
- タイムラプス動画撮影で撮影される静止画の画角は、動画撮影時と同じになります。構図を確認してから撮影することをおすすめします。構図を確認するには、[タイムラプス動画] 画面で設定中に  ボタンを押します。  (?) ボタンを押すと元の画面に戻ります。
- 試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニュー [地域と日時] で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクタと AC アダプター、または十分に充電されたバッテリーをお使いください。

2 タイムラプス動画の設定をする

• 撮影間隔（インターバル）を設定する



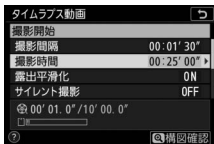
「撮影間隔」を選んで▶を押す



撮影間隔（分、秒）を設定してOKボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

• 撮影時間を設定する



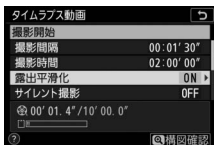
「撮影時間」を選んで▶を押す



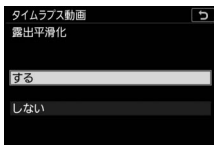
撮影時間（時、分）を設定して、OKボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ

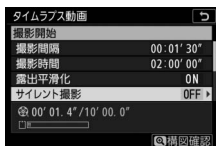


「露出平滑化」を選んで▶を押す

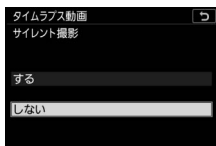


露出平滑化をするかどうかを選んでOKボタンを押す

● サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ

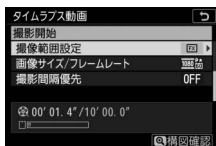


[サイレント撮影] を選んで
▶を押す



サイレント撮影をするか
どうかを選んでⓧボタンを
押す

● 撮像範囲を設定する

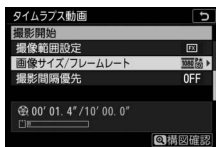


[撮像範囲設定] を選んで
▶を押す

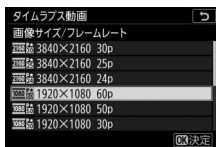


撮像範囲を選んでⓧボタン
を押す

● 画像サイズ/フレームレートを設定する

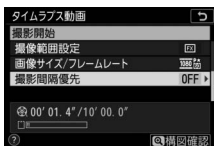


[画像サイズ/フレームレ
ート] を選んで▶を押す

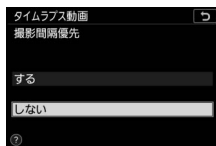


動画の画像サイズ/フレー
ムレートを選んでⓧボタン
を押す

- 露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうか選ぶ



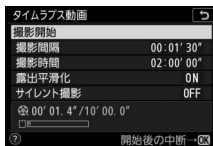
[撮影間隔優先] を選んで
⏪を押す



撮影間隔を優先して
撮影するかどうかを選んで
Ⓚボタンを押す

3 [撮影開始] を選んでⓀボタンを押す

- 約3秒後に撮影を開始します。
- 撮影中は撮影画面は消灯します。
- 手順2で設定した [撮影時間] 内に、設定した [撮影間隔] で撮影を繰り返します。



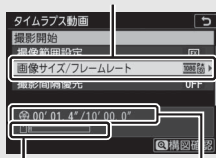
■ タイムラプス動画撮影を途中で終了するには

- タイムラプス動画撮影を途中で終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー [タイムラプス動画] で [終了] を選び、**OK** ボタンを押します。ただし [撮影間隔] の設定が短い場合、**OK** ボタンを押しても途中で終了できない場合があります。その場合はカメラの電源をOFFにして終了してください。
- タイムラプス動画撮影を終了すると、終了時点までの動画がメモリーカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

✓ タイムラプス動画の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順2で設定する撮影時間を撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）に1を足した数が、記録コマ数（撮影回数）になります。
- タイムラプス動画で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数 ÷ [画像サイズ/フレームレート] で選んだフレームレートで計算できます（例えば、[画像サイズ/フレームレート] が [1920×1080 24p] のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。

動画の画像サイズ/フレームレート



メモリーカード
使用状況

記録時間/
最長記録時間

✓ 撮影直後の画像確認について

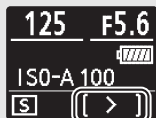
タイムラプス動画撮影中は、**▶** ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニュー [撮影直後の画像確認] を [する] または [する (画像モニター表示のみ)] にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間表示されます（表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります。また、撮影間隔が短い場合は表示されないことがあります）。

✓ タイムラプス動画撮影についてのご注意

- タイムラプス動画には音声は記録されません。
- 実際のタイムラプス動画撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、タイムラプス動画撮影を開始または設定できません。
 - 設定した【撮影時間】が【撮影間隔】より短い場合
 - 【撮影時間】または【撮影間隔】が【00:00'00"】の場合
 - メモリーカードのメモリー残量がない場合
- タイムラプス動画撮影中は、▶ボタンを押しても画像の再生はできません。**MENU**ボタンを押すと【タイムラプス動画】画面が表示され、その他のメニューは選択できません。
- タイムラプス動画を撮影する場合、ホワイトバランスを☼A（オート）または☼A（自然光オート）以外に設定すると色みを固定することができます。
- タイムラプス動画を撮影する場合、設定に関わらず【アクティブD-ライティング】は【しない】に固定されます。
- タイムラプス動画撮影中は、カスタムメニューc3【パワーオフ時間】の【半押しタイマー】の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- タイムラプス動画撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMIケーブルを接続すると、撮影が終了することがあります。その場合はその時点までの動画を記録してタイムラプス動画撮影を終了します。
- 次の場合は動画を記録せずに、タイムラプス動画撮影が終了します（タイムラプス動画撮影終了時の電子音は鳴りません）。
 - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
 - メモリーカードを取り出したとき
- フォーカスモードが**AF-S**の場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。
- オートフォーカスで被写体にピントが合わないとき、【撮影間隔優先】が【しない】の場合はその回の撮影をキャンセルして次の回から撮影を再開します（撮影ごとにピントを合わせます）。

✓ タイムラプス動画撮影の待機状態について

- タイムラプス動画撮影の待機状態では、表示パネルにタイムラプス動画撮影中マークが点灯します。また、メモリーカードアクセスランプが点灯します。



✓ タイムラプス動画撮影待機中の各種設定について

タイムラプス動画撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作を行うことができます。

ただし、撮影時刻の約2秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

✓ タイムラプス動画の制限について

次の場合など、タイムラプス動画とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- オートブラケティング撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- 多重露出撮影
- インターバルタイマー撮影
- フォーカスシフト撮影

✓ 【サイレント撮影】を【する】にした場合の制限について

次の場合など、【サイレント撮影】を【する】に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影
- 長秒時ノイズ低減
- フリッカー低減

フォーカスシフト撮影


MENUボタン →  静止画撮影メニュー

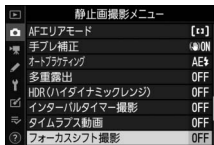
ピント位置を変えながら自動的に連続撮影を行います。ピント面の異なる複数の画像を合成して被写界深度の深い画像を作成する、深度合成の素材を撮影できます。フォーカスシフト撮影をするときは、フォーカスモードを**AF-S**または**AF-C**に設定し、リリースモードを \odot 以外に設定してください。

撮影開始	撮影を開始します。撮影は、設定したフォーカスステップ幅で繰り返されます。
撮影回数	撮影回数を最大300回まで設定できます。
フォーカスステップ幅	フォーカスシフト撮影は、ピント位置を変更しながらステップ撮影を行います。ピント位置の変更幅を設定します。
待機時間	シャッターをきってから次にシャッターをきるまでの時間を秒単位で設定できます。 <ul style="list-style-type: none">• [00]に設定すると、最大約5.5コマ/秒でシャッターがきれます。• フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。
露出固定	<ul style="list-style-type: none">• する：露出を1コマ目撮影時の設定に固定します。• しない：1コマごとに露出を合わせます。
ピーキングスタック画像	[記録する] に設定すると、フォーカスシフト撮影後、撮影した画像からピントが合っている部分の輪郭を抽出し、簡易的に深度合成したモノクロのピーキングスタック画像を記録します。意図した被写体にピントが合っているかどうかを確認できます。
サイレント撮影	[する] を選ぶと、シャッター音を出さずに撮影できます。
撮影開始時の記録フォルダー	項目を選んでマルチセクターの \odot を押すと、オン \square とオフ \square を切り換えられます。 <ul style="list-style-type: none">• 新規フォルダー作成：フォーカスシフト撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。• ファイル番号リセット：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

フォーカスシフト撮影の撮影方法

1 静止画撮影メニュー [フォーカスシフト撮影] を選ぶ

- マルチセクターの  を押すと、フォーカスシフト撮影の設定画面が表示されます。




✓ フォーカスシフト撮影を開始する前に

- 試し撮りをするをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクタとACアダプターをお使いください。


2 フォーカスシフト撮影の設定をする

• 撮影回数を設定する




[撮影回数] を選んで  を押す

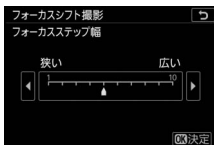



撮影回数を設定して、 ボタンを押す



• フォーカスステップ幅（ピント位置の間隔）を設定する



[フォーカスステップ幅] を選んで  を押す



フォーカスステップ幅を設定して、 ボタンを押す

-  を押すほどステップ間の幅が広くなり、 を押すほど狭くなります。

✓ 近接撮影を行う場合

近接撮影では焦点深度が浅くなるため、近接被写体のフォーカスシフト撮影を行う場合は、フォーカスステップ幅を狭めにし、撮影回数を多めに設定することをおすすめします。

● 待機時間を設定する



「待機時間」を選んで▶を押す



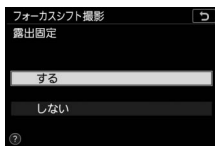
待機時間を設定して、OKボタンを押す

- フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。

● 露出を固定するかどうかを選ぶ



「露出固定」を選んで▶を押す

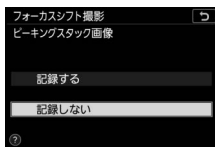


露出を固定するかどうかを選んでOKボタンを押す

● ピーキングスタック画像を記録するかどうかを選ぶ



「ピーキングスタック画像」を選んで▶を押す

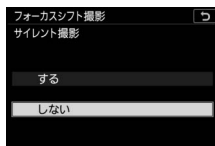


ピーキングスタック画像を記録するかどうかを選んでOKボタンを押す

• サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ

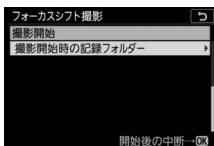


[サイレント撮影] を選んで
▶を押す

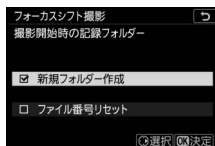


サイレント撮影をするか
どうかを選んで◎ボタンを
押す

• 撮影開始時の記録フォルダーの設定をする



[撮影開始時の記録フォル
ダー] を選んで▶を押す



各項目の設定をして◎ボタ
ンを押す

3 [撮影開始] を選んで◎ボタンを押す


- 約3秒後に撮影を開始します。
- 撮影中は撮影画面は消灯します。
- 撮影開始時のピント位置から無限遠に向かって連続撮影を行います。
- 設定した撮影回数に達するか、ピント位置が無限遠に達すると撮影を終了します。



■■ フォーカスシフト撮影を途中で終了するには

フォーカスシフト撮影を途中で終了するには、次の撮影までの間にシャッターボタンを半押しするか、◎ボタンを押してください。

✓ ピーキングスタック画像を再生するには

- [ピーキングスタック画像] を [記録する] に設定して撮影した画像を再生すると、マークが表示されます。i ボタンを押して [ピーキングスタック画像の表示] を選ぶと、記録したピーキングスタック画像が表示されます。深度合成をすると、白く映っている部分にピントが合った合成画像になります。
- ピーキングスタック画像は、フォーカスシフト撮影を行ったカメラでのみ再生できます。

✓ フォーカスシフト撮影時の絞り値について

レンズの絞りを絞り込み過ぎることによる解像感の低下を防ぐため、絞り値を $f/8 \sim f/11$ よりも開いて (より小さい数値にして) 撮影することをおすすめします。

✓ フォーカスシフト撮影の待機状態について

フォーカスシフト撮影の待機状態では、表示パネルのレリーズモードの表示が非表示になります。また、メモリーカードアクセスランプが点滅します。

✓ フォーカスシフト撮影についてのご注意

- 実際のフォーカスシフト撮影には、待機時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した待機時間で撮影できないことがあります。
- フォーカスシフト撮影中は、カスタムメニュー c3 [パワーオフ時間] の [半押しタイマー] の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。待機時間が充分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- シャッタースピードが **Bulb** (バルブ) または **Time** (タイム) の場合など、フォーカスシフト撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- フォーカスシフト撮影中にカメラの設定を変更すると、フォーカスシフト撮影が終了する場合があります。
- フォーカスシフト撮影中にピント合わせの動作を行うと、フォーカスシフト撮影が終了します。

✓ フォーカスシフト撮影の制限について

次の場合など、フォーカスシフト撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- オートブラケティング撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- 多重露出撮影
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影

✓ [サイレント撮影] を [する] にした場合の制限について

次の場合など、[サイレント撮影] を [する] に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影
- 露出ディレイモード
- フリッカー低減

サイレント撮影

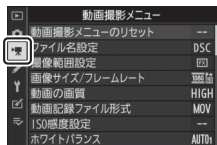
MENUボタン →  静止画撮影メニュー

シャッター音を出さずに撮影できます (□67)。

する	<p>シャッターをきるときの振動をなくして撮影できます。風景や静物など動きの少ない被写体を撮影する場合に適しています。撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none">• フラッシュ撮影はできません。• 長秒時ノイズ低減は無効になります。• カスタムメニュー d5 [シャッター方式] の設定にかかわらず、電子シャッターを使用します。• セットアップメニュー [電子音] の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音とセルフタイマー作動時の電子音は鳴りません。• レリーズモードが連続撮影の場合、連続撮影速度が変更されます (□87)。
しない	サイレント撮影を行いません。

📽 動画撮影メニュー： 動画撮影で使える便利な機能

メニュー画面で📽タブを選ぶと、動画撮影メニューが表示されます。



動画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目		メニュー項目	
動画撮影メニューのリセット	243	自動ゆがみ補正	246
ファイル名設定	243	フリッカー低減	247
撮像範囲設定	243	測光モード	247
画像サイズ/フレームレート	243	フォーカスモード	247
動画の画質	243	AFエリアモード	248
動画記録ファイル形式	244	手ブレ補正	248
ISO感度設定	244	電子手ブレ補正	248
ホワイトバランス	245	マイク感度	249
ピクチャーコントロール	245	アッテネーター	249
カスタムピクチャーコントロール	245	録音帯域	250
アクティブD-ライティング	245	風切り音低減	250
高感度ノイズ低減	246	ヘッドホン音量	250
ヴェリネットコントロール	246	タイムコード	251
回折補正	246		

📌 関連ページ

「動画撮影メニューの初期設定」(📖148)

動画撮影メニューのリセット

MENUボタン → 動画撮影メニュー

[する] を選んでⓂボタンを押すと、動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します (□148)。

ファイル名設定

MENUボタン → 動画撮影メニュー

このカメラで撮影した動画のファイル名DSC_nnnn.movの「DSC」の3文字を任意に変更できます (□168)。

撮像範囲設定

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時の撮像範囲をFXとDXから選べます。

画像サイズ/フレームレート

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画を撮影するときの画像サイズ (ピクセル) とフレームレートを設定します。画像サイズ/フレームレートの詳しい説明については、「iメニューを使う」の「画像サイズ/フレームレート/画質」(□115) をご覧ください。

動画の画質

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画の画質を高画質と標準から選べます。

動画記録ファイル形式

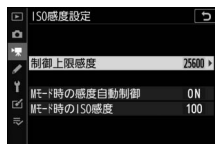
MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画のファイル形式をMOVとMP4から選べます。

ISO感度設定

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画モード時のISO感度に関する設定ができます。



制御上限感度	<ul style="list-style-type: none">感度自動制御するときにはISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2）を設定できます。撮影モードがP、S、またはAの場合、撮影モードMで「Mモード時の感度自動制御」が「する」の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。
Mモード時の感度自動制御	<ul style="list-style-type: none">する：撮影モードがMのときもカメラが自動的に動画モード時のISO感度を変更します。しない：撮影モードがMのときに、「Mモード時のISO感度」で設定したISO感度に固定されます。撮影モードがM以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
Mモード時のISO感度	撮影モード M での動画モード時のISO感度（Z 7は64～Hi 2、Z 6は100～Hi 2）を設定できます。

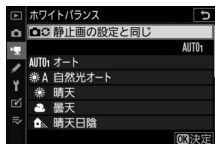
✓ 感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が上がると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生することがあります。
- ISO感度が上がると、ピントが合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、「**ISO感度設定**」の「**制御上限感度**」を下げて撮影してください。

ホワイトバランス

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

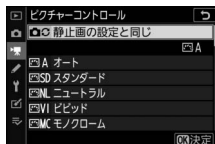
動画モード時のホワイトバランスを設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります (□174)。



ピクチャーコントロール

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

動画モード時のピクチャーコントロールを設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります (□179)。



カスタムピクチャーコントロール

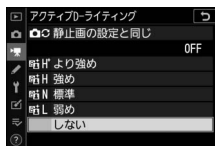
MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます (□181)。

アクティブD-ライティング

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

動画モード時のアクティブD-ライティングを設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります (□110、120)。



高感度ノイズ低減

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時に、ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します（□186）。

ヴィネットコントロール

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画モード時のヴィネットコントロールを設定できます。[静止画の設定と同じ]を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります（□186）。

回折補正

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画モード時の回折補正を設定できます（□187）。

自動ゆがみ補正

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画モード時の自動ゆがみ補正を設定できます（□187）。

フリッカー低減

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影中に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ〔オート〕をお使いください。〔オート〕にしている場合、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、〔50 Hz〕と〔60 Hz〕から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では〔50 Hz〕を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では〔60 Hz〕を選んでください。

✓ 動画撮影メニュー〔フリッカー低減〕についてのご注意

- 〔オート〕に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 撮影モードが **M** 以外の場合、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合は、撮影モードを **M** に設定し、シャッタースピードを次の値にすることで、フリッカー現象を低減できます。
 - 電源周波数が50Hzの場合：1/100秒、1/50秒、1/25秒
 - 電源周波数が60Hzの場合：1/125秒、1/60秒、1/30秒

測光モード

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画モード時の測光モードを設定できます。動画撮影メニューでは〔スポット測光〕は選べません（□108）。

フォーカスモード

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画モード時のフォーカスモードを設定できます（□50）。

AFエリアモード

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画モード時のAFエリアモードを設定できます (□52)。

手ブレ補正

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画モード時の手ブレ補正を設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画モード時と同じ設定になります (□112)。

電子手ブレ補正


MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。


マイク感度

MENUボタン → 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイクの感度の程度を設定します。

オート	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マニュアル	マイク感度を手動調整します。[1] ~ [20] の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。 
録音しない	音声は記録しません。

音声記録されていない動画の表示について

[マイク感度] を [録音しない] にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に  (音声なしマーク) が表示されます。



アッテネーター



MENUボタン → 動画撮影メニュー

[有効] を選ぶと、大音量の環境下で動画撮影をするときに、マイク感度を減衰させて音割れを抑えます。

録音帯域

MENUボタン → 録画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します。

 WIDE 広帯域	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
 VOICE 音声帯域	主に人の声を録音したいときに適しています。

風切り音低減

MENUボタン → 録画撮影メニュー

[する] を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなる場合があります。

別売のステレオマイクロホンをお使いの場合は、カメラ側で【風切り音低減】を [する] に設定しても風切り音は低減されません。風切り音低減機能のあるステレオマイクロホンをお使いの場合は、ステレオマイクロホン側で設定してください。

ヘッドホン音量

MENUボタン → 録画撮影メニュー

ヘッドホン音量を、  を押して調整できます。

タイムコード

MENUボタン → 動画撮影メニュー


フレームごとに「時・分・秒・フレーム」の情報（タイムコード）を記録した動画を撮影できます。タイムコードはファイル形式がMOVの動画にのみ記録できます。あらかじめセットアップメニュー「地域と日時」で日時が正確に設定されていることを確認してください。

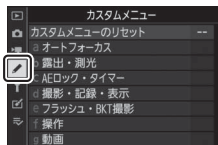
タイムコード記録	<ul style="list-style-type: none">• する：動画にタイムコードを記録します。撮影画面にタイムコードが表示されます。• する (HDMI 外部出力あり)：カメラと外部レコーダーをHDMIケーブルで接続している場合、外部レコーダーに記録される動画にタイムコードを記録します。外部レコーダーはAtomos社製Monitor Recorder (SHOGUN、NINJA、SUMOシリーズ) に対応しています。• しない：タイムコードを記録しません。
カウントアップ方式	<ul style="list-style-type: none">• レックラン：動画撮影中のみタイムコードをカウントアップします。• フリーラン：常にタイムコードをカウントアップします。カメラの電源がOFFになっている場合もカウントアップしています。
タイムコードの起点	<ul style="list-style-type: none">• リセット：現在表示されているタイムコードをリセットして「00:00:00.00」に戻します。• 手動入力：時、分、秒、フレームをそれぞれ手動で設定できます。• 現時刻：カメラに設定されている現在の時刻をそのままタイムコードとして使用します。
ドロップフレーム	[する] に設定すると、動画のフレームレートが30fpsまたは60fpsの場合に生じる実時間とタイムコードのずれを補正します。

✓ HDMI接続時のご注意

HDMI接続でテレビなどに外部出力している場合に、[タイムコード記録] が [する (HDMI外部出力あり)] に設定されていると、画像が乱れることがあります。

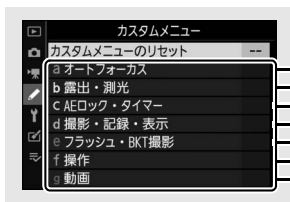
カスタムメニュー： 撮影に関するさらに詳細な設定

メニュー画面で  タブを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。



カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

<第1階層>



<第2階層>





カスタムメニューの項目は次の通りです。※1

メニュー項目	📖
カスタムメニューのリセット	254
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	255
a2 AF-Sモード時の優先	255
a3 AFロックオン	256
a4 オートエリアAF時の顔と瞳認識	256
a5 AF点数	257
a6 縦/横位置フォーカスポイント切換	257
a7 半押しAFレンズ駆動	258
a8 AFエリアモードの限定	259
a9 フォーカスポイント循環選択	259
a10 フォーカスポイント表示の設定	260
a11 ローライトAF	260
a12 内蔵AF補助光の照射設定	261
a13 AF設定時のフォーカスリング操作※2	261
b 露出・測光	
b1 露出設定ステップ幅	262
b2 露出補正簡易設定	262
b3 中央部重点測光範囲	262
b4 基準露出レベルの調節	263
c AEロック・タイマー	
c1 シャッターボタンAEロック	264
c2 セルフタイマー	264
c3 パワーオフ時間	265

メニュー項目	📖
d 撮影・記録・表示	
d1 低速連続撮影速度	266
d2 連続撮影コマ数	266
d3 連動レリーズモード設定	266
d4 露出ディレーモード	267
d5 シャッター方式	267
d6 撮像範囲設定の限定	267
d7 連番モード	268
d8 Lvに撮影設定を反映	269
d9 格子線表示	269
d10 ピーキング表示	270
d11 連続撮影中の表示	270
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	271
e2 フラッシュ時シャッター速度制限	272
e3 フラッシュ使用時の露出補正	272
e4 ⚡使用時の感度自動制御	273
e5 モデリング発光	273
e6 BKT変化要素 (Mモード)	274
e7 BKTの順序	275

メニュー項目		
f 操作		
f1	 メニューのカスタマイズ	276
f2	カスタムボタンの機能	278
f3	OKボタンの機能	286
f4	シャッタースピードと 絞り値のロック	287
f5	コマンドダイヤルの設定	288
f6	ボタンのホールド設定	291
f7	インジケータの+/-方向	291

メニュー項目		
g 動画		
g1	 メニューのカスタマイズ	292
g2	カスタムボタンの機能	293
g3	OKボタンの機能	298
g4	AF速度	299
g5	AF追従感度	299
g6	ハイライト表示	300

※1 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク(*)を表示します。

※2 このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。

関連ページ

「カスタムメニューの初期設定」(📖149)

カスタムメニューのリセット

MENUボタン →  カスタムメニュー



カスタムメニューをリセットして初期設定に戻します。

a : オートフォーカス

a1 : AF-Cモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

フォーカスモードが**AF-C**のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。



 レリーズ	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

フォーカスモードが**AF-C**のときは、[AF-Cモード時の優先]の設定にかかわらずにフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2 : AF-Sモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

フォーカスモードが**AF-S**のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

 レリーズ	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

フォーカスモードが**AF-S**のときは、[AF-Sモード時の優先]の設定にかかわらず、フォーカスポイントが緑色に点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、シャッターをきるまでフォーカスロックが行われます。

a3 : AFロックオン

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

フォーカスモードが**AF-C**のときに、カメラと被写体の間を障害物や別の被写体が横切ったときのピント動作を設定できます。

- [5 (鈍感)] に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。
- [1 (敏感)] に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。
- AFエリアモードがオートエリアAFの場合は、[2]、[1 (敏感)] に設定していても、[3] を選んだときと同じ動作になります。



a4 : オートエリアAF時の顔と瞳認識

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、カメラが人物または犬や猫の顔や瞳を認識してピントを合わせるかどうかを選べます。

顔認識と瞳認識する	カメラが人物の顔を認識した場合、自動的に左右どちらかの瞳にピントを合わせます。瞳を認識できない場合は顔にピントを合わせます。
顔認識する	人物の顔を認識した場合、人物の顔にピントを合わせます。
動物認識する	カメラが犬や猫の顔を認識した場合、自動的に左右どちらかの瞳にピントを合わせます。瞳を認識できない場合は顔にピントを合わせます。
しない	顔認識および瞳認識を行いません。

a5 : AF点数

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

AFエリアモードがオートエリアAF以外の場合、手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

ALL 全点	全てのフォーカスポイントを選べます。選べるフォーカスポイントの数はAFエリアモードにより異なります。
1/2 スキップ	[全点] に比べて約1/4のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かせます。[ワイドエリアAF (L)] の場合は、選べるフォーカスポイントの数は変化しません。

a6 : 縦/横位置フォーカスポイント切換

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

カメラを正位置（横位置）にしたとき、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントを設定できます。

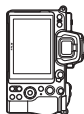
- [しない] に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。



縦位置反時計回りに
90°回転

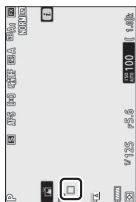


横位置



縦位置時計回りに
90°回転

- [する] に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。



縦位置反時計回りに
90°回転



横位置




縦位置時計回りに
90°回転

a7：半押しAFレンズ駆動

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときに、ピント合わせをするかどうかを設定できます。[しない] を選んだ場合は、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。ピントを合わせるには、**AF-ON** ボタンまたはカスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] でAF-ON機能を割り当てたボタンを押してください。

非合焦時のリリース



カスタムメニュー a7 [半押しAFレンズ駆動] で [しない] を選んでマルチセクターの  を押し、ピントが合わないとシャッターがきれないようにカメラが設定されている場合でもシャッターがきれいにするかどうかを設定できます。[許可] に設定すると、常にシャッターをきるできるようになります。

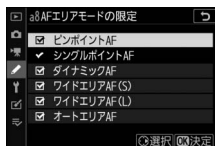
許可	シャッターをきることができます。
禁止	シャッターをきるできません。

a8 : AFエリアモードの限定

MENUボタン → 鉛筆カスタムメニュー

iメニューやカスタムボタンにAFエリアモードを割り当てた場合に選べるAFエリアモードを設定できます。

- 項目を選んでマルチセレクターの  を押しと、オン とオフ を切り換えられます。チェックボックスをオン にした項目のみ、サブコマンドダイヤルで選べるようになります。
-  ボタンを押すと、設定を完了します。



a9 : フォーカスポイント循環選択

MENUボタン → 鉛筆カスタムメニュー

フォーカスポイントをサブセレクターやマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。[する] に設定すると、たとえば画面の右端のフォーカスポイントを選んでいるときにサブセレクターを右に倒すと、フォーカスポイントが左端に移動します。

a10：フォーカスポイント表示の設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

フォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

マニュアルフォーカス時の表示

する	マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。
しない	フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

ダイナミックAFモード時のアシスト表示


ダイナミックAFモード時に、自分で選んだフォーカスポイントの周辺のフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。

する	周辺のフォーカスポイントも同時に表示します。
しない	自分で選んだフォーカスポイントのみ表示します。

a11：ローライトAF

MENUボタン →  カスタムメニュー

[する] に設定すると、フォーカスモードが**AF-S**のときに暗い場所でもピントが合いやすくなります。

- 静止画モードの場合のみ有効になります。
- 撮影モードが  の場合は無効になります。
- [する] に設定している場合、ピント合わせの動作に時間がかかることがあります。
- ローライト AF 実行中は撮影画面に「Low-light」が表示されます。また、撮影画面の画面がコマ落ちしたような表示になることがあります。

a12：内蔵AF補助光の照射設定

MENU ボタン → 設定アイコン カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときに被写体が暗い場合、ピント合わせのためにAF補助光を自動的に照射するかどうかを設定できます。

する	静止画モードでフォーカスモードが AF-S の場合に、被写体が暗いとAF補助光を自動的に照射します。
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。

✓ AF補助光について

- AF補助光が届く距離範囲の目安は約1～3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- AF補助光が照射される場合、手などでAF補助光を遮らないようにご注意ください。



a13：AF設定時のフォーカスリング操作

MENU ボタン → 設定アイコン カスタムメニュー

レンズのフォーカスリングの操作を有効にするかどうかを設定できます。

有効	オートフォーカス時にレンズのフォーカスリングを回すとマニュアルフォーカスに切り替わります (M/A (マニュアル優先オートフォーカスモード))。オートフォーカス時にシャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。
無効	フォーカスリングを回しても、オートフォーカスからマニュアルフォーカスに切り替わりません。

b : 露出・測光

b1 : 露出設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、ISO感度、オートブラケティング補正值、露出補正值、およびフラッシュ調光補正量のステップ幅を設定できます。

b2 : 露出補正簡易設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

する (自動リセット)	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。電源をOFFにしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない	<input checked="" type="checkbox"/> ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

- 撮影モード**P**、**S**、**A**の場合に有効です。撮影モード**M**の場合、露出補正簡易設定は機能しません。
- 露出補正値を設定できるコマンドダイヤルは、撮影モードによって異なります。

b3 : 中央部重点測光範囲

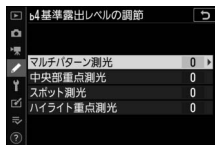
MENUボタン →  カスタムメニュー

中央部重点測光は、撮影画面の中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

b4：基準露出レベルの調節

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（+側）または暗め（-側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。



✓ 基準露出レベルの調節について



カスタムメニュー b4 [基準露出レベルの調節] を0以外に設定しても、☑マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b4の画面でのみ確認できます。

c : AEロック・タイマー

c1 : シャッターボタンAEロック

MENUボタン →  カスタムメニュー



シャッターボタンを押してAEロックを行うかどうかを設定できます。

 ON する (半押し)	シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行います。
 ON する (連続撮影時)	シャッターボタンを半押ししたときにはAEロックを行わず、全押ししたときにAEロックを行います。
しない	シャッターボタンを押してもAEロックを行いません。

c2 : セルフタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
撮影コマ数	マルチセレクターの   を押して、1コマ~9コマの間で設定できます。
連続撮影間隔	[撮影コマ数] を2コマ以上に設定した場合に連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

c3 : パワーオフ時間

MENU ボタン →  カスタムメニュー

画像モニターやファインダーが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- [画像の再生]、[メニュー表示]、[撮影直後の画像確認]、[半押しタイマー] で個別に設定できます。
- [半押しタイマー] では、シャッターボタンを半押ししてからどれくらいの間カメラを操作しないと画像モニター、ファインダー、表示パネルが消灯するかを設定できます。画像モニターとファインダーが消灯する数秒前は、表示が暗くなります。
- 表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

d : 撮影・記録・表示

d1 : 低速連続撮影速度

MENUボタン →  カスタムメニュー

低速連続撮影時の連続撮影速度を、[5コマ/秒] ~ [1コマ/秒] の間で設定できます。

d2 : 連続撮影コマ数

MENUボタン →  カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるか1コマ~200コマの間で設定します。

- 撮影モードが**S**または**M**のときにシャッタースピードが1秒または1秒よりも遅い場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。

連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d2 [連続撮影コマ数] で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります。このコマ数を超えると「r00」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d3 : 連動リリースモード設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

別売のワイヤレスリモートコントローラーを接続した場合に、マスターカメラのリリースに連動してリモートカメラをリリースさせるかどうかを設定できます。

d4：露出ディレイモード

MENUボタン → 編集カスタムメニュー

顕微鏡撮影時など、カメラブレを最小限に抑えたい場合に、シャッターボタンを押してから約0.2～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d5：シャッター方式

MENUボタン → 編集カスタムメニュー

静止画を撮影するシャッター方式を設定できます。

オート	シャッタースピードに応じて、カメラが自動でシャッター方式を切り換えます。シャッタースピードが低速になった場合、電子先幕シャッターに切り換わり、カメラブレを低減します。
メカニカルシャッター	常にメカニカルシャッターで撮影します。
電子先幕シャッター	常に電子先幕シャッターで撮影します。

✓ メカニカルシャッターについて

お使いのレンズによっては「メカニカルシャッター」を設定できません。

✓ 電子先幕シャッターについて

「電子先幕シャッター」に設定している場合は、シャッタースピードの上限が1/2000秒に制限されます。

d6：撮像範囲設定の限定

MENUボタン → 編集カスタムメニュー

iメニューやカスタムボタンに撮像範囲を割り当ててコマンドダイヤルを回して撮像範囲を設定する場合に、選べる撮像範囲を限定します。

- 項目を選んでマルチセクターの を押し、オン とオフ を切り換えられます。チェックボックスをオン にした項目のみ、コマンドダイヤルで選べるようになります。
- ボタンを押すと、設定を完了します。



d7：連番モード

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きまます。 連番モードを [する] から [しない] に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に [する] に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きまます。
リセット	[する] に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きまます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が 999 になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
 - フォルダー内のファイル数が5000個に達したとき（動画モード時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が5000個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
 - ファイル番号が 9999 に達したとき（動画モード時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が9999を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）この場合は、カスタムメニュー d7 [連番モード] を [リセット] した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。


✓ フォルダの自動作成について

- 記録フォルダ内に5000個のファイルが記録された後またはファイル番号が9999となった後に撮影すると、フォルダを自動的に作成して、記録フォルダとしてそのフォルダを選びます。
- 自動で作成されるフォルダの番号は、使用中のフォルダ番号+1になります。ただし、既存フォルダの番号と重複する場合、重複しない数字の中で最も若い数字になります。

d8 : Lvに撮影設定を反映

MENUボタン →  カスタムメニュー

撮影の設定（色味や明るさ）を、ファインダーや画像モニターの撮影画面（ライブビュー）に反映させるかどうかを設定できます。動画モードの場合、設定にかかわらず常に撮影の設定を反映します。

する	ホワイトバランスやピクチャーコントロール、露出補正などの設定を変更すると、撮影画面の表示に反映されます。
しない	<ul style="list-style-type: none">ホワイトバランスやピクチャーコントロール、露出補正などの設定を変更しても、撮影画面の表示には反映されません。撮影画面が見やすい色味や明るさで表示され、長時間の撮影に適しています。撮影画面にが表示されます。

d9 : 格子線表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

撮影画面内に構図用格子線を表示するかどうかを設定できます。

d10：ピーキング表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

マニュアルフォーカスで撮影するとき、ピントが合っている部分の輪郭を色付きで表示するかどうかを設定できます。色の変更も可能です。

ピーキングの検出

ピーキングの感度を [3 (高感度)]、[2 (標準)]、[1 (低感度)]、または [しない] から選びます。感度を高くするとピントが合っていると判断される範囲が広くなり、感度を低くすると範囲が狭くなります。

ピーキング表示色

ピーキング表示で強調する部分の色を変更できます。

d11：連続撮影中の表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

[しない] に設定すると、連続撮影中は撮影画面に何も表示されなくなります。

e : フラッシュ・BKT撮影

e1 : フラッシュ撮影同調速度

MENU ボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/200秒 (オートFP)	<p>フラッシュ撮影時の同調する最高速度を1/200秒に設定しますが、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時は1/200秒より速いシャッタースピードになると自動的にFP発光に切り替わります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 撮影モードがPまたはAで、撮影画面または表示パネルのシャッタースピードが1/200秒を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが1/200秒よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。オートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。• 撮影モードがSまたはMでオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードを1/8000秒まで設定できます。
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	フラッシュ撮影時の同調する最高速度を、1/200～1/60秒の範囲で設定できます。
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

シャッタースピードの同調速度を固定するには

撮影モードが**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、最も低速側 (30秒または**Time**) の次の位置を選んでください。撮影画面と表示パネルに **X** (フラッシュシンクロマーク) と設定した同調速度が表示されます。

✓ FP発光について

- フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます。[1/200秒 (オートFP)] に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。
- [1/200秒 (オートFP)] に設定すると、フラッシュインフォ画面に「FP」が表示されます。

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン →  カスタムメニュー




撮影モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や撮影モードが**S**、**M**の場合には、カスタムメニューe2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン →  カスタムメニュー



フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

  全体を補正	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
 背景のみ補正	背景の露出だけを補正します。

e4：⚡使用時の感度自動制御

MENU ボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に感度自動制御を行う場合の、露出を合わせる対象を設定できます。

 被写体と背景	主な被写体以外の背景も適切な露出となるように、感度自動制御を行います。
 被写体のみ	主な被写体が適切な露出となるように、感度自動制御を行います。

e5：モデリング発光







MENU ボタン →  カスタムメニュー

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時にカスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] で [レビュー] を割り当てたボタンを押したときに、ライティングの効果を確認するためのモデリング発光を行わないように設定できます。

e6 : BKT変化要素 (Mモード)


MENUボタン →  カスタムメニュー

撮影モードMでオートブラケティングを行うときに変化する内容は、静止画撮影メニュー [オートブラケティング] の [オートブラケティングのセット] と、e6 [BKT変化要素 (Mモード)] との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e6 [BKT変化要素 (Mモード)]	静止画撮影メニュー [オートブラケティングのセット]	
	AE・フラッシュ ブラケティング※	AEブラケティング※
 +  フラッシュ・シャッタースピード	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
   フラッシュ・シャッタースピード・絞り値	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
 +  フラッシュ・絞り値	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
 フラッシュ	フラッシュの調光レベル	—

※ カスタムメニュー e6 が [フラッシュ・シャッタースピード]、[フラッシュ・シャッタースピード・絞り値]、[フラッシュ・絞り値] のいずれかのときに、[感度自動制御] が [する] に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。

フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光時 (A) のみ変化します。

e7 : BKTの順序

MENUボタン →  カスタムメニュー

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

N [0] → [-] → [+]	「補正なし」 → 「-側に補正」 → 「+側に補正」の順になります。
->+ [-] → [0] → [+]	「-側に補正」 → 「補正なし」 → 「+側に補正」の順になります。

- 静止画撮影メニュー [オートブラケティングのセット] が [ADLブラケティング] の場合、e7の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f : 操作

f1 : メニューのカスタマイズ

MENUボタン → カスタムメニュー

静止画モードで **i** ボタンを押して表示される **i** メニューの項目を設定できます。

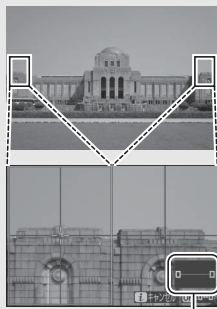
- 機能を設定したい **i** メニューの場所を選んで **OK** ボタンを押し、割り当てたい機能を選んでください。
- **i** メニューに割り当てられる機能は次の通りです。

	撮像範囲設定	169		手ブレ補正	112
QUAL	画質モード	105	BKT	オートブラケットング	194
SIZE	画像サイズ	106		多重露出	205
	露出補正	84	HDR	HDR(ハイダイナミックレンジ)	212
ISO	ISO感度設定	81		サイレント撮影	67
WB	ホワイトバランス	63		リリースモード	86
	ピクチャーコントロール	95		カスタムボタンの機能	278
RGB	色空間	184		露出ディレーモード	267
	アクティブ D-ライティング	110		シャッター方式	267
	長秒時ノイズ低減	185		Lvに撮影設定を反映	269
ISO NR	高感度ノイズ低減	186		2点拡大	277
	測光モード	108	PEAK	ピーキング表示	270
	フラッシュモード	369		モニター/ファインダー の明るさ	303、 305
	フラッシュ調光補正	371		Bluetooth通信機能	319
AF/MF	フォーカスモード	50		Wi-Fi通信機能	109
[+]	AFエリアモード	52			

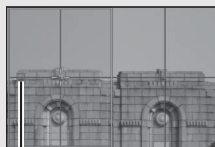
✔ 2点拡大

iメニューに [2点拡大] を割り当て、[2点拡大] を実行すると、左右に並んだ拡大表示画面が表示されます (2点拡大表示)。それぞれの画面には、ナビゲーションウィンドウの2カ所の□部分が拡大されて表示されます。

- 同じ水平面上の異なる2カ所を同時に拡大表示するため、建築物などの水平合わせの確認がしやすくなります。
- 🔍 ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍 (?) ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- マルチセレクトターの🔄を押すと、左右それぞれの拡大表示画面を横方向にスクロールできます。左右の画面を切り換える場合は🔄 ボタンを押します。
- マルチセレクトターの🔄を押すと、左右の拡大表示画面が縦方向に同時にスクロールします。
- シャッターボタンを半押しすると、選択されている画面の中心点にピントが合います。



ナビゲーション
ウィンドウ




ピントが合う部分

- **i** ボタンを押すと、2点拡大表示を終了します。

f2：カスタムボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

静止画モードでカメラのボタンやサブセレクター、レンズのコントロールリングなどを操作したときの機能を設定できます。

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、 ボタンを押してください。



	Fn1 ボタン		Fn2 ボタン
	AF-ON ボタン		サブセレクター
	サブセレクター中央		動画撮影ボタン
	レンズのFnボタン		レンズのFn2ボタン
	レンズの コントロールリング		

- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。















RESET	フォーカスポイント 中央リセット	—	—	●	—	●	—	—	—	—
	AF-ON	●	●	●	—	●	—	●	●	—
	AF-L	●	●	●	—	●	—	●	●	—
	AE-L (ホールド)	●	●	●	—	●	●	●	●	—
	AE-L (リリースでリセット)	●	●	●	—	●	●	●	●	—
	AE-L	●	●	●	—	●	—	●	●	—
	AE-L/AF-L	●	●	●	—	●	—	●	●	—
	FV-L	●	●	—	—	●	—	●	●	—
	発光禁止/許可切換	●	●	—	—	●	—	●	●	—
	プレビュー	●	●	—	—	●	●	●	●	—
	マルチパターン測光簡易設定	●	●	—	—	●	—	●	●	—
	中央部重点測光簡易設定	●	●	—	—	●	—	●	●	—
	スポット測光簡易設定	●	●	—	—	●	—	●	●	—
	ハイライト重点測光簡易設定	●	●	—	—	●	—	●	●	—
	BKT自動連写	●	●	—	—	●	—	●	●	—
	連動リリース切り換え	●	●	—	—	●	—	●	●	—
	プラスRAW記録	●	●	—	—	●	●	●	●	—
	ターゲット追尾	●	●	—	—	—	—	●	●	—
	格子線表示	●	●	—	—	●	●	●	●	—
	拡大画面との切り換え	●	●	●	—	—	●	●	●	—
	マイメニュー	●	●	—	—	—	●	●	●	—
	マイメニューのトップ項目 へジャンプ	●	●	—	—	—	●	●	●	—
	再生	●	●	—	—	—	—	●	●	—
	プロテクト	●	●	—	—	—	—	—	—	—
	撮像範囲選択	●	●	—	—	●	●	—	—	—

		Fn1	Fn2	AF-ON				L-Fn	L-Fn2	
QUAL	画質モード/画像サイズ	●	●	—	—	—	●	—	—	—
WB	ホワイトバランス	●	●	—	—	—	●	—	—	—
	ピクチャーコントロール	●	●	—	—	—	●	—	—	—
	アクティブD-ライティング 設定	●	●	—	—	—	●	—	—	—
	測光モード	●	●	—	—	—	●	—	—	—
	フラッシュモード/調光補正	●	●	—	—	—	●	—	—	—
AF/[+]	フォーカスモード/ AFエリアモード	●	●	—	—	—	●	—	—	—
BKT	オートブラケティング	●	●	—	—	—	●	—	—	—
	多重露出	●	●	—	—	—	●	—	—	—
HDR	HDR(ハイダイナミック レンジ)	●	●	—	—	—	●	—	—	—
DLY	露出ディレイモード	●	●	—	—	—	●	—	—	—
	シャッタースピードと 絞り値のロック	●	●	—	—	—	●	—	—	—
PEAK	ピーキング表示	●	●	—	—	—	—	—	—	—
★	レーティング	●	●	—	—	—	—	—	—	—
Non-CPU	手動設定済みレンズの選択	●	●	—	—	●	●	—	—	—
= ⊕	マルチセレクターと同じ	—	—	—	●	—	—	—	—	—
[r]	フォーカスポイント選択	—	—	—	●	—	—	—	—	—
M/A	フォーカス (M/A)	—	—	—	—	—	—	—	—	●※1、2
	絞り	—	—	—	—	—	—	—	—	●※2
	露出補正	—	—	—	—	—	—	—	—	●※2
ISO	ISO感度	—	—	—	—	—	—	—	—	●※2
	設定しない	●	●	●	—	●	●	●	●	●※2

※1 このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。

※2 フォーカスモードがマニュアルフォーカスの場合、設定にかかわらずコントロールリングを回すとマニュアルフォーカスでのピント合わせを行います。

- 割り当てられる機能は次の通りです。

 RESET	フォーカス ポイント 中央リセット	ボタンを押すと、フォーカスポイントが中央に戻ります。
 AF-ON	AF-ON	ボタンを押すと、 AF-ON ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
 AF-L	AF-L	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AE-L (ホールド)	AE-L (ホールド)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AE-L (リリース でリセット)	AE-L (リリース でリセット)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AE-L	AE-L	ボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L/AF-L	AE-L/AF-L	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 FV-L	FV-L	別売のスピードライト使用時は、FVロックを行い、もう一度ボタンを押すと解除します。
 ⚡発光禁止/ 許可切換	⚡発光禁止/ 許可切換	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。
 プレビュー	プレビュー	ボタンを押している間、現在設定している静止画の色味や露出、被写界深度を撮影画面の表示に反映します。
 マルチパターン 測光簡易設定	マルチパターン 測光簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
 中央部重点測光 簡易設定	中央部重点測光 簡易設定	ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
 スポット測光 簡易設定	スポット測光 簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。
 □* ハイライト重点 測光簡易設定	ハイライト重点 測光簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがハイライト重点測光になります。



BKT BKT自動連写

- 静止画撮影メニュー [オートブラケティング] の [オートブラケティングのセット] が [WBブラケティング] 以外の場合でリリースモードが連続撮影のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケティング撮影をします。また、リリースモードが1コマ撮影のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します。
- [オートブラケティングのセット] が [WBブラケティング] の場合は、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケティングを行います。



連動リリース切り換え











別売のワイヤレスリモートコントローラーを接続して撮影する場合の、連動リリースの機能を切り換えます。カスタムメニューd3 [連動リリースモード設定] の設定により、選択できる内容が異なります。







- [連動リリースモード設定] が [連動する] の場合






 マスターカメラのみリリース	ボタンを押ししている間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。
 リモートカメラのみリリース	ボタンを押ししている間、リモートカメラでのみ撮影を行います。

- [連動リリースモード設定] が [連動しない] の場合

 マスターとリモートが連動	ボタンを押ししている間、マスターカメラとリモートカメラが連動して撮影を行います。
 リモートカメラのみリリース	ボタンを押ししている間、リモートカメラでのみ撮影を行います。


 プラスRAW 記録	<ul style="list-style-type: none"> 画質モードがJPEG形式に設定されている場合、ボタンを押すと撮影画面の画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度ボタンを押すと【プラスRAW記録】を解除します。 RAW画像は静止画撮影メニュー【画像サイズ】の【RAW】で設定した画像サイズ、【RAW記録】の設定で記録されます。
 ターゲット追尾	<p>AFエリアモードがオートエリアAFの場合にボタンを押すと、フォーカスポイントの形が変わってターゲット選択画面になり、ターゲット追尾AFが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 割り当てたボタンまたは (?) ボタンを押すと、ターゲット追尾AFを終了します。
 格子線表示	<p>ボタンを1回押すと、撮影画面に構図用格子線を表示します。もう一度ボタンを押すと、格子線の表示を終了します。</p>
 拡大画面との 切り換え	<p>ボタンを1回押すと、フォーカスポイントを中心に、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。</p>
 マイメニュー	<p>ボタンを押すと、マイメニューを表示します。</p>
 マイメニューの トップ項目へ ジャンプ	<p>マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。</p>
 再生	<p>ボタンを押すと再生画面を表示します。</p>
 プロテクト	<p>画像再生時にボタンを押すと、表示されている画像をプロテクトします。</p>
 撮像範囲選択	<p>ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮像範囲の設定を変更できます。</p>
QUAL 画質モード/ 画像サイズ	<p>ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと画質モード、サブコマンドダイヤルを回すと画像サイズの設定を変更できます。</p>
WB ホワイト バランス	<p>ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを設定できます。ホワイトバランスの設定によっては、サブコマンドダイヤルを回して種類を変更できます。</p>

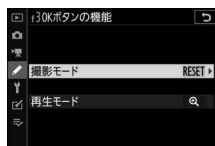
	ピクチャー コントロール	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ピクチャーコントロールの設定を変更できます。
	アクティブD-ラ イティング設定	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティングの設定を変更できます。
	測光モード	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、測光モードの設定を変更できます。
	フラッシュモー ド/調光補正	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとフラッシュモード、サブコマンドダイヤルを回すとフラッシュ調光補正值の設定を変更できます。
AF/[+]	フォーカス モード/AFエリア モード	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとフォーカスモード、サブコマンドダイヤルを回すとAFエリアモードの設定を変更できます。
BKT	オート ブラケットング	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップまたはアクティブD-ライティングの度合いを変更できます。
	多重露出	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと多重露出モード、サブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数の設定を変更できます。
HDR	HDR (ハイ ダイナミック レンジ)	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとHDRモード、サブコマンドダイヤルを回すと露出差の設定を変更できます。
DLY	露出ディレー モード	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、露出ディレーモードの設定を変更できます。
	シャッター スピードと 絞り値のロック	撮影モードが S または M のとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを固定します。撮影モードが A または M のとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。
PEAK	ピーキング表示	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとピーキングの感度、サブコマンドダイヤルを回すとピーキング表示色の設定を変更できます。
★	レーティング	画像再生時にボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示されている画像のレーティングの設定を変更できます。

Non-CPU	手動設定済み レンズの選択	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニュー [レンズ情報手動設定] で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
= 	マルチセレクト ターと同じ	サブセクターを上下左右に倒したときの機能は、撮影時も再生時もマルチセクターの  と同じになります。[マルチセクターと同じ] を選んで  を押すと、撮影時または再生時に拡大表示している場合のサブセクターの機能を設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [拡大位置移動] を選ぶと、拡大表示する範囲を移動します。 • [コマ送り] を選ぶと、そのままの拡大率と表示範囲で前後の静止画を表示します。
[□]	フォーカス ポイント選択	撮影時にサブセクターを上下左右に倒すとフォーカスポイントを移動できます。再生時でもサブセクターを倒すと、撮影画面に戻ってフォーカスポイントを移動します。
M/A	フォーカス (M/A)	オートフォーカス時にレンズのコントロールリングを回すとマニュアルフォーカスに切り替わります (M/A (マニュアル優先オートフォーカスモード))。オートフォーカス時にシャッターボタンを半押ししたままコントロールリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。
	絞り	レンズのコントロールリングを回すと、絞り値の設定を変更します。
	露出補正	レンズのコントロールリングを回すと、露出補正の設定を変更します。
ISO	ISO感度	レンズのコントロールリングを回すと、ISO感度の設定を変更します。
	設定しない	ボタンは機能しません。

f3 : OKボタンの機能







MENUボタン →  カスタムメニュー

静止画撮影時または再生時に  ボタンを押し
たときの機能を設定できます。







撮影モード

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、設定にかかわらずターゲット追尾AF (□59) の設定になります。

RESET	フォーカスポイント 中央リセット	 ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
	拡大画面との切り換え	撮影時に  ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度  ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと、拡大率を選べます。
	設定しない	 ボタンは機能しません。

再生モード

1コマ表示中の画像が動画の場合、設定にかかわらず \odot ボタンを押すと動画を再生します。

 1コマとサムネイルの切り換え	\odot ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
 ヒストグラム表示	\odot ボタンを押している間、ヒストグラムを表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
 拡大画面との切り換え	\odot ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度 \odot ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 <ul style="list-style-type: none">• [拡大画面との切り換え]を選んでマルチセレクトターの\odotを押すと、拡大率を選べます。• サムネイル表示時も拡大表示できます。
 フォルダー指定	\odot ボタンを押すと、[フォルダー指定]画面が表示され、画像を再生するフォルダーを指定できます。

f4：シャッタースピードと絞り値のロック

MENUボタン →  カスタムメニュー

[シャッタースピードのロック] を [する] にすると、撮影モード**S**または**M**ではシャッタースピードを現在の設定でロックします。[絞り値のロック] を [する] にすると、撮影モード**A**または**M**では絞り値を現在の設定でロックします。

- シャッタースピードまたは絞り値をロックすると撮影画面と表示パネルに \square アイコンが表示されます。
- 撮影モードが**P**の場合はシャッタースピードと絞り値のロックは使えません。



f5 : コマンドダイヤルの設定

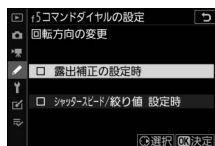
MENUボタン →  カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができません。

回転方向の変更

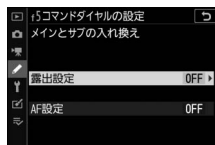
露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- [露出補正の設定時] または [シャッタースピード/絞り値 設定時] を選んでマルチセクターの  を押すと、オン とオフ を切り換えられます。
-  ボタンを押すと、設定が完了します。



メインとサブの入れ換え


メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。





露出設定	[する] を選ぶと、メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。[する (Aモード)] を選ぶと、撮影モードAのときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
AF設定	[する] を選ぶと、カスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] で [フォーカスモード/AFエリアモード] を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してAFエリアモードを、サブコマンドダイヤルを回してフォーカスモードを設定します。

再生/メニュー画面で使用






画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	<p>再生時：</p> <ul style="list-style-type: none">• 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルを回すと、[サブコマンドダイヤルで画像送り] で設定した方法でコマ送りします。• サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、ページを切り換えます。 <p>メニュー画面表示時※：</p> <p>メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。</p>
ON  する（撮影後確認を除く）	[する] と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセクターで行います。

※ サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、 ボタンかマルチセクターの  を押してください。

サブコマンドダイヤルで画像送り



[再生/メニュー画面で使用] で [する] または [する (撮影後確認を除く)] に設定した場合、1コマ表示時にサブコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます。

10コマ	10コマずつコマ送りします。
50コマ	50コマずつコマ送りします。
★ レーティング	レーティングが設定された画像だけをコマ送りして表示します。マルチセレクターの  を押すと、表示するレーティングを限定できます。
 プロテクト	プロテクト (保護) した撮影画像だけをコマ送りして表示します。
 静止画のみ	静止画だけをコマ送りして表示します。
 動画のみ	動画だけをコマ送りして表示します。
 フォルダー	再生フォルダーを切り換えます。

f6：ボタンのホールド設定

MENU ボタン → 編集 カスタムメニュー



[する] に設定すると、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放してもコマンドダイヤル単独で設定できる状態が維持できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。

- [ボタンのホールド設定] の対象ボタンは、 ボタン、ISO ボタン、 (☺) ボタンです。
- f2またはg2 [カスタムボタンの機能] で [撮像範囲選択]、[画質モード/画像サイズ]、[ホワイトバランス]、[ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング設定]、[測光モード]、[フラッシュモード/調光補正]、[フォーカスモード/AFエリアモード]、[オートブラケットティング]、[多重露出]、[HDR (ハイダイナミックレンジ)]、[露出ディレーモード]、[シャッタースピードと絞り値のロック]、[ピーキング表示]、[手動設定済みレンズの選択]、[マイク感度] を割り当てたボタンも、[ボタンのホールド設定] の対象になります。

f7：インジケータの+/-方向

MENU ボタン → 編集 カスタムメニュー

撮影画面でのインジケータの+と-方向を入れ換えることができます。

	インジケータの+側を左に、-側を右に表示します。
	インジケータの-側を左に、+側を右に表示します。





g : 動画

g1 : メニューのカスタマイズ

MENUボタン → カスタムメニュー

動画モードで*i*ボタンを押して表示される*i*メニューの項目を設定できます。

- 機能を設定したい*i*メニューの場所を選んで \odot ボタンを押し、割り当てたい機能を選んでください。
- *i*メニューに割り当てられる機能は次の通りです。

	撮像範囲設定	119
●QUAL	画像サイズ/ フレームレート/画質	115
	露出補正	84
ISO	ISO感度設定	81
WB	ホワイトバランス	115
	ピクチャーコントロール	115
	アクティブ D-ライティング	120
	測光モード	120
AF/MF	フォーカスモード	122
	AFエリアモード	121
	手ブレ補正	121

	電子手ブレ補正	121
	マイク感度	118
ATT	アッテネーター	249
	録音帯域	250
	風切り音低減	250
	ヘッドホン音量	250
PEAK	ピーキング表示	270
	ハイライト表示	300
	モニター/ファインダー の明るさ	303、 305
	Bluetooth通信機能	319
	Wi-Fi通信機能	120

g2：カスタムボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

動画モードでカメラのボタンやサブセレクター、レンズのコントロールリングなどを操作したときの機能を設定できます。
















- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、**OK**ボタンを押してください。



Fn1	Fn1 ボタン	Fn2	Fn2 ボタン
AF-ON	AF-ON ボタン	⊙	サブセレクター中央
シャッター	シャッターボタン	01	レンズの コントロールリング

- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。











	Fn1	Fn2	AF-ON	⊙	シャッター	01
⊙ パワー絞リ（開放絞リ側）	●	—	—	—	—	—
⊙ パワー絞リ（最小絞リ側）	—	●	—	—	—	—
露出補正（+側）	●	—	—	—	—	—
露出補正（-側）	—	●	—	—	—	—
ターゲット追尾	●	●	—	—	—	—
格子線表示	●	●	—	●	—	—
プロテクト	●	●	—	—	—	—
RESET フォーカスポイント中央リセット	—	—	●	●	—	—
AF-ON AF-ON	—	—	●	—	—	—
AF AF-L	—	—	●	●	—	—
AE-L (ホールド)	—	—	●	●	—	—
AE-L AE-L	—	—	●	●	—	—
AE-L/AF-L	—	—	●	●	—	—
拡大画面との切り換え	—	—	●	—	—	—
静止画撮影	—	—	—	—	●	—










						
 動画撮影	—	—	●	●	●	—
 撮像範囲選択	●	●	—	●	—	—
WB ホワイトバランス	●	●	—	—	—	—
 ピクチャーコントロール	●	●	—	—	—	—
 アクティブD-ライティング設定	●	●	—	—	—	—
 測光モード	●	●	—	—	—	—
AF/[+] フォーカスモード/ AFエリアモード	●	●	—	—	—	—
 マイク感度	●	●	—	—	—	—
 ピーキング表示	●	●	—	—	—	—
★ レーティング	●	●	—	—	—	—
M/A フォーカス (M/A)	—	—	—	—	—	●※1、2
 パワー絞り	—	—	—	—	—	●※2
 露出補正	—	—	—	—	—	●※2
ISO ISO感度	—	—	—	—	—	●※2
設定しない	●	●	●	●	—	●※2





※1 このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。

※2 フォーカスモードがマニュアルフォーカスの場合、設定にかかわらずコントロールリングを回すとマニュアルフォーカスでのピント合わせを行います。


- 割り当てられる機能は次の通りです。

 パワー絞り (開放絞り側)	Fn1 ボタンを押している間、開放絞り側に絞りが動きません。カスタムメニュー g2 [カスタムボタンの機能] の [Fn2 ボタン] が [パワー絞り (最小絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 パワー絞り (最小絞り側)	Fn2 ボタンを押している間、最小絞り側に絞りが動きません。カスタムメニュー g2 [カスタムボタンの機能] の [Fn1 ボタン] が [パワー絞り (開放絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 露出補正 (+側)	Fn1 ボタンを押している間、+側に露出補正を行います。カスタムメニュー g2 [カスタムボタンの機能] の [Fn2 ボタン] が [露出補正 (-側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 露出補正 (-側)	Fn2 ボタンを押している間、-側に露出補正を行います。カスタムメニュー g2 [カスタムボタンの機能] の [Fn1 ボタン] が [露出補正 (+側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 ターゲット追尾	AFエリアモードがオートエリアAFの場合にボタンを押すと、フォーカスポイントの形が変わってターゲット選択画面になり、ターゲット追尾AFが可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> • 割り当てたボタンまたは  (?) ボタンを押すと、ターゲット追尾AFを終了します。
 格子線表示	ボタンを1回押すと、撮影画面に構図用格子線を表示します。もう一度ボタンを押すと、格子線の表示を終了します。
 プロテクト	画像再生時にボタンを押すと、表示されている画像をプロテクトします。
RESET フォーカス ポイント 中央リセット	ボタンを押すと、フォーカスポイントが中央に戻ります。
 AF-ON	ボタンを押すと、 AF-ON ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
 AF-L	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。

 AE-L (ホールド)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AE-L	ボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L/AF-L	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 拡大画面との切り換え	ボタンを1回押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。
 静止画撮影	シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比16:9の静止画を撮影します。
 動画撮影	オートフォーカス時にシャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。全押しすると、動画撮影を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画撮影を終了します。 <ul style="list-style-type: none"> • [動画撮影] に設定すると、動画撮影以外にシャッターボタンを使う操作は行えません。 • 別売のワイヤレスリモートコントローラーまたはリモートコード使用時には、ワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押ししてピント合わせを行ったり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。
 撮像範囲選択	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画モード時の撮像範囲の設定を切り換えられます。動画撮影中は、撮像範囲の切り換えはできません。
WB ホワイト バランス	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、動画のホワイトバランスを設定できます。ホワイトバランスの設定によっては、サブコマンドダイヤルを回して種類を変更できます。
 ピクチャーコントロール	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ピクチャーコントロールの設定を変更できます。
 アクティブD-ライティング設定	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画のアクティブD-ライティングの設定を変更できます。

 測光モード	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画の測光モードの設定を変更できます。
AF/[+] フォーカスモード/ AFエリアモード	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとフォーカスモード、サブコマンドダイヤルを回すとAFエリアモードの設定を変更できます。
 マイク感度	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、マイク感度の設定を変更できます。
PEAK ピーキング表示	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとピーキングの感度、サブコマンドダイヤルを回すとピーキング表示色の設定を変更できます。
★ レーティング	画像再生時にボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示されている画像のレーティングの設定を変更できます。
M/A フォーカス(M/A)	レンズのコントロールリングを回すと、フォーカスモードの設定にかかわらずマニュアルフォーカス撮影が行えます。カメラのシャッターボタンの半押しや AF-ON ボタンを再度操作するとオートフォーカスで撮影が可能となります。
 パワー絞り	レンズのコントロールリングを回すと、絞り値の設定を変更します。
 露出補正	レンズのコントロールリングを回すと、露出補正の設定を変更します。
ISO ISO感度	レンズのコントロールリングを回すと、ISO感度の設定を変更します。
設定しない	ボタンは機能しません。

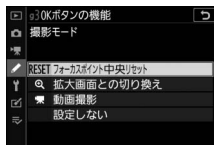
パワー絞りについて


- 撮影モード**A**または**M**のときのみ動作します。
-  マークが撮影画面に表示されているときは、パワー絞りは動作しません。
- パワー絞りの動作中は画面にちらつきが発生します。

g3 : OKボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

動画モード時に \odot ボタンを押したときの機能を設定できます。AFエリアモードがオートエリアAFの場合、設定にかかわらずターゲット追尾AF (\square 59) の設定になります。

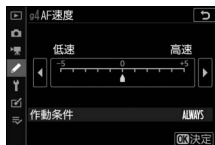


RESET フォーカスポイント中央リセット	\odot ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
\odot 拡大画面との切り換え	\odot ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度 \odot ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 [拡大画面との切り換え] を選んで \odot を押すと、拡大率を選べます。
 動画撮影	動画撮影を開始します。もう一度 \odot ボタンを押すと、動画撮影を終了します。
設定しない	\odot ボタンは機能しません。

g4 : AF速度

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

動画モードの場合のピント合わせの速度を設定できます。



設定したAF速度が有効な条件を【作動条件】で設定します。

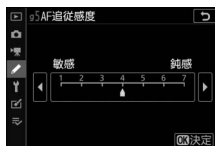
ALWAYS 常時有効	動画モードの間は常に設定したAF速度で動作します。
REC 記録中のみ有効	動画撮影中のみ設定したAF速度で動作します。それ以外は最高速 (+5) でピントを合わせます。

g5 : AF追従感度

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

動画モード時の被写体にピントを合わせる感度を1~7の範囲で設定できます。

- [7 (鈍感)] に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。
- [1 (敏感)] に設定すると、被写体がフォーカスポイントから外れた場合、フォーカスポイントの範囲内にある他の被写体にすぐにピントを合わせます。



g6：ハイライト表示

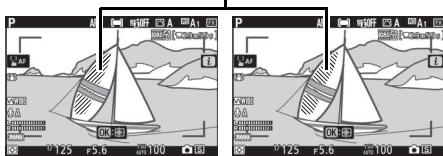
MENUボタン →  カスタムメニュー

動画モード時に、ハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示できます。

表示パターン

[パターン1] または [パターン2] を選ぶと、動画モード時にハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示できます。

ハイライトされている部分



パターン1

パターン2

ハイライト表示のしきい値

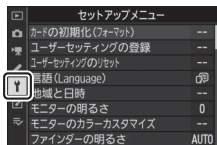
ハイライト表示時に、どの程度の明るさをハイライトとして扱うかを設定できます。値が小さいほど暗い部分もハイライトとして表示します。**[255]** を選ぶと白とびする部分だけがハイライトされます。

ハイライト表示について

フォーカスモードがマニュアルフォーカスの場合、ハイライト表示およびピーキング表示の両方を有効にしているとピーキング表示のみ表示されます。マニュアルフォーカス時にハイライト表示したい場合は、カスタムメニュー d10 [ピーキング表示] の [ピーキングの検出] を [しない] に設定してください。

🔑 セットアップメニュー： カメラを使いやすくする基本設定

メニュー画面で🔑タブを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。




セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
カードの初期化 (フォーマット)	302	電子音	314
ユーザー設定の登録	302	タッチ操作	315
ユーザー設定のリセット	302	HDMI	315
言語 (Language)	302	位置情報	316
地域と日時	303	リモコン (WR) 設定	316
モニターの明るさ	303	リモコン (WR) のFnボタンの機能	318
モニターのカラーカスタマイズ	304	機内モード	318
ファインダーの明るさ	305	スマートフォンと接続	319
ファインダーのカラーカスタマイズ	305	PCと接続	319
表示パネルの明るさ	305	ワイヤレストランスミッター (WT-7)	319
モニターモードの限定	306	認証マークの表示	319
インフォ画面の表示設定	306	電池チェック	320
AF微調節	307	カードなし時リリース	321
レンズ情報手動設定	308	カメラ設定の保存と読み込み	321
イメージセンサークリーニング	309	カメラの初期化	325
イメージダストオフデータ取得	310	ファームウェアバージョン	325
画像コメント	312		
著作権情報	313		

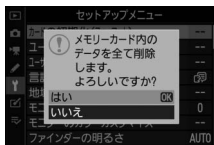
📌 関連ページ

「セットアップメニューの初期設定」(📖154)

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン →  セットアップメニュー


メモリーカードを初期化（フォーマット）します。初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。



カードの初期化についてのご注意


[カードの初期化（フォーマット）中です。] のメッセージが画像モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出さないでください。

ユーザーセッティングの登録

MENUボタン →  セットアップメニュー


よく使う機能（ユーザーセッティング）を、あらかじめ撮影モードダイヤルU1～U3に登録できます（□76）。

ユーザーセッティングのリセット

MENUボタン →  セットアップメニュー


登録したユーザーセッティングをリセットします（□78）。

言語（Language）

MENUボタン →  セットアップメニュー


メニュー画面やメッセージの表示言語を設定できます。お買い上げの国や地域によって、表示される言語は異なります。

地域と日時


MENUボタン →  セットアップメニュー



現在地と日時、年月日の表示順を設定します。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、[日時の設定] で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	[現在地の設定] で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	日付の年、月、日の表示順を選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間が実施されている場合は [する] に、そうでない場合は [しない] に設定します。[する] にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は [しない] です。

カメラの内蔵時計の設定が初期化されている場合、撮影画面に  マークが表示されて警告します。

モニターの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

画像モニターの明るさをマルチセレクターの   を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。

[モニターの明るさ] は、画像モニターが表示されている状態で調整してください。ファインダーを見ている状態や、モニターモードが [ファインダーのみ] の場合は調整できません。

モニターの色調カスタマイズ

MENUボタン → Yセットアップメニュー

画像モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

- **[モニターの色調カスタマイズ]** は、画像モニターが表示されている状態で調整してください。ファインダーを見ている状態や、モニターモードが **[ファインダーのみ]** の場合は調整できません。
- マルチセクターで画像モニターの色みを調整できます。▲▼◀▶を押すたびに、画像モニターの色みが次のように変わります。OKボタンを押すと決定します。

グリーンが強くなる




マゼンタが強くなる





- 画像モニターの色みを調整すると、撮影画面やメニュー表示、画像再生時の表示全てに反映されますが、撮影した画像または動画には反映されません。
- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がメモリーカード内がない場合、グレーで表示されます。
- **Q (?)** ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面で **Q** ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。




ファインダーの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

ファインダーの明るさを調整できます。[ファインダーの明るさ]は、ファインダーを見ている状態で調整してください。画像モニターが表示されている状態や、モニターモードが[モニターのみ]の場合は調整できません。


オート	周囲の明るさによってファインダーの明るさを自動で調整します。
マニュアル	マルチセレクターの   を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。

ファインダーのカラーカスタマイズ



MENUボタン →  セットアップメニュー

ファインダーの色調を好みに合わせて変更できます。[ファインダーのカラーカスタマイズ]は、ファインダーを見ている状態で調整してください。画像モニターが表示されている状態や、モニターモードが[モニターのみ]の場合は調整できません。調整方法は[モニターのカラーカスタマイズ] (□304) と同様です。


表示パネルの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー



表示パネルの明るさを調整できます。

オート	周囲の明るさによって表示パネルの明るさを自動で調整します。
マニュアル	マルチセレクターの   を押して調整できます。
表示しない	表示パネルを常に消灯します。


モニターモードの限定

MENUボタン →  セットアップメニュー

モニターモード切り換えボタンを押して切り換えられるモニターモードを設定できます。

- 項目を選んでマルチセレクターの  を押すと、オン とオフ を切り換えられます。チェックボックスをオン にした項目のみ選べるようになります。
-  ボタンを押すと、設定を完了します。

インフォ画面の表示設定

MENUボタン →  セットアップメニュー

明るい場所や暗い場所で画像モニターが気づらいときにインフォ画面の見え方を設定できます。




黒文字表示



白文字表示



B 黒文字	明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターが点灯し、文字を黒く表示します。
W 白文字	暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

AF微調節

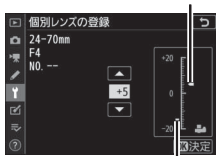
MENUボタン →  セットアップメニュー

装着したレンズのピント位置を、好みなどに合わせて微調節できます。

- 必要な場合のみAF微調節を行ってください。
- AF微調節は、普段の撮影でよく使用する撮影距離で行うことをおすすめします。たとえば、近い距離でAF微調節を行った場合、遠い被写体に対してはAF微調節の効果が低下することがあります。

AF微調節 (する/しない)	<ul style="list-style-type: none">• する：AF微調節の設定が有効になります。• しない：AF微調節を行いません。
個別レンズの登録	<p>装着しているレンズの微調節値を登録できます。マルチセレクターの  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。• 画面には今回の微調節値と、前回設定した微調節値が表示されます。• 最大30種類のレンズを登録できます。• すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズを登録すると微調節値が上書きされます。
その他レンズの登録	<p>[個別レンズの登録] で登録していないレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。</p>

今回の微調節値



前回設定した微調節値

個別レンズ登録リスト

【個別レンズの登録】で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで \blacktriangleleft を押すと、【識別番号入力】画面が表示されます。

- 【識別番号入力】画面では、レンズの識別番号を変更できます。 \blacktriangleleft \blacktriangleright を押して識別番号を選んで、 \odot ボタンを押します。【個別レンズの登録】は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておくことで、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。



✓ 登録したレンズを削除するには

【個別レンズの登録】で登録したレンズを削除するには、【個別レンズ登録リスト】画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、 \mathbb{B} ボタンを押します。


レンズ情報手動設定

MENU ボタン \rightarrow \mathbb{Y} セットアップメニュー

別売のマウントアダプターを使用して装着する非CPUレンズの情報を登録します。非CPUレンズの焦点距離と開放絞り値をカメラに登録することにより、手ブレ補正機能（ボディ手ブレ補正）などカメラの一部の機能が使えるようになります。

レンズNo.	レンズ情報を登録するレンズNo.を選びます。
焦点距離 (mm)	レンズの焦点距離を選びます。
開放絞り値	レンズの開放絞り値を選びます。

イメージセンサークリーニング

MENUボタン →  セットアップメニュー

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

実行	イメージセンサークリーニングを実行します。
電源スイッチに連動	<ul style="list-style-type: none">• 電源 OFF で実行：電源 OFF と同時にイメージセンサークリーニングが作動します。• 実行しない：電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

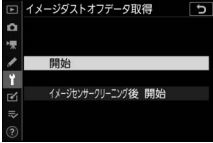
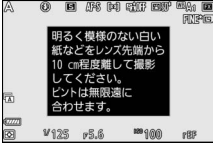
イメージダストオフデータ取得

MENUボタン → Yセットアップメニュー

NX Studioの「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面に付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、NX Studioのヘルプをご覧ください。

イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

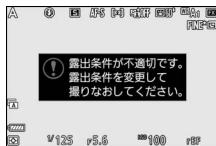
- [開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、
[イメージダストオフデータ取得] 画面
が表示されます。

- [イメージセンサークリーニング後 開始]
を選んで **OK** ボタンを押すと、すぐにイ
メージセンサークリーニングを実行しま
す。イメージセンサークリーニングの実
行後に、[イメージダストオフデータ取
得] 画面が表示されます。

- データ取得を取り消したいときは、**MENU** ボタンを押してください。

2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、画像モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、画像モニターにメッセージが表示されて手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



✓ イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致なくなるため、NX Studioのイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、[イメージセンサークリーニング後 開始] を選択後に撮影することをおすすめします。

✓ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- お使いになるレンズは、FXフォーマットで焦点距離が50mm以上のレンズをおすすめします。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- [サイズM] または [サイズS] で撮影したRAW画像は、NX Studioのイメージダストオフ機能を使用できません。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、図のように表示されます。



画像コメント

MENUボタン → Yセットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、NX Studioの【情報】タブで確認できます。

コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。【コメント入力】を選んでマルチセクターの▶を押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(P165)をご覧ください。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、【コメント添付】を選んで▶を押し、チェックボックスをオンにします。OKボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。




画像情報に表示される画像コメントについて


入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます。

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、NX Studioの【情報】タブで確認できます。

撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。【撮影者名入力】または【著作権者名入力】を選んでマルチセクターの  を押すと名前の入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(□165) をご覧ください。

著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、【著作権情報添付】を選んで  を押し、チェックボックスをオン にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



✓ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、【著作権情報添付】の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- 【著作権情報】の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

✓ 画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます。

電子音設定

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

- **[電子音設定]** を **[有効]** に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
 - セルフタイマー作動中
 - タイムラプス動画撮影終了時
 - 静止画モードでオートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、フォーカスモードが**AF-C**のとき、およびカスタムメニュー a2 **[AF-Sモード時の優先]** が **[リリース]** の場合は、電子音は鳴りません）
 - タッチパネル操作時
- **[タッチ音無効]** を選ぶと、タッチパネル操作時の電子音のみ鳴らないようにできます。
- 静止画撮影メニュー **[サイレント撮影]** が **[する]** の場合は、**[電子音]** の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音とセルフタイマー作動時の電子音は鳴りません。


音量

電子音の音量を設定できます。

音の高さ

電子音の音の高さを **[高音]** と **[低音]** から選べます。

タッチ操作

MENUボタン →  セットアップメニュー



画像モニターのタッチ操作の機能を設定できます。

タッチ操作の設定


タッチ操作の有効または無効を切り換えられます。[再生時のみ有効]を選ぶと、再生画面でのみタッチ操作ができます。

1コマ送り時のフリック操作

1コマ表示モードで、次の画像を表示するフリック操作を設定できます。


 左←右	画像モニターの右側から左側にフリックすると、次の画像が表示されます。
 左→右	画像モニターの左側から右側にフリックすると、次の画像が表示されます。

HDMI

MENUボタン →  セットアップメニュー

HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます (□361)。


位置情報

MENUボタン →  セットアップメニュー

SnapBridgeアプリを使用してスマートフォンから位置情報を取得したときや、GPS機器と接続して位置情報を取得したときの設定を変更できます。スマートフォンからの位置情報の取得方法については、詳しくはSnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。

半押し タイマー	GPS機器を接続しているときに [有効] を選ぶと、カメラを操作していないとき、カスタムメニューc3 [パワーオフ時間] の [半押しタイマー] で設定された時間で半押しタイマーがオフになります。カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。
情報表示	スマートフォンまたはGPS機器から取得した情報を表示します。表示される項目は、接続した機器によって異なります。
衛星による 日時合わせ	[する] を選ぶと、GPS機器から取得した日時情報の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。

リモコン (WR) 設定

MENUボタン →  セットアップメニュー






別売のワイヤレスリモートコントローラーWR-R10を装着している場合に、LEDランプの点灯とリンクモードを設定できます。また、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応した別売スピードライトとワイヤレス接続する場合にも使用できます。

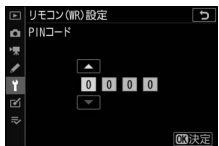
LEDランプの点灯

カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラーWR-R10の動作状態を表すLEDランプを点灯させるかどうかを設定できます。LEDランプが表す動作状態については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書をご覧ください。

リンクモード

他のカメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 や、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応したスピードライトと接続する方法を選べます。接続する機器も、必ず同じ設定を選んでください。

ペアリング	カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 のペアリングボタンを押して、接続する機器とペアリングを行います。
PINコード	任意の数字4桁のPINコードを入力できます。マルチセクターの   で桁を選んで、   で数値を変更します。  ボタンを押すと設定が変更され、画面に設定したPINコードが表示されます。




- ペアリング済みのワイヤレスリモートコントローラーからの電波は、[リンクモード] の設定にかかわらずWR-R10で受信できます。ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 をご使用の場合、WR-1のリンクモードをペアリングモードに設定してください。












ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を使用するには

WR-R10のファームウェアをVer3.0以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。


リモコン (WR) のFnボタンの機能

MENUボタン →  セットアップメニュー

Fnボタンのある別売のワイヤレスリモートコントローラーで、Fnボタンを押したときの機能を以下の項目から設定できます。各項目についての詳しい説明は、カスタムメニューf2 [カスタムボタンの機能] をご覧ください。

項目	項目
 AF-ON	 FV-L
 AF-L	  発光禁止/許可切換
  AE-L (レリーズでリセット)	 プレビュー
 AE-L	+  プラスRAW記録
 AE-L/AF-L	設定しない


機内モード

MENUボタン →  セットアップメニュー

[有効] にすると、BluetoothおよびWi-Fiを使った無線通信をOFFにすることができます。


- 内蔵無線機能以外の無線通信機器との接続を無効にする場合は、カメラから無線通信機器を取り外してください。

スマートフォンと接続

MENUボタン →  セットアップメニュー


カメラとスマートフォンの接続設定などを行えます。スマートフォンとの接続方法は、SnapBridgeアプリのヘルプや「ネットワークガイド」をご覧ください。

PCと接続

MENUボタン →  セットアップメニュー


カメラに内蔵されたWi-Fi機能を使用してパソコンと接続するときの設定ができます。詳しくは「ネットワークガイド」をご覧ください。

ワイヤレストランスミッター (WT-7)

MENUボタン →  セットアップメニュー

別売のワイヤレストランスミッターWT-7を装着して有線LANまたは無線LANでパソコンやFTPサーバーと通信する場合の設定を行います。このメニュー項目は、WT-7を装着したときのみ設定できます。詳しくはWT-7の使用説明書をご覧ください。

認証マークの表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。


ヒント：ネットワーク接続について

カメラをパソコンやスマートフォンと無線で接続する方法については、「ネットワークガイド」をご覧ください。ネットワークガイドは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

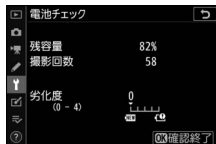
Z 7 : https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/492/Z_7.html



Z 6 : https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/493/Z_6.html

電池チェック

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが5段階のバーグラフで表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• バーグラフが「0」() のときは、バッテリーは劣化していません。• バーグラフが「4」() のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。


✓ 撮影回数について

[撮影回数] に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

✓ 低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、[電池チェック] で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。


カードなし時リリース

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラにメモリーカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK リリース許可	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には [デモモード] と表示され、画像は記録できません。

カメラ設定の保存と読み込み

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数の同一機種を同じ設定で使う場合などに便利です。設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	連続撮影後の再生画像
	縦位置自動回転

静止画撮影メニュー	ファイル名設定
	撮像範囲設定
	画質モード
	画像サイズ
	RAW記録
	ISO感度設定
	ホワイトバランス
	ピクチャーコントロール（登録されたカスタムピクチャーコントロールは [オート] で保存します）
	色空間
	アクティブD-ライティング
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
	ヴィネットコントロール
	回折補正
	自動ゆがみ補正
	フリッカー低減撮影
	測光モード
	フラッシュ発光
	フラッシュモード
	フラッシュ調光補正
	フォーカスモード
	AFエリアモード
	手ブレ補正（設定は装着したレンズにより異なります）
	オートブラケティング
サイレント撮影	

動画撮影メニュー	ファイル名設定
	撮像範囲設定
	画像サイズ/フレームレート
	動画の画質
	動画記録ファイル形式
	ISO感度設定
	ホワイトバランス
	ピクチャーコントロール（登録されたカスタムピクチャーコントロールは [オート] で保存します）
	アクティブD-ライティング
	高感度ノイズ低減
	ヴェネットコントロール
	回折補正
	自動ゆがみ補正
	フリッカー低減
	測光モード
	フォーカスモード
	AFエリアモード
	手ブレ補正（設定は装着したレンズにより異なります）
	電子手ブレ補正
	マイク感度
	アッテネーター
録音帯域	
風切り音低減	
ヘッドホン音量	
タイムコード（[タイムコードの起点] を除く）	
カスタムメニュー	d3 [連動リリースモード設定] を除く全メニュー

セットアップ メニュー	言語 (Language)
	地域と日時 ([日時の設定] を除く)
	モニターモードの限定
	インフォ画面の表示設定
	レンズ情報手動設定
	イメージセンサークリーニング
	画像コメント
	著作権情報
	電子音
	タッチ操作
	HDMI
	位置情報 ([情報表示] を除く)
	リモコン (WR) 設定
	リモコン (WR) のFnボタンの機能
カードなし時リリース	

保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。


読み込み

メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、[読み込み] は選べません。

✓ 設定データについてのご注意

メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSET***」です。「***」に入る文字はカメラの機種によって異なります。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。


カメラの初期化

MENUボタン →  セットアップメニュー

セットアップメニュー [言語 (Language)] と [地域と日時] を除く、全ての設定をリセットして初期設定に戻します。著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元には戻せないのでご注意ください。

あらかじめセットアップメニュー [カメラ設定の保存と読み込み] で設定データを保存しておくことをおすすめします。

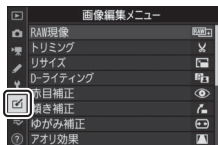
ファームウェアバージョン

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

📁 画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能

メニュー画面で📁タブを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニューでは、メモリーカード内の撮影済み画像を編集することができます。

- カメラにメモリーカードが入っていない場合やメモリーカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選択できません。
- 編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてメモリーカードに記録されます。
- 画像編集メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目		メニュー項目	
RAW現像	329	ゆがみ補正	337
トリミング	332	アオリ効果	338
リサイズ	333	画像合成※1	339
D-ライティング	335	動画編集 (始点/終点設定)	342
赤目補正	336	編集前後の画像表示※2	342
傾き補正	336		

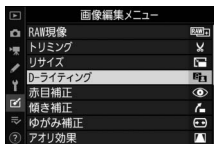
※1 MENUボタンを押して、タブの📁アイコンを選んだときのみ表示されます。

※2 編集前または編集後の画像を選んでiボタンを押し、「画像編集」を選んだときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

マルチセクターの \odot \ominus でメニュー項目を選び、 \odot を押します。



2 画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選びます。
- \odot ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



- 画像を選んで \odot ボタンを押すと、編集画面が表示されます。

3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU**ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- \odot ボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には \square が付きます。



✔ 選んだ画像を編集する

編集したい画像を再生し、**i** ボタンを押して [画像編集] を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

✔ 画像編集についてのご注意

- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらくすると、画像モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニューc3 [パワーオフ時間] の [メニュー表示] の時間を長く設定することをおすすめします。

✔ 繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、褪せたりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません ([動画編集 (始点/終点設定)] を除く)。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

✔ 画質モードについて

- 元画像がTIFF (RGB) またはRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画質モード] が [FINE★] のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAW画像とJPEG画像を同時に記録した場合は、RAW画像が画像編集の対象になります。

✔ 画像サイズについて


画像編集した画像は、元画像と同じ画像サイズで記録されます ([RAW現像]、[トリミング] および [リサイズ] を除く)。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン →  画像編集メニュー

RAWを含む画質モードで記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像を一度にRAW現像できます。

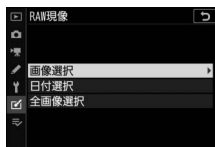
1 画像編集メニュー画面で [RAW現像] を選ぶ

[RAW現像] を選んでマルチセレクターの  を押します。



2 画像の選択方法を選ぶ







画像選択	選んだRAW画像をRAW現像します。複数のRAW画像を選んで一括でRAW現像することもできます。
日付選択	選択した日付に撮影したRAW画像を一括でRAW現像します。
全画像選択	メモリーカード内の全てのRAW画像を一括でRAW現像します。



[全画像選択] を選んだ場合は手順4にお進みください。






3 RAW現像する画像を選ぶ

[画像選択] を選んだ場合：

- マルチセレクトでRAW現像する画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
-  (?) ボタンを押して設定します。設定するとが表示されます。もう一度 (?) ボタンを押すと、が消えます。選んだ全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。
-  ボタンを押して決定します。



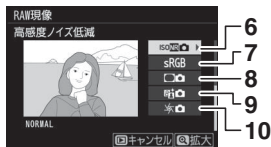
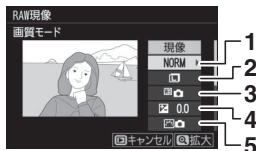
[日付選択] を選んだ場合：

- 日付を選んでを押すと、チェックボックスのオンとオフを切り換えられます。
- チェックボックスがオンになった日付の全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。
-  ボタンを押して決定します。



4 表示されている項目をそれぞれ設定する

- プレビュー画像の下には、撮影時の設定が表示されています。
- [撮影時設定] がある項目で [撮影時設定] を選ぶと、それぞれのRAW画像の撮影時の設定でRAW現像します。



1	画質モード	169	6	高感度ノイズ低減	186
2	画像サイズ	170	7	色空間	184
3	ホワイトバランス	174	8	ヴィネットコントロール	186
4	露出補正	84	9	アクティブD-ライティング	184
5	ピクチャーコントロール	179	10	回折補正	187

5 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- 複数の画像を一度に処理する場合、[現像] を選んで **OK** ボタンを押し、確認画面で [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**戻る** ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意




- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- [露出補正] で設定できる明るさ (-2~+2) は、通常の露出補正の段数とは異なります。

トリミング

MENU ボタン →  画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする	 (?) ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広がります。
画像のアスペクト比 (縦横比) を変更する	メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する	マルチセレクターを押してトリミングで切り抜く範囲を移動します。
トリミングを実行して 画像を保存する	 ボタンを押すと、トリミングした画像が記録されます。

トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比（横：縦）により変わります。



リサイズ


MENUボタン →  画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。

複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する





MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

1 画像編集メニュー画面で [リサイズ] を選ぶ

[リサイズ] を選んでマルチセクターの  を押します。




2 画像サイズを設定する

- [画像サイズの設定] を選んで  を押します。
-   で画像サイズを選び、 ボタンを押します。




3 [画像選択] を選ぶ

[画像選択] を選んで  を押すと、画像の選択画面が表示されます。








4 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターでリサイズしたい画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。




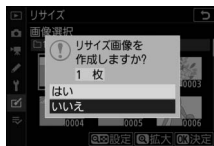
5 設定する

-  (?) ボタンを押して設定します。設定すると  が表示されます。もう一度  (?) ボタンを押すと、 が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、 ボタンを押します。



6 リサイズ画像を作成する

確認画面で **はい** を選んで  ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



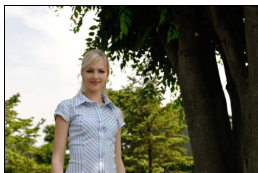
リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
- 静止画撮影メニュー **撮像範囲設定** を **[5:4 (30×24)]** (Z7のみ)、**[1:1 (24×24)]** または **[16:9 (36×20)]** にして撮影した画像は、リサイズできません。

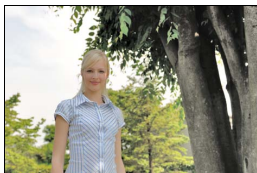
D-ライティング

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。






D-ライティング前



D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。


- マルチセレクターの   を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



赤目補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。




赤目補正についてのご注意

- 赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。
 - 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
 - ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。
- 赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

傾き補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の傾きを $\pm 5^\circ$ の範囲（約 0.25° ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの  を押すと、傾きを補正できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。






ゆがみ補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- [自動ゆがみ補正] を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。
- マルチセクターの  を押すと糸巻き型のゆがみを、 を押すとたる型のゆがみを補正できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。






ゆがみ補正についてのご注意

補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

アオリ効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの     でアオリの効果を調節できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



アオリ効果処理前

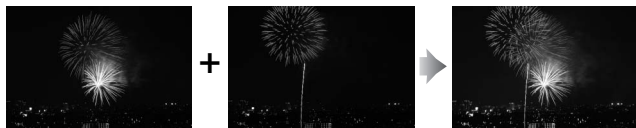


アオリ効果処理後


画像合成

MENUボタン →  画像編集メニュー

メモリーカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。





1 画像編集メニュー画面で [画像合成] を選ぶ

[画像合成] を選んでマルチセレクターの  を押すと、画像編集画面が表示され、[画像1] 欄がハイライト表示されます。




2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

-  ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 1コマ目の画像を決定する

 ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、[画像1] 欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

👉を押して [画像2] を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に [画像1] と [画像2] を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、[画像1] または [画像2] を選んでから👈👉を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



6 プレビュー欄に移動する

- 👈👉を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、[保存] を選んで👉ボタンを押してください。



7 合成画像を確認する

- [合成] を選び、👉ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、🔍(?) ボタンを押してください。手順5の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

もう一度 \odot ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



✓ 画像合成についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影した静止画撮影メニュー [画像サイズ] の [RAW] が [サイズL] のRAW画像だけです。機種異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像は [画質モード] が [FINE★] のJPEG画像になります。
- 次の項目の設定が同じRAW画像のみ合成できます。
 - [撮像範囲設定]
 - [RAW記録] の [記録ビットモード]
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など）は、[画像1] で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

動画編集（始点/終点設定）

MENUボタン → 画像編集メニュー

撮影した動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残すことができます（□136）。

編集前後の画像表示

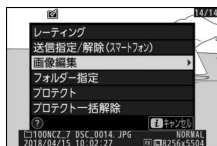
画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を選んで*i*ボタンを押し、**[画像編集]**を選んだときのみ表示されます。

編集前後の画像表示方法

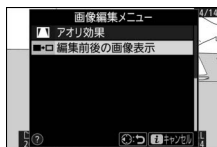
- 1 画像編集で作成した画像（が表示されている画像）または画像編集の元画像を選ぶ



- 2 *i*ボタンを押して**[画像編集]**を選ぶ
*i*メニューから**[画像編集]**を選んでOKボタンを押します。



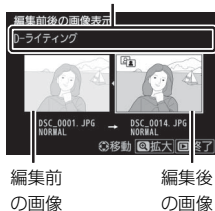
- 3 **[編集前後の画像表示]**を選ぶ
[編集前後の画像表示]を選んでOKボタンを押すと、**[編集前後の画像表示]**画面を表示します。



4 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクトターの \odot \odot で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、 \odot \odot で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、 \odot \odot で編集後の画像を切り換えられます。
- \times ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- \odot ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示します。
- \square ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

画像編集の内容

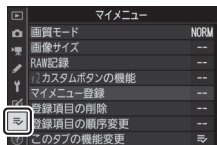


✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

- プロテクトされている画像を編集した場合は、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合、編集前の画像は表示されません。

≡ マイメニュー / Ⓛ 最近設定した項目

メニュー画面で≡タブを選ぶと、[マイメニュー] 画面が表示されます。



≡ マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

■ マイメニューを登録する

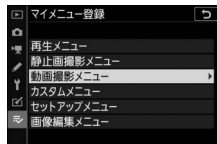
1 [≡マイメニュー] 画面で [マイメニュー登録] を選ぶ

[マイメニュー登録] を選んで、マルチセレクトターの▶を押します。



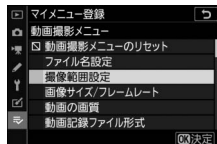
2 登録したいメニューを選ぶ

登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



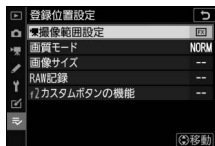
3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

マイメニューに登録する項目を選んでⓁボタンを押します。



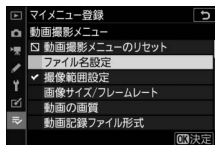
4 登録する項目の表示位置を選ぶ

⬆️⬇️で登録する項目の表示位置を選んで、OKボタンを押します。




5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

- ✓が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に☑が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1~4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。




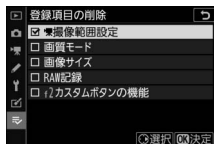
■ 登録した項目を削除する

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の削除] を選ぶ



[登録項目の削除] を選び、マルチセクターの  を押します。

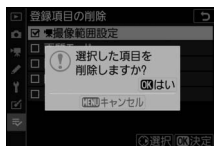
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

-  を押すと、項目のチェックボックスが になります。
- 削除したい全ての項目に を入れます。





3 選んだ項目を削除する


 ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度  ボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。




登録した項目をボタン操作で削除するには

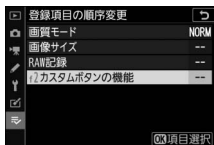
[マイメニュー] 画面で削除したい項目を選んで  ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度  ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

■ 登録した項目の表示順序を変える




- 1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ
[登録項目の順序変更] を選び、マルチセレクターの  を押します。

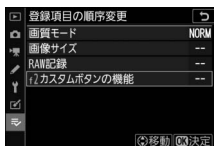
- 2 順番を変えたい項目を選ぶ

順番を変えたい項目を選んで、 ボタンを押します。



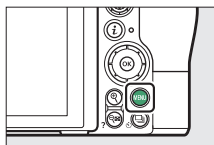
- 3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

-   で移動したい位置を選んで、 ボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2~3を繰り返します。




- 4 [マイメニュー] 画面に戻る

MENU ボタンを押すと、[マイメニュー] 画面に戻ります。




■ ■ マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する

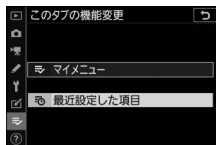
1 [マイメニュー] 画面で [このタブの機能変更] を選ぶ

[このタブの機能変更] を選び、マルチセクターの  を押します。



2 [最近設定した項目] を選ぶ

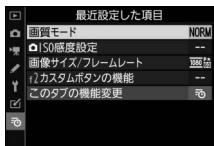
- [このタブの機能変更] 画面で [最近設定した項目] を選んで、 ボタンを押します。
- [マイメニュー] が [最近設定した項目] に切り替わります。



🔍 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。



✓ 最近設定した項目を削除するには

「最近設定した項目」画面で削除したい項目を選んで🔍ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🔍ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

✓ 「最近設定した項目」からマイメニューに戻すには

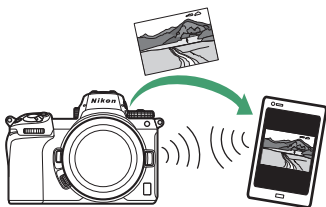
「最近設定した項目」の「このタブの機能変更」を選ぶと、「マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する」(🔍348)の手順2と同じ画面が表示されます。「マイメニュー」を選んで🔍ボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。

他の機器と接続する

カメラと他の機器を接続すると、カメラの楽しみ方が広がります。

スマートフォンと接続する

SnapBridgeアプリを使用して、カメラとスマートフォンを無線で接続すると、カメラで撮影した画像をスマートフォンに転送したり、スマートフォンでカメラをリモート操作したりできます。



- SnapBridgeアプリはApple App Store® またはGoogle Play™でダウンロードできます。
- SnapBridgeアプリの最新情報については当社ホームページでご確認ください。
- SnapBridgeアプリを使用したカメラとスマートフォンの接続方法や詳しい使い方は、アプリのヘルプをご覧ください。



Download on the
App Store



GET IT ON
Google Play

ヒント：ネットワーク接続について

カメラをパソコンやスマートフォンと無線で接続する方法については、「ネットワークガイド」をご覧ください。ネットワークガイドは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

Z7：https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/492/Z_7.html

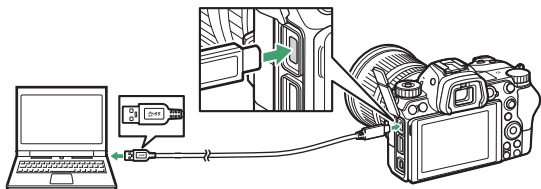
Z6：https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/493/Z_6.html

パソコンと接続する

カメラをパソコンに接続すると、撮影した画像をパソコンに取り込めます。カメラとパソコンを接続するには、USBケーブルを使用する方法と無線LANで接続する方法があります。

USBケーブルで接続する

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続できます。ニコンのソフトウェアNX Studioをインストールすると、画像の転送、閲覧、および調整ができます。



■■ NX Studioをインストールする

NX Studioのインストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

- 下記のホームページからNX Studioの最新のインストーラーをダウンロードし、画面の指示に従ってインストールしてください。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

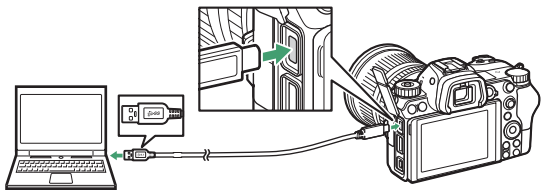
- 最新のバージョンではない場合、カメラの画像が転送できないことがあります。

■ NX Studioを使ってパソコンに画像を取り込む

NX Studioの詳しい使い方はヘルプをご覧ください。

1 パソコンに接続する

メモリーカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続します。



ヒント：カードリーダーを使用する場合

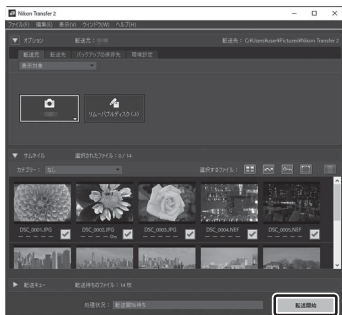
市販のカードリーダーを使用して画像を転送することもできます。その場合、カードリーダーがお使いのメモリーカードに対応しているかご確認ください。

2 カメラの電源をONにする

- NX StudioのNikon Transfer 2が起動します。Nikon Transfer 2は、NX Studioをインストールすると一緒にインストールされる画像転送ソフトウェアです。
- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選んでください。
- 自動で起動しない場合、NX Studioを起動して「取り込む」アイコンをクリックしてください。

3 [転送開始] をクリックする

記録されている画像がパソコンに取り込まれます。



4 カメラの電源をOFFにする

USBケーブルを抜いて接続を解除してください。

✓ Windows 10またはWindows 8.1をお使いの場合

パソコンの設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。

この場合は、表示されたダイアログをクリックしてから、**[画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2]** をクリックしてNikon Transfer 2を選びます。



✔ macOSをお使いの場合

Nikon Transfer 2が自動起動しないときは、カメラとパソコンを接続した状態で、macOS付属アプリケーションのイメージキャプチャを起動し、カメラを接続時に開くアプリケーションとしてNikon Transfer 2を設定してください。

✔ 動画を転送する場合のご注意

このカメラで使用したメモリーカードを他機種のカメラに入れて、そのカメラから動画を転送しないでください。動画が転送されないままファイルが削除されるおそれがあります。

✔ パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源を OFF にしたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

✔ USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンに接続すると、正しく動作しないことがあります。カメラはパソコンに標準装備されたUSBポートへ接続してください。

無線LAN (Wi-Fi) で接続する

詳しい接続方法については、「ネットワークガイド」をご覧ください。

■ カメラのWi-Fi通信機能を使用して接続する

セットアップメニュー [PCと接続] を使用すると、カメラとパソコンをWi-Fiで接続できます。アクセスポイントにカメラを接続してネットワーク上のパソコンに画像を送信したり、カメラとパソコンを直接Wi-Fiで接続できます。



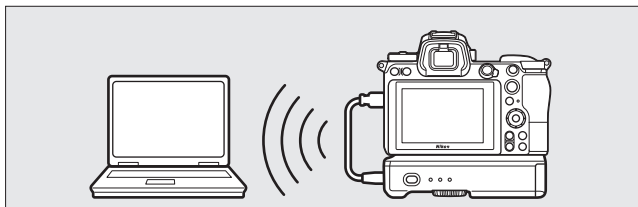
アクセスポイントを経由した
ネットワーク接続



パソコンと無線接続

■ WT-7を使用して接続する

カメラに別売のワイヤレストランスミッター WT-7を接続すると、セットアップメニュー [ワイヤレストランスミッター (WT-7)] が使用できるようになります。別売のCamera Control Pro 2でカメラをコントロールしたり、撮影した画像をパソコンに保存することも可能です。

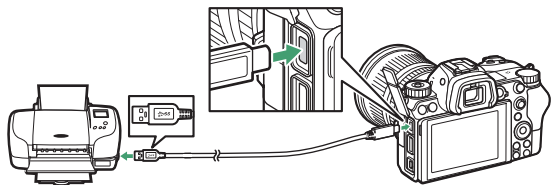


- WT-7を使用すると、パソコンまたはFTPサーバーに接続できます。
- 有線LANで接続することもできます。
- カメラのWi-Fi通信機能よりも安定した接続が可能です。

プリンターと接続する

PictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルで直接接続してメモリーカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



- カメラとプリンターの電源をONにすると、画像モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

✓ ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、静止画撮影メニュー【色空間】を【sRGB】に設定して撮影してください。

✓ USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証していません。

✓ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像およびTIFF画像はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニュー【RAW現像】で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- 【フチ設定】と【範囲指定】は、それぞれの機能に対応していないプリンターでは選べません。なお、【範囲指定】で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選んで \odot ボタンを押す

- マルチセクターの \odot \odot を押してプリントしたい画像を選びます。
- 1コマ表示中に \odot ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します。 \square ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- \odot (?) ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。 \odot ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

2 プリント設定の項目を設定する

[プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで \odot を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□358)をご覧ください。

3 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、 \odot ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 \odot ボタンを押してください。

■ ■ プリント設定項目について

用紙設定※	プリントする用紙のサイズを選んで \odot ボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	プリントする枚数(1~99枚)を設定して \odot ボタンを押します。
フチ設定※	[あり]を選んで \odot ボタンを押すと、画像にフチを付けてプリントします。
日付プリント※	[あり]を選んで \odot ボタンを押すと、画像に日付をプリントします。
範囲指定	[する]を選んでマルチセレクターの \blacktriangleright を押すと、[範囲指定]画面が表示されます。プリント範囲(黄色の枠)は \mathbb{Q} (?)ボタンを押すと狭くなり、 \mathbb{Q} ボタンを押すと広がります。マルチセレクターを操作するとプリント範囲が移動します。プリント範囲を決定するには \odot ボタンを押します。

※ プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に[プリンターの設定]を選んでください。

複数の画像をプリントする

1 カメラとプリンターを接続し (□356)、撮影した画像が表示されたらMENUボタンを押す

2 プリント方法を選んで、プリントする画像や枚数を設定する
プリント方法を選んでマルチセレクターの▶を押します。

プリント 画像選択	プリントする画像と枚数を選んでプリントします。 <ul style="list-style-type: none">▶▶を押してプリントする画像を選び、▶▶を押して枚数(1~99枚)を設定して、▶ボタンを押します。Qボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。プリントしない画像は枚数を0にします。
INDEX プリント	メモリーカードの中のJPEG画像を一覧できる「インデックス」をプリントします。 <ul style="list-style-type: none">[INDEXプリント] 画面が表示されたら、▶ボタンを押します。インデックスプリントできるのは256コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります(確認画面が表示されます)。用紙サイズによってはプリントできない場合があります(警告メッセージが表示されます)。

3 プリント設定の項目を設定する

[プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント]を設定できます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□358)をご覧ください。

4 プリントを開始する

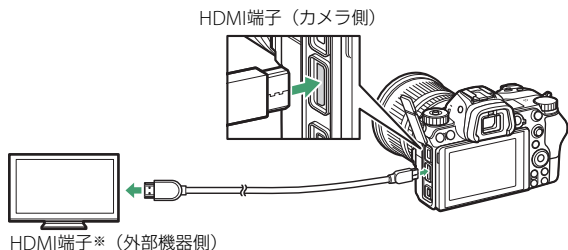
- ▶[プリント実行] を選んで▶ボタンを押すと、プリントが始まります。
- ▶プリントを中断したいときは、もう一度▶ボタンを押してください。

✔ 関連ページ

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」(□411)をご覧ください。

HDMI対応機器と接続する

カメラをHDMI端子のあるテレビや外部レコーダーなどと接続することができます。接続には、別売のHDMI端子用ケーブル（□432）または市販のHDMI端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。



※ 使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

テレビと接続する



- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

外部レコーダーと接続する

HDMIに対応した外部レコーダーに接続すると、直接HDMI機器で録画することもできます。セットアップメニュー[HDMI]で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます。一部の外部レコーダーと接続した場合、カメラ側の操作に連動して外部レコーダーの録画の開始および終了を行うこともできます。



項目	内容
出力解像度	HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。[オート]を選んだ場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。
詳細設定	HDMI対応機器接続時の詳細設定を行えます。
出力レンジ	ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGBレンジ）は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える[オート]をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選んでください。 <ul style="list-style-type: none">• [リミテッドレンジ]：RGBレンジが16～235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。• [フルレンジ]：RGBレンジが0～255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。

項目	内容
外部記録制御	<p>[する] に設定すると、Atomos Open Protocolに対応した市販の外部レコーダーとカメラをHDMIケーブルで接続したときに、カメラ側の操作に連動して外部レコーダーの動画記録の開始と終了を行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Atomos社製Monitor Recorder (SHOGUN、NINJA、SUMOシリーズ) に対応しています。機能や動作の詳細などについては、外部レコーダーの使用説明書をご覧ください。 カスタムメニューc3 [パワーオフ時間] の [半押しタイマー] で設定した時間が経過すると、画像モニターが自動的に消灯して外部レコーダーにも映像が送られなくなります。[半押しタイマー] の設定は、動画を撮影する時間よりも長い時間を設定するか、[制限なし] にすることをおすすめします。 [する] に設定すると、カメラの画像モニターにアイコン (動画記録待機中:  STBY、動画記録中:  REC) が表示されます。動画を記録するときは、外部レコーダーの表示や、外部レコーダーで動画が記録されていることをご確認ください。 [する] に設定すると、テレビなどに外部出力している場合に画像が乱れることがあります。
出力ビット数	HDMIの出力ビット数を設定できます。
N-Log設定	<p>[する (カード記録不可)] に設定すると、ハイライト側およびシャドウ側の階調とびを抑えた色飽和の少ない動画を撮影できます。カラーグレーディングすることを前提とした映像素材に最適です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画は外部レコーダーにのみ記録されます。メモリーカードには記録されません。 [出力ビット数] の設定が [10ビット] の場合のみ選べます。 動画撮影メニュー [ISO 感度設定] にある [制御上限感度] はISO 1600~25600 (Z 6はISO 1600~51200)、[Mモード時のISO感度] はISO 800~25600 (Z 6はISO 800~51200) に制限されます。
ビューアシスト	[する] に設定すると、[N-Log設定] を [する (カード記録不可)] にして記録している動画に簡易的な階調補正を適用してカメラの画像モニターに表示します。実際に記録している動画には影響ありません。

✔ HDMI出力できない場合

次の場合、HDMI出力ができません。

- 動画の画像サイズを1920×1080 120p、1920×1080 100pまたは1920×1080 スローに設定して撮影している場合
- Camera Control Pro 2と接続している場合

✔ 【出力ビット数】で【10ビット】を選んだ場合

- 接続している外部レコーダーが10ビットに対応している場合のみ、10ビットでの伝送が可能です。
- モニターモードの設定に関わらず、カメラの画像モニターが表示され、ファインダーには何も表示されなくなります。
- 動画の画像サイズを3840×2160に設定している場合、次の制限があります。
 - カメラ内のメモリーカードには動画は記録されません。
 - 画像モニターの文字やアイコンが粗く表示されます。
 - Z7の場合、撮像範囲をDXに設定すると画角が約90%になります。Z6の場合、常に画角が約90%になります。
- シャッターボタンを全押ししても、静止画は撮影できません。

✔ 拡大表示をする場合

動画の画像サイズを3840×2160に設定している場合に表示を拡大すると、1920×1080サイズで表示されます。

スピードライトをカメラに装着して撮影する

このカメラでは、別売のスピードライトを使用したフラッシュ撮影が可能です。

- フラッシュ撮影時は静止画撮影メニュー [サイレント撮影] を [しない] に設定してください。

フラッシュ撮影の方法

このカメラで別売スピードライトを使用するには、次の方法があります。

一灯撮影

カメラに装着した別売スピードライトを発光させて撮影します。次ページ以降で詳しく説明します。



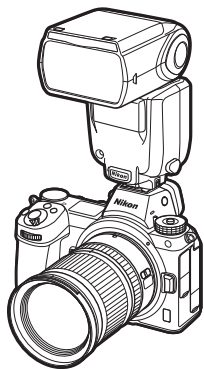
増灯撮影

カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL））。詳しくは「複数のスピードライトをワイヤレスで制御する」（□377）をご覧ください。



別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影）

- 1 カメラのアクセサリシューにスピードライトを装着する
スピードライトの装着方法については、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。



- 2 カメラとスピードライトの電源をONにする
スピードライトの充電が開始され、撮影ができる状態になると撮影画面に⚡（レディーライト）が点灯します。
- 3 発光モード（☐367）とフラッシュモード（☐369）を設定する
- 4 シャッタースピード、絞り値を設定する
- 5 撮影する

✓ 別売スピードライト使用時のシャッタースピード

別売のスピードライト使用時にカメラで設定できるシャッタースピードは次の通りです。

撮影モード	設定可能なシャッタースピード
AUTO	カメラが自動的に1/200～1/60秒にセット
P、A	カメラが自動的に1/200～1/60秒にセット※
S	1/200～30秒
M	1/200～30秒、 Bulb （バルブ）、 Time （タイム）

※ フラッシュモードをスローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモードに設定している場合は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

✓ 他社製フラッシュについてのご注意

カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるフラッシュや、アクセサリシュー部の接点をショートさせてしまうフラッシュを使用することはできません。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

✓ スピードライトの調光方式について

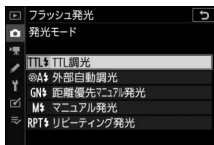
別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトをカメラに装着し、スピードライトの発光モードをTTLにセットすると、モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）になり、i-TTL-BL調光などによるフラッシュ撮影ができます。ニコンクリエイティブライティングシステム非対応のスピードライトでは、i-TTLモードでの撮影はできません。i-TTLモード時は、次のような調光方式が利用できます。

i-TTL-BL 調光	主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前にスピードライトがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。
スタンダード i-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

- カメラの測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する

ユニファイドフラッシュコントロールに対応した別売スピードライトSB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、スピードライトの発光モードや補正量などは、静止画撮影メニュー〔フラッシュ発光〕の〔発光モード〕で設定できます。選べる発光モードは装着したスピードライトによって異なります。選んだ項目によって〔発光モード〕の下に表示されるメニュー項目が変更されます。



選んだ項目によって〔発光モード〕の下に表示されるメニュー項目が変更されます。

- SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。
- SB-5000はスピードライト本体でも設定できます。

TTL調光	<ul style="list-style-type: none">• スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。• [TTL調光補正] でスピードライトの調光補正値を設定します。SB-500、SB-400またはSB-300を装着した場合、調光補正は静止画撮影メニュー〔フラッシュ調光補正〕で行えます。
外部自動調光	<ul style="list-style-type: none">• スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。• [外部自動調光補正] でスピードライトの調光補正値を設定します。• 「絞り連動外部自動調光」(A)と「外部自動調光」(A)があります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。
距離優先 マニュアル発光	<ul style="list-style-type: none">• スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。• [距離優先マニュアル発光設定] の [距離] で被写体までの距離を、[調光補正] でスピードライトの調光補正値を設定します。
マニュアル発光	<ul style="list-style-type: none">• 指定した発光量でスピードライトが発光します。• [マニュアル発光量] でスピードライトの発光量を設定します。

リピーティング 発光




- 1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。
- [リピーティング発光設定] の [発光量] でスピードライトの発光量を、[回数] で連続発光する回数を設定できます。[周波数] で発光周波数（1秒あたりの発光回数）をHz（ヘルツ）単位で設定できます。
- 最大連続発光回数は [発光量] と [周波数] の組み合わせにより異なります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。





ユニファイドフラッシュコントロールについて

ユニファイドフラッシュコントロールは、フラッシュ発光に関する各種設定をスピードライトとカメラで共有できる機能です。カメラや別売のCamera Control Pro 2からスピードライトの設定を変更したり、スピードライトで変更した設定をカメラやCamera Control Pro 2に反映したりできます。カメラに装着するスピードライトは、ユニファイドフラッシュコントロールに対応している必要があります。

フラッシュモードを設定する

静止画撮影メニュー [フラッシュモード] を設定すると、フラッシュの効果を変えることができます。設定できるフラッシュモードは、撮影モードにより異なります。

項目	内容	撮影モード
 通常発光 (先幕シンクロ)	撮影のたびにフラッシュが発光します。撮影モードを P または A にセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/200~1/60秒(オートFPハイスピードシンクロ時は1/8000~1/60秒)に自動的にセットします。	AUTO 、 P 、 S 、 A 、 M
 赤目軽減発光 (赤目軽減)	人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、カメラまたはスピードライトの赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。 <ul style="list-style-type: none">赤目軽減発光機能付きのスピードライトをご使用ください。シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください(シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすりできません)。	AUTO 、 P 、 S 、 A 、 M
 赤目軽減+スローシャッター (赤目軽減スローシンクロ)	夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 <ul style="list-style-type: none">シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。三脚の使用をおすすりします。	P 、 A

項目	内容	撮影モード
 通常発光+スローシャッター (スローシンクロ)	通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。 	P、A
 後幕発光 (後幕シンクロ)	通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光しますが、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。 <ul style="list-style-type: none"> • 撮影モードを P または A に設定した場合、スローシンクロモードも自動的にセットされます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。 	P、S、A、M
 発光禁止	発光しません。	AUTO  P、S、A、M

✓ スタジオ用大型ストロボ使用時について

スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕発光は使用できません。

調光補正してフラッシュの発光量を変更する

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。静止画撮影メニュー「**フラッシュ調光補正**」で発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強くなりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

- 調光補正は、1/3段ステップで-3段～+1段の範囲で設定できます。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正してください。
- 調光補正が設定されていると、撮影画面と表示パネルに **閃** マークが表示されます。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

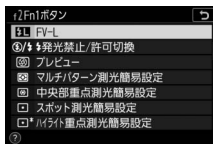


FVロックして調光量を固定する

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時は、調光量を固定（FVロック）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。
- 撮影モードが AV の場合、FVロックはできません。

1 カスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] で任意のボタンに [FV-L] を割り当てる



2 FVロック対応スピードライトをカメラのアクセサリシューに装着する

3 スピードライトの電源をONにし、発光モードをTTLまたは「モニター発光あり」の A または A のいずれかにセットする

- SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [発光モード] を [TTL調光] または [外部自動調光] に設定します。
- SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300以外のスピードライトをカメラに装着した場合の発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

4 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



5 モニター発光を行う

- 撮影画面に⚡が点灯していることを確認し、[FV-L] を割り当てたボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、撮影画面にFVロックマーク (FV) が表示されます。



6 構図を変更する



7 シャッターボタンを全押しして撮影する

FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順6~7を繰り返してください。

8 FVロックを解除する

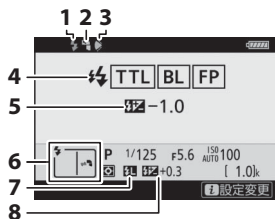
もう一度 [FV-L] を割り当てたボタンを押すと、FVロックが解除され、撮影画面のFVロックマーク (FV) が消灯します。

カメラに装着したスピードライトの設定を確認する

カメラのアクセサリシューに、ユニファイドフラッシュコントロールに対応した別売スピードライトSB-5000、SB-500、SB-400、SB-300を取り付けた場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、静止画モードでDISPボタンを押して表示できます（□15）。

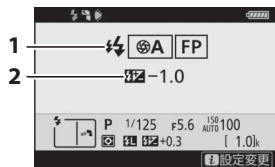
各発光モードの表示について

■ TTL調光



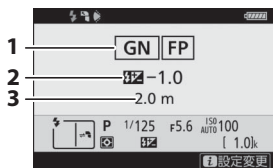
1	レディーライト	365
2	バウンスマーク（スピードライトのフラッシュヘッドを上方向に設定している場合に表示されます）	
3	照射角不適合マーク（照射角の設定が適切ではない場合に表示されます）	
4	発光モード	367
	FP発光表示	271
5	TTL調光補正量	367
6	フラッシュモード	369
7	FVロックマーク	372
8	フラッシュ調光補正量	371

■ 外部自動調光



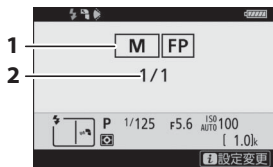
1	発光モード	367
	FP発光表示	271
2	外部自動調光補正量	367

■■ 距離優先マニュアル発光



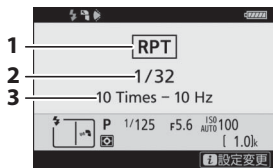
1	発光モード	367
	FP発光表示	271
2	距離優先マニュアル発光	
	調光補正量	367
3	距離	367

■■ マニュアル発光



1	発光モード	367
	FP発光表示	271
2	発光量	367

■■ リピーティング発光



1	発光モード	367
2	発光量	367
3	回数	367
	周波数	367

✓ フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、撮影モードやシャッター速度、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認することもできます。



✓ 設定を変更する

フラッシュインフォ画面表示中に **i** ボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



複数のスピードライトをワイヤレスで制御する

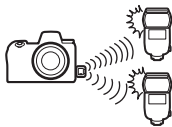
カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンスドワイヤレスライティング（AWL））。カメラにスピードライトを装着して撮影する方法については、「スピードライトをカメラに装着して撮影する」（□364）をご覧ください。

この章では、カメラおよびカメラに装着している機器での操作を📷、リモートフラッシュとして使用するスピードライトでの操作を📷で表しています。📷の手順での詳しい設定方法などは、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

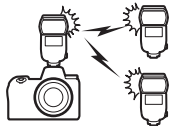
増灯撮影の方法について

増灯撮影には次の方法があります。

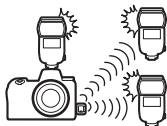
- 電波でリモートフラッシュを制御する※（□379）



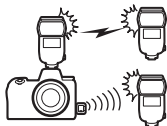
- カメラに装着したスピードライトの光でリモートフラッシュを制御する（□390）



- 電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる※
(☞389)



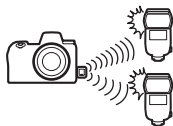
- 電波制御のリモートフラッシュと、光制御のリモートフラッシュを同時に使用する※ (☞399)



※ 電波でリモートフラッシュを制御するには、カメラにWR-R10を装着する必要があります。

電波でリモートフラッシュを制御する

カメラに装着したWR-R10からの電波によって電波制御に対応したリモートフラッシュを制御することを電波制御アドバンスワイヤレスライティングと呼びます。電波制御に対応するスピードライトはSB-5000です。



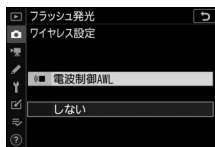
電波制御の準備をする

電波制御するには、カメラに装着したWR-R10とリモートフラッシュを無線接続する必要があります。

1 : WR-R10をカメラに装着する

装着方法については、WR-R10の使用説明書をご覧ください。

2 : 静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [ワイヤレス設定] で [電波制御AWL] を選ぶ

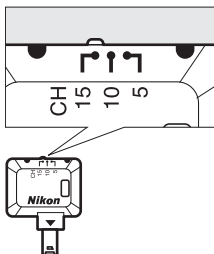


ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10について

電波制御アドバンスワイヤレスライティングを行うためには、別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

3 : WR-R10のチャンネルを設定する

- WR-R10のチャンネル切り換えスイッチを任意のチャンネルに設定します。



4 : WR-R10のリンクモードを設定する

- カメラのセットアップメニュー [リモコン (WR) 設定] の [リンクモード] で次のどちらかを設定します。



ペアリング	<p>ペアリングを実行した機器のみと通信を行うモードです。</p> <ul style="list-style-type: none">• ペアリングを行っていない機材とは通信しないため、近くで他の機材を使用した撮影が行われていても混信しません。• ペアリングの実行は1台ずつ行うため、使用する機材が多い場合はPINコードの使用をおすすめします。
PINコード	<p>同一の4桁の数字 (PINコード) が設定された機器同士で通信を行うモードです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 使用する機材が多い場合などにおすすめします。• 同じPINコードに設定したカメラが複数台ある場合、最初にスピードライトと接続したカメラだけがそのスピードライトを制御できます (その他のカメラは未接続状態となり、WR-R10のLEDランプが点滅します)。

5 : リモートフラッシュとWR-R10を接続する

- スピードライトを電波制御リモートモードにします。
- リモートフラッシュのチャンネルは必ず手順3で設定したWR-R10のチャンネルと同じものを設定してください。
- リモートフラッシュのリンクモードは手順4で設定したWR-R10のリンクモードと同じものを設定してください。
 - [ペアリング] を選んだ場合、リモートフラッシュでペアリングを開始すると同時にWR-R10のペアリングボタンを押します。ペアリングが完了すると、WR-R10とリモートフラッシュのLINKライトが緑とオレンジの点滅を行います。接続が完了すると、リモートフラッシュのLINKライトが緑色に点灯します。
 - [PINコード] を選んだ場合、カメラで入力したものと同一PINコードをリモートフラッシュで入力します。PINコードの入力が完了すると、自動で接続を開始します。接続が完了すると、リモートフラッシュのLINKライトが緑色に点灯します。

6 : 使用する全てのリモートフラッシュで手順5を繰り返す

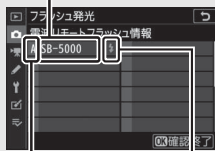
7 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認する

- 電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、撮影画面、フラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。

電波制御で接続しているスピードライトをカメラで一覧表示する

カメラの静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] 接続している
の [電波リモートフラッシュ情報] では、接続中
のスピードライトを一覧表示できます。

- 一覧表示するときの識別用の名前は、スピードライト側で設定できます (リモートフラッシュネーム設定)。



グループ レディーライト

✓ 一度接続したスピードライトと再度接続する場合

チャンネルやリンクモードの設定を変更していない場合、手順3～6を行わずにスピードライトをリモートモードにするだけでWR-R10と接続できます。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。

増灯発光モードを設定して撮影する

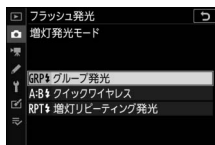
静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [増灯発光モード] を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。



■ [グループ発光] で撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

- 1 : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [グループ発光] を選ぶ

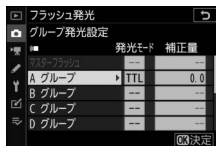



- 2 : [フラッシュ発光] 画面で [グループ発光設定] を選んでマルチセレクターの を押す



3 : 発光モードと調光補正量（または発光量）を設定する

- リモートフラッシュグループの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。






発光モード	説明
TTL	i-TTL調光を行います。
 A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
-- (非発光)	リモートフラッシュは発光しません。[補正量] は設定できません。

4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。


5 / : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

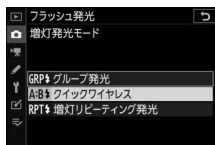
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押し、 [テスト発光] を選んで  ボタンを押します (□402)。



6 : 撮影する

■ [クイックワイヤレス] で撮影する


リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [クイックワイヤレス] を選ぶ



- 2  : [フラッシュ発光] 画面で [クイックワイヤレス発光設定] を選んでマルチセクターの  を押す



- 3  : クイックワイヤレスモードの設定をする

- AグループとBグループの光量比を設定する



- AグループとBグループの調光補正量を設定する



- Cグループの設定をする




- [M] に設定すると発光し、[--] に設定すると発光しません。
- [M] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。


5 /: 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

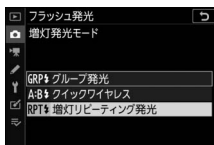
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押し、[テスト発光] を選んで  ボタンを押します (□402)。



6 : 撮影する

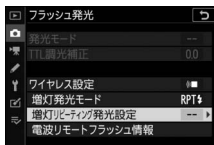
■ [増灯リピーティング発光] で撮影する


1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [増灯リピーティング発光] を選ぶ

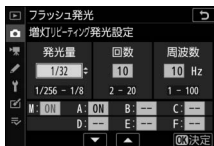


- 2  : [フラッシュ発光] 画面で [増灯リピーティング発光設定] を選んでマルチセレクターの  を押す

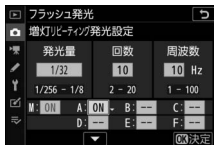


- 3  : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- 発光量、発光回数、周波数を設定する






- 発光するかどうかをグループごとに設定する
 - [ON] に設定すると発光し、[--] に設定すると発光しません。



4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

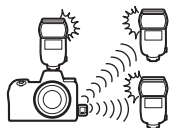
5 /: 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押し、[テスト発光] を選んで  ボタンを押します (□402)。

6 : 撮影する

電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる

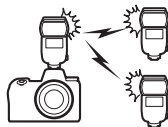
電波制御でワイヤレス増灯をした場合 (□379) に、電波制御で接続したリモートフラッシュに加えてアクセサリシューに装着したスピードライトも発光させることができます。



- SB-5000の場合、スピードライトで電波制御マスターモード（画面左上に☑が表示されている状態）に設定し、グループ発光または増灯リピーティング発光を選んで装着してください。装着したSB-5000の設定は、スピードライト本体またはカメラで行えます。カメラで行う場合、グループ発光は [グループ発光設定] の [マスターフラッシュ]、増灯リピーティング発光は [増灯リピーティング発光設定] の [M]（マスターフラッシュ）で設定してください。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600の場合、1灯で使用する設定にして装着してください。発光モードや補正量はスピードライト側で設定してください。
- SB-500、SB-400、SB-300の場合、そのまま装着してください。発光モードや補正量はカメラの [グループ発光設定] の [マスターフラッシュ] で設定してください。

光でリモートフラッシュを制御する

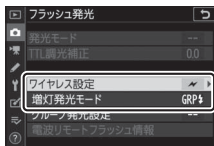
カメラに装着したスピードライトをマスターフラッシュとして使用し、リモートフラッシュを光で制御することを光制御アドバンスワイヤレスライティングと呼びます。光制御に対応するスピードライトについては「使用できるスピードライト」(□426)をご覧ください。



- SB-5000またはSB-500をマスターフラッシュとして使用する場合は、スピードライトの設定をカメラ側で行います。詳しくは「SB-5000またはSB-500を使用して撮影する」(□391)をご覧ください。リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- SB-5000またはSB-500以外のスピードライトを使用する場合は、スピードライト側で設定を行う必要があります。詳しくは、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

SB-5000またはSB-500を使用して撮影する

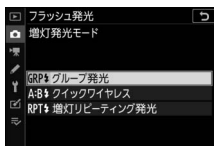
SB-5000またはSB-500をカメラのアクセサリシューに装着します。静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [ワイヤレス設定] で [光制御AWL] を選び、増灯発光モード (SB-500は [グループ発光] のみ) を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。



■ [グループ発光] で撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

- 1 : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [グループ発光] を選ぶ



- 2 : [フラッシュ発光] 画面で [グループ発光設定] を選んでマルチセクターの を押す




SB-5000装着時の設定について

SB-5000を装着している場合は、[フラッシュ発光] の設定をスピードライト側でも変更できます。

3 : 発光モードと調光補正量（または発光量）、チャンネルを設定する

- マスターフラッシュおよびリモートフラッシュグループそれぞれの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。

TTL	i-TTL調光を行います。
 A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
— (非発光)	リモートフラッシュは発光しません。【補正量】は設定できません。

- 【チャンネル】で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを【3】に設定してください。





4 : リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の【チャンネル】で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- SB-500をマスターフラッシュにしている場合、設定できるグループはAとBのみになります。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。


6 : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

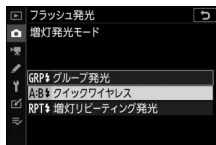
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押して [ テスト発光] を選びます (□402)。



7 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

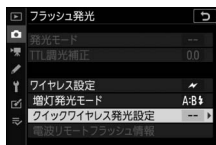
■ [クイックワイヤレス] で撮影する (SB-5000のみ)


リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定して撮影します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [クイックワイヤレス] を選ぶ



- 2  : [フラッシュ発光] 画面で [クイックワイヤレス発光設定] を選んでマルチセレクターの  を押す



- 3  : クイックワイヤレスモードの設定をする

- AグループとBグループの光量比を設定する



- AグループとBグループの調光補正量を設定する



- Cグループの設定をする

- [M] に設定すると発光し、[---] に設定すると発光しません。
- [M] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



●チャンネルを設定する

- [チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。

- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。





4 : リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A~Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。


6 / : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

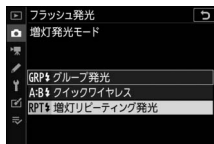
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押して [ テスト発光] を選びます (□402)。



7 / : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

■ [増灯リピーティング発光] で撮影する (SB-5000のみ)

1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [増灯リピーティング発光] を選ぶ



- 2  : [フラッシュ発光] 画面で [増灯リピーティング発光設定] を選んでマルチセレクターの  を押す



- 3  : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- 発光量、発光回数、周波数を設定する



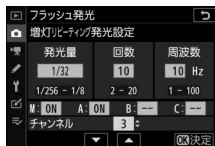
- 発光するかどうかをグループごとに設定する
 - [ON] に設定すると発光し、[---] に設定すると発光しません。



●チャンネルを設定する

- [チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。

- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。





4 : リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A~Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 / : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押して [ テスト発光] を選びます (□402)。

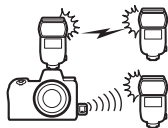
7 / : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

✔ 光制御で増灯撮影する場合のご注意

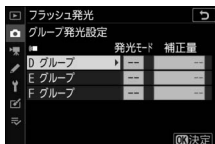
- リモートフラッシュは、マスターフラッシュの光がセンサー窓に入る位置に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、マスターフラッシュの光が確実にセンサー窓に入るようにしてください。
- リモートフラッシュの直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（[TTL] 設定時）や他のリモートフラッシュの外部自動調光用受光窓（[⊕A] 設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- [マスターフラッシュ] の [発光モード] を [--] にした場合でも、リモートフラッシュの発光タイミングを合わせるため、撮影中にマスターフラッシュが微小発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

電波制御のリモートフラッシュと、 光制御のリモートフラッシュを同時に 使用する

WR-R10と、光制御でマスターフラッシュとして使うスピードライト（SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-500）またはSU-800をカメラに装着すると、光制御と電波制御のリモートフラッシュを併用できます。



- 電波で制御するリモートフラッシュは、すべてWR-R10と接続してください（☐379）。
- SB-500を装着した場合は、[ワイヤレス設定]で[光制御/電波制御AWL]を選んでください。SB-500以外のスピードライトまたはSU-800を装着した場合、[ワイヤレス設定]は[光制御/電波制御AWL]に設定されます。
- [増灯発光モード]は[グループ発光]のみ使用できます。
- リモートフラッシュのグループは、A～Fの最大6グループまで構成できます。光で制御するリモートフラッシュにはA～C、電波で制御するリモートフラッシュにはD～Fが設定できます。D～Fグループの設定画面を表示するには、[グループ発光設定]画面でマルチセレクターの☉☉を押します。

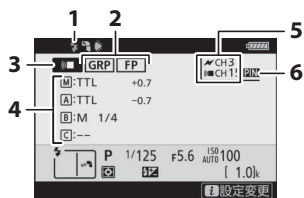


フラッシュインフォ画面で増灯撮影時のスピードライトの設定を確認する

カメラのアクセサリシューにSB-5000またはSB-500を取り付けて光制御でマスターフラッシュとして使う場合、またはWR-R10を使用して電波でリモートフラッシュを制御している場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、静止画モードで**DISP** ボタンを押して表示できます(□15)。

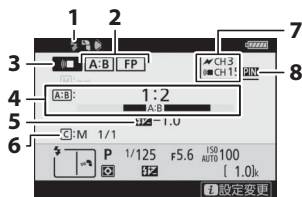
各発光モードの表示について

■ グループ発光



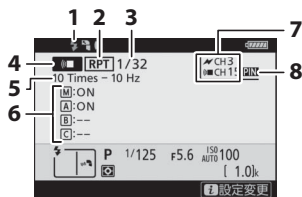
1	レディーライト※1	
2	増灯発光モード	191
	FP発光表示	271
3	リモートフラッシュの 制御方法※2	191
4	各グループの制御方法※3 各グループの発光モード 調光補正量（または発光量）	383、391
5	チャンネル※2	379、391
6	リンクモード※4	317

■ クイックワイヤレス





1	レディーライト※1
2	増灯発光モード191
	FP発光表示271
3	リモートフラッシュの 制御方法※2191
4	AグループとBグループの 光量比 385、394
5	調光補正量 385、394
6	Cグループの発光の有無と 発光量 385、394
7	チャンネル※2 379、394
8	リンクモード※4317

■ 増灯リピーティング発光



1	レディーライト※1
2	増灯発光モード191
3	発光量 387、396
4	リモートフラッシュの 制御方法※2191
5	回数 387、396
	周波数 387、396
6	各グループの発光の有無387、396
7	チャンネル※2 379、396
8	リンクモード※4317

※1 レディーライト時、レディーライトは全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると表示されます。

※2 光制御時は 、電波制御時は 、併用時は両方のアイコンが表示されます。併用時に光制御のチャンネルが表示されるのは、SB-500をマスターフラッシュとして使用している場合のみです。

※3 光制御と電波制御を併用している場合のみ、各グループの制御方法がアイコンで表示されます。

※4 電波制御時、または光制御と電波制御を併用している場合のみ表示されます。

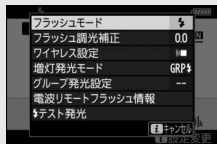
✓ フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、撮影モードやシャッタースピード、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認をすることもできます。



✓ フラッシュインフォ画面表示中に **i** ボタンで設定を変更する

フラッシュインフォ画面表示中に **i** ボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



困ったときは

カメラの動作がおかしいときは、次の手順を行うことで問題が解決する場合があります。ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前にお試しく下さい。

STEP 1	404～416ページの項目を確認して、カメラを点検する。 次のページで対処方法が確認できます。 <ul style="list-style-type: none">● 故障かな?と思ったら (□404)● 警告メッセージ (□411)
---------------	--

STEP 2	電源をOFFにしてバッテリーを取り出し、約1分後に再度バッテリーを入れてカメラの電源をONにする。 ✓ 撮影直後はメモリーカードに画像の記録を行っている場合があります。バッテリーを取り出すまで、撮影後は1分以上お待ちください。
---------------	--

STEP 3	ニコンのホームページを確認する。 <ul style="list-style-type: none">● サポートサイトのQ&Aなどで解決方法を探すことができます。 https://www.nikon-image.com/support/● ニコンダウンロードセンターで、カメラの最新のファームウェアを確認してください。 https://downloadcenter.nikonimglib.com/
---------------	---

STEP 4	ニコンサービス機関に問い合わせる。
---------------	--------------------------

✓ カメラの初期化について

- 機能の組み合わせによって、使用したい機能（メニュー項目）が設定できない場合があります。使用したいメニュー項目がグレーアウトしているときなどにセットアップメニュー [カメラの初期化] (□325) を実行すると、メニューが選べるようになります。
- カメラを初期化すると、無線接続設定や著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元に戻せないにご注意ください。

故障かな？と思ったら

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態で、カメラの操作ができない

- 画像の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
 - 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
 - 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
 - ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーやAC アダプターの取り外しでは失われません。
-

● ファインダーまたは画像モニターが表示されない

- モニターモードを変更していませんか？ モニターモード切り換えボタンを押して、適切な表示設定に切り換えてください。
 - セットアップメニュー【モニターモードの限定】で表示設定を限定していませんか？ 適切な表示設定に変更してください。
 - アイセンサーにゴミやほこりなどが付着していると、アイセンサーが正しく反応しない場合があります。ブローアで軽く吹き払ってください。
-

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ノブを回して調節できます。
 - 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、フォーカスモードを**AF-S**、AFエリアモードをシングルポイントAFに設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
-

● ファインダー内や表示パネル、画像モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニューc3 [パワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます。

● 表示パネルの表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなる場合があります。

撮影関連

● 電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるメモリーカードが入っていますか？
 - 撮影モードMでシャッタースピードを **Bulb** (バルブ) または **Time** (タイム) に設定し、そのまま撮影モードを **S** に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。
 - セットアップメニュー [カードなし時リリース] が [リリース禁止] になっていませんか？
-

● シャッターがきれるのが遅い

カスタムメニュー d4 [露出ディレーモード] を [しない] にしてください。

● 連続撮影できない

HDR撮影時は、連続撮影できません。

● ピントが合わない

- マニュアルフォーカスになっていませんか？ オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードを **AF-S**、**AF-C** または **AF-F** に設定してください。
 - 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。明暗差がはっきりしない/遠くのものと同近のものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
-

● 電子音が鳴らない

- 静止画撮影メニュー [サイレント撮影] が [する] になっていませんか？
 - フォーカスモードが **AF-C** の場合、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。
 - セットアップメニュー [電子音] の [電子音設定] を [無効] 以外に設定すると電子音が鳴ります。
 - 動画モード時は電子音は鳴りません。
-

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で、1/200～1/60秒の範囲で設定できます。[1/200秒 (オートFP)] に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です。

-
- **シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない**
フォーカスモードが**AF-C**に設定されている場合、サブセレクターの中央を押してフォーカスをロックしてください。
-
- **フォーカスポイントを選べない**
AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません。
-
- **画像の記録に時間がかかる**
静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] が [する] になっていませんか？
-
- **撮影画面に表示された明るさと、撮影した画像の明るさ（露出）が違う**
 - カスタムメニュー d8 [Lvに撮影設定を反映] を [しない] に設定すると、露出補正などを行っても画像モニターの表示には反映されません。
 - セットアップメニュー [モニターの明るさ] または [ファインダーの明るさ] で撮影画面の明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません。
-
- **動画モード時に画面にちらつきや横縞が生じる**
動画撮影メニュー [フリッカー低減] の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください。
-
- **横帯状の明るい部分が生じる**
撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。
-
- **画像にゴミが写り込む**
 - レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
 - 撮像素子の前面にゴミが付着していませんか？ イメージセンサークリーニングを行ってください。
-
- **ボケ像が欠けて写る**
高速のシャッタースピードや大口径レンズを使用した撮影では、ボケ像が欠けて写ることがあります。ボケ像の欠けが気になるときは、シャッタースピードを遅くしたり、絞り値を大きくすると目立たなくなります。
-
- **ゴースト、フレアが目立つ**
太陽や高輝度の照明などの明るい光源が含まれるなどのシーンを撮影したときに、画像上にゴーストやフレアが目立つ場合があります。レンズにフードを付ける、あるいは光源を画角から大きく外すことで目立ちにくくなります。また、レンズからフィルターを外す、シャッタースピードを変更する、サイレント撮影するなどを試していただくと目立ちにくくなる場合があります。
-

● 撮影が開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、自動的に終了することがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - 動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなって撮影できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまで電源をOFFにしてください。このとき、カメラボディー表面が熱くなる場合がありますが故障ではありません。

● 撮影画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ISO感度やシャッタースピード、アクティブD-ライティングなどのカメラの設定を変更してください。
- 長時間露出撮影や、カメラが高温になるような環境で撮影をする場合、ISO感度を高く設定しているとノイズが強調されることがあります。
- 長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、電源をOFFにしてください。
- 撮影時、**Q**ボタンで表示を拡大すると、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。
- 撮影した画像に発生するノイズは、撮影画面で表示されたノイズと見え方が異なることがあります。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません。

● ホワイトバランス（WB）ブラケット撮影ができない

- RAWまたはRAWを含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケット撮影はできません。
- ホワイトバランスブラケットと多重露出またはHDR（ハイダイナミックレンジ）による撮影を同時に行うことはできません。

● [ピクチャーコントロール] の効果が安定しない

[ピクチャーコントロール]、[カスタムピクチャーコントロール] が [オート] に設定されているか、それぞれの調整画面で [クイックシャープ]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] のいずれかが [A]（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を [A]（オート）以外に設定してください。

● **測光モードが変更できない**

AEロック中は、測光モードを変更できません。

● **露出補正ができない**

撮影モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケータの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません。

● **長時間露出撮影時に色むらが発生する**

シャッタースピードを**Bulb**（バルブ）または**Time**（タイム）にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像に色むらが発生することがあります。この現象は、静止画撮影メニュー **[長秒時ノイズ低減]** を **[する]** に設定することで低減できます。

● **AF補助光ランプが光らない**

- カスタムメニュー a12 **[内蔵 AF 補助光の照射設定]** が **[しない]** になっていませんか？
 - 動画モード時はAF補助光は照射しません。
 - フォーカスモードが**AF-C**および**MF**の場合、AF補助光は照射しません。
-

● **動画に音声録音されない**

動画撮影メニュー **[マイク感度]** が **[録音しない]** になっていませんか？

再生関連

● **RAW画像が表示されない**

[画質モード] を **[RAW + FINE ★]**、**[RAW + FINE]**、**[RAW + NORMAL ★]**、**[RAW + NORMAL]**、**[RAW + BASIC ★]**、**[RAW + BASIC]** にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません。

● **他のカメラで撮影した画像が表示されない**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● **全ての画像が表示されない**

再生メニュー **[再生フォルダー設定]** を **[全てのフォルダー]** にしてください。

● **画像の縦位置・横位置が正しく表示されない**

- 再生メニュー **[縦位置自動回転]** が **[しない]** になっていませんか？
 - 撮影直後の画像確認では自動回転はしません。
 - カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。
-

● **画像が削除できない**

画像にプロテクトが設定されていませんか？

● **画像が編集できない**

このカメラでは編集できない画像です。

-
- **画像を記録するのに [撮影画像がありません] と表示される**
再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください。
-
- **ダイレクトプリントができない**
RAW画像やTIFF画像はダイレクトプリントできません。
-
- **RAW画像をプリントできない**
- 画像編集メニューの [RAW現像] などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください。
 - RAW画像はパソコンに転送してから、NX Studioなどのソフトウェアを使ってプリントしてください。
-
- **画像がHDMI対応機器で再生できない**
HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
-
- **画像がHDMI対応機器で正しく表示されない**
- HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
 - セットアップメニュー [HDMI] にある [詳細設定] の [外部記録制御] が [する] になっていませんか？
 - セットアップメニュー [カメラの初期化] を実行すると正しく表示されることがあります。
-
- **NX Studioでイメージダストオフ機能が動作しない**
次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、撮像素子前面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。
- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
 - イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
-
- **[ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング]、[ヴェネットコントロール] などの効果がパソコンで確認できない**
RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はNX Studioをお使いください。
-
- **画像をパソコンに転送できない**
お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに保存してください。
-

Wi-Fi（無線LAN）およびBluetooth関連


- スマートフォンにカメラのSSID（ネットワーク名）が表示されない
 - セットアップメニューの [機内モード] が [無効] になっていること、および [スマートフォンと接続] にある [ペアリング (Bluetooth)] の [Bluetooth 通信機能] が [有効] になっていることを確認してください。
 - スマートフォンの無線機能をOFFにしてからONにし直してください。
 - プリンターなどの無線通信機器と接続できない
このカメラは、スマートフォンやパソコン以外の機器とは無線接続できません。
-


その他

- 撮影日時が正しく表示されない
カメラの内蔵時計は合っていますか？ カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。
 - 表示されているメニュー項目が選べない
一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。
-

警告メッセージ

表示パネル、撮影画面に表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法
撮影画面	表示パネル		
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。
	F--	レンズが正しく装着されていません。	<ul style="list-style-type: none">• レンズを正しく装着してください。• 沈胴式のレンズをご使用の場合、レンズを繰り出してください。• マウントアダプターを使用して非CPUレンズを装着すると表示されますが、異常ではありません。

こんなとき		原因	対処方法
撮影画面	表示パネル		
Bulb (点滅)		撮影モードが S のときにシャッタースピードが Bulb (バルブ) にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 撮影モードMで撮影してください。
Time (点滅)		撮影モードが S のときにシャッタースピードが Time (タイム) にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 撮影モードMで撮影してください。
Busy (点滅)		カメラが処理を行っています。	カメラが処理を終えるまでお待ちください。
 (点滅)	—	スピードライトがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などをご確認ください。
(シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかと、露出インジケータが点滅)		被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	<ul style="list-style-type: none"> ISO感度を低くしてください。 撮影モードがPのときは市販のNDフィルター(光量調節用)を使用してください(S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください)。 撮影モードがSのときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 撮影モードがAのときは絞りを絞り込んでください(より大きい数値)。

こんなとき		原因	対処方法
撮影画面	表示パネル		
	(シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかと、露出インジケータが点滅)	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	<ul style="list-style-type: none"> ISO感度を高くしてください。 撮影モードがPのときは別売スピードライトを使用してください (S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください)。 撮影モードがSのときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 撮影モードがAのときは絞りを開いてください (より小さい数値)。
	Full (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> 画像を記録する空き容量がありません。 カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。 	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 新しいメモリーカードに交換してください。
	Err (点滅)	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。

こんなとき		原因	対処方法
画像モニター	表示パネル		
撮影できません。 バッテリーを交換してください。	—	バッテリーが消耗しています。	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーを交換してください。 • バッテリーを充電してください。
お使いのバッテリーと正しく通信ができないためカメラの動作を停止します。 安全にお使いいただくために専用バッテリーと交換してください。	—	バッテリーとの情報通信ができません。	<ul style="list-style-type: none"> • このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。
		カメラと通信できないバッテリーを使用しています。	カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。
メモリーカードが入っていません。	[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。
メモリーカードにアクセスできません。 カードを交換してください。	Card, Err (点滅)	メモリーカードへのアクセス異常です。	<ul style="list-style-type: none"> • このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 • 繰り返し抜き差ししてもエラーが解消しない場合は、メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。
		新規フォルダーが作成できません。	<ul style="list-style-type: none"> • メモリーカードに記録されている画像を削除して、メモリーカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。

こんなとき		原因	対処方法
画像モニター	表示 パネル		
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	For (点滅)	メモリーカードが正しく初期化されていません。	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードを初期化してください。 正しく初期化されたメモリーカードに交換してください。
カメラが高温になっています。温度がさがるまで使用できません。しばらくおまちください。電源をOFFにします。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止してください。
		バッテリーの温度が高くなっています。	バッテリーをカメラから取り出して、バッテリーの温度が下がるまでお待ちください。
撮影画像がありません。	—	撮影画像がありません。	画像が記録されているメモリーカードを入れてください。
		再生するフォルダーの指定に問題があります。	再生メニューの[再生フォルダー設定]で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。
このファイルは表示できません。	—	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 画像ファイルに異常があるため再生できません。 	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。

こんなとき		原因	対処方法
画像モニター	表示パネル		
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。
この動画は編集できません。	—	編集できない画像です。	<ul style="list-style-type: none"> このカメラで撮影した動画しか編集できません。 2秒未満の動画は編集できません。
プリンターの状態を確認してください。*	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、 [継続] を選んで OK ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、 [継続] を選べない場合があります）。
用紙を確認してください。*	—	指定したサイズ用の用紙がセットされていません。	指定したサイズ用の用紙をセットした後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。
紙詰まりです。*	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。
用紙がありません。*	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズ用の用紙をセットした後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。
インクを確認してください。*	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。
インクがありません。*	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。

* プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

資料

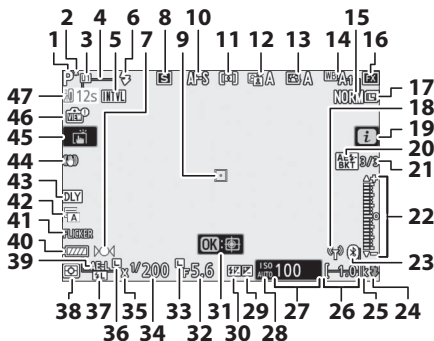
このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。

全画面表示

説明のため、全ての表示を点灯させています。

画像モニター

■ 静止画モードの場合



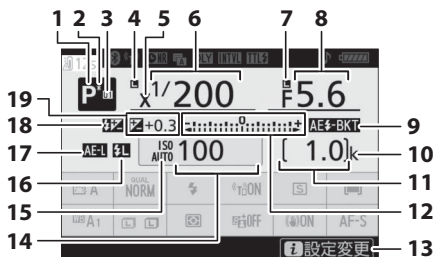
1	撮影モード.....	71	8	リリースモード.....	86、111
2	プログラムシフトマーク.....	72	9	フォーカスポイント.....	40、52
3	ユーザーセッティングモード... ..	76	10	フォーカスモード.....	50
4	AFエリアフレーム.....	53	11	AFエリアモード.....	52、113
5	インターバルタイマー設定 マーク.....	217	12	アクティブD-ライティング... ..	110
⊕マーク.....	38	13	ピクチャーコントロール.....	95	
カードなしマーク.....	30、33	14	ホワイトバランス.....	63、99、174	
6	フラッシュモード.....	369	15	画質モード.....	105
7	ピント表示.....	61	16	撮像範囲.....	169

17	画像サイズ.....	106	27	ISO感度.....	81
18	Wi-Fi通信マーク.....	109	28	ISO感度マーク.....	81
19	i メニュー.....	94		ISO-AUTOマーク.....	83
20	オートブラケティングマーク ...	195	29	露出補正マーク.....	84
	WBブラケティングマーク.....	199	30	調光補正マーク.....	371
	ADLブラケティングマーク.....	202	31	ターゲット追尾AF.....	59
	HDRマーク.....	213	32	絞り値.....	73、74
	多重露出マーク.....	206	33	絞り値ロックマーク.....	287
21	オートブラケティング		34	シャッタースピード.....	72、74
	撮影コマ数表示.....	195	35	フラッシュシンクロマーク ...	271
	WBブラケティング		36	シャッタースピードロック	
	撮影コマ数表示.....	199		マーク.....	287
	ADLブラケティング		37	FVロックマーク.....	372
	撮影コマ数表示.....	202	38	測光モード.....	108
	HDR露出差.....	213	39	AE-L マーク.....	91
	多重露出撮影コマ数.....	206	40	バッテリー残量表示.....	32
22	インジケーター		41	FLICKER アイコン.....	188
	露出.....	75	42	シャッター方式.....	267
	露出補正.....	84		サイレント撮影.....	67
	オートブラケティング.....	195	43	露出ディレーモード.....	267
23	Bluetooth通信マーク.....	319	44	手ブレ補正.....	112
	機内モード.....	318	45	タッチ撮影機能.....	10、60
24	レディーライト.....	365	46	Lvに撮影設定を反映.....	269
25	1000コマ以上補助表示.....	32	47	温度上昇警告	
26	記録可能コマ数.....	32、480			

✓ 温度上昇警告について

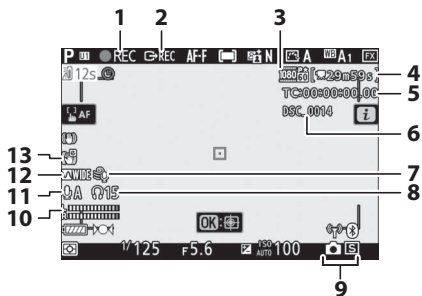
- カメラ内部の温度が上昇すると、温度上昇警告が表示され、カウントダウンが表示されます。カウントダウンが0になると、撮影画面の表示が消灯します。
- 消灯する30秒前から赤字で表示されます。撮影条件によっては、電源をONにした後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。

インフォ画面



1	撮影モード.....	71	12	インジケーター	
2	プログラムシフトマーク.....	72		露出.....	75
3	ユーザーセッティングモード... ..	76		露出補正.....	84
4	シャッタースピードロック			オートブラケティング.....	195
	マーク.....	287		WBブラケティング.....	199
5	フラッシュシンクロマーク.....	271		ADLブラケティング.....	202
6	シャッタースピード.....	72、74	13	iメニュー.....	94
7	絞り値ロックマーク.....	287	14	ISO感度.....	81
8	絞り値.....	73、74	15	ISO感度マーク.....	81
9	オートブラケティングマーク... ..	195		ISO-AUTOマーク.....	83
	WBブラケティングマーク.....	199	16	FVロックマーク.....	372
	ADLブラケティングマーク.....	202	17	AE-Lマーク.....	91
	HDRマーク.....	213	18	調光補正マーク.....	371
	多重露出マーク.....	206	19	露出補正マーク.....	84
10	1000コマ以上補助表示.....	32		露出補正值.....	84
11	記録可能コマ数.....	32、480			

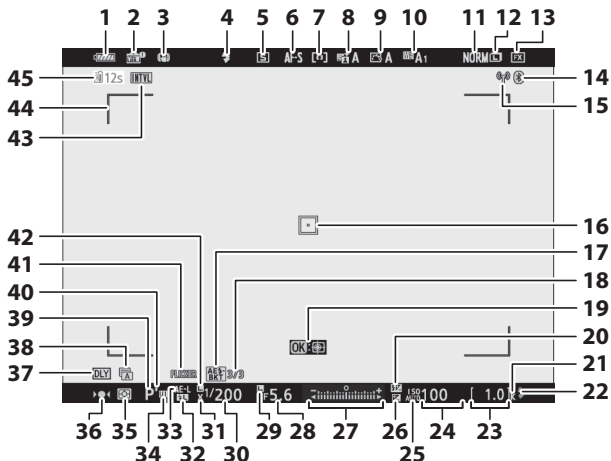
■ 動画モードの場合



1	動画撮影中マーク	44	7	風切り音低減マーク	250
	動画撮影禁止マーク	45	8	ヘッドホン音量	250
2	外部記録制御	361	9	静止画撮影のリリースモード* ..	89
3	画像サイズ/フレームレート/ 画質	115	10	音声レベルインジケータ ..	118
4	動画撮影残り時間	44	11	マイク感度	249
5	タイムコード	251	12	録音帯域	250
6	ファイル名	168	13	電子手ブレ補正マーク	121

ファインダー

■ 静止画モードの場合

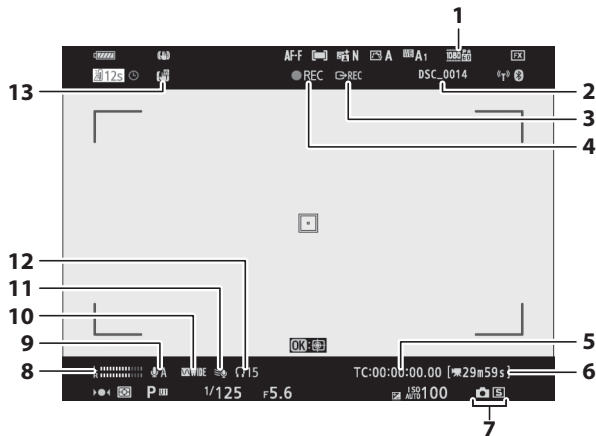


1	バッテリー残量表示.....	32	16	フォーカスポイント.....	40、52
2	Lvに撮影設定を反映.....	269	17	オートブラケティングマーク.....	195
3	手ブレ補正.....	112		WBブラケティングマーク.....	199
4	フラッシュモード.....	369		ADLブラケティングマーク.....	202
5	レリーズモード.....	86、111		HDRマーク.....	213
6	フォーカスモード.....	50		多重露出マーク.....	206
7	AFエリアモード.....	52、113	18	オートブラケティング	
8	アクティブD-ライティング.....	110		撮影コマ数表示.....	195
9	ピクチャーコントロール.....	95		WBブラケティング	
10	ホワイトバランス... ..	63、99、174		撮影コマ数表示.....	199
11	画質モード.....	105		ADLブラケティング	
12	画像サイズ.....	106		撮影コマ数表示.....	202
13	撮像範囲.....	169		HDR露出差.....	213
14	Bluetooth通信マーク.....	319		多重露出撮影コマ数.....	206
	機内モード.....	318	19	ターゲット追尾AF.....	59
15	Wi-Fi通信マーク.....	109	20	調光補正マーク.....	371

■■ 静止画モードの場合（続き）

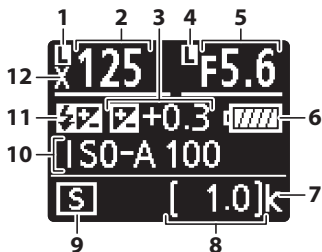
21	1000コマ以上補助表示.....	32	34	ユーザーセッティングモード...76	
22	レディーライト.....	365	35	測光モード.....	108
23	記録可能コマ数.....	32、480	36	ピント表示.....	61
24	ISO感度.....	81	37	露出ディレーモード.....	267
25	ISO感度マーク.....	81	38	シャッター方式.....	267
	ISO-AUTOマーク.....	83		サイレント撮影.....	67
26	露出補正マーク.....	84	39	撮影モード.....	71
27	インジケーター		40	プログラムシフトマーク.....	72
	露出.....	75	41	FLICKER アイコン.....	188
	露出補正.....	84	42	シャッタースピードロック	
	オートブラケティング.....	195		マーク.....	287
28	絞り値.....	73、74	43	インターバルタイマー設定	
29	絞り値ロックマーク.....	287		マーク.....	217
30	シャッタースピード.....	72、74		⊕マーク.....	38
31	フラッシュシンクロマーク.....	271		カードなしマーク.....	30、33
32	FVロックマーク.....	372	44	AFエリアフレーム.....	53
33	AE-L マーク.....	91	45	温度上昇警告.....	418

■ 動画モードの場合



1	画像サイズ/フレームレート/ 画質..... 115	7	静止画撮影のリリースモード ...89
2	ファイル名 168	8	音声レベルインジケータ 118
3	外部記録制御 361	9	マイク感度 249
4	動画撮影中マーク 44	10	録音帯域 250
	動画撮影禁止マーク 45	11	風切り音低減マーク 250
5	タイムコード 251	12	ヘッドホン音量 250
6	動画撮影残り時間 44	13	電子手ブレ補正マーク 121

表示パネル



1	シャッタースピードロック マーク.....	287	7	1000コマ以上補助表示.....	32
2	シャッタースピード.....	72、74	8	記録可能コマ数.....	32、480
3	露出補正マーク.....	84	9	レリーズモード.....	86
	露出補正值.....	84	10	ISO感度.....	81
4	絞り値ロックマーク.....	287	11	調光補正マーク.....	371
5	絞り値.....	73、74		発光禁止マーク.....	107
6	バッテリー残量表示.....	32	12	フラッシュシンクロマーク.....	271

使用できるスピードライト

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

		SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○
		スタンダード i-TTL調光	○※2	○※2	○	○※2	○	○	—	—	○	○
	⊗A	絞り連動外部 自動調光	○	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	—	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先 マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○※4	—	—	○※4	○※4	
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—





✓ スピードライトを使用した撮影の制限について

次の場合など、スピードライトとは同時に使用できない機能や設定があります。

- サイレント撮影
- 動画撮影
- HDR (ハイダイナミックレンジ)
- 高速連続撮影 (拡張)

		SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300	
光制御アドバンストワイヤレスライティング	マスターフラッシュ	リモートフラッシュへの発光指示	○	○	○	—	○※4	○	—	—	—	—	
		i-TTL i-TTL 調光	○	○	○	—	○※4	—	—	—	—	—	
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	○	—	○	—	—	○※5	—	—	—	—	
		⊗A 絞り連動外部自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
		A 外部自動調光	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		M マニュアル発光	○	○	○	—	○※4	—	—	—	—	—	
		RPT リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
	リモートフラッシュ	i-TTL i-TTL 調光	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	
		⊗A/A 絞り連動外部自動調光/ 外部自動調光	○※6	○※6	—	—	—	—	—	—	—	—	
		M マニュアル発光	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	
		RPT リピーティングフラッシュ	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	
	電波制御アドバンストワイヤレスライティング		○※7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	発光色温度情報伝達 (フラッシュ)		○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
発光色温度情報伝達 (LEDライト)		—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	
オートFPハイスピードシンク口 ※8		○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	
FVロック ※9		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
赤目軽減発光		○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—	
カメラ起動モデリング発光		○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	

	SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
ユニファイドフラッシュ コントロール	○	—	—	—	—	—	○	—	—	○	○
カメラからのスピードライト ファームアップ	○	○※10	○	○	—	—	○	—	—	—	○


- ※1 スポット測光時は設定できません。
- ※2 スピードライト側でも設定できます。
- ※3 AとAの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。
- ※4 カメラの【フラッシュ発光】で設定できます。
- ※5 クローズアップ撮影時のみ設定できます。
- ※6 AとAの選択は、マスターフラッシュの設定に準じます。
- ※7 使用できる機能は、光制御アドバンストワイヤレスライティングのリモートフラッシュと同じです。
- ※8 発光モードがi-TTL、A、A、GN、Mの場合のみ動作します。
- ※9 発光モードがi-TTL、「モニター発光あり」のAまたは「モニター発光あり」のAの場合のみ動作します。
- ※10 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800は、ワイヤレスでSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて光制御できます。SU-800には発光機能はありません。

✓ **その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能**



次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光 (A) あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト		SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27 ^{※1} SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29 SB-21B SB-29S	
区分	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR ^{※2}	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 このカメラと SB-27 を組み合わせると自動的に TTL モードになりますが、TTL モードでは使えません。SB-27 を A モードに設定し直してください。

※2 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

✓ **別売スピードライトのFVロックについて**

- 別売のスピードライトの発光モードが TTL、「モニター発光あり」の  A または「モニター発光あり」の A のいずれかにセットされている場合は、FV ロックを行えます (別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください)。
- 増灯時に FV ロックを使用する場合は、主灯 (マスターフラッシュ) または補助灯 (リモート) グループのうち、少なくとも 1 グループの発光モードを TTL、 A または A のいずれかにセットしてください。

✓ スピードライトのFVロック時の測光エリアについて

スピードライトを使用したFVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央 φ6 mm相当
	絞り連動外部自動調光 ()	スピードライトの 外部測光エリア
アドバンストワイヤレス ライティングによる 増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光 ()	スピードライトの 外部測光エリア
	外部自動調光 (A)	

✓ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後に⚡ (レディーライト) が約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 64~12800 (Z 6はISO 100~12800) 相当です。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- 撮影モードがPの場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り (F)

64	100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
3.5	4	5	5.6	7.1	8	10	11	13

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。

- パワーアシストバック SD-8A または SD-9 をカメラに固定した状態でフラッシュ撮影をすると、筋状のノイズが写り込むことがあります。その場合は、ISO感度を下げるか、SD-8AまたはSD-9をカメラから離してお使いください。
- AF補助光の照射条件が満たされると、カメラのAF補助光を自動的に照射します。スピードライトのAF補助光は照射されません。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

✓ 別売スピードライトの調光補正について

i-TTL調光時および絞リ連動外部自動調光 (⊗A) 時に、静止画撮影メニュー [フラッシュ調光補正] で設定した調光補正と、スピードライト本体または静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] で設定した調光補正を同時に行う場合、両方の補正値を加算します。

ヒント：モデリング発光について

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト装着時には、カスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] で [レビュー] を割り当てたボタンを押すとモデリング発光が行われます。
- アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われ、照射光の効果を簡単に確認できます。
- 照射光による影の効果は、撮影画面よりも被写体を見て確認することをおすすめします。
- レビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニュー e5 [モデリング発光] を [しない] に設定してください。

ヒント：スタジオ用フラッシュを使う場合

カスタムメニュー d8 [Lvに撮影設定を反映] を [しない] に設定すると、撮影画面が見やすい色味や明るさで表示され、構図の確認などがしやすくなります。

使用できるアクセサリ

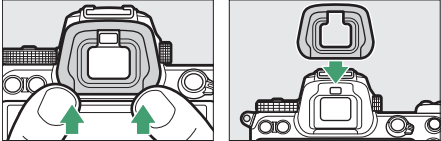
このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリが用意されています。

電源	<p>Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b ニコンデジタルカメラZ 7/Z 6用のバッテリーです。</p> <ul style="list-style-type: none">EN-EL15b の代わりにEN-EL15c/EN-EL15a/EN-EL15 も使えます。EN-EL15a/EN-EL15を使用する場合、EN-EL15bを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します（□482）。 <p>バッテリーチャージャー MH-25a Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15b用のチャージャーです。</p> <ul style="list-style-type: none">MH-25aの代わりにバッテリーチャージャーMH-25も使えます。 <p>バッテリーパックMB-N10 ニコンミラーレスカメラ用のバッテリーパックです。カメラ本体に取り付けて、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15b 2個を電源として使用できます。</p> <p>本体充電ACアダプター EH-7P バッテリーを挿入したカメラ本体に接続して、バッテリーを充電できます。</p> <ul style="list-style-type: none">カメラの電源がONの場合は充電できません。EN-EL15a または EN-EL15 を使用している場合は、本体充電ACアダプターでの充電はできません。 <p>パワーコネクター EP-5B、ACアダプター EH-5c/EH-5b ※ ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するとき安定して電源を供給できます。</p> <ul style="list-style-type: none">このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクター EP-5Bが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」（□438）をご覧ください。 <p>※ 日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。</p>
----	--

✓ 使用できるアクセサリについて

- 国または地域によって、販売していないまたは販売が終了している場合があります。
- アクセサリの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

フィルター	<ul style="list-style-type: none"> • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、ニュートラルカラー NCをお使いください。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND25、ND45、ND4、ND85、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、マルチパターン測光の効果が得られない場合があります。その場合、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 • 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやピント表示（●）が行えないことがありますのでご注意ください。
リモートコード	<p>リモートコードMC-DC2（長さ：約1m）</p> <p>リモートコードMC-DC2をカメラのアクセサリターミナルに接続すると、カメラから離れてリリース操作ができます。</p>
GPSユニット	<p>GPSユニットGP-1/GP-1A</p> <p>GP-1/GP-1Aをカメラのアクセサリターミナルに接続することにより、撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を画像データに記録することができます。</p> <p>※ 販売は終了しています。</p>
USBケーブル	<p>USBケーブルUC-E24</p> <p>カメラ側がType-C、USB機器側がType-AのUSBケーブルです。</p> <p>USBケーブルUC-E25</p> <p>両端がType-CのUSBケーブルです。</p>
HDMIケーブル	<p>HDMIケーブルHC-E1</p> <p>カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。</p>
ホットシューアダプター	<p>ホットシューアダプター AS-15</p> <p>アクセサリシューに装着すると、シンクロナーターミナルを利用してスタジオ用フラッシュなどを接続できます。</p>
アクセサリシューカバー	<p>アクセサリシューカバー BS-1</p> <p>スピードライトを取り付けるアクセサリシューを保護するためのカバーです。</p>

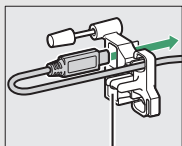
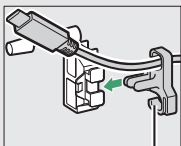
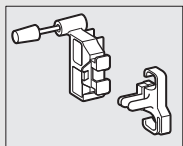
<p>ボディ キャップ</p>	<p>ボディキャップBF-N1 レンズを取り外したカメラボディに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。</p>
<p>ファインダー用 アクセサリ</p>	<p>接眼目当てDK-29 接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の接眼目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。</p> 
<p>マウント アダプター</p>	<p>マウントアダプター FTZ (□472)</p>
<p>外部マイク</p>	<p>ステレオマイクロホンME-1 ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを軽減できます。</p> <p>ワイヤレスマイクロホンME-W1 Bluetooth無線通信技術を搭載したワイヤレスマイクロホンです。カメラの動画撮影時に離れた場所の音声を収録できます。</p>
<p>ワイヤレス トランスミッター</p>	<p>ワイヤレストランスミッター WT-7 * カメラで撮影した画像をワイヤレスで転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作ができます。さらに、パソコンやスマートフォンのWebブラウザから画像の閲覧やリモート撮影ができます。</p> <p>*ワイヤレストランスミッターをお使いいただく場合は、LANの知識および環境が必要です。ワイヤレストランスミッターで使用するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。</p>

<p>ワイヤレス リモートコント ローラー</p>	<p>ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10</p> <ul style="list-style-type: none"> ワイヤレスリモートコントローラーWR-R10をカメラのアクセサリターミナルに装着すると、ワイヤレスリモートコントローラーWR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。 WR-R10を使用して、電波制御に対応したスピードライトを制御することもできます。 WR-R10を装着したカメラを複数台用意してWR-R10をペアリングすると、複数のカメラを連動してシャッターをきる連動リリースを行えます。 <p>※ WR-R10を装着するときは、USB/HDMI/アクセサリターミナル端子カバーをすべて開けてください。</p> <p>ワイヤレスリモートコントローラー WR-1</p> <p>WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。WR-R10または受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影したりカメラの設定を変更したりすることができます。</p> <p>※ ワイヤレスリモートコントローラーをお使いいただく場合は、WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降、WR-1のファームウェアをVer1.0.1以降の最新版にバージョンアップしてください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。WR-R10のファームウェアをVer.2.0以前からVer.3.0以降にバージョンアップする場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。</p>
<p>ニコンデジタル カメラ専用 ソフトウェア</p>	<p>Camera Control Pro 2</p> <p>パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が【PC】になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、表示パネルにPC接続中マークPCが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続されている場合、OSログオン後に所定時間を経過すると、ニコンメッセージセンター 2はソフトウェアの更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、「通知の画面」が自動的に表示されます。 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

✓ HDMI/USBケーブルクリップについて

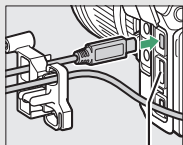
付属のHDMI/USBケーブルクリップを取り付けると、カメラから別売のHDMIケーブルやUSBケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます（HDMI/USBケーブルクリップは、市販のHDMI端子用ケーブルで使用できない場合があります）。

- ここではUSBケーブルを使って説明しています。
- HDMI/USBケーブルクリップを使用するときは、画像モニターを収納してください。

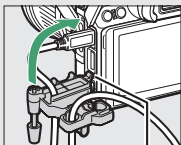


HDMIケーブルの場合
はここに通します。

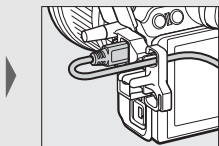
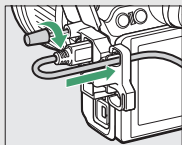
HDMIケーブルの場合
はここに通します。



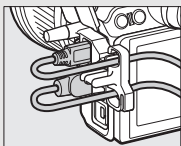
HDMIケーブルの場合
はここに差し込みます。



ケーブルクリップの突起部をカメラのくぼみに引っかけてから取り付けます。



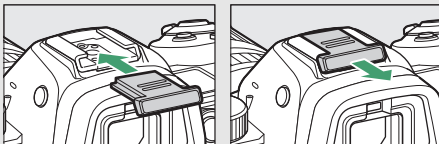
USBケーブルを使用する場合



HDMIケーブルとUSBケーブルを同時に使用する場合

✓ アクセサリーシューカバーの取り付けおよび取り外し方

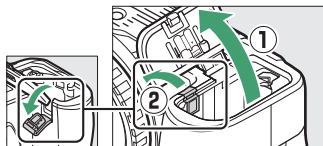
アクセサリーシューカバー BS-1を取り付けるには、カバーを図のようにカメラのアクセサリーシューに差し込みます。取り外すときは、カメラをしっかりと支えて、カバー全体を親指で押さえながら矢印の方向にスライドさせます。



カメラとパワーコネクター、ACアダプターの 接続方法

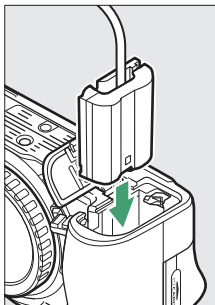
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

- 1** カメラのバッテリー室
カバー (①) とパワーコ
ネクターカバー (②) を
開ける



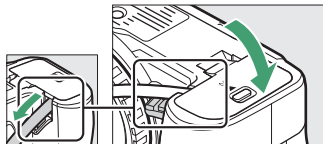
- 2** パワーコネクター EP-5Bを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。




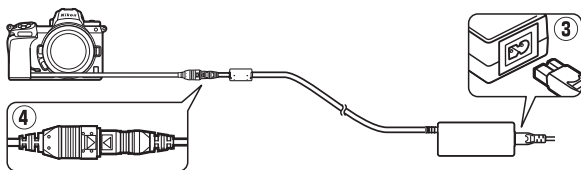
- 3** カメラのバッテリー室
カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプター EH-5c/EH-5bを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (③)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (④)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、撮影画面上のバッテリー残量表示がに変わります。



カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて


カメラ本体	ほこりや糸くずをブローアード払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ファインダー	レンズ面は傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローアード払いします。スプレー缶タイプのブローアードは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズやファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、レンズ面を傷つけないように注意して拭きます。
画像モニター	ほこりや糸くずをブローアード払いします。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

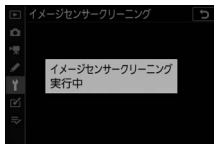
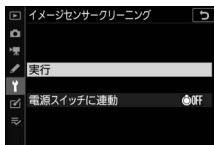
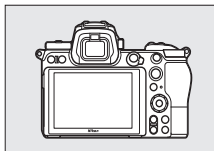
アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

撮像素子のお手入れについて

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のOFF時に自動的に行う方法があります。イメージセンサークリーニングでゴミやほこりを取りきれないときは、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

■ セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】から操作する

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてください。
- セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】を選び、【実行】を選んで  ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は撮像素子のチェックも行われます。
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

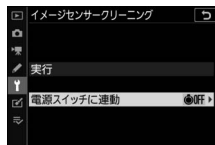


■ 電源OFF時にイメージセンサークリーニングする

●OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源をOFFにしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

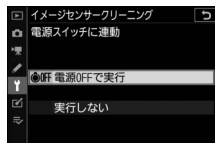
1 [イメージセンサークリーニング] 画面で [電源スイッチに連動] を選ぶ

- [電源スイッチに連動] を選んでマルチセクターのⓁを押すと、[電源スイッチに連動] 画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

- ⊗ ボタンを押して設定します。



✓ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- イメージセンサークリーニングを連続して行くと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

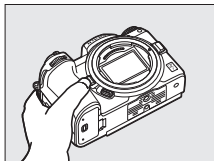
撮像素子前面をブローで掃除する

イメージセンサークリーニングでゴミやほこりを取りきれないときは、撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

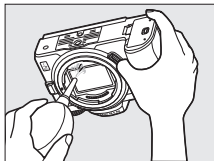
2 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

ゴミやほこりが付いていない場合は、手順4にお進みください。



3 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブローで払う

- ブラシの付いていないブローアーをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブローアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



4 付属のボディキャップを付ける

✔ 撮像素子前面に付着するゴミなどについて

撮像素子前面には、カメラからレンズまたはボディキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によっては撮像素子前面に付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。撮像素子前面に付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（□441）で取り除ききれないときは、「撮像素子前面をブローで掃除する」（□443）の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

✔ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの使用上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、静電気が発生する環境では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● レーザー光などの光線について

レーザー光などの強い光線がレンズに向けて照射されると、撮像素子が破損を起こすおそれがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

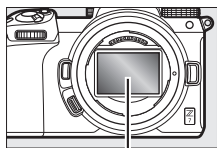
カメラ本体のお手入れの際は、プロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。さらに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● レンズやファインダーのお手入れについて

レンズやファインダーは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブローアで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブローアの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズやファインダーを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● 撮像素子に触れない

撮像素子を押しえたり、突いたり、ブローアなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や破損などの原因となります。



撮像素子

● 撮像素子の手入れ方法について

撮像素子のクリーニングの方法については□441をご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。指などが触れないようにご注意ください。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● **バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする**
カメラの電源がONの状態では、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● **画像モニターとファインダーについて**

- 画像モニター（ファインダー含む）は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で画像モニターが見えにくい場合があります。
- 画像モニター表面を強くこすったり、強く押ししたりしないでください。画像モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、画像モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- ファインダーを見ながら撮影をしている場合に、次のいずれかの症状を感じた時は、使用をやめ、回復するまで休んでください。
 - 吐き気・目の痛み、目の疲れ
 - めまい・頭痛・首の痛み、肩こり
 - 気分が悪い・手と目の感覚のずれ
 - 乗り物酔いの症状
- 連続撮影時に、撮影画面が素早く点灯と消灯を繰り返すことがあります。このとき、撮影画面を見続けることで体調不良などの症状が起きる恐れがあります。その場合は使用をやめ、回復するまで休んでください。

● **線状のノイズについて**

逆光撮影や輝度の高い光源に向けて撮影する場合、まれに撮影した画像上に線状のノイズが発生することがあります。

バッテリーの使用上のご注意

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの【電池チェック】で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、十分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、接点部をビニールテープなどで絶縁しリサイクル協力店へお持ちください。

詳しくは一般社団法人JBRCホームページ (<https://www.jbrc.com>) をご覧ください。



Li-ion00

数字の有無と数値は、電池によって異なります。

チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-25aに対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-25aで充電しないでください。

本体充電ACアダプターの使用上のご注意

- 充電中にカメラをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはカメラを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- 本体充電ACアダプターの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- 本体充電ACアダプターを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ Z 7/Z 6

型式	
型式	レンズ交換式デジタルカメラ
レンズマウント	ニコンZマウント
使用レンズ	
使用レンズ	<ul style="list-style-type: none">• Zマウント用NIKKORレンズ• Fマウント用NIKKORレンズ（マウントアダプター使用時、一部機能制限あり）
有効画素数	
有効画素数	<ul style="list-style-type: none">• Z 7 : 4575万画素• Z 6 : 2450万画素
撮像素子	
方式	35.9×23.9 mmサイズCMOSセンサー（ニコンFXフォーマット）
総画素数	<ul style="list-style-type: none">• Z 7 : 4689万画素• Z 6 : 2528万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（NX Studioが必要）
記録形式	
記録画素数	Z 7 : <ul style="list-style-type: none">• 撮像範囲 [FX (36×24)] の場合 : 8256×5504ピクセル（サイズL : 45.4 M） 6192×4128ピクセル（サイズM : 25.6 M） 4128×2752ピクセル（サイズS : 11.4 M）• 撮像範囲 [DX (24×16)] の場合 : 5408×3600ピクセル（サイズL : 19.5 M） 4048×2696ピクセル（サイズM : 10.9 M） 2704×1800ピクセル（サイズS : 4.9 M）• 撮像範囲 [5:4 (30×24)] の場合 : 6880×5504ピクセル（サイズL : 37.9 M） 5152×4120ピクセル（サイズM : 21.2 M） 3440×2752ピクセル（サイズS : 9.5 M）

- 撮像範囲 **[1:1 (24×24)]** の場合：
5504×5504ピクセル (サイズL : 30.3 M)
4128×4128ピクセル (サイズM : 17.0 M)
2752×2752ピクセル (サイズS : 7.6 M)
- 撮像範囲 **[16:9 (36×20)]** の場合：
8256×4640ピクセル (サイズL : 38.3 M)
6192×3480ピクセル (サイズM : 21.5 M)
4128×2320ピクセル (サイズS : 9.6 M)
- 動画の画像サイズを**3840×2160**に設定し、
動画モード中に静止画撮影した場合：
3840×2160ピクセル
- 動画の画像サイズを**3840×2160**以外に設定し、
動画モード中に静止画撮影した場合：
1920×1080ピクセル

Z6 :

- 撮像範囲 **[FX (36×24)]** の場合：
6048×4024ピクセル (サイズL : 24.3 M)
4528×3016ピクセル (サイズM : 13.7 M)
3024×2016ピクセル (サイズS : 6.1 M)
- 撮像範囲 **[DX (24×16)]** の場合：
3936×2624ピクセル (サイズL : 10.3 M)
2944×1968ピクセル (サイズM : 5.8 M)
1968×1312ピクセル (サイズS : 2.6 M)
- 撮像範囲 **[1:1 (24×24)]** の場合：
4016×4016ピクセル (サイズL : 16.1 M)
3008×3008ピクセル (サイズM : 9.0 M)
2000×2000ピクセル (サイズS : 4.0 M)
- 撮像範囲 **[16:9 (36×20)]** の場合：
6048×3400ピクセル (サイズL : 20.6 M)
4528×2544ピクセル (サイズM : 11.5 M)
3024×1696ピクセル (サイズS : 5.1 M)
- 動画の画像サイズを**3840×2160**に設定し、
動画モード中に静止画撮影した場合：
3840×2160ピクセル
- 動画の画像サイズを**3840×2160**以外に設定し、
動画モード中に静止画撮影した場合：
1920×1080ピクセル



記録画素数

記録形式	
画質モード	<ul style="list-style-type: none"> RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮）、サイズL/M/S選択可能（サイズM/Sは12ビット、ロスレス圧縮に固定） TIFF（RGB） JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先または画質優先選択可能 RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	オート、スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、Creative Picture Control（ドリーム、モーニング、ポップ、サンデー、ソーパー、ドラマ、サイレンス、ブリーチ、メランコリック、ピュア、デニム、トイ、セピア、ブルー、レッド、ピンク、チャコール、グラフィート、バイナリー、カーボン）、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	XQDカード、CFexpressカード（Type B）
対応規格	DCF 2.0、Exif 2.31、PictBridge
ファインダー	
ファインダー	電子ビューファインダー、0.5型 Quad-VGA OLED、約369万ドット、明るさ調整可能（オート、マニュアル11段階）、カラーカスタマイズ可能
視野率	上下左右とも約100%（対実画面）
倍率	約0.8倍（50mmレンズ使用時、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から21mm（ -1.0 m^{-1} のとき）
視度調節範囲	$-4\sim+2\text{ m}^{-1}$
アイセンサー	ファインダー表示と画像モニター表示の自動切り換え
画像モニター	
画像モニター	チルト式3.2型TFT液晶モニター（タッチパネル）、約210万ドット、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能（マニュアル11段階）、カラーカスタマイズ可能
シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター、電子先幕シャッター、電子シャッター
シャッター速度	1/8000～30秒（1/3、1/2ステップに変更可能）、Bulb、Time、X200

シャッター	
フラッシュ同調 シャッター スピード	X=1/200秒、1/200秒以下の低速シャッタースピードで同調 • オートFPハイスピードシンクロ可能
レリーズ機能	
レリーズモード	1コマ撮影、低速連続撮影、高速連続撮影、高速連続撮影（拡張）、セルフタイマー撮影
連続撮影速度	Z7： <ul style="list-style-type: none"> • 低速連続撮影：約1～5コマ/秒 • 高速連続撮影：約5.5コマ/秒（14ビットRAW設定時：約5コマ/秒） • 高速連続撮影（拡張）：約9コマ/秒（14ビットRAW設定時：約8コマ/秒） Z6： <ul style="list-style-type: none"> • 低速連続撮影：約1～5コマ/秒 • 高速連続撮影：約5.5コマ/秒 • 高速連続撮影（拡張）：約12コマ/秒（14ビットRAW設定時：約9コマ/秒） ※ ニコン試験条件での最大撮影速度
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒
露出制御	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	<ul style="list-style-type: none"> • マルチパターン測光 • 中央部重点測光：φ12mm相当を測光（中央部重点度約75%）、画面全体の平均に変更可能 • スポット測光：約φ4mm相当（全画面の約1.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動 • ハイライト重点測光
測光範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Z7：-3～17EV • Z6：-4～17EV ※ ISO 100、f/2.0レンズ使用時、常温20℃
撮影モード	^{AUTO} ：オート、 P ：プログラムオート（プログラムシフト可能）、 S ：シャッター優先オート、 A ：絞り優先オート、 M ：マニュアル ユーザーセッティング U1～U3 に登録可能
露出補正	P、S、A、M 時に設定可能、範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2ステップに変更可能
AELock	輝度値ロック方式

露出制御	
ISO感度 (推奨露光指数)	<ul style="list-style-type: none"> ● Z7 : ISO 64~25600 (1/3、1/2ステップ)、ISO 64に対し約0.3、0.5、0.7、1段 (ISO 32相当) の減感、ISO 25600に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段 (ISO 102400相当) の増感、感度自動制御が可能 ● Z6 : ISO 100~51200 (1/3、1/2ステップ)、ISO 100に対し約0.3、0.5、0.7、1段 (ISO 50相当) の減感、ISO 51200に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段 (ISO 204800相当) の増感、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しない
多重露出	加算、加算平均、比較明合成、比較暗合成
その他の機能	HDR (ハイダイナミックレンジ)、静止画フリッカー低減撮影
オートフォーカス	
方式	ハイブリッドAF (位相差AF/コントラストAF)、AF補助光付
検出範囲	<ul style="list-style-type: none"> ● Z7 : -2~19 EV (ローライトAF時: -4~19 EV) ● Z6 : -3.5~19 EV (ローライトAF時: -6~19 EV) ※ 静止画モード、シングルAFサーボ (AF-S)、ISO 100、f/2.0レンズ使用時、常温20℃
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> ● オートフォーカス : シングルAFサーボ (AF-S) またはコンティニュアスAFサーボ (AF-C)、常時AF (AF-F) (動画モードのみ)、予測駆動フォーカスあり ● マニュアルフォーカス (M) : フォーカスエイド可能
フォーカス ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● Z7 : 493点 ● Z6 : 273点 ※ 静止画モード、撮像範囲FX、シングルポイントAF時
AFエリアモード	ピンポイントAF (静止画モードのみ)、シングルポイントAF、ダイナミックAF (静止画モードのみ)、ワイドエリアAF (S)、ワイドエリアAF (L)、オートエリアAF
フォーカスロック	サブセレクターの中央押し、またはシングルAFサーボ (AF-S) 時にシャッターボタン半押し
手ブレ補正機能	
カメラ内手ブレ補正	イメージセンサーシフト方式5軸補正
レンズ手ブレ補正	レンズシフト方式 (VRレンズ使用時)

フラッシュ	
調光方式	TTL調光制御：i-TTL-BL調光（マルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、発光禁止
調光補正	P、S、A、M時に設定可能、範囲：-3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2ステップ
レディーライト	別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出不足警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	i-TTL調光、電波制御アドバンストワイヤレスライティング、光制御アドバンストワイヤレスライティング、モデリング発光、FVロック、発光色温度情報伝達、オートFPハイスピードシンクロ、ユニファイドフラッシュコントロール
ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート（3種）、自然光オート、晴天、曇天、晴天日陰、電球、蛍光灯（7種）、フラッシュ、色温度設定（2500K～10000K）、プリセットマニュアル（6件登録可）、色温度設定以外は微調整可能
ブラケティング	
ブラケティング	AEブラケティング、フラッシュブラケティング、ホワイトバランスブラケティング、アクティブD-ライティングブラケティング
動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光
記録画素数/フレームレート	<ul style="list-style-type: none"> • 3840×2160（4K UHD）：30p/25p/24p • 1920×1080：120p/100p/60p/50p/30p/25p/24p • 1920×1080スロー：30p（4倍）/25p（4倍）/24p（5倍） ※ 120p：119.88fps、100p：100fps、60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※ 標準/★高画質選択可能（3840×2160、1920×1080 120p/100p、1920×1080スローは★高画質のみ）
ファイル形式	MOV、MP4
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM、AAC

動画機能	
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能、マイク感度設定可能、アッテネーター機能
露出補正	P、S、A、M時に設定可能、範囲：±3段、補正ステップ：1/3、1/2ステップに変更可能
ISO感度 (推奨露光指数)	<p>Z7：</p> <ul style="list-style-type: none"> • M：ISO 64～25600（1/3、1/2ステップ）、ISO 25600に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段（ISO 102400相当）の増感、感度自動制御（ISO 64～Hi 2）が可能、制御上限感度が設定可能 • P、S、A：感度自動制御（ISO 64～Hi 2）、制御上限感度が設定可能 • ：感度自動制御（ISO 64～25600） <p>Z6：</p> <ul style="list-style-type: none"> • M：ISO 100～51200（1/3、1/2ステップ）、ISO 51200に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段（ISO 204800相当）の増感、感度自動制御（ISO 100～Hi 2）が可能、制御上限感度が設定可能 • P、S、A：感度自動制御（ISO 100～Hi 2）、制御上限感度が設定可能 • ：感度自動制御（ISO 100～51200）
アクティブ D-ライティング	静止画の設定と同じ、より強め、強め、標準、弱め、しない
その他の機能	タイムラプス動画、電子手ブレ補正、タイムコード、動画Log（N-Log）出力
再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割）、拡大再生、拡大再生中のトリミング、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転、レーティング
インターフェース	
USB	Type-C端子（SuperSpeed USB）（標準装備されたUSBポートへの接続を推奨）
HDMI出力	HDMI端子（Type C）装備
アクセサリ ターミナル	あり（別売リモートコードMC-DC2など使用可能）

インターフェース	
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5mm）、プラグインパワーマイク対応
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm）
Wi-Fi（無線LAN）・Bluetooth	
Wi-Fi	<ul style="list-style-type: none"> • 準拠規格：IEEE802.11b/g/n/a/ac • 周波数範囲（中心周波数）：2412～2472 MHz（13ch）、5180～5700 MHz • 出力（EIRP）： <ul style="list-style-type: none"> - Z 7 7.0 dBm（2.4 GHz） 12.1 dBm（5 GHz） - Z 6 7.4 dBm（2.4 GHz） 12.2 dBm（5 GHz） • 認証方式：オープンシステム、WPA2-PSK
Bluetooth	<ul style="list-style-type: none"> • 通信方式：Bluetooth標準規格 Ver.4.2 • 周波数範囲（中心周波数）： <ul style="list-style-type: none"> Bluetooth：2402～2480 MHz Bluetooth Low Energy：2402～2480 MHz • 出力（EIRP）： <ul style="list-style-type: none"> - Z 7 Bluetooth：1.5 dBm Bluetooth Low Energy：0 dBm - Z 6 Bluetooth：1.9 dBm Bluetooth Low Energy：0.4 dBm
通信距離（見通し）	<p>約10 m*</p> <p>* 電波干渉がない場合。通信距離は遮蔽物や電波状態などにより影響されます。</p>
電源	
使用電池	<p>Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b* 1個使用</p> <p>* EN-EL15bの代わりにEN-EL15c/EN-EL15a/EN-EL15も使えます。EN-EL15a/EN-EL15を使用する場合、EN-EL15bを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します（□482）。本体充電ACアダプターを使用した充電はEN-EL15c/EN-EL15b使用時のみ可能。</p>

電源

バッテリーパック	バッテリーパックMB-N10 (別売) : Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b* 2個使用 ※ EN-EL15b の代わりに EN-EL15c/EN-EL15a/EN-EL15 も使えます。EN-EL15a/EN-EL15を使用する場合、EN-EL15bを使用したときよりも撮影可能コマ数(電池寿命)が減少します。
本体充電ACアダプター	本体充電ACアダプター EH-7P (別売)
ACアダプター	ACアダプター EH-5c/EH-5b (パワーコネクタ EP-5Bと組み合わせて使用) (別売)

三脚ネジ穴

三脚ネジ穴	1/4 (ISO 1222)
-------	----------------

寸法・質量

寸法 (W×H×D)	約134×100.5×67.5 mm
質量	約675 g (バッテリーおよびメモリーカードを含む、ポディーキャップを除く)、約585 g (本体のみ)

動作環境


温度	0℃～40℃
湿度	85%以下 (結露しないこと)

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA (カメラ映像機器工業会) 規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- カメラに表示されるサンプル画像、および説明書内の画像やイラストは、機能を説明するためのイメージです。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

■ バッテリーチャージャー MH-25a

電源	AC 100–240 V、50/60 Hz、0.23–0.12 A
定格入力容量	21–28VA
充電出力	DC 8.4 V、1.2 A
適応充電電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c/EN-EL15b/ EN-EL15a/EN-EL15
充電時間	約2時間35分 ※ 残量の少ない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約95×33.5×71 mm（突起部除く）
質量	約115 g（電源プラグ（直付け型）を除く）


製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。

～ AC（交流）、≡ DC（直流）、 クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

■ 本体充電ACアダプター EH-7P（別売）

電源	AC 100–240 V、50/60 Hz、MAX 0.5 A
定格入力容量	40–50VA
定格出力	DC 5.0 V、3.0 A
適応充電電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15c/EN-EL15b
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約65.5×26.5×58.5 mm
質量	約135 g

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。

～ AC（交流）、≡ DC（直流）、 クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

■ Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15b

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.0 V、1900 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約40×56×20.5 mm
質量	約80 g（端子カバーを除く）

📝 カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはおお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードが真っ白になるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分ご注意ください。

本製品を譲渡/廃棄する際は、使用者によって本製品内に登録または設定された、無線LAN接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー[カメラの初期化]を行って削除してください。

📝 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

📝 このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0** : 各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **Exif Version 2.31** : (Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras) : デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge** : デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)** : 家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

📄 商標説明

- CFexpressは米国およびその他の国におけるCompactFlash Associationの商標です。
- NVMe Expressは米国およびその他の国におけるNVMe Express Inc.の商標です。
- XQDはソニー株式会社の商標です。
- Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple®、App Store®、Appleロゴ、iPhone®、iPad®、iPod touch®、Mac、macOSおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録された、Apple Inc.の商標です。
- iPhoneの商標は、アイホン株式会社 (<https://www.iphone.co.jp/>) のライセンスに基づき使用しています。
- AndroidとGoogle PlayおよびGoogle Playロゴは、Google LLCの商標です。Androidロボットは、Googleが作成および提供している作品から複製または変更したものであり、Creative Commons 3.0 Attributionライセンスに記載された条件に従って使用しています。
- IOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。
- PictBridge は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社ニコンはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Wi-FiおよびWi-Fiロゴは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

Use of the Made for Apple badge means that an accessory has been designed to connect specifically to the Apple products identified in the badge, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with an Apple product may affect wireless performance.

📄 FreeType License (FreeType2)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project (<https://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

📄 MIT License (HarfBuzz)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2018 The HarfBuzz Project (<https://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

Unicode® Character Database License (Unicode® Character Database)

本製品のソフトウェアは、オープンソースソフトウェア (Unicode® Character Database) を利用しています。本オープンソースソフトウェアのライセンス条件は以下のとおりです。

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2019 Unicode, Inc. All rights reserved.

Distributed under the Terms of Use in

<https://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that either

(a) this copyright and permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, or

(b) this copyright and permission notice appear in associated Documentation.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS.

IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

- (i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
- (ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<https://www.mpegla.com> をご参照ください。

BSD License (NVM Express Driver)

本カメラのNVM Express制御部分に含まれるオープンソースソフトウェアに適用されるライセンス条件は下記URLをご覧ください。

<https://imaging.nikon.com/support/pdf/LicenseNVMe.pdf>

NIKKOR Z 24-70mm f/4 S使用説明書

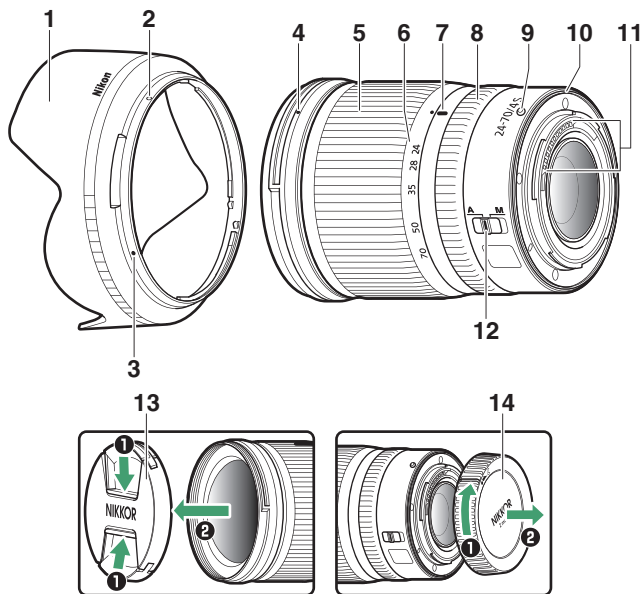
このカメラとNIKKOR Z 24-70mm f/4 Sをレンズキットでご購入の場合は、こちらをレンズの使用説明書としてお使いください。

国または地域によっては、レンズキットを販売していない場合があります。

レンズの使い方

■ 各部の名称と機能

各部の名称と機能は以下の通りです。



1 フード	画像に悪影響を及ぼす光線をカットします。 レンズ面の保護にも役立ちます。
2 フードセット指標	
3 フード取り付け指標	レンズにフードを取り付けるときの指標です。
4 フード着脱指標	レンズにフードを取り付けるときの指標です。
5 ズームリング	回転させるとズーミングができます。 撮影前にレンズを繰り出してください。
6 焦点距離目盛	
7 焦点距離目盛指標	ズーミング時の焦点距離の目安として使用します。
8 コントロールリング	<ul style="list-style-type: none"> • オートフォーカス時：回転させると、カメラで設定した機能を利用することができます。 • マニュアルフォーカス時：回転させると、マニュアルでピント合わせを行うことができます。
9 レンズ着脱指標	カメラにレンズを取り付けるときの指標です。
10 レンズマウントゴムリング	—
11 CPU信号接点	カメラとレンズの間で情報を伝達します。
12 フォーカスモード切り換えスイッチ	[A] を選ぶとオートフォーカスになり、[M] を選ぶとマニュアルフォーカスになります。 カメラのフォーカスモードがマニュアルフォーカスのときは、レンズで [A] を選んでいてもマニュアルフォーカスになります。
13 レンズキャップ	—
14 裏ぶた	—

■ カメラへの取り付け方・取り外し方

取り付け方

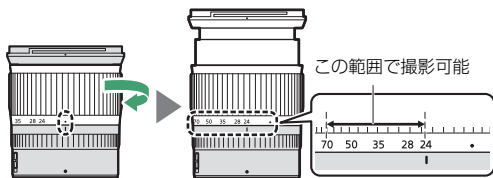
- 1 カメラの電源をOFFにして、レンズの裏ぶたとカメラのボディキャップを外す
- 2 カメラとレンズのレンズ着脱指標を合わせ、反時計回りにカチッと音がするまでレンズを回す

取り外し方

- 1 カメラの電源をOFFにする
- 2 レンズ取り外しボタンを押しながら、時計回りにレンズを回して取り外す

■ 撮影前の準備

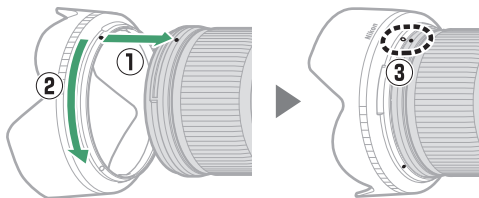
このレンズは沈胴機構を採用しており、撮影するにはレンズを繰り出す必要があります。ズームリングを矢印の方向にカチッと音がするまで回すと、レンズが繰り出します。焦点距離目盛が24-70の範囲内でのみ撮影できます。



- レンズを収納するときは、レンズを繰り出すときと逆の方向に(●)の位置までズームリングを回してください。
- レンズを繰り出さずに電源をONにすると、警告メッセージが表示されます。撮影するときはレンズを繰り出してください。

■ フードの取り付け方・取り外し方

- フード着脱指標（●）とフード取り付け指標（●）を合わせて（①）、フードを矢印（②）の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標（○）を合わせてください（③）。



- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標（●）付近を持って回転させてください。
- 取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。

■ カメラに取り付けたときのご注意

ピント合わせを行った後に、カメラの電源をOFFにして再びONにするとピント位置が変わることがあります。撮影時に再度ピント合わせを行ってください。ピントをあらかじめ合わせておいて被写体を待つ置きピン撮影などでは、ピントを合わせてからシャッターをきるまでにカメラの電源をOFFにしないことをおすすめします。

■ 取り扱い上のご注意

- フードをレンズに装着した状態で、フードだけを持たないでください。
- CPU信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズマウントゴムリングが破損した場合は、そのまま使用せず販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- レンズをカメラに装着していないときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。
- レンズを保管するときは、レンズ内部を保護するために太陽光のあたらない所に保管してください。

- レンズを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因になりますのでご注意ください。
- ストープの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。
- 極端に温度差のある場所に急にレンズを持ち込むと、レンズ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。レンズをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。
- レンズを傷から守るために、持ち運ぶときはレンズケースに入れることをおすすめします。

レンズのお手入れ

- レンズ面を清掃する場合、通常はほこりを払う程度にしてください。
- フッ素コート加工されたレンズ面に指紋など油分を含む汚れがついたときは、柔らかい清潔な木綿の布または市販のレンズクリーニングペーパーでレンズの中心から外周へ渦巻き状に拭いてください。汚れがひどいときは、少量の真水、無水アルコール（エタノール）、または市販のレンズクリーナーで湿らせた柔らかい布を使って軽く拭いてください。フッ素コート加工されたレンズ面は、撥水性、撥油性が高いため、水滴状の拭き残りが生じることがあります。その場合は、乾いた布で拭き取ってください。
- フッ素コート加工されていないレンズ面に指紋など油分を含む汚れがついたときは、少量の無水アルコール（エタノール）や市販のレンズクリーナーで湿らせた柔らかい清潔な木綿の布または市販のレンズクリーニングペーパーを使って、レンズの中心から外周へ渦巻き状に拭いてください。その場合、拭きムラや拭き残りがないように注意してください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐには、別売のニュートラルカラーNCフィルターなどの使用をおすすめします。
- レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光のあたるところ、防虫剤のあるところも避けてください。

アクセサリー

■ 付属アクセサリー

- 72 mm スプリング式レンズキャップLC-72B
- 裏ぶたLF-N1
- バヨネットフードHB-85
- レンズケースCL-C1

✓ レンズケースのお取り扱いについて

- レンズケースはレンズを傷から守ることを目的としており、落下や衝撃からレンズを保護する機能はありません。
- レンズケースに撥水機能はありません。
- レンズケースは材質の特性上、雨や水などで濡れた場合や摩擦によって、色落ち、変色、色移り、伸縮することがあります。
- ほこりは柔らかいブラシで払い落としてください。
- 表面に付着した汚れや水分は、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの溶剤は使わないでください。
- 直射日光が当たる場所や、温度、湿度の高い場所に放置しないでください。
- レンズ面や液晶画面などを拭くクリーニングクロスとしては使用できません。
- レンズを収納して持ち運ぶ際、レンズが転がり出ないようにご注意ください。

レンズケースの素材：ポリエステル

■ 使用できるアクセサリー

72 mmネジ込み式フィルター

✓ フィルターを使用する場合

- フィルターは1枚で使用してください。
- フィルターは、フードを取り外してから装着してください。また、円偏光フィルターの偏光効果の調節も、フードを取り外した状態で行ってください。

仕様

マウント	ニコンZマウント
焦点距離	24 mm–70mm
最大口径比	1 : 4
レンズ構成	11群14枚（EDレンズ1枚、ED非球面レンズ1枚、非球面レンズ3枚、ナノクリスタルコートあり、最前面のレンズ面にフッ素コートあり）
画角	• 84°–34° 20′（撮像範囲 FX） • 61°–22° 50′（撮像範囲 DX）
焦点距離目盛	24、28、35、50、70 mm
フォーカシング方式	IF（インターナルフォーカス）方式
最短撮影距離	撮像面から0.3m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞りの範囲	f/4–22
アタッチメントサイズ	72 mm（P=0.75 mm）
寸法	約77.5 mm（最大径）×88.5 mm（レンズマウント基準面からレンズ先端まで、沈胴時）
質量	約500 g

製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

マウントアダプター FTZ使用説明書

このカメラとマウントアダプター FTZをマウントアダプターキットでご購入の場合は、こちらをマウントアダプターの使用説明書としてお使いください。

- 国または地域によっては、マウントアダプターキットを販売していない場合があります。
- このマウントアダプターをニコンZマウントのミラーレスカメラに装着すると、ニコンFマウント用のNIKKORレンズを取り付けることができます。
- このマウントアダプターは、ニコンFマウントのデジタル一眼レフカメラおよびニコン1マウントのレンズ交換式デジタルカメラ（Nikon 1）に装着することはできません。
- このマウントアダプターに1ニッコールレンズを取り付けることはできません。
- お使いのレンズによっては、オートフォーカスなどカメラの機能に制限が生じる場合があります。

ヒント：使用できるFマウントレンズについて

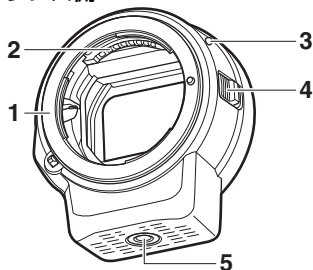
マウントアダプター FTZに装着してZマウント用カメラで使用できるFマウントレンズの詳しい情報については、「使用できるFマウントレンズについて」をご覧ください。「使用できるFマウントレンズについて」はニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/ja/products/491/FTZ.html>

マウントアダプターの使い方

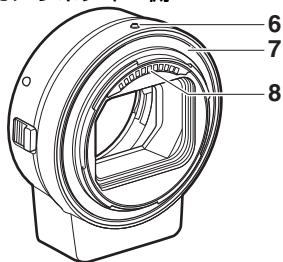
■ 各部の名称

レンズ側



- 1 ニコンFマウント面
- 2 レンズ信号接点
- 3 レンズ取り付け指標
- 4 レンズ取り外しレバー
- 5 三脚用ネジ穴

カメラボディ側



- 6 カメラ取り付け指標
- 7 ニコンZマウント面
- 8 CPU信号接点

■ 取り付け方・取り外し方

マウントアダプターをカメラに取り付けたり取り外すとき、レンズをマウントアダプターに取り付けたり取り外すときは、ほこりなどがそれぞれの内部に入らないように注意してください。

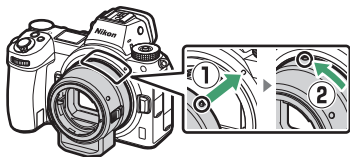
- 取り付け・取り外しは、必ずカメラの電源をOFFにし、直射日光を避けて行ってください。
- レンズを取り付けるときは、マウントアダプターのレンズ取り外しレバーやカメラのレンズ取り外しボタンを押さないようにご注意ください。

取り付け方

1 マウントアダプターからボディーキャップと裏ぶたを、カメラからボディーキャップを取り外す

2 マウントアダプターをカメラに取り付ける

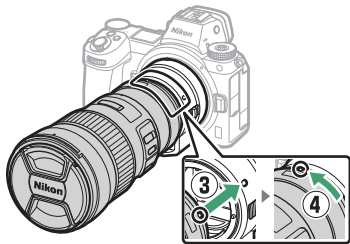
マウントアダプターのカメラ取り付け指標とカメラのレンズ着脱指標を合わせ (①)、反時計回りにカチッと音がするまでマウントアダプターを回します (②)。



3 レンズの裏ぶたを取り外す

4 マウントアダプターにレンズを取り付ける

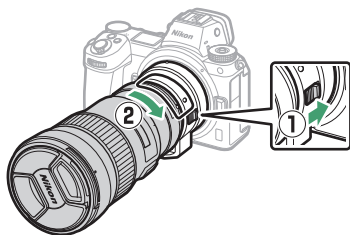
マウントアダプターのレンズ取り付け指標とレンズのレンズ着脱指標を合わせ (③)、反時計回りにカチッと音がするまでレンズを回します (④)。



取り外し方

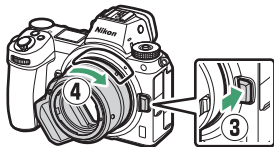
1 マウントアダプターからレンズを取り外す

- マウントアダプターのレンズ取り外しレバーを押しながら (①)、時計回りにレンズを回して取り外します (②)。
- 取り外したレンズには、レンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。



2 マウントアダプターをカメラから取り外す

- カメラのレンズ取り外しボタンを押しながら (③)、時計回りにマウントアダプターを回して取り外します (④)。
- 取り外したマウントアダプターには、ボディーキャップと裏ぶたを取り付けてください。また、カメラにボディーキャップを取り付けてください。



✓ 絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズをマウントアダプターに取り付ける場合は、最小絞り（最大F値）にしてから取り付けてください。

✓ DXフォーマット用レンズ装着時のご注意

Z 6にDXフォーマット用レンズを装着した場合、動画撮影メニュー [画像サイズ/フレームレート]で1920×1080 120p、1920×1080 100pまたは1920×1080 スローを選ぶと、次のように設定を変更して撮影します。

- 1920×1080 120p → 1920×1080 60p
- 1920×1080 100p → 1920×1080 50p
- 1920×1080 30p 4倍スロー → 1920×1080 30p
- 1920×1080 25p 4倍スロー → 1920×1080 25p
- 1920×1080 24p 5倍スロー → 1920×1080 24p

✓ 使用できないレンズおよびアクセサリ

このマウントアダプターに次のレンズおよびアクセサリは使用できません。無理に装着しようとすると、マウントアダプターやレンズが破損する恐れがありますのでご注意ください。次のレンズ以外でも、個体の状態によっては装着できないことがあります。装着時にきつく感じる場合などは、無理に装着しないでください。

- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- IXニッコール
- AFテレコンバーター TC-16AS
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED 180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED 360–1200mm f/11（製品 No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（AF 80mm f/2.8、AF ED 200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC 28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
- PC 35mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC 35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- NIKKOR-H Auto 2.8cm f/3.5（28mm f/3.5）（No.361999以前の製品）
- NIKKOR-S Auto 3.5cm f/2.8（35mm f/2.8）（No.927999以前の製品）
- NIKKOR-S Auto 5cm f/2（50mm f/2）
- NIKKOR-Q Auto 13.5cm f/3.5（135mm f/3.5）（No.752999以前の製品）
- Micro-NIKKOR 5.5cm f/3.5
- Medical-NIKKOR Auto 200mm f/5.6
- Auto NIKKOR Telephoto-Zoom 85–250mm f/4–4.5
- Auto NIKKOR Telephoto-Zoom 200–600mm f/9.5–10.5

撮影時のご注意

- このマウントアダプターとFマウント用NIKKORレンズを使ってオートフォーカスで撮影するときは、ピントが甘くなることがあります。ピントを合わせにくいときは、カメラのAFエリアモードをシングルポイントAFに設定し、中央のフォーカスポイントでピント合わせを行うか、マニュアルフォーカスでピント合わせを行って撮影してください。
- お使いのレンズによっては、カメラの手ブレ補正機能が有効のときに、画像周辺部に減光やケラレが生じたり、手ブレ補正の効果が十分に得られない場合があります。

取り扱い上のご注意

- 質量が1300gを超えるレンズをカメラに装着した状態で、カメラだけを持ちたり、カメラのストラップを使ったりしないでください。カメラのマウント部分が破損するおそれがありますので、必ずレンズを持ってください。
- マウントアダプターには三脚用ネジ穴がありますが、三脚座のある望遠レンズをお使いの場合は、レンズの三脚座に三脚を取り付けてください。
- CPU信号接点、レンズ信号接点は汚さないようにご注意ください。
- マウントアダプターを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因になりますのでご注意ください。
- ストープの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。

マウントアダプターのお手入れ

- マウントアダプターの内部に触らないでください。ゴミやほこりがついていた場合は、ブロアーで吹き払うか、柔らかい刷毛で払うようにし、内部をこすらないでください。
- マウントアダプターのお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- マウントアダプターを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光のあたるところ、防虫剤のあるところも避けてください。

アクセサリー

■ 付属アクセサリー

- ボディーキャップBF-1B
- 裏ぶたLF-N1

仕様

型式	マウントアダプター
対応カメラ	ニコンZマウントのミラーレスカメラ
寸法	約70 mm（最大径、突起部除く）×80 mm
質量	約140 g

製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

使用できるメモリーカード

- このカメラはXQDカードおよびCFexpressカード (Type B) を使用できます。
- 動画撮影には、最大 45MB/s (300 倍速) 以上の転送速度を持つメモリーカードをおすすめします。転送速度が遅いメモリーカードでは、動画の記録が途中で終了することがあります。また、カメラでの動画再生がスムーズに行われないことや途中で終了することがあります。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

画質モード (□105)、画像サイズ (□106) の組み合わせによって、[撮像範囲設定] が [FX (36×24)] の場合に64GBのメモリーカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

Z7:

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ※2	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW (ロスレス圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約44.7 MB	748コマ	23コマ
	M	約31.5 MB	1000コマ	19コマ
	S	約24.5 MB	1400コマ	19コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約55.8 MB	654コマ	19コマ
RAW (圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約40.7 MB	1000コマ	23コマ
RAW (圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約49.4 MB	845コマ	19コマ
RAW (非圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約74.1 MB	748コマ	23コマ
RAW (非圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約85.1 MB	654コマ	18コマ
TIFF (RGB)	L	約134.6 MB	412コマ	21コマ
	M	約76.5 MB	723コマ	22コマ
	S	約34.8 MB	1500コマ	25コマ
FINE※4	L	約17.2 MB	1900コマ	25コマ
	M	約11.7 MB	3200コマ	25コマ
	S	約6.8 MB	6500コマ	25コマ
NORMAL※4	L	約11.8 MB	3700コマ	25コマ
	M	約7.0 MB	6400コマ	25コマ
	S	約3.5 MB	12700コマ	25コマ
BASIC※4	L	約3.8 MB	7500コマ	25コマ
	M	約2.6 MB	12300コマ	25コマ
	S	約1.6 MB	24100コマ	25コマ

Z6:

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ※2	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW (ロスレス圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約22.5 MB	1300コマ	35コマ
	M	約16.1 MB	1900コマ	26コマ
	S	約12.7 MB	2500コマ	26コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約28.2 MB	1100コマ	43コマ
RAW (圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約20.4 MB	1800コマ	37コマ
RAW (圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約24.8 MB	1500コマ	43コマ
RAW (非圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約38.5 MB	1300コマ	33コマ
RAW (非圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約44.1 MB	1100コマ	34コマ
TIFF (RGB)	L	約69.3 MB	759コマ	27コマ
	M	約39.5 MB	1300コマ	31コマ
	S	約18.4 MB	2800コマ	35コマ
FINE※4	L	約9.4 MB	3400コマ	44コマ
	M	約6.6 MB	5600コマ	50コマ
	S	約4.0 MB	10400コマ	51コマ
NORMAL※4	L	約6.4 MB	6700コマ	44コマ
	M	約3.9 MB	10900コマ	50コマ
	S	約2.1 MB	19900コマ	51コマ
BASIC※4	L	約2.3 MB	13000コマ	46コマ
	M	約1.7 MB	20800コマ	50コマ
	S	約1.2 MB	35200コマ	50コマ

※1 SONY QD-G64Eのメモリーカードを使用した場合 (2018年7月現在)

※2 数値は全ておおよその目安です。撮影条件により、ファイルサイズ、連続撮影可能コマ数、および記録可能コマ数は増減することがあります。

※3 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合などには、連続撮影可能コマ数は減少します。

- [画質モード] で画質を優先した ([★] が付いた) 項目に設定してJPEG画像を撮影した場合
- [自動ゆがみ補正] を [する] に設定した場合

※4 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、[画質モード] でサイズを優先した ([★] が付いていない) 項目に設定されている場合です。画質を優先した ([★] が付いた) 項目に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

■ 静止画モード：撮影可能コマ数※1

- モニターモード [ファインダーのみ] 時：約330枚（Z 6は約310枚）
- モニターモード [モニターのみ] 時：約400枚（Z 6は約380枚）

■ 動画モード：動画撮影可能時間※2

- モニターモード [ファインダーのみ] 時：約85分
- モニターモード [モニターのみ] 時：約85分

※1 CIPA（カメラ映像機器工業会）基準準拠。初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影する。装着レンズNIKKOR Z 24-70mm f/4 S、温度23（±2）℃。SONY QD-G64Eのメモリーカードを使用した場合（2018年7月現在）。

※2 電池寿命測定方法を定めたCIPA規格による実撮影電池寿命。装着レンズNIKKOR Z 24-70mm f/4 S、温度23（±2）℃。SONY QD-G64Eのメモリーカードを使用した場合（2018年7月現在）。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は29分59秒です。
- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。

※ Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15b 使用時の電池寿命です。EN-EL15b の代わりにEN-EL15c/EN-EL15a/EN-EL15 も使えます。EN-EL15a/EN-EL15を使用する場合、EN-EL15bを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。

※ バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命は異なります。

次の場合などは、バッテリーの消耗が早くなります。

- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- BluetoothおよびWi-Fi（無線LAN）機能を使用した場合
- アクセサリーを装着して使用した場合
- レンズ使用時にズーム操作を繰り返した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15bの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

索引

マーク・英数字

- オート** (オート) 39, 43
- P** (プログラムオート) 72
- S** (シャッター優先オート) 72
- A** (絞り優先オート) 73
- M** (マニュアル) 74
- U1、U2、U3**
(ユーザーセッティングモード) 76
- 1** (1コマ撮影) 86, 89
- L** (低速連続撮影) 86
- H** (高速連続撮影) 86
- H'** (高速連続撮影 (拡張)) 87
- ⊙** (セルフタイマー) 87
- 📷** (連続撮影) 89
- 📷** (サイレント撮影) 67
- 📷** (電子先幕シャッター) 267
- 📷** (メカニカルシャッター) 267
- 📷** (ピンポイントAF) 52
- [⊙]** (シングルポイントAF) 52
- [📷]** (ダイナミックAF) 53
- 📷** (ワイドエリアAF (S)) 53
- 📷** (ワイドエリアAF (L)) 53
- [📷]** (オートエリアAF) 53
- 📷** (マルチパターン測光) 108
- 📷** (中央部重点測光) 108
- 📷** (スポット測光) 108
- 📷*** (ハイライト重点測光) 108
- MENU** ボタン 17
- i** ボタン 21, 94
- ▶** ボタン 47
- 📷** ボタン 49
- ISO** ボタン 81
- 📷** (露出補正) ボタン 84
- 📷** (リリースモード) ボタン 86
- ⊙** (セルフタイマー) ボタン 86
- 📷** (ヘルプあり表示) 20
- i** メニュー 21, 94
- i** メニューのカスタマイズ
..... 22, 276, 292
- 📷** 使用時の感度自動制御 273
- 1コマ撮影 86, 89
- 1コマ表示 123
- 2点拡大 277
- ACアダプター 438
- ADLブラケット 202
- AE・フラッシュブラケット 195
- AEブラケット 195
- AEロック 92
- AF-C** (コンティニュアスAF) 51
- AF-Cモード時の優先 255
- AF-F** (フルタイムAF) 51
- AF-ON** ボタン 16
- AF-S** (シングルAF) 50
- AF-Sモード時の優先 255
- AFエリアモード 52
- AFエリアモードの限定 259
- AF設定時のフォーカスリング
操作 261
- AF速度 299
- AF追従感度 299
- AF点数 54, 257
- AF微調節 307
- AFロックオン 256
- BKTの順序 275
- BKT変化要素 (Mモード) 274
- Creative Picture Control
(クリエイティブピクチャー
コントロール) 96
- DISP** ボタン 15

D-ライティング	335
Fn1 ボタン	24, 63
Fn2 ボタン	24, 50
FVロック	372
HDMI	315, 360
HDR (ハイダイナミックレンジ)	212
Hi (ISO)	82
ISO感度	81
ISO感度設定	83, 173, 244
Li-ionリチャージャブルバッテリー	27
Lo (ISO)	82
Lvに撮影設定を反映	269
MF (マニュアルフォーカス)	51
OKボタンの機能	286, 298
PCと接続	319
PictBridge (ピクトブリッジ)	356
RAW記録	172
RAW現像	329
RGBヒストグラム	127
SnapBridge	350
USBケーブル	ii
WBブラケットティング	199
Wi-Fi通信機能	109, 120
WR-R10	316, 379

ア

アオリ効果	338
赤目軽減発光	107, 369
赤目補正	336
明るさ (ピクチャーコントロール)	98
アクティブD-ライティング	110
アッテネーター	249
後幕発光	107, 370
位置情報	316
位置情報表示	131
一灯撮影	364

イメージセンサークリーニング	309, 441
イメージダストオフデータ取得	310
色合い (色相) (ピクチャー コントロール)	98
色温度	66, 101, 176
色温度設定 (ホワイトバランス)	65
色空間	184
色の濃さ (彩度) (ピクチャー コントロール)	98
インジケーターの+/-方向	291
インターバルタイマー撮影	217
インフォ画面の表示設定	306
ヴェネットコントロール	186, 246
オート (ピクチャーコントロール)	95
オート (ホワイトバランス)	64
オートエリアAF	53
オートエリアAF時の顔と瞳認識	256
オートブラケットティング	194

カ

カードなし時リリース	321
カードの初期化 (フォーマット)	302
回折補正	187, 246
顔認識AF	55
拡大表示	140
風切り音低減	250
画質モード	105, 169
カスタムピクチャーコントロール	181, 245
カスタムボタンの機能	278, 293
カスタムメニュー	252
カスタムメニューのリセット	254
画像合成	339
画像コメント	312
画像サイズ	106, 170

画像サイズ/フレームレート	115, 243
画像情報	125
画像編集メニュー	326
傾き補正	336
カメラ設定の保存と読み込み	321
カメラの初期化	325
簡易トリミング	133
感度自動制御機能	83
基準露出レベルの調節	263
機内モード	318
距離基準マーク	62
記録可能コマ数	480
記録フォルダー設定	165
クイックシャープ (ピクチャー コントロール)	98
蛍光灯 (ホワイトバランス)	64
言語 (Language)	302
高感度	82
高感度ノイズ低減	186, 246
格子線表示	269
高速連続撮影	86
高速連続撮影 (拡張)	87
コマンドダイヤル	17
コマンドダイヤルの設定	288
コンティニューAF	51
コントラスト (ピクチャー コントロール)	98
コントロールリング	61

サ

最近設定した項目	344, 349
再生画面設定	157
再生フォルダー設定	157
再生メニュー	156
サイレント撮影	67, 241
削除	49, 142, 157
削除後の次再生画像	158

撮影情報	129
撮影直後の画像確認	158
撮影モードダイヤル	39, 71
撮影モードダイヤルロックボタン	71
撮像範囲設定	119, 169
撮像範囲設定の限定	267
サブコマンドダイヤル	17
サブセレクター	16, 91
サムネイル表示	123
自然光オート (ホワイトバランス)	64
始点/終点の設定	136
自動ゆがみ補正	187, 246
視度調節ノブ	8
絞り値	73, 74
絞り優先オート	73
シャッタースピード	72, 74
シャッタースピードと絞り値の ロック	287
シャッター方式	267
シャッターボタンAEロック	264
シャッター優先オート	72
シングルAF	50
シングルポイントAF	52
水準器	15, 16
スタンダード (ピクチャー コントロール)	95
スポット測光	108
スマートフォンと接続	319
スライドショー	160
スローシャッター	107, 369
スローモーション動画	117
静止画/動画切り換えレバー	39, 43
静止画撮影メニュー	163
静止画撮影メニューのリセット	164
晴天 (ホワイトバランス)	64
晴天日陰 (ホワイトバランス)	64
セットアップメニュー	301
セルフタイマー	87, 90, 264

全押し (シャッターボタン).....	42
選択画像削除.....	143
送信指定/解除.....	135
増灯撮影.....	377
測光モード.....	108

タ

ターゲット追尾AF.....	59
ダイナミックAF.....	53
タイムコード.....	251
タイム撮影.....	79
タイムラプス動画.....	226
多重露出.....	205
タッチシャッター.....	60
タッチ操作.....	315
タッチパネル.....	10
縦/横位置フォーカスポイント切 換.....	257
縦位置自動回転.....	159
地域と日時.....	36, 303
チャージャー.....	27
中央部重点測光.....	108
中央部重点測光範囲.....	262
調光補正.....	371
長時間露出.....	79
調色 (ピクチャーコントロール).....	98
長秒時ノイズ低減.....	185
著作権情報.....	313
通常発光.....	107, 369
低感度.....	82
低速連続撮影.....	86
低速連続撮影速度.....	266
適用度 (ピクチャーコントロール)	98
手ブレ補正.....	112
電球 (ホワイトバランス).....	64
電子音.....	314
電子手ブレ補正.....	121, 248

電池チェック.....	320
動画記録ファイル形式.....	244
動画撮影ボタン.....	44
動画撮影メニュー.....	242
動画撮影メニューのリセット.....	243
動画の画質.....	115, 243
動画編集 (始点/終点設定).....	342
統合表示.....	132
動物瞳AF/顔認識AF.....	57
トリミング.....	332
曇天 (ホワイトバランス).....	64

ナ

内蔵AF補助光の照射設定.....	261
内蔵マイク.....	44
日付と時刻を設定する.....	36
ニュートラル (ピクチャー コントロール).....	95
認証マークの表示.....	319

ハ

ハイライト重点測光.....	108
ハイライト表示.....	127, 300
発光禁止.....	107, 370
発光モード.....	367
バッテリー.....	27, 30
バッテリーチャージャー.....	27
バルブ撮影.....	79
パワーオフ時間.....	42, 265
パワーコネクタ.....	438
半押しAFレンズ駆動.....	258
半押し (シャッターボタン).....	41
半押しタイマー.....	42
ピーキング表示 (フォーカスピーキング).....	62, 270
ピクチャーコントロール.....	95, 179
ヒストグラム.....	15, 16

ヤ

ユーザーセッティングの登録	76, 302
ユーザーセッティングのリセット	78, 302
ユーザーセッティングモード	76
ゆがみ補正	337

ラ

リサイズ	333
リモコン (WR) 設定	316
リモコン (WR) のFnボタンの機能	318
輪郭強調 (ピクチャーコントロール)	98
レーティング	69, 162
レリーズモード	86, 111
レンズ情報手動設定	308
レンズの取り付け	34
レンズの取り外し	35
連続撮影	89
連続撮影可能コマ数	88
連続撮影後の再生画像	159
連続撮影コマ数	266
連続撮影中の表示	270
連動レリーズモード設定	266
連番モード	268
ローライトAF	260
録音帯域	250
露出インジケータ	75
露出設定ステップ幅	262
露出ディレーモード	267
露出補正	84
露出補正簡易設定	262

ワ

ワイドエリアAF (L)	53
ワイドエリアAF (S)	53
ワイヤレストランスミッター (WT-7)	319

ファームウェアバージョンアップによる変更内容

ファームウェアバージョンについて

カメラのファームウェアバージョン確認およびバージョンアップは、セットアップメニュー [ファームウェアバージョン] で行えます。Z7/Z6の最新のファームウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

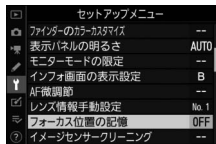
<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

ファームウェア (C: 3.30) による変更点について

カメラのファームウェアを最新のC: 3.30にバージョンアップすると、次の機能に変更があります。

フォーカス (ピント) 位置を記憶する機能の追加

セットアップメニューに [フォーカス位置の記憶] が追加されました。[する] に設定すると、カメラの電源をOFFにして再度ONにした場合に、フォーカス (ピント) 位置が電源OFFの前と同じ位置に保持されます。



- ズーム操作や環境温度の変化によっては、ピント位置が変わる場合があります。
- この機能は、オートフォーカス機能を持つZマウントレンズを装着している場合のみ有効です。
- [する] に設定すると、電源をONにしてからカメラの操作ができるようになるまで時間がかかることがあります。

4 動画撮影ボタンを放して音声メモの録音を終了する

- 音声メモが録音された画像には[🔊]アイコンが表示されます。
- 音声メモの録音時間が60秒を過ぎた場合、自動的に録音を終了します。



✓ 録音時のご注意

- すでに音声メモが録音されている画像 ([🔊]アイコンが表示されている画像) には新たに音声メモを録音できません。音声メモを削除してから録音してください。
- 音声メモの録音中は、表示する画像の切り換えやタッチ操作が無効になります。
- 音声メモの録音中に次の操作を行うと、録音を終了します。
 - 🏠ボタンを押す
 - 画像の再生を終了する
 - 電源をOFFにする
- 音声メモの録音中にカメラのシャッターボタンやその他のボタンを操作すると、録音を自動的に終了することがあります。

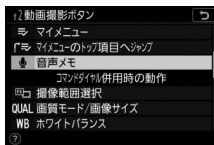
ヒント：音声メモのファイル名について

音声メモを録音すると、DSC_nnnn.WAVという名称の音声ファイルが作成されます。nnnnには対応する画像ファイルの名称と同じ数字が入ります。

- 静止画撮影メニュー [色空間] で [Adobe RGB] に設定して撮影した画像の場合、音声ファイル名は_DSCnnnn.WAVになります。
- 静止画撮影メニュー [ファイル名設定] でファイル名の「DSC」の3文字を変更して撮影した画像の場合、音声ファイルの「DSC」の3文字も同様に変更されます。

■ 音声メモの再生方法

- 1 カスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] にある [動画撮影ボタン] で [音声メモ] を選ぶ

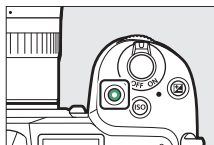


- 2 再生画面で [再生] アイコンの付いた画像を選ぶ



- 3 動画撮影ボタンを押す

- 音声メモを再生します。



- 4 もう一度ボタンを押す

- 音声メモの再生を終了します。

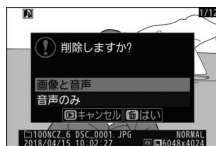
✓ 再生時のご注意

- 音声メモの再生中は拡大操作が無効になります。
- 次のような場合、音声メモの再生を終了します。
 - 画像を切り換える
 - 戻るボタンを押す
 - 画像の再生を終了する
 - 電源をOFFにする
- 音声メモの再生中にカメラのシャッターボタンやその他のボタンを操作すると、再生を自動的に終了することがあります。
- 音声メモが録音された画像にプロテクトをかけると、画像と音声メモの両方にプロテクトがかかります。個別に設定することはできません。
- WT-7を使用して、パソコンまたはFTPサーバーに接続して音声メモが録音された画像を送信する場合、音声メモは送信されません。HTTPサーバーモードで画像を表示した場合、音声メモは画像とは別のファイルとして表示されません。

音声メモの削除方法

再生画面で \square アイコンの付いた画像を選んで戻るボタンを押すと、音声メモ付き画像の削除確認画面が表示されます。

- **[画像と音声]** を選んで戻るボタンを押すと、表示中の画像と音声メモを削除します。
- **[音声のみ]** を選んで戻るボタンを押すと、音声メモのみを削除します。
- 削除確認画面の表示中に \square ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルして、再生画面に戻ります。
- 音声メモが録音された画像を削除した場合、音声メモも削除されません。

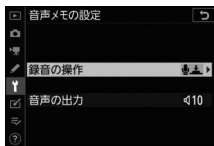


音声メモの設定

セットアップメニューに追加された「音声メモの設定」で、音声メモ録音時の動画撮影ボタンの操作方法や音声メモ再生時の音量を設定できます。



- **録音の操作** で音声メモ録音時の動画撮影ボタンの操作方法を設定できます。
 - **押し続けている間録音** (初期設定) : 動画撮影ボタンを押している間のみ音声メモを録音し、ボタンから指を放すと録音を終了します。
 - **押して開始/終了** : 動画撮影ボタンを押すと音声メモの録音を開始し、もう一度ボタンを押すと録音を終了します。
- **音声の出力** で音声メモ再生時の音量を設定できます。
 - **スピーカー/ヘッドホン** : カメラのスピーカーやカメラに接続中のヘッドホンで音声メモを再生するときの音量を設定できます。
 - **出力しない** : 動画撮影ボタンを押しても音声を出力しません。



ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内



<https://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/>

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。「ニコンイメージング会員のご案内」ページからお手続きいただけます。

ニコンイメージング会員とは登録製品に関するサポート情報や、お得で便利な会員特典^{*}などフォトライフをよりお楽しみいただくための会員サービスです。この機会にぜひご登録ください。

^{*}特典は登録製品ごとに異なります。

ニコンイメージングサポートページのご案内



<https://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧ください。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。

製品の使い方に関するお問い合わせ先

<https://www.nikon-image.com/support/contact/>



ニコン カスタマーサポートセンター ナビダイヤル

0570-02-8000

営業時間：9：30～18：00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日）

- ・ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。
- ・ファクシミリは、（03）5977-7499 にお送りください。
- ・最新情報につきましては、下記のホームページをご覧ください。
<https://www.nikon-image.com/support/contact/>

お問い合わせ時のお願い

- ・おわかりになる範囲で「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、問題が発生した場合は「手順」、「現象（表示されたメッセージ）」、「発生頻度」などをご確認のうえ、お問い合わせください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**